

なな いろ づか い せき
七色塚遺跡Ⅲ（B2地点）

きた ほり く げ づか きた い せき
北堀久下塚北遺跡Ⅲ（C・D地点）

く げ ひがしい せき
久下東遺跡Ⅶ（A2・B2・B3・F2地点）

ゆう しょう じ きた うら い せき
宥勝寺北裏遺跡Ⅳ（C地点）

—本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7—

2014

本庄市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する本庄市では、本庄地方拠点都市地域の指定を受けてより、県北地域の新たな拠点形成を推進するため、上越新幹線本庄早稲田駅の開設、早稲田リサーチパーク地区の整備、新幹線駅周辺の土地区画整理事業などを行ってまいりました。この中で、「職・住・遊・学」の機能を備えた魅力ある街づくりを目的とした本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業は、対象面積が64.6haの大規模造成工事を伴う中心的な開発事業であり、その事業地内には貴重な埋蔵文化財が数多く存在しておりました。その埋蔵文化財の保護と開発との調整については、計画当初より長い年月をかけて、多くの関係機関と協議を重ねた結果、やむを得ず破壊される部分については事前に発掘調査を実施して記録保存の措置をとることになりました。

本書は、この土地区画整理事業地内の沿道サービス用地や産業・商業業務用地の造成、市道建設、排水路建設等に伴う事前の記録保存を目的として、平成18年度から24年度に実施した七色塚遺跡B2地点、北堀久下塚北遺跡C・D地点、久下東遺跡A2・B2・B3・F2地点、宥勝寺北裏遺跡C地点の発掘調査の成果を記録したものです。これらの4遺跡は、これまでの調査によって、古墳時代から奈良・平安時代にかけての古代の大規模集落跡と、鎌倉時代から室町時代の中世屋敷跡や寺院を主体とする遺跡であることが知られていましたが、集落に伴う多くの住居跡や中世屋敷跡に関する井戸跡や溝跡などの多くの遺構が調査され、本遺跡の内容を資料的により充実させることができました。また、久下東遺跡B2地点では、これまで当地域では調査例が少なく、その様相がよく分かっていなかった近世村落の具体的な遺構や、当時使っていた江戸時代の陶磁器や土器などの多様な遺物が大量に出土し、中山道本庄宿周辺の近世村落の一端を明らかにすることができました。

本書が、学術的な資料としてはもとより、当地域の歴史研究や文化財保護の啓発・普及のため、研究機関や教育機関をはじめ地域住民の皆様の生涯学習の場で、広くご利用いただければ幸甚に存じます。

最後に、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました独立行政法人都市再生機構本庄都市開発事務所をはじめ、様々なご教示やご尽力をいただきました地元関係者各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成26年 3月

本庄市教育委員会
教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市東富田に所在する七色塚遺跡(B2地点)、北堀に所在する北堀久下塚北遺跡(C・D地点)、久下東遺跡(A2・B2・B3・F2地点)、有勝寺北裏遺跡(C地点)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う事前の記録保存を目的として、七色塚遺跡B2地点が平成18年度、北堀久下塚北遺跡C1・D1地点が平成20年度、同C2・D2地点が平成21年度、久下東遺跡A2・B2地点が平成19年度、同B3地点が平成20年度、同F2地点が平成22年度、有勝寺北裏遺跡C地点が平成24年度に調査を実施した。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が実施し、各報告地点の調査担当は七色塚遺跡B2地点と北堀久下塚北遺跡C1・D1地点を恋河内昭彦、北堀久下塚北遺跡C2・D2地点を松本完、久下東遺跡A2・B2・B3地点を大熊季広、久下東遺跡F2地点と有勝寺北裏遺跡C地点を的野善行が、それぞれ担当した。
4. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1と2万5千分の1である。
5. 久下東遺跡A2・B2・B3地点の遺構番号については、将来の混乱を避けるため、本報告の正式番号にカッコをつけて調査時の旧番号を併記した。
6. 久下東遺跡出土遺物の一部の実測は、(有)毛野考古学研究所に委託した。
7. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。
A－法量(単位はcm、g、カッコは推定)、B－成形、C－整形・調整、D－胎土、材質、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置
8. 本書に掲載した写真は、遺構を各調査担当者が、遺物は七色塚遺跡と有勝寺北裏遺跡及び久下東遺跡出土遺物の一部を本庄市教育委員会が、北堀久下塚北遺跡と久下東遺跡の出土遺物を(有)毛野考古学研究所が撮影した。
9. 本書の執筆は、第Ⅵ章の有勝寺北裏遺跡C地点を的野善行が、それ以外を恋河内が記述した。
10. 本書の編集は、恋河内が行った。
11. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。

赤熊 浩一、浅間 陽、岩瀬 譲、大谷 徹、金子 彰男、坂本 和俊、桜井 和哉、
篠崎 潔、菅谷 浩之、高林 真人、瀧瀬 芳之、田中 広明、富田 和夫、中沢 良一、
中村 倉司、日沖 剛史、丸山 修、宮本 久子、矢内 勲、山崎 武
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

七色塚遺跡 B 2 地点発掘調査組織
(平成18年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	丸山 茂
文化財保護課長	前川 由雄
課 長 補 佐	増田 一裕
課長補佐兼 埋蔵文化財係長	鈴木 徳雄
主 査	恋河内昭彦(調査担当)
主 任	太田 博之
主 任 事	松澤 浩一
主 任 事	松本 完
臨時職員	的野 善行

久下東遺跡 A 2・B 2 地点発掘調査組織
(平成19年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	丸山 茂
文化財保護課長	徳田 英夫
課 長 補 佐 兼 文化財保護係長	鈴木 徳雄
埋蔵文化財係長	太田 博之
主 査	恋河内昭彦
主 任	大熊 季広(調査担当)
主 任 事	松澤 浩一
主 任 事	松本 完
臨時職員	的野 善行

久下東遺跡 B 3 地点発掘調査組織
(平成20年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	丸山 茂
文化財保護課長	徳田 英夫
課 長 補 佐	鈴木 徳雄
埋蔵文化財係長	太田 博之
主 査	恋河内昭彦
主 任	大熊 季広(調査担当)
主 任 事	松澤 浩一
主 任 事	松本 完
臨時職員	的野 善行

北堀久下塚北遺跡 C 1・D 1 地点発掘調査組織
(平成20年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	丸山 茂
文化財保護課長	徳田 英夫
課 長 補 佐	鈴木 徳雄
埋蔵文化財係長	太田 博之
主 査	恋河内昭彦(調査担当)
主 任	大熊 季広
主 任 事	松澤 浩一
主 任 事	松本 完
臨時職員	的野 善行

北堀久下塚北遺跡 C 2・D 2 地点発掘調査組織
(平成21年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	丸山 茂
文化財保護課長	徳田 英夫
課 長 補 佐	鈴木 徳雄
埋蔵文化財係長	太田 博之
主 査	恋河内昭彦
主 査	大熊 季広
主 任	松澤 浩一
主 任	松本 完(調査担当)
臨時職員	的野 善行

久下東遺跡 F 2 地点発掘調査組織
(平成22年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	徳塚 修
文化財保護課長	金井 孝夫
副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
埋蔵文化財係長	太田 博之
主 査	恋河内昭彦
主 査	大熊 季広
主 査	松澤 浩一
主 任	松本 完
臨時職員	的野 善行(調査担当)

有勝寺北裏遺跡 C 地点発掘調査組織
(平成24年度)

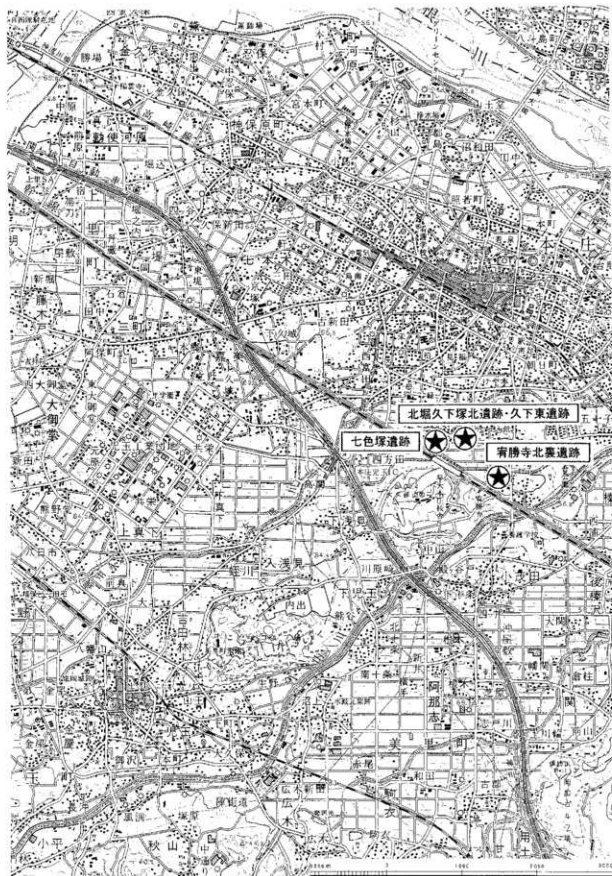
主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	関和 成昭
文化財保護課長	金井 孝夫
副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
課 長 補 佐 兼 埋蔵文化財係長	太田 博之
主 幹	恋河内昭彦
主 査	大熊 季広
主 査	松澤 浩一
主 任	松本 完
臨時職員	的野 善行(調査担当)

整理・報告書刊行組織
(平成25年度)

主体者	本庄市教育委員会
教 育 長	茂木 孝彦
事務局長	関和 成昭
文化財保護課長	川上 美志
副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
課 長 補 佐 兼 埋蔵文化財係長	太田 博之
主 幹	恋河内昭彦(整理担当)
主 査	大熊 季広
主 査	松澤 浩一
主 任	松本 完
臨時職員	的野 善行

目 次

序	
例 言	
第 I 章	発掘調査に至る経緯 1
第 II 章	遺跡の立地と歴史的環境 5
第 III 章	七色塚遺跡 B 2 地点の調査 7
第 1 節	遺跡の概要 7
第 2 節	検出された遺構と遺物 9
1.	竪穴式住居跡 9
2.	土 坑 34
3.	調査区内出土の縄文土器 35
第 IV 章	北堀久下塚北遺跡 C・D 地点の調査 37
第 1 節	遺跡の概要 37
第 2 節	検出された遺構と遺物 40
1.	竪穴式住居跡 40
2.	掘立柱建物跡 66
3.	井 戸 跡 68
4.	土 坑 72
5.	溝 跡 81
6.	その他の遺構と遺物 91
第 V 章	久下東遺跡 A 2・B 2・B 3・F 2 地点の調査 96
第 1 節	遺跡の概要 96
第 2 節	検出された遺構と遺物 100
1.	竪穴式住居跡 100
2.	井 戸 跡 266
3.	土 坑 275
4.	溝 跡 287
5.	その他の出土遺物 296
第 VI 章	宍勝寺北裏遺跡 C 地点の調査 306
第 1 節	遺跡の概要 306
第 2 節	土層と遺物出土状態 307
第 3 節	出土遺物 311
第 4 節	宍勝寺北裏遺跡 C 地点の調査のまとめ 315
第 VII 章	ま と め 317
第 1 節	久下東遺跡 B 2 地点第 9 (SD 1) 号溝跡の性格について 317
第 2 節	「寛延三年」紀年銘刻書焙烙について 318
<参考文献> 319
写 真 図 版	
抄 録	



第1図 遺跡の位置

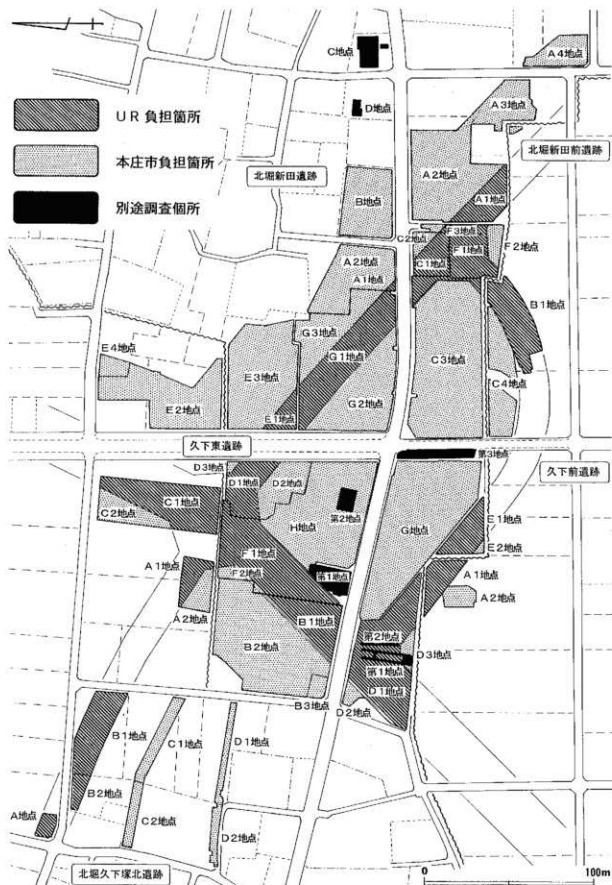
第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成18年9月に事業認可を受けて、平成18年11月10日に独立行政法人都市再生機構(U R)本庄都市開発事務所・本庄市・埼玉県教育委員会・本庄市教育委員会の4者によって締結された「本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財に関する協定書」に基づいて、平成18年12月より本庄市教育委員会が実施している。

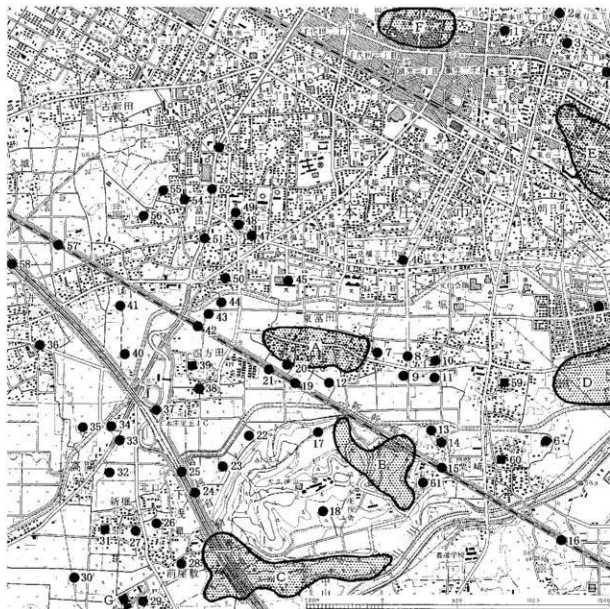
事業地内の発掘調査は、その費用負担の違いにより、機構(U R)側の費用負担箇所である都市計画道路の建設区域と、本庄市の費用負担箇所であるそれ以外の区域(沿道サービス用地・産業業務用地・商業業務用地など)に、それぞれ地点を分けている(第2図)。これらの発掘調査予定区域は、工事計画との関係から都市計画道路建設区域を優先しながら、調査が可能になった部分から遺跡(埋蔵文化財包蔵地)毎にアルファベットによる地点名を付けて、随時調査を実施している。そのため、調査地点は調査対象区域内で細かく錯乱したような配置になっているが、年度毎に発掘調査を実施した地点は、以下のとおりである。

- <平成18年度> 機構負担区域 - 七色塚遺跡B 1地点、北堀新田前遺跡A 1地点
市負担区域 - 七色塚遺跡B 2地点、北堀新田前遺跡A 2～A 4地点
- <平成19年度> 機構負担区域 - 浅見山I遺跡A 1・A 2地点、久下東遺跡A 1・B 1地点、北堀久下塚北遺跡A地点
市負担区域 - 浅見山I遺跡B 1・B 2地点、久下東遺跡A 2・B 2地点
- <平成20年度> 機構負担区域 - 久下東遺跡C 1・D 1・E 1地点、久下前遺跡A 1・B 1地点、北堀久下塚北遺跡B地点
市負担区域 - 久下東遺跡B 3・C 2・D 2・D 3・E 2・E 3地点、北堀久下塚北遺跡C 1・D 1地点
- <平成21年度> 機構負担区域 - 久下前遺跡C 1地点、北堀新田遺跡A 1地点、宥勝寺北裏遺跡A 1・B 1地点
市負担区域 - 久下前遺跡C 2・C 3地点、北堀新田遺跡A 2地点(南側)、北堀久下塚北遺跡C 2・D 2地点、宥勝寺北裏遺跡A 2・B 2地点
- <平成22年度> 機構負担区域 - 久下東遺跡F 1・G 1地点、久下前遺跡D 1・E 1・F 1地点
市負担区域 - 久下東遺跡E 4・F 2地点、久下前遺跡A 2・C 4・D 2・D 3・E 2・F 2・F 3地点、北堀新田遺跡A 2地点(北側)・B地点
- <平成23年度> 市負担区域 - 久下東G 2・G 3地点・H地点、久下前遺跡G地点
- <平成24年度> 機構負担区域 - 宥勝寺北裏遺跡C地点

今回報告するのは、市負担区域として平成18年度に調査した七色塚遺跡B 2地点、平成19年度に調査した久下東遺跡A 2・B 2地点、平成20年度に調査した久下東遺跡B 3地点と北堀久下塚北遺跡C 1・D 1地点、平成21年度に調査した北堀久下塚北遺跡C 2・D 2地点、平成22年度に調査した久下東遺跡F 2地点と、機構負担区域として平成24年度に調査した宥勝寺北裏遺跡C地点の計4遺跡の10地点分である。



第2図 北堀久下塚北・久下東・久下前・北堀新田・北堀新田前遺跡調査地点配置図



第4図 周辺の主要遺跡

1. 城山遺跡 2. 天神林遺跡 3. 天神林Ⅱ遺跡 4. 薬師堂遺跡 5. 田堀屋敷遺跡 6. 東本庄遺跡 7. 北堀久下塚北遺跡 8. 久下東遺跡 9. 久下前遺跡 10. 北堀新田遺跡 11. 北堀新田前遺跡 12. 七色塚遺跡 13. 有勝寺表壇輪窓跡 14. 有勝寺北裏遺跡 15. 東谷遺跡 16. 古川端遺跡 17. 浅見山Ⅰ遺跡 18. 大久保山遺跡 19. 下田遺跡 20. 元富遺跡 21. 東富田観音塚遺跡 22. 山根遺跡 23. 根田遺跡 24. 雷電下遺跡 25. 敷玉東遺跡 26. 中畑遺跡 27. 天神耕地遺跡 28. 南ノ前遺跡 29. 霧山南遺跡 30. 浅見城北遺跡 31. 関根氏館跡 32. 東牧西分遺跡 33. 梅沢遺跡 34. 川越田遺跡 35. 今井川越田遺跡 36. 北郭遺跡 37. 後浜遺跡 38. 四方田遺跡 39. 四方田氏館跡 40. 今井桑里遺跡 41. 地神・塔頭遺跡 42. 九反田遺跡 43. 西富田前田遺跡 44. 西富田・四方田桑里遺跡 45. 燧濠遺跡 46. 笠ヶ谷戸遺跡 47. 南大通り線内遺跡 48. 薬師元屋鋪遺跡 49. 薬師遺跡 50. 西富田本郷遺跡 51. 社具路遺跡 52. 夏目遺跡 53. 二本松遺跡 54. 夏目西遺跡 55. 弥藤次遺跡 56. 西富田新田遺跡 57. 諏訪遺跡 58. 久城前遺跡 59. 北堀本田館跡 60. 栗崎館跡 61. 大久保山寺院跡
- A. 東富田古墳群 B. 大久保山古墳群 C. 塚本山古墳群 D. 西五十子古墳群 E. 塚古墳群 F. 北原古墳群 G. 霧山古墳

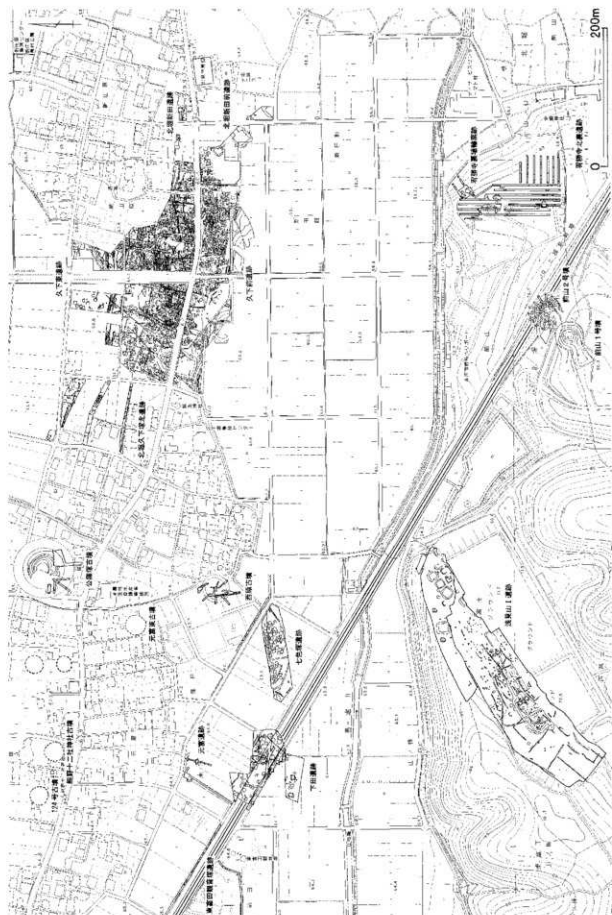
第二章 遺跡の立地と歴史的環境

今回報告する七色塚遺跡B2地点、北堀久下塚北遺跡C・D地点、久下東遺跡A2・B2・B3・F2地点は、上越新幹線本庄早稲田駅の北側に位置する低地部の東西方向に帯状に延びる微高地に、宥勝寺北裏遺跡C地点は、南側の大久保山残丘上からその東側斜面下にかけて立地している(第5図)。遺跡の周辺は、埼玉県と群馬県の県境をなす神流川によって形成された神流川扇状地の東端部にあたり、秩父山地の北縁にあたる上武山地内の湧水を水源とする金鑽川や旧赤根川などの小河川を集めて北東方向に流れる現在の女堀川の下流域にあたる。七色塚遺跡・北堀久下塚北遺跡・久下東遺跡の3遺跡は、この女堀川沖積低地の女堀川と児玉町高岡地内で同河川から分岐する男堀川に挟まれた標高59～63mを測る東西方向に帯状に延びる微高地上に立地し、北側には、女堀川を挟んで低平で広大な本庄台地が、南側には男堀川を挟んで児玉丘陵から列状に並ぶ残丘性独立丘陵の大久保山が対峙している。

本遺跡周辺の女堀川下流域の各時代の集落遺跡は、低地内の微高地と、沖積低地周縁の本庄台地の南側縁辺部と大久保残丘上や残丘斜面下の低台地上に分布している。また、低地内の水田部には、現代の土地改良事業によるほ場整備が実施される以前までは、一町四方の方格地割り連続する条里形地割りが、女堀川流域のほぼ全域に連続して認められた。

当地域では、古くは旧石器時代から遺跡の存在が認められるが、古墳時代になって遺跡数が爆発的に増加し、特に前時代の丘陵部を集落立地の主体とした弥生時代後期と異なり、古墳時代前期より低地内への集落の進出が顕著に認められる。これらの低地内に進出した集落は、弥生時代からの伝統的な在地系土器ではなく、畿内や東海西部地方の系譜をもつ外来系土器を主体としており、おそらく当地域の弥生時代までの水田経営とは技術的系譜を異にした集団によって、労働力の編成と灌排水路の掘削による低地内の開発が徐々に行われていったものと思われる。この当地域における低地開発の成功は、その後の中・後期の遺跡数の安定的な増加からも窺え、当地域でも地域社会の再編成の象徴として、前期には大久保山残丘上に前方後円墳とされる前山1号墳、中期前半には方墳とされる前山2号墳(松本・町田2002)、中期後半には低地内の微高地上に大形円墳の公御塚古墳(増田・坂本他1986)などの首長墓級の古墳が築造され、後期には多数の小円墳を主体とする東富田古墳群、大久保山古墳群、西五十子古墳群などの群集墳が地域社会の奥津城として形成される。当地域周辺では、7世紀後半の白鳳時代になると、流域の低地全域にみられる条里形地割り(児玉条里)の施工と呼応してか、低地内の集落は低地周辺部に移動する傾向が見られる。しかしながら、下流域では本遺跡をはじめ、古墳時代後期から継続的に立地する集落が多く、古墳時代前期から平安時代中期まで、集落の立地傾向に大きな変化は見られないようである。

中世の遺跡は、本遺跡周辺の下流域では比較的多く確認されているが、その性格を明らかにできたものは非常に少ない。児玉地方は、平安時代末から鎌倉時代初期にかけて活躍した武蔵七党の児玉党の本貫地であり、当地域は地名から児玉党久下塚氏との関係が深い地域と考えられる。中世後期の15世紀後半には、関東内乱の象徴でもある古河公方と敵対した関東管領上杉氏側の一大防衛陣地の五十子陣が近くに築かれており、それに関係する遺跡も当地域には多く存在するものと思われる。本遺跡周辺では、中世の屋敷や村落の一部と考えられる遺構も多く検出されているが、宥勝寺北裏遺跡が立地する南側の大久保山残丘を中心にして、中世初期からの瓦の出土が比較的多く見られる傾向がある。



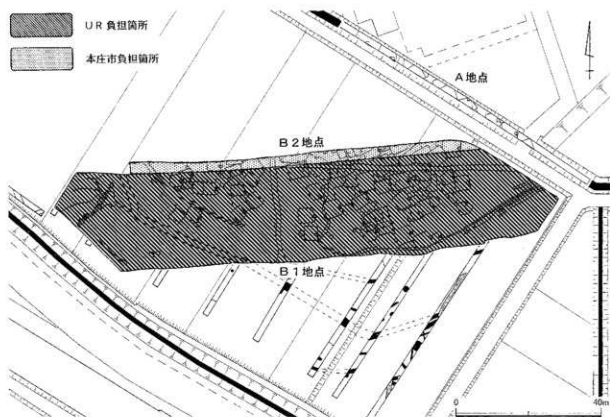
第5図 周辺の既調査遺跡(志河内・的野2010の第168図を一部改変)

第三章 七色塚遺跡B2地点の調査

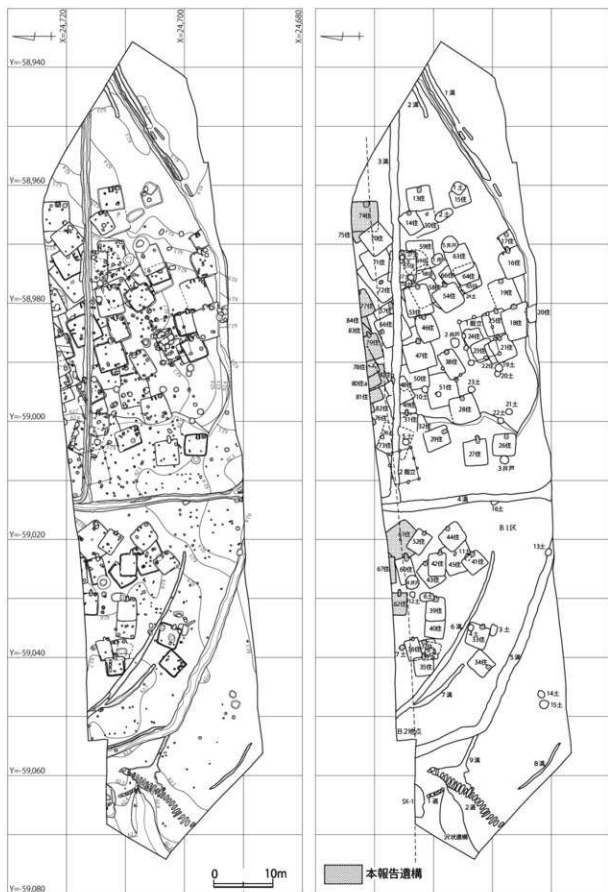
第1節 遺跡の概要

本遺跡は、縄文時代中期後半、古墳時代前期～平安時代の集落と、中世の屋敷跡を主体とする複合遺跡で、女堀川下流域の久保山残丘の北側に広がる低地内の男堀川と女堀川に挟まれた標高63mを測る東西方向に帯状に延びる比較的広い微高地上に立地している。発掘調査は、昭和60年に県営は場整備事業児玉南部地区の小排水路建設に伴うA地点(増田1987)、平成18年度に本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業の都市計画道路東西通り線建設に伴うB1地点(恋河内・松本2008)と排水路建設に伴うB2地点(本報告)で実施されている(第6図)。

今回報告するB2地点で検出された遺構は、竪穴式住居跡15軒と土坑1基である。この他に中世以降の溝跡も3条検出されているが、それらについてはB1地点で報告しているため割愛した。竪穴式住居跡は、古墳時代前期末2軒(第82・84号住居跡)・中期1軒(第76号住居跡)・後期初頭3軒(第61・74・83号住居跡)、白鳳時代4軒(第67・77・80b・81号住居跡)、奈良時代3軒(第62・79・80a号住居跡)、平安時代前期1軒(第78号住居跡)、不明1軒(第75号住居跡)である。後述するように、古墳時代後期初頭の第7号土坑も、削平された竪穴式住居跡の貯蔵穴であった可能性がある。これらの住居跡は、調査区の関係で遺構の全容が分かるものは少ないが、この中で古墳時代後期初頭の典型的な住居跡と言える第74号住居跡は、当地方のカマド普及期のカマドの中で、特異な形態のカマドが付設されており注目される。



第6図 七色塚遺跡B1・B2地点配置図



第7図 七色塚遺跡B2地点遺構配置図

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第61号住居跡（第8図、図版3）

B2地点の調査区西側に位置し、重複する第52号住居跡と第60号住居跡（恋河内・松本2008）、第67号住居跡に切られている。本住居跡の北側コーナー付近は、調査区外に位置しているため、住居の全容は不明である。

平面形は、コーナー部が丸みをもち若干平行四辺形状に歪んだ方形を呈すると思われる。規模は、



第8図 第61号住居跡

第61号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子・焼土粒子を少量含む。）

第2層：暗茶褐色土層（ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を少量含む。）

第3層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

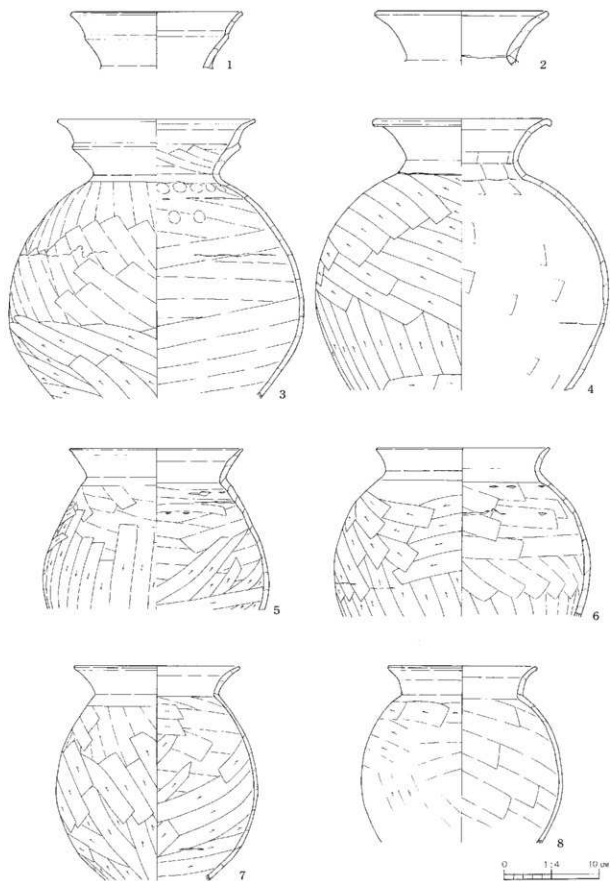
北東～南西方向が5.85m、北西～南東方向が6.00mを測る。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居中央部の南西側寄りの床面上に、直径18cm程度の円形に焼けて赤色化した部分が見られる。おそらく、炉として機能していたものと思われるが、当地域における該期の住居跡でもよく見られるように、カマドに伴う副次的なものであろう。ピットは、住居内から7箇所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴を構成すると考えられるもので、床面からの深さは46cm～80cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、東側コーナー部に位置している。形態は、130cm×88cmの楕円形を呈し、北側が隅丸方形状に一段深くなっている。床面からの深さは、上段が20cm前後、下段が48cmあり、底面は広く平坦である。P6は、南東側壁際の中央部に位置し、その位置から入口部の施設に関係するピットの可能性も考えられる。直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは18cmある。P7は、住居中央部に位置する。34cm×40cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。性格は、不明である。

カマドは、調査区内で検出された部分からは確認できなかった。当地域では、本住居跡の時期にはすでに各住居にカマドが普及して一般化していることから、本住居跡にもカマドが存在していたと思われるが、その場所は貯蔵穴(P5)の位置からすると、住居の北東側壁の中央やや南東側寄りの場所に付設されていたと考えられる。おそらく、住居廃絶時に破壊され、きれいに片付けられたのではないと思われる。

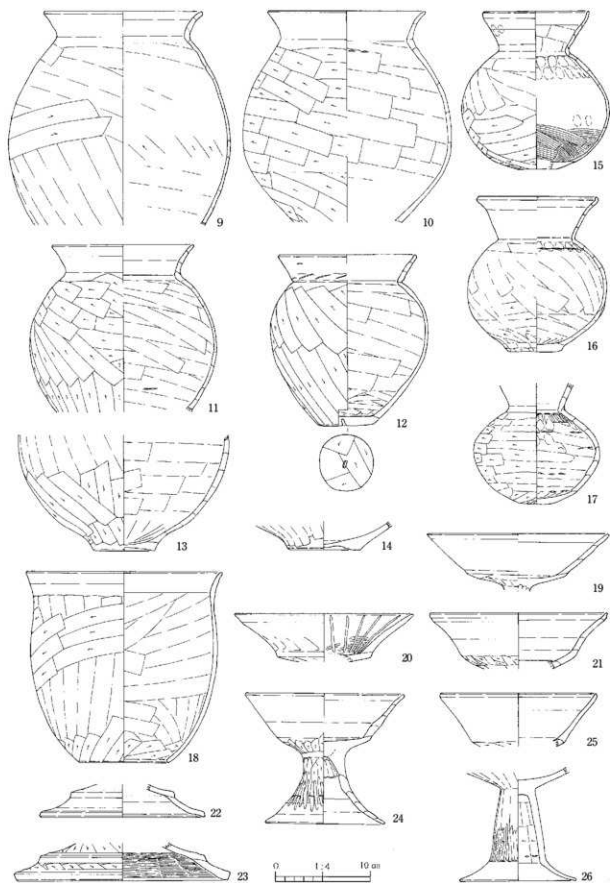
遺物は、住居跡のほぼ全域から古墳時代後期初頭(5世紀後半)の土器が散乱したような状態で出土しているが、住居中央部から出土した土器の多くは、床面から浮いた状態で覆土中から出土していることから、住居廃絶後に周辺から投げ込まれたものと考えられる(第9～11図)。

第61号住居跡出土遺物観察表

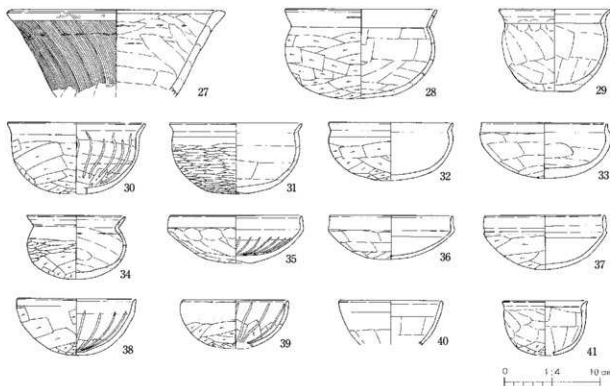
1	二重口縁壺	A. 口縁部径 228. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-暗茶褐色。F. 口縁部1/4強。H. 覆土中。
2	単口縁壺	A. 口縁部径 186. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-暗茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
3	二重口縁壺	A. 口縁部径 208、残存高 296. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後下半部ナデ。胴部外面匏ナデの後下半ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-淡褐色。F. 1/4。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面付近。
4	単口縁壺	A. 口縁部径 192、残存高 286. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
5	胴張壺	A. 口縁部径 184. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面匏ナデの後下半ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
6	胴張壺	A. 口縁部径 184. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
7	長胴壺	A. 口縁部径 176、残存高 228. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面匏ナデの後ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
8	長胴壺	A. 口縁部径 158、残存高 188. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/2、胴部1/4。H. 覆土中。
9	長胴壺	A. 口縁部径 168、残存高 228. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後部分的なケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡茶褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
10	胴張壺	A. 口縁部径 168、残存高 225. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-淡褐色。F. 2/3。H. 床面直上。
11	胴張壺	A. 口縁部径 150.9、残存高 178. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 小石、片岩粒。E. 外-淡橙褐色、内-淡褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
12	小形壺	A. 口縁部径 148. 器高 182、底部径 57. B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡茶褐色。F. 4/5。G. 底部外面中央に焼成網の差し込み状の穴あり。胴部外面黒斑あり。H. 床面直上。



第9図 第61号住居跡出土遺物(1)



第10図 第61号住居跡出土遺物(2)



第11図 第61号住居跡出土遺物(3)

13	胴張 甕	A. 底径6.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 胴部外面匏ナデの後下半ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 胴部下半1/4. H. 覆土中。
14	胴張 甕	A. 底径7.8. B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面匏ナデの後ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 底部のみ。H. 床面付近。
15	中形直口壺	A. 口縁部径11.2. 器高16.8. 底径(2.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ、内面匏ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後下半ハケ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F. 3/4. G. 器形は全体に歪んでいる。H. 覆土中。
16	単純口縁小形壺	A. 口縁部径13.0. 器高16.5. 底径5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色-暗灰褐色、内-明茶褐色。F. 4/5. G. 器形はかなり歪んでいる。器表面は荒れている。H. 床面付近。
17	中形直口壺	A. 残存高(12.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。底部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-淡褐色。F. 胴部1/2. G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面付近。
18	大形甕	A. 口縁部径(20.8)。器高20.3. 底径(9.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ナデの後部分的なケズリ、内面匏ナデの後下端ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/4. H. 覆土中。
19	高 环	A. 口縁部径19.2. B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 坏部1/2. H. 床面直上。
20	高 环	A. 口縁部径(19.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面匏ナデの後ヨコナデ。内面ハケの後ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/3. G. 口縁部内面に放射状暗文を施す。H. 覆土中。
21	高 环	A. 口縁部径18.8. B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-茶褐色。F. 坏部1/2. H. 覆土中。
22	有段高环	A. 脚端部径(17.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 脚端部1/3破片。H. 覆土中。
23	有段高环	A. 脚端部径(22.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚端部外面ケズリの後ヨコナデ、内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-明茶褐色。F. 脚端部1/3破片。H. 覆土中。
24	高 环	A. 口縁部径(17.0)。器高13.9. 脚端部径12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。脚柱部外面ナデの後ケズリとミガキ。内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 坏部1/2. 脚部定形。H. 覆土中。
25	高 环	A. 口縁部径(16.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 坏部1/3前。H. 覆土中。
26	高 环	A. 脚端部径(12.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ・下半ミガキ。内面ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗赤褐色、内-暗茶褐色。F. 脚部3/4. H. 覆土中。
27	鉢	A. 口縁部径(23.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケの後下端ナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/4. H. 覆土中。

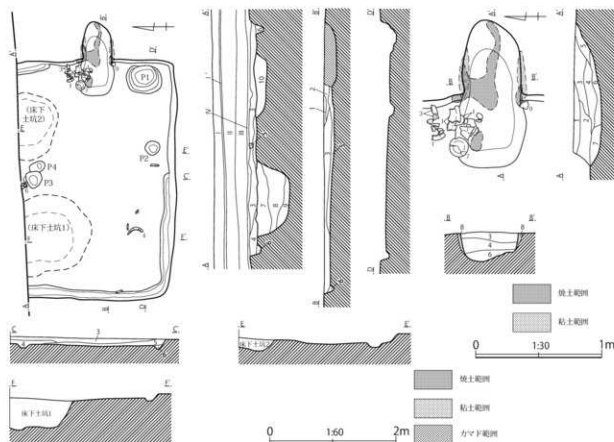
28	鉢	A. 口縁部径(161)、器高9.6、B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 2/3、H. 覆土中。
29	鉢	A. 口縁部径118、器高8.8、底部径4.3、B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. はほぼ完形。H. 床面付近。
30	坏	A. 口縁部径14.6、器高7.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面寛ナデの後下ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. はほぼ完形。G. 内面に放射状暗文を施す。H. 床面直上。
31	坏	A. 口縁部径(14.0)、器高7.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2、H. 覆土中。
32	坏	A. 口縁部径13.2、器高6.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面丁寒なナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. はほぼ完形。G. 外面に黒斑点あり。内面斑点状脱落顕著。H. 覆土中。
33	坏	A. 口縁部径13.4、器高5.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. はほぼ完形。H. 覆土中。
34	坏	A. 口縁部径10.4、器高6.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ中位ミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. はほぼ完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 床面付近。
35	模倣坏	A. 口縁部径13.4、器高5.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 3/4、G. 内面に放射状暗文を施す。底部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
36	模倣坏	A. 口縁部径13.0-13.8、器高4.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 3/4、G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
37	模倣坏	A. 口縁部径(12.8)、器高5.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2、H. 覆土中。
38	埴	A. 口縁部径12.6、器高6.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後縁なケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 3/4、G. 内面に放射状暗文を施す。外面に黒斑あり。H. 覆土中。
39	埴	A. 口縁部径11.3、器高5.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/2、G. 内面に放射状暗文を施す。H. 覆土中。
40	埴	A. 口縁部径11.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/2、H. 覆土中。
41	埴	A. 口縁部径(9.0)、器高5.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/3、H. 覆土中。

第62号住居跡(第12図、図版3)

B 2地点の調査区西側に位置する。本住居跡の北側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、東西方向に長い長方形を呈すると思われる。規模は、東西方向が3.83m、南北方向2.54mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で17cmある。調査区内で検出された各壁下には、床面からの深さが5cm～10cmの壁溝が見られるが、東側壁のカマド周辺から南東側コーナー部の壁下には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、4箇所検出されている。P 1は、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。58cm×45cmの隅丸長方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは12cm程度で浅い。P 2は、住居南側壁際の中央付近に位置する。直径22cmの円形を呈し、床面からの深さは8cmある。P 3とP 4は、住居中央部の北側寄りに位置し、相互に重複している。いずれも25cm程度の円形や楕円形を呈し、床面からの深さはそれぞれ11cmと6cmある。住居北側の床下からは、床下土坑が2基検出されている。いずれも北側半分が調査区外に位置するため全容は不明であるが、比較的大形のものである。いずれも土坑上面には、明確な貼床は施されていない。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長116cm、最大幅57cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、壁面は部分的に焼けて赤色化している。燃焼面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、緩やかに傾斜して煙道部に移行し



第12図 第62号住居跡

第62号住居跡土層説明

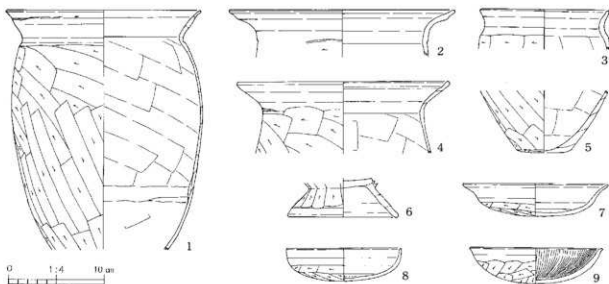
- 第1層：暗褐色土層（白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（白色粒子を多量、ローム粒子を均一に、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・白色粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（白色粒子を均一に、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子・白色粒子を均一に、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（白色粒子を均一に、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第62号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を均一に、焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗黄褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を均一に、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第6層：暗黄褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を均一に、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗黄褐色粘土層（ロームブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

ている。焼部部の両側壁面には、黄褐色粘土が貼り付けられており、おそらくその黄褐色粘土を主体にしてカマド本体が構築されていたと考えられる。

遺物は、カマド周辺や壁際の床面付近から、奈良時代前半(8世紀前半)頃の土師器の甕・皿・坏や、3個の棒状の片岩系河原石が離れて出土している(第13図)。



第13図 第62号住居跡出土遺物

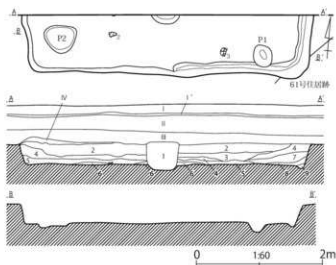
第62号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(206)、残存高25.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗橙褐色、内-明茶褐色。F. 3/4。H. カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径(240)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-茶褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 内面斑点状剥落顕著。H. 覆土中。
3	小 形 甕	A. 口縁部径(136)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒。E. 外-赤茶褐色、内-暗褐色。F. 口縁部1/3破片。G. 外面は二次焼成を受けて荒れている。H. カマド内。
4	長 胴 甕	A. 口縁部径(226)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/2。H. 床面付近。
5	甕	A. 底部径(58)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒茶褐色、内-暗橙褐色。F. 底部1/4破片。H. カマド内。
6	台 付 甕	A. 台端部径118。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-黒褐色。F. 台部3/4。H. 覆土中。
7	皿	A. 口縁部径154。器高34。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 変形。H. カマド内。
8	坏	A. 口縁部径(122)。器高35。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2強。H. 覆土中。
9	暗文付坏	A. 口縁部径(140)。器高39。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 内面に密に放射状暗文を施す。H. カマド内。

第67号住居跡(第14図、図版4)

B2地点の調査区西側に位置し、重複する第61号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは住居跡の南側壁の周辺だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、方形か長方形を呈すると思われる。規模は、東西方向が4.60m、南北方向1.02mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で34cmある。調査区内で検出された南側壁下の東側から東側壁下にかけて、床面から



第14図 第67号住居跡

- 第7層：暗灰褐色粘土層（白色粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・白色粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

の深さが5cm前後の壁溝が見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、2箇所検出されている。P1は、南東側コーナ部に位置する。38cm×30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは17cmある。P2は、南西側コーナ部に位置する。50cm×46cmの不整形を呈し、床面からの深さは5cmある。

遺物は、覆土中や床面付近から、白鳳時代（7世紀後半）の土師器の破片が、少量出土しただけである（第15図）。



第15図 第67号住居跡出土遺物

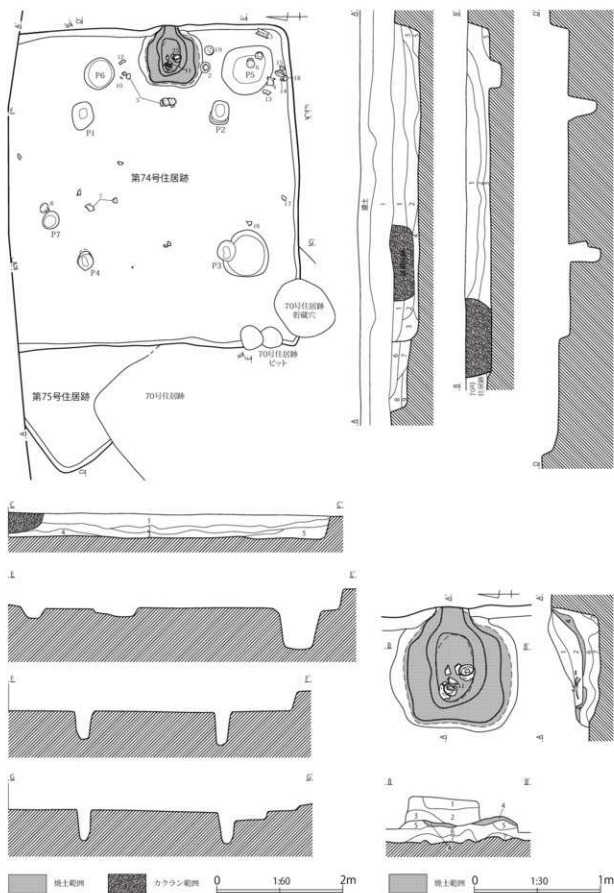
第67号住居跡出土遺物観察表

1	長 型 类	A. 口縁部径(18.0). B. 粘土経積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ. 内面兜ナデ. D. 黒色粒. 白色粒. E. 内外-淡黄褐色. F. 口縁部1/4破片. H. 覆土中.
2	坏	A. 口縁部径(13.4). 器高4.1. B. 粘土経積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ. 内面ナデ. D. 赤色粒. 白色粒. E. 内外-淡褐色. F. 2/3. G. 内面斑点状剥落顕著. H. 覆土中.
3	坏	A. 口縁部径12.8. 器高3.9. B. 粘土経積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ. 内面ナデ. D. 赤色粒. 白色粒. E. 内外-暗橙褐色. F. 3/4. H. 床面付近.

第74号住居跡（第16図、図版4）

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第75号住居跡を切り、第70号住居跡（恋河内・松本2008）に切られている。本住居跡の北側壁は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、比較的整った方形を呈するものと思われる。



第16図 第74・75号住居跡

第74・75号住居跡土層説明

<74号住居跡>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<75号住居跡>

第6層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第74号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・淡褐色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（淡褐色粘土粒子ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（淡褐色粘土粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

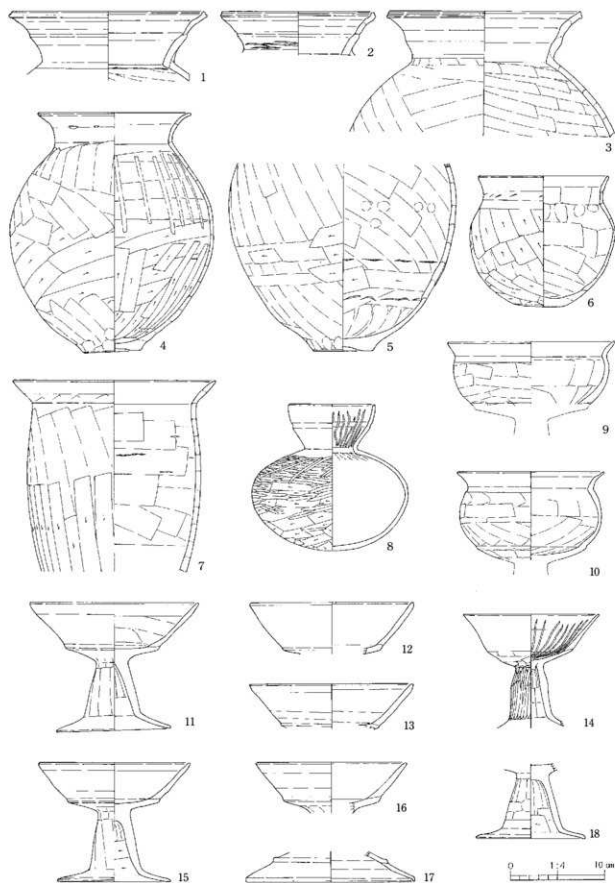
規模は、東西方向が5.12m、南北方向は4.63mまで測れる。壁は、直線的に傾斜してやや立ち上がり、確認面からの深さは最高で40cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、7箇所検出されている。P1～P4は4本主柱穴を構成するもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。いずれも平面形は30cm前後の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは45cm～50cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。82cm×76cmの円形ぎみの形態で、床面からの深さは65cmある。内部からは完形に近い坏が2個体落ち込んだ状態で出土している。P6は、カマド左側の壁際に位置する。50cm×46cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは18cmある。P7は、住居北側の中央に位置する。30cm×26cmの円形を呈し、床面からの深さは13cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に接して直角に付設されている。規模は、全長96cm、最大幅102cmある。床面よりも10cm前後盛り上げ、燃焼部が楕円形状に5cm程度窪み、周囲が幅広の土堤状に巡る形態で、中央部にNo11の高坏を伏せた転用支脚が据えられている。カマド表面が全面焼けて赤色化していることから、天井部が存在しない構造のカマドであった可能性が高い。

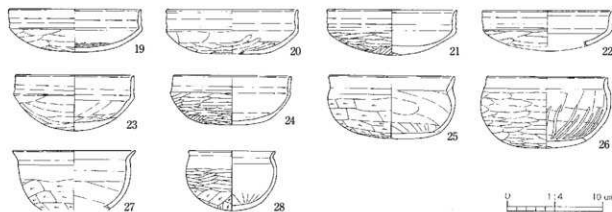
遺物は、カマドや貯蔵穴の内部及びその周辺や住居中央部の床面付近から、本住居で使用されていたと考えられる古墳時代後期初頭（5世紀末）の土器が多く出土している（第17・18図）。

第74号住居跡出土遺物観察表

1	二重口縁壺	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面丁寧なナデ、内面荒ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。
2	二重口縁壺	A. 口縁部径16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部のみ。H. 床面直上。
3	二重口縁壺	A. 口縁部径21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後丁寧なナデ、内面荒ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部完形、胴部上半1/3。H. 床面付近。
4	長頸壺	A. 口縁部径16.2。器高25.6。底部径6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後強なナデ、内面ナデの後下半ケズリ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡褐色。F. 3/4。H. 覆土中。



第17图 第74号住居跡出土遺物(1)



第18図 第74号住居跡出土遺物(2)

5	長 頸 甕	A. 底部径66, B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ナデの後中位部分的なケズリ, 内面上半箇ナデ・下半指ナデ, 底部外面ナデ。D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒。E. 外-暗褐色, 内-淡褐色。F. 胴部下半3/4。G. 外面は二次焼成を受けて荒れている。H. 床面付近。
6	小 形 甕	A. 口縁部径138, 器高140, 底部径52。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後端なケズリ, 内面上半箇ナデ・下半指ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面僅付着。H. 床面直上。
7	大 形 甕	A. 口縁部径(2)4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面箇ナデの後下半ケズリ, 内面箇ナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 外-明茶褐色, 内-暗褐色。F. 口縁部1/3。G. 外面に黒斑点あり。H. 床面付近。
8	中形直口壺	A. 口縁部径(9)2, 器高156。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後上半箇ナデ, 内面ナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 外-淡茶褐色, 内-明茶褐色。F. 口縁部1/2, 胴部完形。G. 口縁部内面に放射状暗文あり。底部外面に黒斑あり。H. 床面付近。
9	脚 付 鉢	A. 口縁部径(17)6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデ, 内面箇ナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
10	脚 付 鉢	A. 口縁部径(15)6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面箇ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
11	高 坏	A. 口縁部径178, 器高138, 脚端部径121。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 坏部・脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. ほぼ完形。H. カマド支脚。
12	高 坏	A. 口縁部径174。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 坏部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 坏部3/4。H. 覆土中。
13	高 坏	A. 口縁部径174。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 坏部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 坏部3/4。H. 覆土中。
14	高 坏	A. 口縁部径(14)4, 残存高122。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 坏部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, 脚柱部外面ケズリの後ミガキ, 内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
15	高 坏	A. 口縁部径160, 器高127, 脚端部径120。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 脚柱部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 内外-赤茶褐色。F. ほぼ完形。G. 外面及び坏部内面僅付着。坏部内面斑点状剥落顕著。H. 床面直上。
16	高 坏	A. 口縁部径(16)0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 坏部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-明茶褐色, 内-淡茶褐色。F. 坏部1/3。H. 床面付近。
17	有段高坏	A. 脚端部径178。B. 粘土継積み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 脚端部2/3。H. 覆土中。
18	高 坏	A. 脚端部径116。B. 粘土継積み上げ。C. 坏部内外面ナデ, 脚柱部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 脚部のみ。H. 覆土中。
19	模 盤 坏	A. 口縁部径140, 器高46。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデの後下端ミガキ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 完形。H. 床面付近。
20	模 盤 坏	A. 口縁部径(14)0, 器高47。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後丁家ナデ, 内面指ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
21	模 盤 坏	A. 口縁部径138, 器高49。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後ミガキ, 内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
22	模 盤 坏	A. 口縁部径(13)8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-茶褐色, 内-淡茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
23	模 盤 坏	A. 口縁部径126, 器高59。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後丁家ナデ, 内面ナデ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
24	模 盤 坏	A. 口縁部径126, 器高53。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後ミガキ, 内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 3/4。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。

25	坏	A. 口縁部径134、器高68。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 完形。H. カマド内。
26	坏	A. 口縁部径128、器高77。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面逸ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-茶褐色。F. 2/3。G. 内面に放射状暗文を施す。H. 覆土中。
27	坏	A. 口縁部径(13.0)、残存高63。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
28	埴	A. 口縁部径92、器高64。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後中位ミガキ・下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-黒茶褐色、内-暗茶褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。

第75号住居跡 (第16図、図版4)

B2地点の調査区東側に位置する。本住居跡の大半は、重複する第70号住居跡(恋河内・松本2008)と第74号住居跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は不明であるが、西側コーナー部はやや丸みをもっている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、若干起伏が見られる。調査区内で検出された住居跡の範囲内からは、カマドやピット等の施設は確認できなかった。

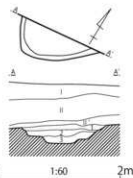
遺物は、覆土中から古墳時代の土器の破片が少量出土しただけである。

第76号住居跡 (第19図、図版4)

B2地点の調査区東側に位置する。本住居跡の大半は、北側の調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は不明であるが、南側コーナー部はやや丸みをもっている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土をほぼ平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。調査区内で検出された住居跡の範囲内からは、カマドやピット等の施設は確認できなかった。

遺物は、覆土中から古墳時代中期(5世紀)の土器の破片が少量出土しただけである(第20図)。



第19図 第76号住居跡

第76号住居跡土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第76号住居跡出土遺物観察表

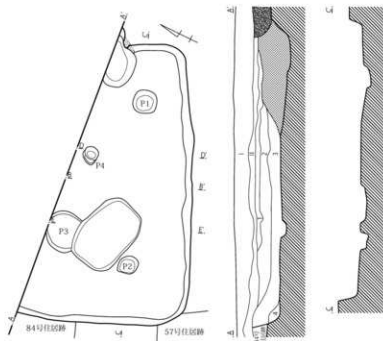
1	坏	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 坏部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面逸ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
---	---	--



第20図 第76号住居跡出土遺物

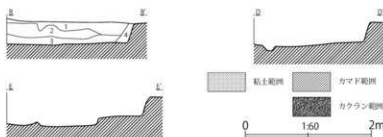
第77号住居跡 (第21図、図版5)

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第84号住居跡を切り、住居中央部の南西側寄りで隅丸長方形を呈する土坑状の掘り込みに切られている。本住居跡の北側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。



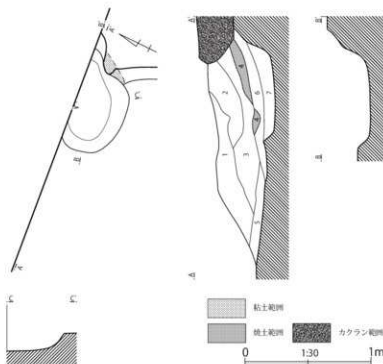
第77号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子・ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第77号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（淡褐色粘土ブロックを均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（淡褐色粘土ブロック・焼土ブロックを均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗赤褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

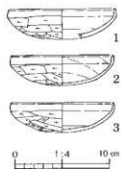


第21図 第77号住居跡

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、北東～南西方向に長い長方形を呈するものと思われる。規模は、南西～北東方向が4.42m、北西～南東方向は2.72mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は縦織であるが、壁際周辺部はやや軟弱である。ピットは、P1～P4の4箇所が検出されている。P1とP2は、その位置から住居の対角線上に配置される4本主柱穴を構成するピットの可能性が考えられるもので、それぞれ直径が38cmと30cmの不整形円形を呈し、床面からの深さはいずれも12cmある。P3は、住居中央部の西側寄りに位置する。直径35cm程度の円形を呈し、床面からの深さは9cm程度ある。P4は、住居中央部に位置する。直径20cm程度の円形を呈し、床面からの深さは12cmある。

カマドは、住居北東側壁の南東側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、南西～北東方向は95cmまで、北西～南東方向は56cmまで測れる。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで構築されており、住居の床面より10cm程度深く、緩やかに傾斜して壁外の煙道部に移行している。袖は、住居跡内で検出されていないが、カマド燃烧部の壁面の一部に灰褐色粘土が貼り付けられており、この灰褐色粘土を主体にしてカマド本体が構築されていたものと思われる。

遺物は、覆土中から白鳳時代(7世紀後半)の完形の坏(第22図No2)や土器の破片が少量出土しただけである。



第22図 第77号住居跡出土遺物

第77号住居跡出土遺物観察表

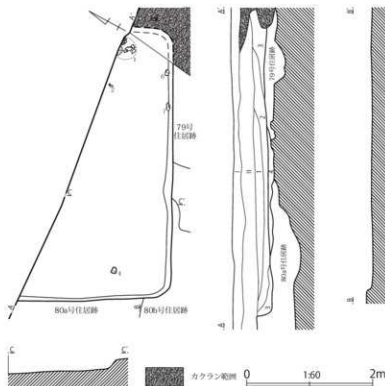
1	坏	A. 口縁部径11.4、器高3.1。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/3破片。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径11.0、器高3.2。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 完形。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径11.0、器高3.2。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。

第78号住居跡(第23図、図版5)

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第79号住居跡と第80a b号住居跡を切っている。本住居跡の北側半分は調査区外に位置し、東側コーナー部は以前の試掘トレンチによって破壊されているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った長方形か方形を呈すると思われる。規模は、南西～北東方向は4.22mまで、南東～北西方向は2.46mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体にやや軟弱である。ピットは、検出されなかった。

カマドは、調査区内では検出されなかったが、住居北東側壁に近いと思われる調査区壁面に焼土が多く見られ、No1やNo2の堿が出土していることから、調査区外の住居北東側壁に付設されていると思われる。

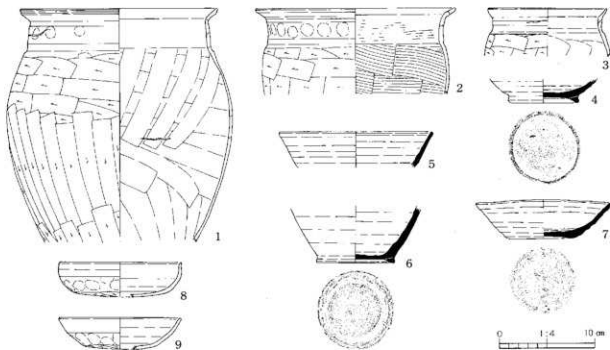


第23図 第78号住居跡

遺物は、住居南東側の壁際から、平安時代前期(9世紀)の須恵器高台付壺(No6)と須恵器坏(No7)が、住居北東側壁に近い調査区壁面のおそらくカマド付近から、土師器甕(No1)が出土している(第24図)。

第78号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第24図 第78号住居跡出土遺物

第78号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.0)、残存高24.9。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面筒ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/4。H. カマド付近。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.4)。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/2弱。H. カマド付近。

3	小形付台蓋	A. 口縁部径(12.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
4	須恵器 高台付埴	A. 高台部径7.6。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 高台部のみ。G. 環元不良。H. 覆土中。
5	須恵器 埴	A. 口縁部径(16.4)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。
6	須恵器 高台付壺	A. 高台部径8.4。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。高台部貼り付け。C. 胴部・高台部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 胴部下分のみ。G. 高台部外面圧痕あり。H. 床面直上。
7	須恵器 転糸 環	A. 口縁部径13.4~14.4。器高4.1。底部径6.7。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. ほぼ完形。G. 環元不良。器形は歪んでいる。内外に黒痕あり。H. 床面直上。
8	環	A. 口縁部径(13.0)。器高3.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
9	環	A. 口縁部径(13.0)。器高3.3。底部径(7.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。

第79号住居跡 (第25図、図版5)

B 2 地点の調査区東側に位置し、重複する第83号住居跡を切り、第78号住居跡に切られている。本住居跡の北側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、東西方向に長い長方形を呈するものと思われる。規模は、南西～北東方向が4.18m、南東～北西方向は3.13mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。壁溝は、幅15cm前後、床面からの深さが5cm程度で、調査区内で検出された各壁下に見られるが、カマド右側の住居東側コーナー部や南側コーナー付近で途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、P 1～P 3の3箇所が検出されている。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。108cm×68cmの楕円形状の形態を呈し、中央部の南側寄りが円形状に一段深くなっている。床面からの深さは、40cmある。P 2は、住居南東側壁際に位置する。45cm×35cmの楕円形を呈し、床面からの深さは17cmある。位置的には入口部に関係するピットの可能性もあるが、明確ではない。P 3は、住居南側コーナー部付近に位置する。直径25cm程度の円形を呈し、床面からの深さは17cmある。

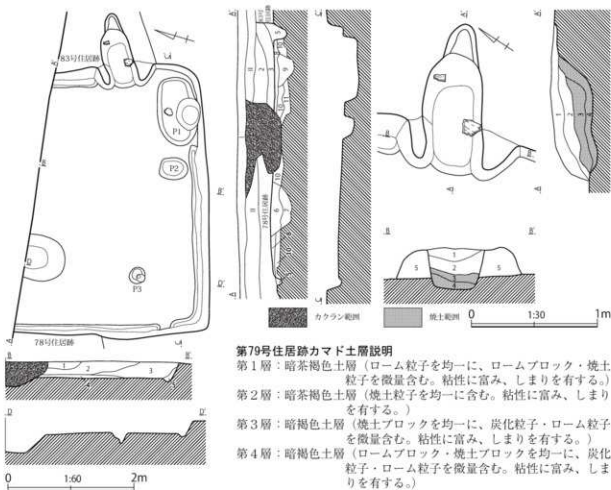
カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長120cm、最大幅100cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで構築されており、掘り方は床面より5cm程度深く掘り、カマド第4層を埋め戻して燃焼面になっているようである。軸は、淡褐色粘土ブロックを均一に含む淡褐色土(カマド第5層)を住居の壁に直接貼り付けて作られている。煙道部は、燃焼部の奥壁から水平方向に25cm程度延びて削平されている。

遺物は、カマド燃焼部内や覆土中から、奈良時代後半(8世紀後半)の土器の破片が、少量出土しただけである(第26図)。

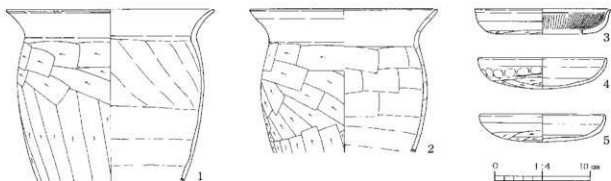
第79号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
 第2層：暗茶褐色土層 (ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層：暗茶褐色土層 (ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第5層：暗黄褐色土層 (ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第6層：暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第7層：暗黄褐色土層 (ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第8層：暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第25図 第79号住居跡



第26図 第79号住居跡出土遺物

第79号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(220)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。 D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径(200)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。 D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。

3	暗文付坯	A. 口縁部径(144)、器高27、底部径(118)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 内面に密な放射状暗文を施す。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径136、器高33。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径132、器高30。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。

第80 a号住居跡（第27図、図版6）

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第80 b号住居跡を切り、第78号住居跡に切られている。本住居跡の北側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもった東西方向に長い長方形を呈するものと思われる。規模は、南西～北東方向が3.42m、南東～北西方向は2.44mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で40cmある。調査区内から検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、P1～P5の5箇所が検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。68cm×54cmの隅丸長方形さみの形態を呈し、床面からの深さは25cmある。P2～P5は、住居の南東側壁際から南側コーナー部付近にかたまって位置している。いずれも40cm～45cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは10cm～20cmある。

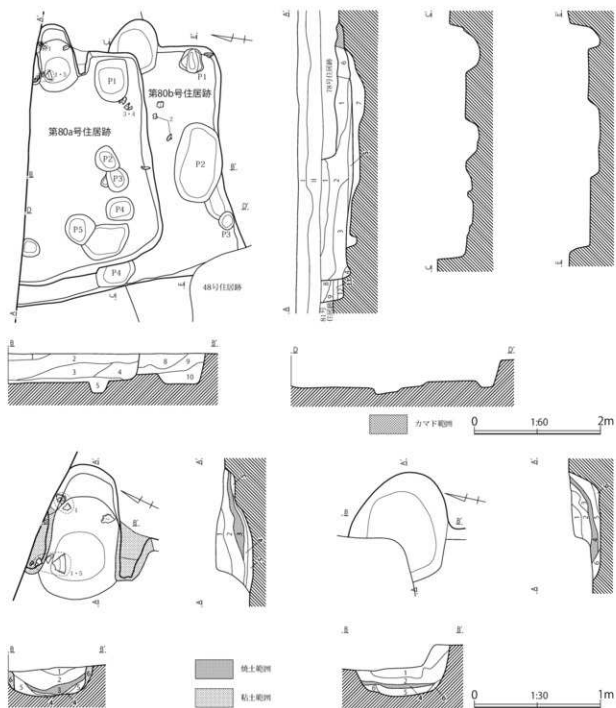
カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部寄りの位置に、壁を掘り込んでほぼ直角に付設されている。規模は、全長107cm、幅は102cmまで測れる。燃焼部は、住居床面より10cm程度深く、緩やかに傾斜して煙道部に移行する。袖は、灰褐色粘土を壁に貼り付けて構築している。

遺物は、カマド内や覆土中から、奈良時代後半(8世紀後半)のNo1・3・4・5の甕や砥石の破片が少量出土している(第28図)。

第80 b号住居跡（第27図、図版6）

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第81号住居跡を切り、第48号住居跡(恋河内・松本2008)・第78号住居跡・第80 a号住居跡に切られている。本住居跡の北側半分は、他の住居跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、南北方向に長い長方形さみの形態を呈するものと思われる。規模は、南西～北東方向が3.64m、南東～北西方向は3.77mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。調査区内から検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、P1～P4の4箇所が検出されている。P1は、40cm×37cmの不整形形で床面からの深さは20cm程度ある。カマド右側の住居東側コーナー部に位置するが、形態的にはいわゆる貯蔵穴と呼ばれているものとは異なる。P2は、南東側壁下の中央に位置する。124cm×78cmの楕円形気味の形態で、床面からの深さは22cmある。P3は、南東側壁下の南側コーナー部寄りに位置する。28cm×25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは11cmある。P4は、南西側壁下の中央部に位置する。形態は不明で、床面からの深さは16cmある。



第27図 第80a・80b号住居跡

第80a・80b号住居跡土層説明

<第80a号住居跡>

- 第1層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：淡褐色土層（カマド袖。淡褐色粘土を主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第80b号住居跡>

- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第80a号住居跡カマド土層説明

- 第1層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを均一に、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：黒色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを主体。）

第80b号住居跡カマド土層説明

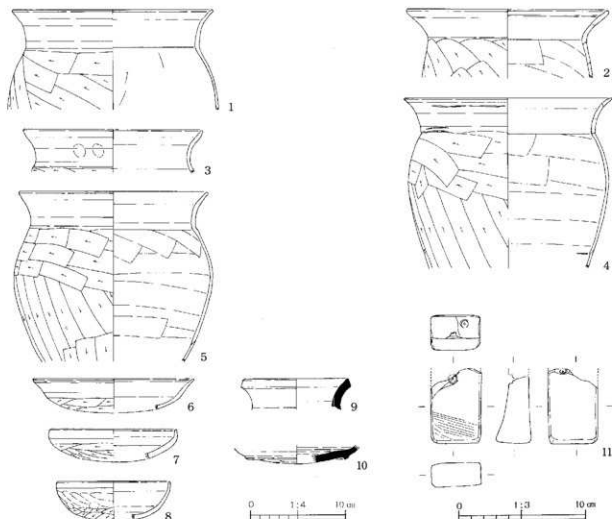
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量、焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：黒灰色土層（ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：黒褐色土層（炭化粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部寄りの位置に、壁を掘り込んでほぼ直角に付設されている。規模は、全長86cm、最大幅は80cmある。燃焼部は、床面より5cm程度掘り下げて掘り方とし、カマド4層～6層を埋め戻して、燃焼面(火床)にしている。

遺物は、比較的少ないが、No2の甕とともに第80a号住居跡の覆土中から出土したNo6・7・10などの白鳳時代末(7世紀末～8世紀初頭)の土器群が本住居跡に伴うものと考えられる。

第80a b号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丸ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 上半1/3。H. 80 a 住カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丸ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/2強。H. 80 b 住
3	長 胴 甕	A. 口縁部径(19.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丸ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 80 a 住覆土中。
4	長 胴 甕	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丸ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/3。H. 80 a 住
5	長 胴 甕	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丸ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/3。H. 80 a 住カマド内。
6	皿	A. 口縁部径(17.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 80 a 住覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(13.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 80 a 住覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(12.0)。器高4.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 80 a 住覆土中。
9	須 恵 器 短 頸 甕	A. 口縁部径(11.6)。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部1/4破片。H. 80 b 住覆土中。
10	須 恵 器 高 台 付 坏	A. 高台部径(11.0)。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 黒色粒。E. 内外-灰白色。F. 底部1/4破片。H. 80 a 住覆土中。
11	柱 状 砥 石	A. 残存長6.0。最大幅4.0。厚さ2.8。B. 削り出し。C. 各面とも良く捲けて平坦をなす。D. 流紋岩。F. 1/2。G. 上面及び割口面に穿孔痕あり。各面に鉄分付着。H. 80 a 住覆土中。



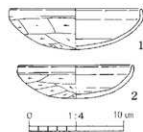
第28図 第80a・80b号住居跡出土遺物

第81号住居跡 (第30図、図版6)

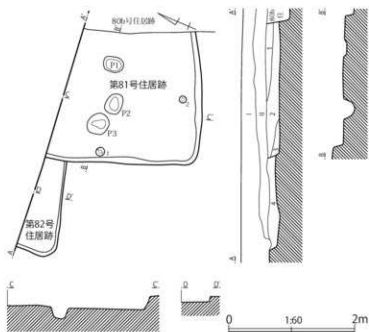
B2地点の調査区東側に位置し、重複する第82号住居跡を切り、第80b号住居跡に切られている。本住居跡の北側半分は、調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもった方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南西～北東方向は2.10mまで、南東～北西方向は2.54mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。調査区内から検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、住居中央部付近から南東側壁際の位置に、P1～P3がかたまって検出されている。いずれも長さが35cm程度の楕円形さみの形態を呈している。床面からの深さは、P1が5cm程度で浅いが、P2とP3はいずれも20cmある。

遺物は、覆土中から白鳳時代(7世紀末)の土師器の甕や坏の破片が多く出土している(第29図)。



第29図 第81号住居跡出土遺物



第30図 第81・82号住居跡

第81号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径14.2、器高4.3。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。G. 器表面の一部に斑点状剥落あり。H. 床面付近。
2	坏	A. 口縁部径12.3、器高3.5。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 完形。H. 床面付近。

第82号住居跡（第30図、図版6）

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第81号住居跡に切られている。本住居跡の大半は、調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもった方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南西～北東方向は1.55mまで、南東～北西方向は62cmまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。調査区内から検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体にやや軟弱である。

遺物は、覆土中から古墳時代前期の土器の破片が、少量出土しただけである(第31図)。



第31図 第82号住居跡出土遺物

第82号住居跡出土遺物観察表

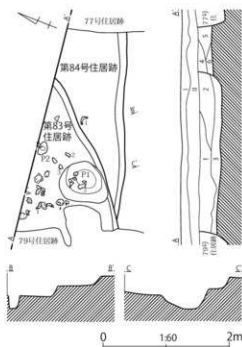
1	差	A. 口縁部径18.0。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面荒ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
---	---	--

第83号住居跡（第32図、図版6）

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第84号住居跡を切り、第79号住居跡に切られている。本住居跡の大半は、調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、不明である。規模は、南西～北東方向は2.50mまで、南東～北西方向は1.60mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で36cmある。調査区内から検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、P1とP2の2箇所が検出されている。P1は、住居南東側壁際に位置する。72cm×64cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは20cmある。P2は、住居中央部付近に位置する。22cm×14cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは18cmある。

遺物は、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器の破片が、覆土中から散乱したような状態で、比較的多く出土している(第33図)。



第32図 第83・84号住居跡

第83・84号住居跡土層説明

<第83号住居跡>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

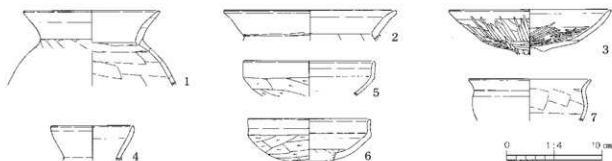
第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第84号住居跡>

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第33図 第83号住居跡出土遺物

第83号住居跡出土遺物観察表

1	副 張 壳	A. 口縁部径(14.4)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面兜ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	壳	A. 口縁部径18.4。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部3/4破片。H. 覆土中。

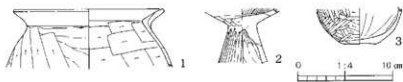
3	高 坏	A. 口縁部径 17.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口唇部内外面ヨコナデ. 口縁部内外面ナデの後簷なミガキ. 坏部外面ケズリの後ミガキ. 内面ミガキ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明茶褐色. F. 坏部1/2. H. 覆土中.
4	中形直口壺	A. 口縁部径(8.8). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-茶褐色. F. 口縁部3/4破片. H. 覆土中.
5	模 倣 坏	A. 口縁部径(14.0). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ヨコナデ. D. 白色粒. E. 内外-淡茶褐色. F. 口縁部1/6破片. H. 覆土中.
6	模 倣 坏	A. 口縁部径(13.0). 器高4.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-茶褐色. F. 口縁部1/4破片. H. 覆土中.
7	坏	A. 口縁部径(13.0). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面寛ナデ. D. 白色粒. E. 内外-淡茶褐色. F. 口縁部1/4破片. H. 覆土中.

第84号住居跡 (第32図、図版6)

B2地点の調査区東側に位置し、重複する第77号住居跡と第83号住居跡に切られている。本住居跡の大半は、調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、不明である。規模は、南西～北東方向は2.98mまで、南東～北西方向は2.12mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。調査区内から検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含んだ暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

遺物は、住居の床面上や覆土中から、古墳時代前期末～中期初頭頃を主体とする土器の破片が少量出土しただけである(第34図)。



第34図 第84号住居跡出土遺物

第84号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(16.0). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面ケズリ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外-暗褐色, 内-明茶褐色. F. 口縁部1/3破片. H. 床面直上.
2	高 坏	A. 残存高5.8. B. 粘土継積み上げ. C. 坏部外面ナデの後下端ケズリ, 内面ミガキ. 胴部外面ミガキ, 内面紋りの後指ナデ. D. 白色粒. E. 内外-暗褐色. F. 脚部上半のみ. H. 覆土中.
3	小 形 壺	A. 底部径3.6. B. 粘土継積み上げ. C. 胴部外面ケズリの後ミガキ, 内面寛ナデ. 底部外面ミガキ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-淡褐色. F. 胴部下半1/3. H. 覆土中.

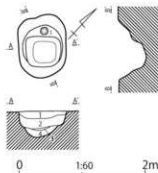
2. 土 坑

第7号土坑 (第35図、図版6)

B2地点の調査区西側に位置する。平面形は、上面がやや丸み強い隅丸長方形ぎみの形態で、ほぼ中央の位置が60cm×42cmの隅丸長方形に2段に深くなっている。規模は、北西～南東方向が100cm、北東～南西方向が75cmある。壁は、上半が緩やかに傾斜し、下半は直線的に傾斜がやや急になって落ち込んでいる。確認面からの深さは最高で42cmある。

遺物は、土坑北西側中段のテラス上から、古墳時代後期初頭(5世紀末)の完形の坏(第36図No1)が正位で出土している。

本土坑は、その形態的特徴が住居の貯蔵穴に類似していることから、すでに削平された住居跡の貯蔵穴であった可能性も考えられる。



第35図 第7号土坑



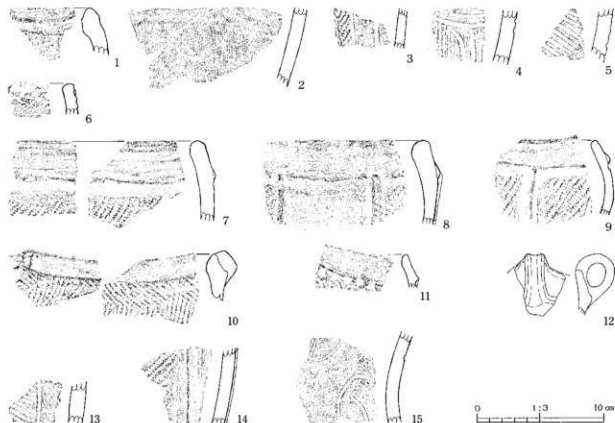
第36図 第7号土坑出土土物

第7号土坑出土遺物観察表

1	模倣環	A. 口縁部径 132、器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 完彩。H. 中段テラス上。
---	-----	---

3. 調査区内出土の縄文土器

七色塚遺跡B2地点の調査では、古墳時代以降の住居跡の覆土中から、縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式～EⅣ式の土器の破片が少量出土している(第37図)。B2地点の調査区内では、縄文時代の遺構は検出されていないが、南側隣地のB1地点では加曾利EⅢ式の住居跡(第69号住居跡)や加曾利EⅢ式～EⅣ式の土坑(第27号土坑)が検出されており、本遺跡では中期後葉の小規模な該期の集落が形成されていたことが明らかになっている(恋河内・松本2008)。B2地点のこれらの土器片も、当然ながら本遺跡の小規模集落と関係するものであろう。



第37図 調査区内出土縄文土器

調査区内出土縄文土器観察表

1	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面は櫛歯状工具による条線を施す。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. 口縁部破片。G. 加曾利EⅢ式。H. 第62号住居跡覆土中。
2	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面は櫛歯状工具による条線を施す。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 胴部破片。G. 加曾利EⅢ式。H. 第62号住居跡覆土中。

3	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面は鹿描沈線により施文部(RL 縦軸がしの後磨消)と無文部を縦区画。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. 胴部破片。G. 加曾利EⅢ式。H. 第81号住居跡覆土中。
4	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面は地文に熟糸文を施文後、鹿描沈線による連弧文と懸垂文を施す。内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗灰褐色、内-黒灰褐色。F. 胴部破片。G. 連弧文系(加曾利EⅢ式段階)。H. 第79号住居跡覆土中。
5	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面は鹿描沈線文を施す。内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-黒灰褐色、内-淡褐色。F. 胴部破片。G. 曾利系(加曾利EⅢ式段階)。H. 第78号住居跡覆土中。
6	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面に細い鹿描沈線による斜格子状の文様を施文後、口唇部との境に平行沈線とそこに円形の連続刺突文を施す。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部破片。G. 加曾利EⅢ式。H. 第79号住居跡覆土中。
7	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面は縄文(LR)施文。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 口縁部破片。G. 加曾利EⅣ式。H. 第74号住居跡覆土中。
8	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面は縦位隆帯貼付後、縄文(LR)施文。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部破片。G. 加曾利EⅣ式。H. 第74号住居跡覆土中。
9	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面は地文に縄文(LR)施文後、貼付隆帯による区画文。内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部破片。G. 口縁部は波状を呈する。加曾利EⅣ式。H. 第67号住居跡覆土中。
10	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。口縁波頂部及び胴部外面に縄文(RL)施文。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黄褐色。F. 口縁部破片。G. 口縁部は波状を呈する。加曾利EⅣ式。H. 第80 a b号住居跡覆土中。
11	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面は地文に縄文(RL)施文後、口縁部との境の隆帯に沿って円形の連続刺突文を施す。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 口縁部破片。G. 口縁部は波状を呈する。加曾利EⅣ式。H. 第75号住居跡覆土中。
12	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 把手及び口縁部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡橙褐色。F. 把手破片。G. 加曾利EⅣ式。H. 第83号住居跡覆土中。
13	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面は鹿描沈線により施文部(RL 縦軸がし)により充填)と無文部を縦区画。D. 白色粒。E. 外-明褐色、内-淡褐色。F. 胴部破片。G. 加曾利EⅣ式。H. 第74号住居跡覆土中。
14	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面は縦位に隆帯貼付後、隆帯に沿って縄文(RL)施文。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-淡褐色。F. 胴部破片。G. 加曾利EⅣ式。H. 第74号住居跡覆土中。
15	深	鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面は鹿描沈線による区画文を施す。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-明褐色、内-暗褐色。F. 胴部破片。G. 加曾利EⅣ式。H. 第80 b号住居跡覆土中。



第Ⅳ章 北堀久下塚北遺跡C・D地点の調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、古墳時代～平安時代の古代集落跡と、中近世の屋敷跡を主体とする複合遺跡で、七色塚遺跡と同じ低地内の男堀川と女堀川に挟まれた標高61mを測る東西方向に帯状に延びる比較的広い微高地上に立地している。本遺跡が立地するこの微高地上の東側には、同時期の久下東遺跡(増田1985、太田2005、松本・大熊他2009、恋河内・的野2010、恋河内2012、松本2013)や久下前遺跡(松本・町田2002、恋河内・的野2010、松本・的野2010、恋河内2012、松本2013)が隣接しており、さらにその東側に続く北堀新田遺跡(佐々木2010、松本・的野2010、大熊2013)や北堀新田前遺跡(恋河内・松本2008)とともに、遺構の分布が連続する同一の大規模遺跡を構成するものと考えられる。

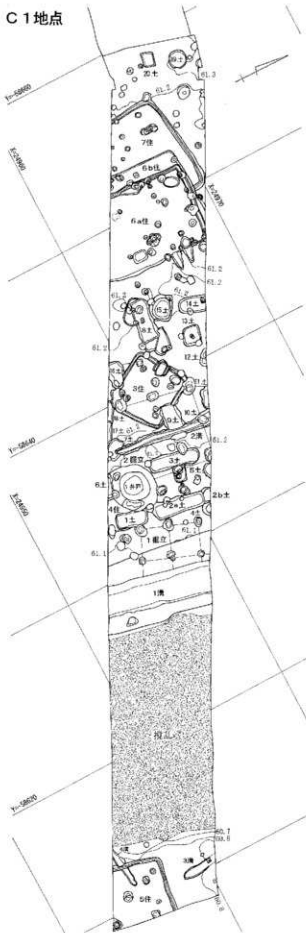
発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業の都市計画道路環状線建設や市道建設に伴って、平成19年度にA地点(松本・大熊他2009)、平成20年度にB1地点・B2地点(恋河内・的野2010)とC1地点・D1地点(本報告)、平成21年度にC2地点・D2地点(本報告)で実施されている(第38図)。

今回報告するC1地点とD1地点、C2地点とD2地点で検出された主な遺構は、竪穴式住居跡15軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基、土坑47基、溝跡11条、性格不明遺構(SX)1基である。時期は、古代の古墳時代前期が住居跡1軒・後期が住居跡4軒、白鳳時代が住居跡7軒、奈良時代が住居跡1軒・建物跡1棟、平安時代前期が住居跡1軒・中期が溝跡1条で、中世の鎌倉時代～戦国時代が建物跡1棟・井戸跡1基・土坑1基・溝跡3条・性格不明遺構(地下式坑?)1基、近世以降の江戸時代以降が土坑32基・溝跡3条である。

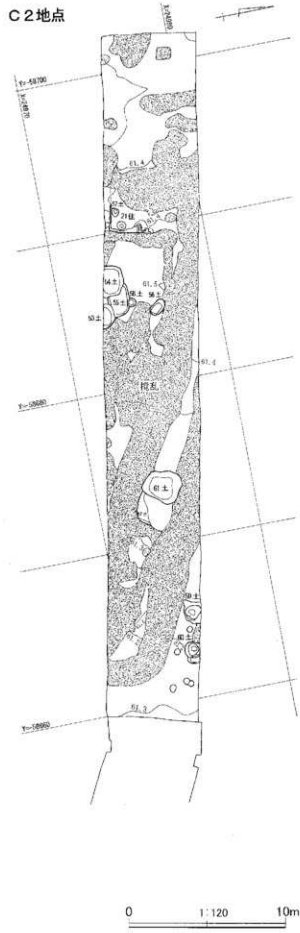


第38図 北堀久下塚北遺跡A～D地点位置図

C1地点

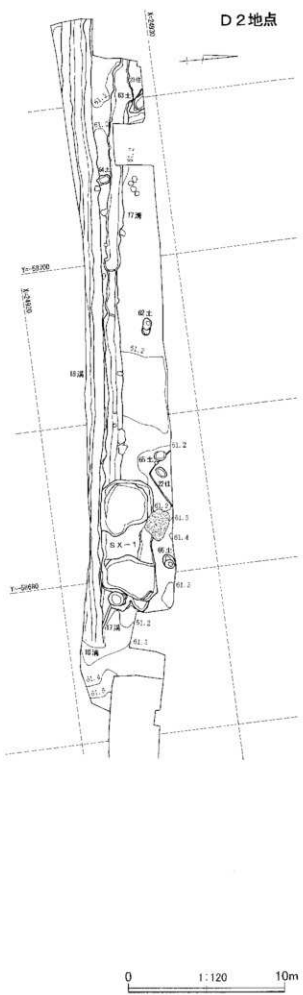
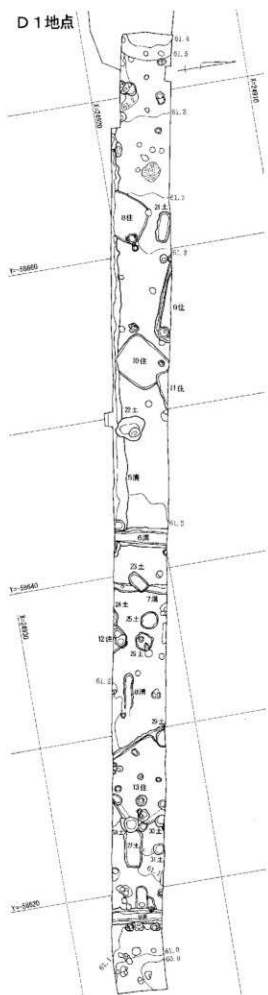


C2地点



0 1:120 10m

第39図 北堀久下塚北遺跡C1・C2地点全体図



第40図 北堀久下塚北遺跡D1・D2地点全体図

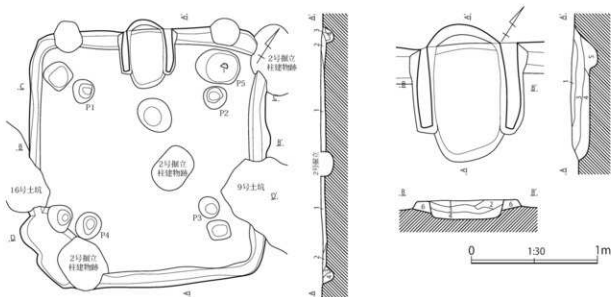
第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第3号住居跡（第41図、図版9）

C1地点の調査区中央付近に位置し、重複する第2号掘立柱建物跡・第9号土坑・第16号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、北西～南東方向が4.10m、北東～南西方向が3.75mを測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で12cmある。各壁下には、幅20cm前後、床面からの深さ14cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。ピットは、住居跡内から多く検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるピットは、P1～P5の5箇所である。

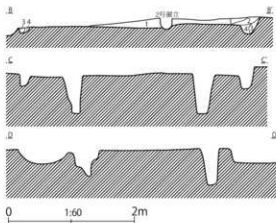


第3号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土層（焼土ブロック・白色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



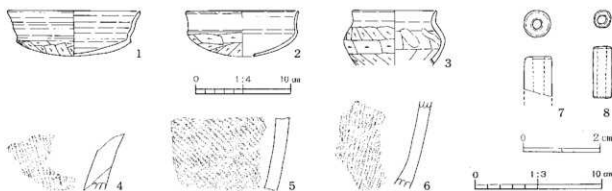
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・白色粘土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：暗褐色土層（白色粘土粒子・ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：淡褐色土層（白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第41図 第3号住居跡

る。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。いずれも35cm～45cmの円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さはP4が42cmと浅い他は、P1～P3は60cmで揃っている。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居北側コーナー部に位置する。71cm×54cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは25cmある。中からは、土師器杯の破片(第42図No2)が出土している。

カマドは、住居北西側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長110cm、最大幅94cmある。燃烧部は、住居内にあり、奥壁は住居の壁と一致している。袖は、白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されている。本カマドは、壁溝を埋めて構築されていることから、住居構築当初から作り付けられていたものではなく、作り替えられたものと考えられる。

遺物は、P5の貯蔵穴内や覆土中から、古墳時代後期後葉の土師器や埴輪の破片と、縄文時代中期後半の土器片が少量出土している。また、P2や覆土中から石製管玉も出土している(第42図)。



第42図 第3号住居跡出土遺物

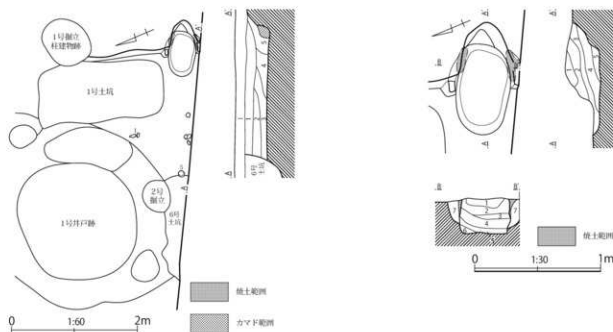
第3号住居跡出土遺物観察表

1	有段口縁 模 盤 杯	A. 口縁部径(14.0)、器高4.8。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
2	模 盤 杯	A. 口縁部径(12.0)、器高4.8。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/3。H. 貯蔵穴内。
3	小形広口 甕	A. 口縁部径(9.0)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	円筒 埴 輪	B. 粘土経積み上げ。C. 内外面縦ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
5	深 鉢	B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面縄文(丸)施文、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黄褐色、内-淡茶褐色。F. 破片。G. 縄文中期後半。H. 覆土中。
6	深 鉢	B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面熱赤施文、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 破片。G. 縄文中期後半。H. 覆土中。
7	管 玉	A. 残存長1.1、直径0.75。C. 外面研磨。D. 緑色凝灰岩。F. 1/2。H. 覆土中。
8	管 玉	A. 長さ1.4、直径0.5。C. 外面研磨。D. 凝灰岩。F. 完彩。H. P2内。

第4号住居跡(第43図、図版9)

C1地点の調査区中央付近に位置し、重複する第1号掘立柱建物跡・第1号井戸跡・第1号土坑・第6号土坑に切られている。本住居跡の南西側半分は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

平面形は、不明である。規模は、南東～北西方向は2.06mまで、南西～北東方向は1.84mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、比較的堅緻である。



第43図 第4号住居跡

第4号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（淡灰色粘土粒子・焼土粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4号住居跡カマド土層説明

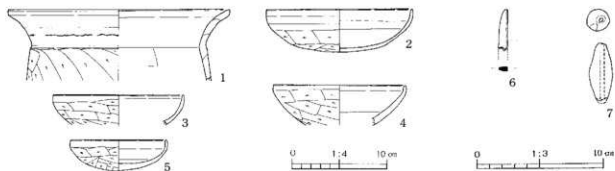
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土ブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（淡灰色粘土粒子を均一に、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（淡灰色粘土粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：淡灰色粘土層（淡灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

カマドは、住居南東側壁の位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長90cm、幅は60cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られ、燃焼面(火床)は住居床面より5cm程度低くなっている。袖は、淡灰色粘土を燃焼部壁面から貼り付けて構築している。

遺物は、白鳳時代(7世紀末)の土師器の甕や坏の破片とともに、鉄鋸の可能性もある鉄製品と土錘が出土している(第44図)。

第4号住居跡出土遺物観察表

1	長 柄 甕	A. 口縁部径(23.6). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面尻ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明茶褐色. F. 口縁部1/4. H. 床面付近.
2	坏	A. 口縁部径(15.6). 器高4.5. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外-暗茶褐色, 内-黒褐色. F. 1/2弱. G. 内面にタール状の黒色付着物. H. 覆土中.
3	坏	A. 口縁部径(13.8). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-淡橙褐色. F. 口縁部1/4強. H. 覆土中.
4	坏	A. 口縁部径(14.0). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外-暗褐色. F. 口縁部1/6. H. 覆土中.



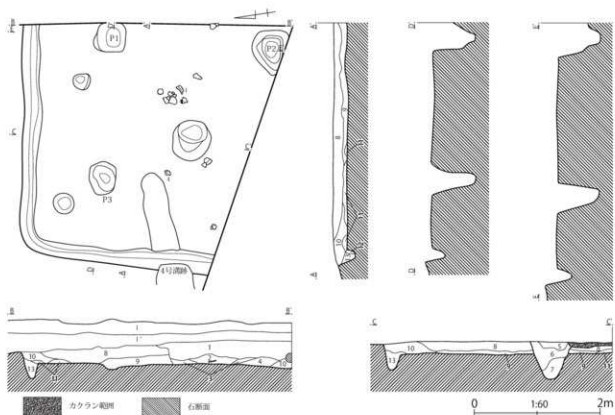
第44図 第4号住居跡出土遺物

5	坏	A. 口縁部径102、器高33。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一帯褐色。F. ほほ完形。H. 床面直上。
6	鉄製品	A. 残存長34、幅07、厚さ03。B. 鍛造。C. 片刃。D. 鉄製。F. 刃部先端のみ。H. 覆土中。
7	土 錘	A. 長さ46、最大幅18。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色。F. ほほ完形。H. 覆土中。

第5号住居跡 (第45図、図版9)

C1地点の調査区東端に位置し、重複する第4号溝跡に切られている。本住居跡の東側と南側は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分と主柱穴の配置から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向は4.00mまで、南北方向は4.28mまで測れる。壁は、



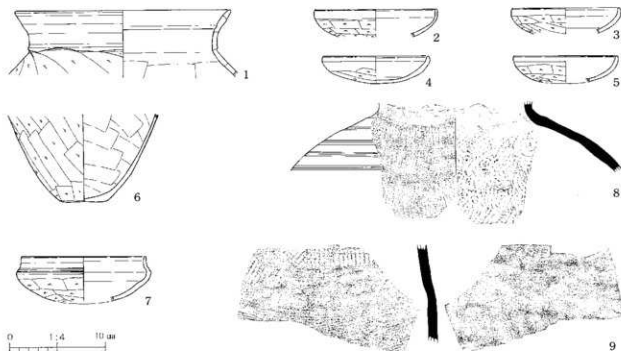
第45図 第5号住居跡

第5号住居跡土層説明

- 第1層：灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗灰褐色土層（鉄斑・ローム粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（鉄斑を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（鉄斑・ローム粒子・焼土粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（鉄斑を多量に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗黄褐色土層（鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。調査区内で検出された住居北側壁下と西側壁下には、幅20cm・床面からの深さ25cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、比較的堅緻である。ピットは、住居内から6箇所検出されているが、本住居跡に伴うと考えられるのはP1～P3の3箇所である。P1～P3は、主柱穴と考えられ、住居の対角線上に配置されていると思われる。いずれも50cm前後の不整形を呈し、床面からの深さは60cm～70cmと揃っている。

遺物は、白鳳時代（7世紀後半）の土師器と須恵器の破片が、覆土中から多く出土している（第46図）。



第46図 第5号住居跡出土遺物

第5号住居跡出土遺物観察表

1	銅 張 葉	A. 口縁部径(23.0). B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ、内面寛ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外-淡茶褐色. F. 口縁部1/4. H. 覆土中.
2	坏	A. 口縁部径(13.0). 残存高29. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外-明橙褐色. F. 口縁部1/4. H. 覆土中.

3	坏	A. 口縁部径(11.4)、残存高2.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(11.2)、器高3.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(11.0)、残存高2.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
6	長 胴 壺	A. 底部径5.0。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面瓠ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 胴部下半1/4。H. 覆土中。
7	模 倣 坏	A. 口縁部径(13.2)、残存高4.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-黒褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
8	須 恵 器	A. 頭部径(16.2)。B. 粘土継積み上げ後叩き。C. 頭部内外面回転ナデ。胴部外面叩き(平行叩き目)の後横線を数段施す。内面当道具直跡(青海波文)。D. 白色粒。E. 内外-淡灰白色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
9	須 恵 器	B. 粘土継積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(格子目)の後横線を施す。内面上半当道具直跡(青海波文)、下半ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色、内-淡茶灰色。F. 胴部破片。H. 床面付近。

第6 a・6 b号住居跡(第47図、図版9・10)

C1地点の調査区西側に位置し、重複する第7号住居跡を切っている。本住居跡の南端部は調査区外のため、遺構の全容は不明である。本住居跡は、同一地点での建て替えが認められ、東西方向に長い第6 b号住居跡から南北方向に長い第6 a号住居跡に建て替えられたと考えられる。

<第6 a号住居跡>

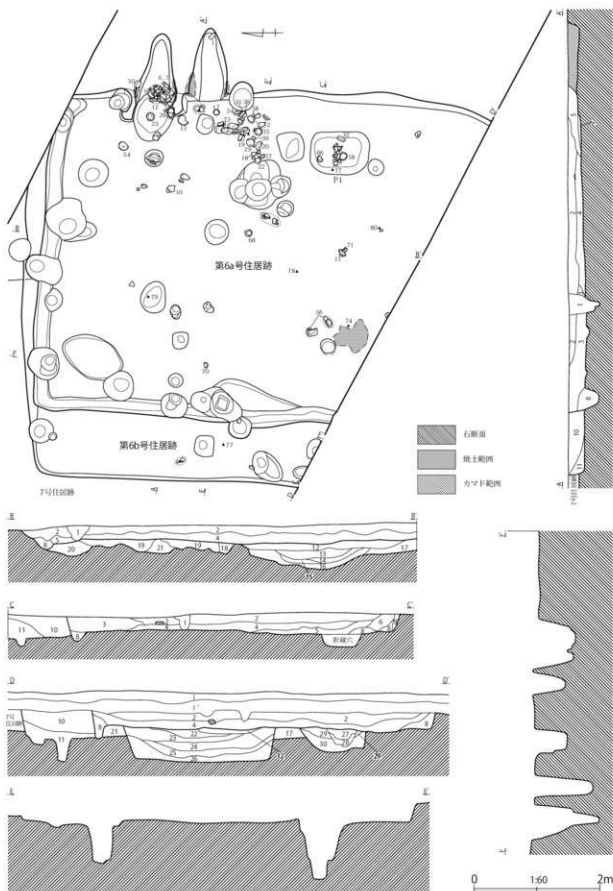
平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、南北方向に長い比較的整った長方形を呈すると思われる。規模は、東西方向5.36m、南北方向は7mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。北側壁下と西側壁下には、幅20cm程度で床面からの深さが15cm前後の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を部分的に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。南西側の床面上には、不定形に焼けて赤色化した部分が見られる。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、この中のP1は、その形態や位置から、いわゆる貯蔵穴と考えられるものである。94cm×68cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは20cmある。P1内やその上面からは、完形に近い土師器や須恵器の坏が出土している。

カマドは、住居東側壁の第6 b号住居跡カマドの北側隣りの北東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に掘り込んで付設されている。規模は、全長1.71m、最大幅1.03mある。燃焼部は、ほぼ住居壁内にあり、住居床面よりも16cm程度低くなっている。袖は、灰色粘土ブロックを多く含む暗灰色土を住居の壁に貼り付けて構築している。煙道部は、燃焼部奥壁から一段高く、緩やかに傾斜しながら住居外に90cm程延びて、先端は削平されている。カマド内からは、土師器の甕や坏が多く出土している。

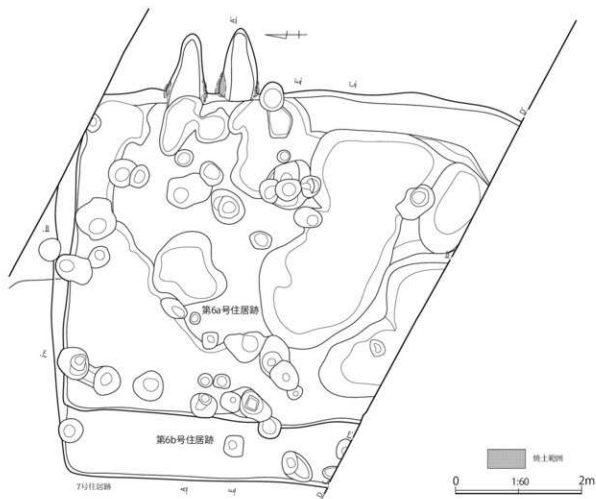
第6 a号住居跡の床下の形態は、非常に複雑である(第48図)。基本的には、壁際の住居周辺部を幅広く周溝状に掘り窪める形態と考えられるが、南側半分は不整形の大きな土坑状の掘り込みが複数見られ、埋土中からは土器の破片も多く出土している。

<第6 b号住居跡>

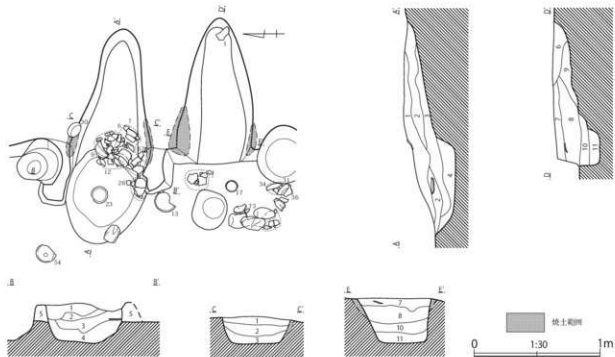
平面形は、残存する部分から推測すると、東西方向に長い比較的整った長方形を呈すると思われる。規模は、東西方向6.20m、南北方向は4.40mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。床面は、ロームブロックを多量含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、残存する住居跡内から多数検出されているが、本住居跡に直接伴うものは不明である。



第47図 第6a・6b号住居跡



第48図 第6a・6b号住居掘り方



第49図 第6a・6b号住居跡カマド

第6 a・6 b号住居跡土層説明

- 第1層：黒灰褐色土層（浅間山系B軽石を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（鉄斑・焼土粒子を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗灰褐色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗茶褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：黒褐色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗灰褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：黒褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第15層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第16層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第17層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第18層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第19層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第20層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第21層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第22層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第24層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第25層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第26層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第27層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第28層：淡灰褐色土層（灰色粘土ブロックを均一に、焼土ブロック・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第29層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第30層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6 a・6 b号住居跡カマド土層説明**<6 a号住居跡カマド>**

- 第1層：暗灰褐色土層（焼土ブロック・灰色粘土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：暗褐色土層（灰色粘土粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：黒灰色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗灰色土層（灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<6 b号住居跡カマド>

- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗灰褐色土層（焼土ブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（灰色粘土粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：黒灰色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

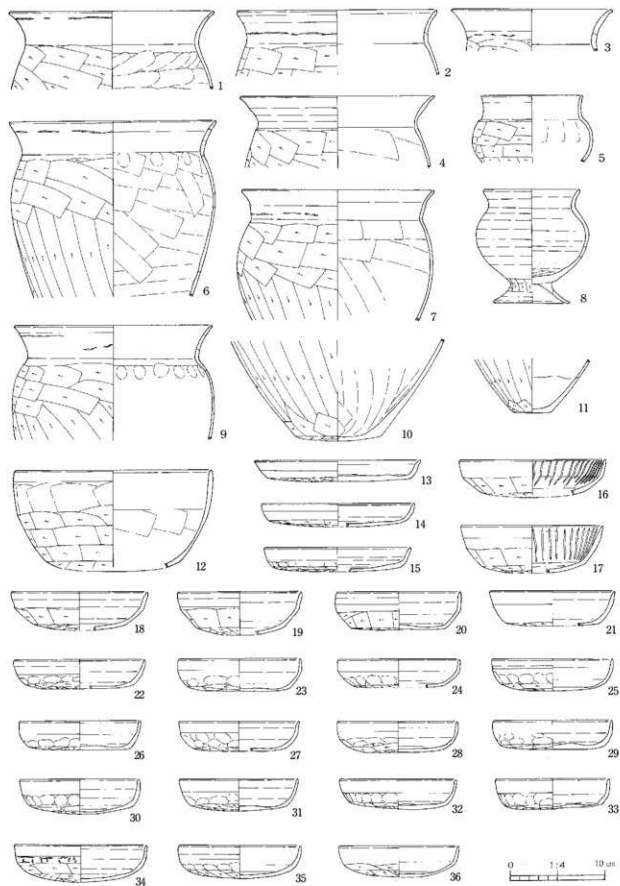
カマドは、住居東側壁の第6 a号住居跡カマドの南側隣りに位置し、壁に対してほぼ直角に掘り込んで付設されている。燃焼部を第6 a号住居跡に切られているため、カマドの全容は不明であるが、煙道部の形態は隣接する第6 a号住居跡のカマドと類似している。

第6 a・6 b号住居跡の遺物は、第6 a号住居跡のカマド周辺やP 1の貯蔵穴内外を中心に、比較的多くの土師器や須臾器が出土している(第50～52図)。これらの土器は、奈良時代後半(8世紀後半)から平安時代前期前半(9世紀前半)にわたるもので、やや時間幅が認められるが、建て替えによる同

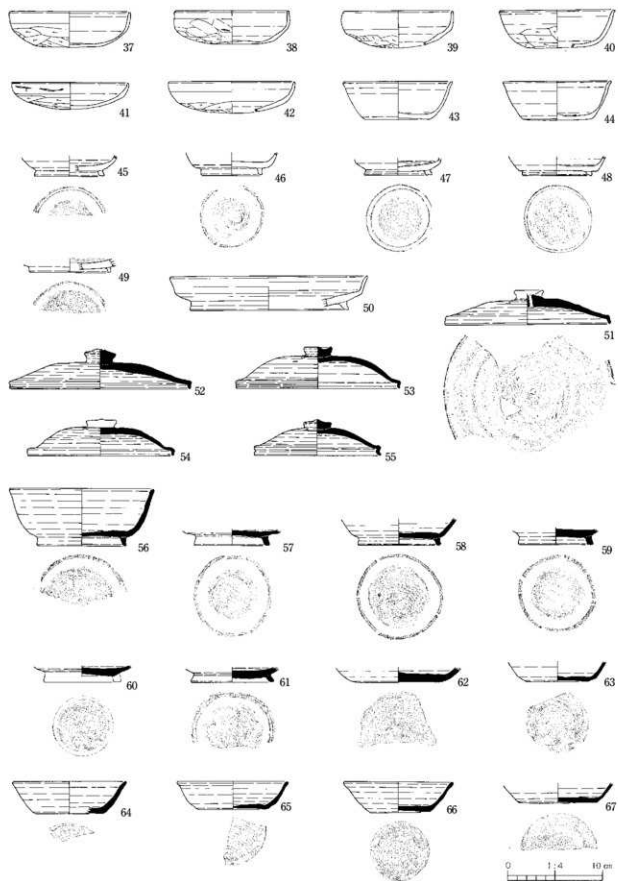
一場所での長期居住と関係するためと思われる。これらの出土土器の中で特に注目されるのは、当地域で8世紀後半の一時期に客体的に見られるロクロ使用の土師器(No8・43~49)である。このロクロ使用の土師器は、高台付壺(No45~49)が一般的に多く、坏(No43・44)や蓋(第1号井戸跡出土No16)も若干見られるが、No8のような小形台付甕はあまり例のないものである。土器以外では、鉄製品の鎌(No77)や紡錘車(No78)と、土錘が3点(No74~76)出土している。また、遺物の中には、中世の青磁碗(No72)や宋銭と考えられる渡来銭(No81)の破片などがあるが、住居内外に柱穴状のピットが多数見られることから、中世の掘立建物跡が重複している可能性もあろう。

第6号住居跡出土土物観察表

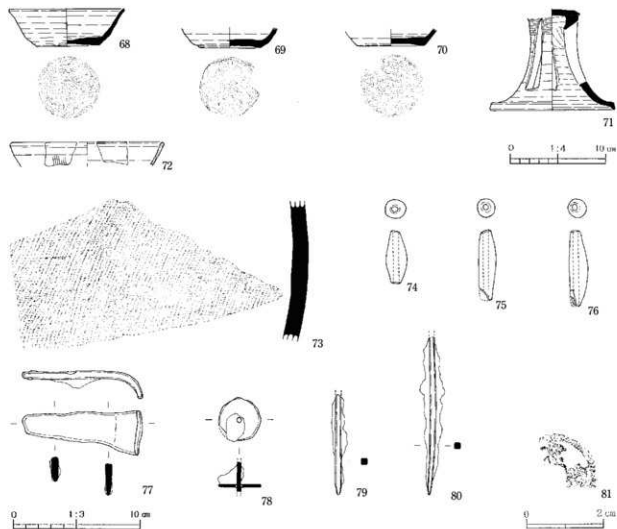
1	長 胴 甕	A. 口縁部径218。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/3。H. カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径212。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-淡褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径170。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
4	長 胴 甕	A. 口縁部径206。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/2。H. 覆土中。
5	小形台付甕	A. 口縁部径108。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/4。H. 床下土埋埋土中。
6	長 胴 甕	A. 口縁部径220。残存高186。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/3。H. カマド内。
7	長 胴 甕	A. 口縁部径204。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 上半1/2。H. カマド内。
8	小形台付甕	A. 口縁部径102。器高122。台端部径81。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部~胴部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。台部外面ケズリ、内面ヨコナデ。台端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. ほぼ定形。G. 胴部外面採付着。台部内外面とも二次焼成を受けて変色している。H. 床下土埋埋土中。
9	長 胴 甕	A. 口縁部径210。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 上半1/4。H. カマド内。
10	胴 張 甕	A. 底部径92。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-茶褐色。F. 胴部下半のみ。H. 床面直上。
11	長 胴 甕	A. 底部径40。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部のみ。H. 床面直上。
12	鉢	A. 口縁部径210。残存高103。底部径144。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ろ下ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/4強。H. 床下土埋埋土中。
13	皿	A. 口縁部径176。器高23。底部径150。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 3/4。H. 床面直上。
14	皿	A. 口縁部径162。器高25。底部径148。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
15	皿	A. 口縁部径156。器高25。底部径136。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
16	暗文付坏	A. 口縁部径154。器高37。底部径106。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/6。H. 覆土中。
17	暗文付坏	A. 口縁部径150。器高50。底部径110。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面丁寧なナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
18	坏	A. 口縁部径144。器高41。底部径98。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/2。H. 覆土中。
19	坏	A. 口縁部径132。器高46。底部径92。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
20	坏	A. 口縁部径132。器高40。底部径100。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
21	坏	A. 口縁部径138。器高37。底部径96。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
22	坏	A. 口縁部径138。器高31。底部径114。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
23	坏	A. 口縁部径130。器高34。底部径108。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. ほぼ定形。H. カマド内。
24	坏	A. 口縁部径130。器高30。底部径96。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-暗褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
25	坏	A. 口縁部径128。器高34。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。



第50図 第6号住居跡出土遺物(1)



第51図 第6号住居跡出土遺物(2)

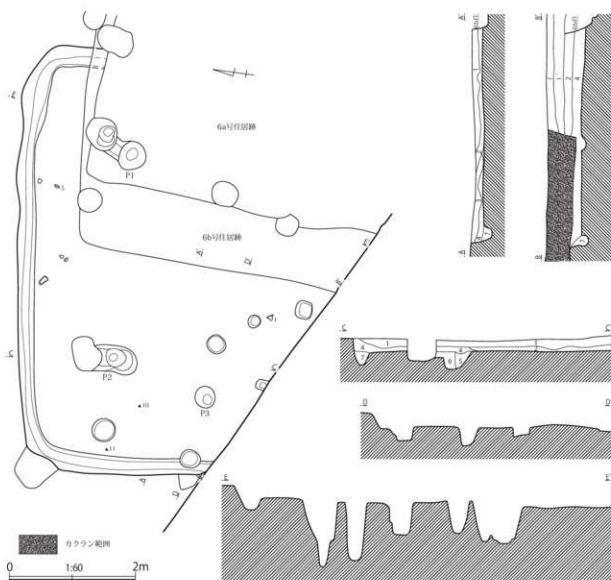


第52図 第6号住居跡出土遺物(3)

26	坏	A. 口縁部径128、器高31、底部径106。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 完形。H. カマド内。
27	坏	A. 口縁部径(128)、器高32。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/3。H. 床面付近。
28	坏	A. 口縁部径128、器高34。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
29	坏	A. 口縁部径126、器高31、底部径108。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 3/4。H. 床面付近。
30	坏	A. 口縁部径126、器高37、底部径104。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. はば完形。H. カマド内。
31	坏	A. 口縁部径(126)、器高34、底部径(100)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
32	坏	A. 口縁部径124、器高32、底部径104。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 5/6。H. 貯蔵穴上面。
33	坏	A. 口縁部径120、器高32、底部径103。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. はば完形。H. 覆土中。
34	坏	A. 口縁部径(140)、器高39。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 2/3。H. 床下土埋埋土中。
35	坏	A. 口縁部径(130)、器高35。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
36	坏	A. 口縁部径(128)、器高33。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 床下土埋埋土中。
37	坏	A. 口縁部径(128)、器高38。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。

38	坏	A. 口縁部径122、器高3.6、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡緑褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
39	坏	A. 口縁部径116、残存高3.8、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
40	坏	A. 口縁部径122、器高4.0、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面下半ケズリ、内面丁寧ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2弱。H. 床下土埋土中。
41	坏	A. 口縁部径124.9、器高2.9、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
42	坏	A. 口縁部径134.9、器高3.2、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/3。H. 床下土埋土中。
43	坏	A. 口縁部径116、器高4.0、底部径6.6、B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 2/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
44	坏	A. 口縁部径114.4、器高4.1、底部径7.2、B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 3/4。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
45	高台付埴	A. 高台部径7.4、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 高台部1/2弱。G. 酸化焙焼成。底部外面黒斑あり。H. 覆土中。
46	高台付埴	A. 高台部径6.4、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 高台部のみ。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
47	高台付埴	A. 高台部径7.2、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡褐色、内-明褐色。F. 高台部のみ。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
48	高台付埴	A. 高台部径7.4、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面不明。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 高台部のみ。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
49	高台付埴	A. 高台部径6.6、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデの後内面ミガキ。底部外面不明。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-黒色。F. 高台部1/3。G. 酸化焙焼成。内面黒色処理。H. 覆土中。
50	高台付皿	A. 口縁部径121.9、器高3.6、高台部径16.8、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/6。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
51	須恵器 蓋	A. 口縁部径12.6、器高3.1、B. ロクロ成形。口縁部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転寛ケズリの後内面ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 2/3。G. 天井部中央に、焼成前の穿孔あり。天井部内面に当道具痕を残す。H. 覆土中。
52	須恵器 蓋	A. 口縁部径18.8、器高4.3、B. ロクロ成形。積み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転寛ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 4/5。H. 覆土中。
53	須恵器 蓋	A. 口縁部径17.4、器高3.4、B. ロクロ成形。積み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-明褐色。F. 破片。H. 覆土中。
54	須恵器 蓋	A. 口縁部径15.4、器高3.0、B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転寛ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 3/4。G. 積み部剥離。H. 覆土中。
55	須恵器 蓋	A. 口縁部径13.4、器高3.8、B. ロクロ成形。積み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
56	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径15.2、器高6.1、高台部径9.4、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 2/3。H. 覆土中。
57	須恵器 高台付埴	A. 高台部径8.0、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗灰色、内-淡灰色。F. 高台部のみ。H. 覆土中。
58	須恵器 高台付埴	A. 高台部径8.8、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 高台部のみ。H. 貯蔵穴上面。
59	須恵器 高台付埴	A. 高台部径7.8、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 高台部のみ。H. 覆土中。
60	須恵器 高台付埴	B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-灰色、内-淡灰色。G. 高台部剥離。F. 底部のみ。H. 覆土中。
61	須恵器 高台付埴	A. 高台部径8.8、B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 高台部1/2強。H. 覆土中。
62	須恵器 坏	A. 底部径9.6、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰白色。F. 底部1/3。H. 覆土中。
63	須恵器 坏	A. 底部径6.6、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周回転寛ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部2/3。H. 覆土中。
64	須恵器 坏	A. 口縁部径120.9、器高3.4、底部径7.2、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
65	須恵器 坏	A. 口縁部径11.8、器高3.0、底部径7.2、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
66	須恵器 坏	A. 口縁部径11.6、器高3.3、底部径6.2、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周回転寛ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 3/4。H. 貯蔵穴上面。
67	須恵器 坏	A. 底部径8.2、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周回転寛ケズリ。D. 白色粒、白色針状物質。E. 内外-淡灰色。F. 底部1/2。G. 南北企差。H. カマド内。
68	須恵器 坏	A. 口縁部径12.2、器高4.0、底部径6.8、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 3/4。H. 床面直上。
69	須恵器 坏	A. 底部径6.4、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. 底部のみ。H. 6 b住カマド内。

70	須恵器	A. 底部径70。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色、肉-淡褐色。F. 底部のみ。G. 末野産。H. 覆土中。
71	須恵器 環	A. 残存高107、脚部径132。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 脚部内外面回転ナデの後、脚部外面上端に櫛歯状工具によるカキメを施す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色、肉-暗茶褐色。F. 脚部のみ。G. 脚部三方透かし孔。H. 床面直上。
72	青磁碗	A. 口縁部径162。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に櫛歯状工具による施文。D. 白色粒。E. 内外-淡緑色、肉-淡灰白色。F. 口縁部破片。G. 内外面とも淡緑色釉を施す。同安室系？。H. 覆土中。
73	須恵器 壺	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(斜格子目)、内面籠ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 胴部破片。H. 床面付近。
74	土 錘	A. 長さ17、最大幅17。B. 手握ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
75	土 錘	A. 長さ57、最大幅15。B. 手握ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
76	土 錘	A. 長さ61、最大幅15。B. 手握ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色。F. ほぼ完形。H. 6b住カマド内。
77	鉄製鎌	A. 長さ95、最大幅36、厚さ0.5。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 完形。G. 形態は直刀状をなす。H. 6b住覆土中。
78	鉄製紡錘車	A. 残存長24、最大幅34、軸径0.4。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 軸棒両端部欠損。H. 鉄器(2)。
79	棒状鉄製品	A. 残存長82、幅・厚さ0.5。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 上半部欠損。G. 断面は四角形をなす。H. 鉄器(3)。
80	棒状鉄製品	A. 残存長127、幅・厚さ0.5。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 上端部欠損。G. 断面は四角形をなす。H. 鉄器(4)。
81	古 銭	A. 残存長11、残存幅16。B. 鋳造。C. 表の文字は「景」「徳」と判読できる。裏は無文。D. 銅製。G. 渡米銭(宋銭)。景德元寶(初鋳1004年)か？。F. 1/4。H. 覆土中。



第53図 第7号住居跡

第7号住居跡(第53図、図版11)

C1地点の調査区西側に位置する。重複する第6b号住居跡に切られ、また住居跡の南側は調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向が6.77m、南北方向は5.08mまで測れる。壁は、直線的に立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。調査区内で検出された各壁の壁下には、幅25cm前後、床面からの深さ20cm程度の壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部に比べて壁際はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、確実に本住居に伴うと考えられるものは、P1～P3の3箇所である。P1とP2は、住居の対角線上に配置されているものと推測され、4本主柱穴の一部と考えられる。形態は、40cm～50cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは、P1が90cm、P2が30cmある。P3は、西側壁寄りに位置する。直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは6cm程度である。

遺物は、白鳳時代(7世紀後半)の土師器の甕や坏を主体とする土器の破片が、覆土中から少量出土している。土器以外では、覆土中から土錘が4点(No8～11)と、鉄釘の破片が1点(No12)出土している(第54図)。

第7号住居跡土層説明

第1層：暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層：暗褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

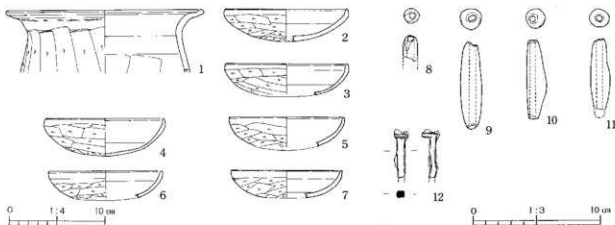
第3層：暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層：黒褐色土層(ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第5層：黒褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)

第6層：暗黄褐色土層(ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第7層：暗黄褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。)



第54図 第7号住居跡出土遺物

第7号住居跡出土遺物観察表

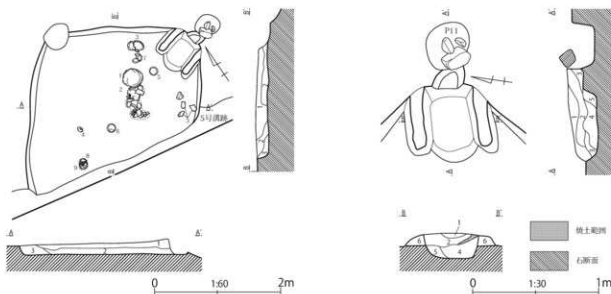
1	甕 別表	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面荒ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/4弱。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(13.0)。器高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ハケ。D. 白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/6。H. 覆土中。

3	坏	A. 口縁部径(130、器高33、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 口縁部1/4弱。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(126、器高40、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(120、器高31、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 口縁部1/4、H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(120、残存高29、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/4弱。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(118、残存高29、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/4弱。H. 覆土中。
8	土 鍾	A. 残存長21、最大径12、B. 手捏ね、C. 外面ナデ、D. 白色粒、E. 外一暗茶褐色、F. 1/3、H. 覆土中。
9	土 鍾	A. 長さ70、最大径17、B. 手捏ね、C. 外面ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 外一淡褐色、F. 完形、H. 覆土中。
10	土 鍾	A. 長さ63、最大径15、B. 手捏ね、C. 外面ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 外一明茶褐色、F. ほぼ完形、H. 覆土中。
11	土 鍾	A. 残存長57、最大径16、B. 手捏ね、C. 外面ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 外一暗茶褐色、F. ほぼ完形、H. 覆土中。
12	鉄 釘	A. 残存長36、茎部幅0.6、厚さ0.5、B. 鍛造、C. 頭部はL字状に曲がる。断面は四角形、D. 鉄製、F. 1/2、H. 覆土中。

第8号住居跡(第55図、図版11)

D1地点の調査区西側に位置する。住居跡の南側を第5号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、比較的整った長方形を呈するものと思われる。規模は、北西～南東方向が2.70m、北東～南西方向は2.60mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、



第55図 第8号住居跡

第8号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（白色粒子・ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

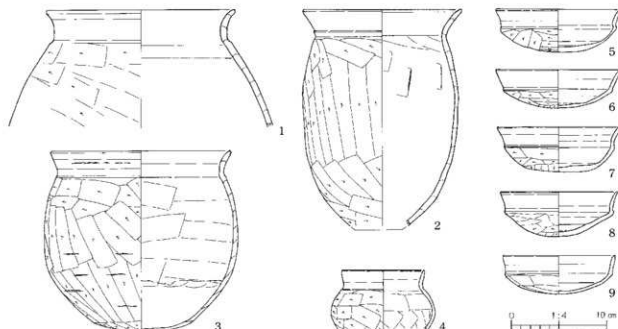
第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：淡灰褐色土層（淡灰褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

確認面からの深さは最高で18cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

カマドは、住居の東側コーナー部に付設されている。規模は、長さ74cm、最大幅72cmある。燃焼部は住居壁内にあり、床面よりも10cm程度深くなっている。袖は、淡灰褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、住居壁外に水平に延び、先端は後世のピットに切られている。

遺物は、カマド周辺や住居中央部の床面上や覆土中から、古墳時代後期後葉の土器が比較的多く出土している(第56図)。



第56図 第8号住居跡出土遺物

第9号住居跡出土遺物観察表

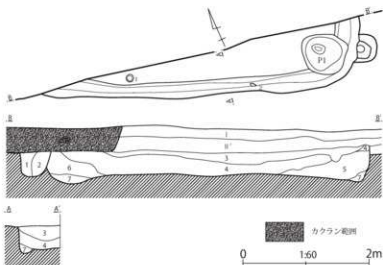
1	胴張甕	A. 口縁部径 20.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
2	長胴甕	A. 口縁部径 16.8、残存高 23.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 底部欠損。H. 覆土中。
3	胴張甕	A. 口縁部径 19.0、器高 19.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-暗茶褐色。F. 1/2。G. 外面に黒斑あり。内面煤付着。H. 覆土中。
4	小形広口甕	A. 口縁部径 8.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
5	模倣坏	A. 口縁部径 13.2、器高 4.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 完形。H. 床面付近。
6	模倣坏	A. 口縁部径 13.2、器高 4.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 完形。H. 床面直上。
7	模倣坏	A. 口縁部径 13.0、器高 4.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 床面直上。
8	模倣坏	A. 口縁部径 12.4、器高 4.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. ほぼ完形。G. 内面煤付着。H. 床面直上。
9	模倣坏	A. 口縁部径 11.8、器高 4.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。

第9号住居跡 (第57図、図版11)

D1地点の調査区西側に位置する。調査区内で検出されたのは、住居の南西側壁と南東側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北西～南東方向は5.12mまで、北東～南西方向は1.18mまで測れる。壁は、垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは最高で50cmある。調査区内で検出された各壁下には、幅20cm～30cm、床面からの深さ5cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅緻である。ピットは、住居南側コーナー部からP1の1箇所が検出されている。P1は、73cm×65cmの不整形形を呈し、床面からの深さは15cmある。底面は平坦で、中央部に深さ7cm程度の小ピットを伴う。

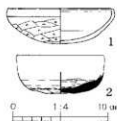
遺物は、住居南西側壁の壁覆覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)の完形の土師器杯(No1)や、覆土中から須恵器杯(No2)の破片が出土している(第58図)。



第57図 第9号住居跡

第9号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第5層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第6層：暗褐色土層 (ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第7層：暗黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第58図 第9号住居跡出土遺物

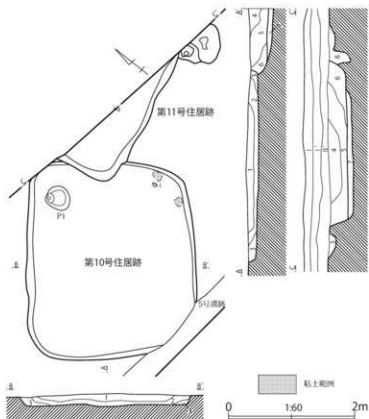
第9号住居跡出土遺物観察表

No.	品名	説明
1	杯	A. 口縁部径11.2、器高3.8。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. ほは完形。H. 覆土中。
2	須恵器杯	A. 残存高2.3、底部径6.6。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面ケズリの後ナデ、内面宛ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 底部3/4。H. 覆土中。

第10号住居跡 (第59図、図版11)

D1地点の調査区西側に位置する。重複する第11号住居跡を切り、南側コーナー部を第5号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ若干歪んだ長方形を呈している。規模は、南西～北東方向が3.16m、南東～北西方向が2.71mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で14cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体

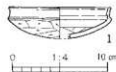


第59図 第10・11号住居跡

的にやや軟弱である。ピットは、北側コーナー部から1箇所検出されている。P1は、40cm×36cmの楕円形を呈している。北端が小ピット状に一段深くなっており、床面からの深さは15cmある。

カマドは、住居東側コーナー部に付設されていたようで、袖にあたる部分に粘土が焼けて赤色化した塊が見られる。

遺物は、比較的少なく、古墳時代後期末から白鳳時代初頭(7世紀中頃)の土器の破片が、覆土中から少量出土しただけである(第60図)。

第60図 第10号住居跡
出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表

1	模 壺 坏	A. 口縁部径(10.8)、器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面跳ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
---	-------	--

第11号住居跡(第59図、図版12)

D1地点の調査区西側に位置し、重複する第10号住居跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南西側コーナー部付近だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形が長方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向は2.45mまで、南北方向は98cmまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、壁際のためやや軟弱である。

遺物は、覆土中から古墳時代の土器の破片が数片出土しただけである。

第10・11号住居跡土層説明

<第10号住居跡>

第1層：暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層：暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層：暗茶褐色土層(ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

<第11号住居跡>

第4層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第5層：暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第6層：暗褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第7層：暗黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

<ピット>

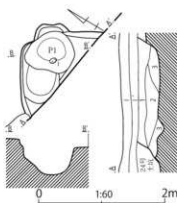
第8層：暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第12号住居跡（第61図、図版12）

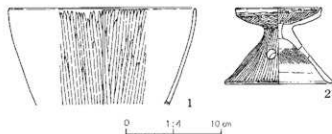
D1地点の調査区東側に位置し、重複する第24号土坑に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の北側コーナー部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北西～南東方向は1.32mまで、北東～南西方向は1.38mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、壁際のためやや軟弱である。ピットは、住居北側コーナー部から1箇所検出されている。P1は、80cm×64cmの楕円形を呈し、床面からの深さは44cmある。

遺物は、覆土中から古墳時代前期の土器片が少量出土し、P1内からはNo2の器台が出土している（第62図）。



第61図 第12号住居跡



第62図 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

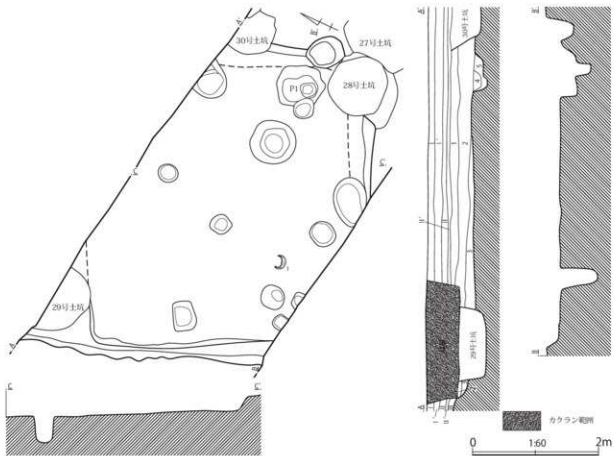
第12号住居跡出土遺物観察表

1	大形直口壺	A.口縁部径(19.8)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.白色粒。E.内外-明茶褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
2	器台	A.口縁部径(9.2)、器高8.1、脚端部径11.4。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。脚部外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.器受部1/3。脚部実形。H.P1内。

第13号住居跡（第63図、図版12）

D1地点の調査区東側に位置し、重複する第28・29・30号土坑に切られている。住居跡の北側と南側のコーナー部は調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。本住居跡は、住居内で入れ子状に床面が2面見られることから、同一場所での建て替えによる拡張住居と考えられる。

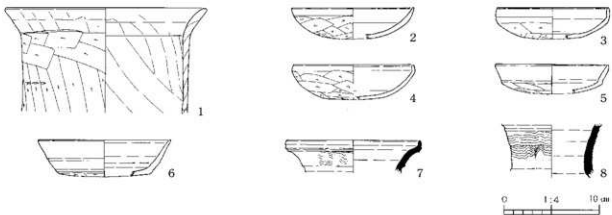
建て替えによる拡張後の住居跡は、平面形が方形か長方形を呈するようで、規模は南西～北東方向が5.10m、北西～南東方向は5.50mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で36cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面はロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼り床式で、全体的に堅緻である。ピットは、住



第63図 第13号住居跡

第13号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・淡褐色粘土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第64図 第13号住居跡出土遺物

居跡内から多数検出されているが、本住居跡に伴うものは明確ではない。拡張前の住居跡は、一辺が4.2m程度の方角を呈していたようで、拡張後の住居跡の床面より西側で10cm程度低かったようである。北東側壁の中央付近には、カマド掘り方の痕跡が見られる。P1は、その位置や形態から旧住居跡の貯蔵穴と考えられる。78cm×62cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは22cmある。

遺物は、拡張後の住居跡の床面付近や覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)頃の土器や須恵器の破片が少量出土しただけである(第64図)。

第13号住居跡出土遺物観察表

1	兵 鬘 夾	A. 口縁部径 21.4, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匏ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-淡茶褐色, F. 口縁部 1/2, H. 床面付近。
2	坏	A. 口縁部径 13.0, 器高 3.3, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-暗橙褐色, F. 口縁部 1/4, H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径 11.8, 器高 3.3, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-淡茶褐色, F. 口縁部 1/6, G. 外面に黒斑あり, H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径 12.8, 器高 3.7, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-暗橙褐色, F. 口縁部 1/6, H. 覆土中。
5	模 倣 坏	A. 口縁部径 12.0, 器高 3.1, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-明橙褐色, F. 口縁部 1/3, H. 覆土中。
6	模 倣 坏	A. 口縁部径 14.0, 器高 3.9, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-黒褐色, F. 口縁部 1/6, G. 内面斑点状剥落顕著, H. 覆土中。
7	須 恵 器	A. 口縁部径 14.2, B. 粘土継積み上げ後口口整形, C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文を施す, D. 白色粒, E. 内外-黒灰色, F. 口縁部 1/8, H. 覆土中。
8	須 恵 器	A. 頸部径 8.4, B. 粘土継積み上げ後口口整形, C. 頸部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文を施す, D. 白色粒, E. 内外-黒灰色, F. 頸部 1/2, H. 覆土中。

第21号住居跡(第65図、図版12)

C2地点の調査区西側に位置する。重複する第57号土坑に切られ、住居跡の大半を攪乱によって破壊されているため、遺構の全容は不明である。

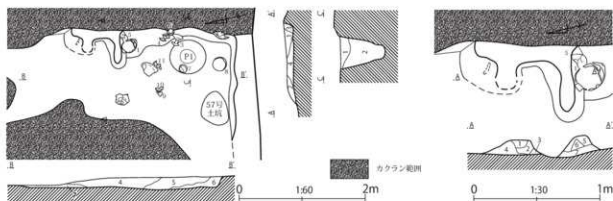
平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向は3.48mまで、東西方向は2.76mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの高さは最高で16cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、1箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。57cm×54cmの円形を呈し、床面からの深さは70cmある。

カマドは、住居東側壁に壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長62cm、最大幅97cmある。燃焼部は、住居壁内にあり、燃焼面は住居床面とほぼ同じ高さである。袖は、ロームブロックを主体とする黄褐色土を、壁に直接貼り付けて構築している。

遺物は、カマド周辺から住居南東側コーナー部の床面付近にかけて、堯・高坏・坏などの古墳時代後期初頭(5世紀末)の土器群が出土しているが、その中にNo9～11の平安時代中期(10世紀前半)の土器がいくつか混入して出土している(第66図)。

第21号住居跡出土遺物観察表

1	胴 張 夾	A. 口縁部径 17.0, 器高 25.0, 底部径 5.8, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後端ナデ, 内面ナデの後端ケズリ, 底部外面ケズリ, D. 片岩粒, 白色粒, E. 外-暗褐色, 内-明茶褐色, F. 3/4, H. 床面付近。
2	胴 張 夾	A. 口縁部径 16.0, 器高 24.5, 底部径 6.8, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後端ナデ, 内面匏ナデの後下半端ケズリ, 底部外面ケズリ, D. 白色粒, E. 内外-暗褐色, F. 1/4, H. 覆土中。
3	高 坏	A. 口縁部径 15.3～16.0, 器高 12.2, 脚端部径 11.0, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, 脚柱部外面ケズリの後ナデ, 内面下半ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外-淡茶褐色, F. ほぼ菱形, H. 床面付近。



第65図 第21号住居跡

第21号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子・ロームブロックを微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量に、焼土粒子を微量含む。）
 第3層：暗褐色土層（第1層に近いが、焼土粒子が若干少ない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（第1層に近いが、焼土粒子が少なく、ロームブロックが若干多い。しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（暗褐色土とロームの斑状の混合土。）
 第7層：暗褐色土層（第3層に近いが、ややローム粒子・ロームブロックを多量含む。）

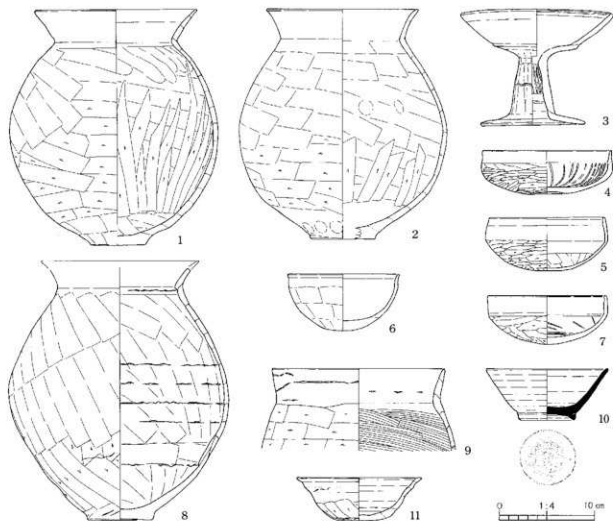
第21号住居跡貯蔵穴(P1)土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子を更に多く、ロームブロックを多量含む。）

第21号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックの混合土。焼土粒子を微量含む。ややしまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多量に、焼土ブロックを少量含む。しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを更に多く含む。しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。ややしまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（第1層に近いが、焼土粒子・焼土ブロックを斑点状に含む。）
 第6層：暗褐色土層（第5層に近いが、焼土粒子・焼土ブロックは含まない。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子・ロームブロックの混合土。）

4	暗文付環	A. 口縁部径136、器高46、底部径38。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリの後ミガキ、内面ナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
5	模倣環	A. 口縁部径122、器高56。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ風のナデ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
6	碗	A. 口縁部径118、器高60。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 2/3。G. 表面は荒れている。H. 覆土中。
7	模倣環	A. 口縁部径126、器高52。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ風のナデ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. ほぼ完形。G. 体部外面に黒痕あり。H. 床面付近。
8	長胴甕	A. 残存高266、底部径69。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-明橙褐色、内-明茶褐色。F. 2/3。G. 胴部外面煤付着。黒痕点あり。H. 床面付近。
9	長胴甕	A. 口縁部径182。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
10	須恵器高台付環	A. 口縁部径128。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡灰色、内-黒灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
11	環	A. 口縁部径132、器高55、底部径55。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 2/3。G. 底部外面に黒痕あり。H. 覆土中。

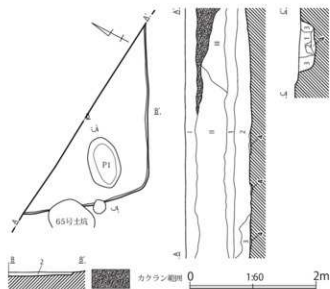


第66図 第21号住居跡出土遺物

第22号住居跡 (第67図、図版13)

D 2 地点の調査区東側に位置し、重複する第65号土坑に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側コーナー部付近だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北西～南東方向は2.03mまで、北東～南西方向は3mまで測れる。壁は、ほとんど残存しておらず、最高で4cm程度である。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピ



第67図 第22号住居跡

第22号住居跡土層説明

第1層：表土層（上部に砂利層。下部は薄汚れたロームと暗褐色土。ゴミの互層。）

第Ⅱ層：表土層（旧道の工事層か？）

第Ⅲ層：暗褐色土層（ローム粒子・ローム小ブロック・浅間山系A軽石を含む。）

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。上部のみに浅間山系A軽石を含む。ややしまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを不規則に、黒褐色土ブロックを含む。焼土粒子を少量含む。しまりはない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子（多量）の混合土。所々ローム粒子が雲状に濃集。しまりはない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックが部分的に濃集する。粘性はなく、しまりを有する。）

P1土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を斑状に含む。10mm大のロームブロックを1点。粘性・しまりともない。）

第2層：黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを含む。暗褐色土を斑状に含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。黒褐色土を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを含む。暗褐色土を少量含む。粘性・しまりともない。）

ットは、1箇所検出されている。P1は、住居南側コーナー部付近に位置する。82cm×50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは26cmある。

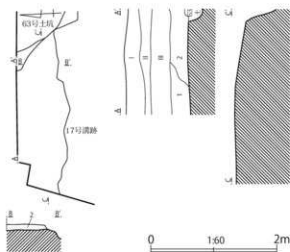
遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。

第23号住居跡（第68図、図版13）

D地点の調査区西端に位置し、重複する第63号土坑と第17号溝跡に切られている。調査区内で残存しているのは床面の一部だけであり、また住居跡の大半は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、東側に向かってやや傾斜している。

遺物は、覆土中から白鳳時代末～奈良時代初頭（7世紀末～8世紀初頭）頃の土器片が少量出土しただけである（第69図）。



第68図 第23号住居跡

第23号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（表土層。上部10～15cmは旧道路の砂利層。）

第Ⅱ層：暗褐色土層（旧表土層。浅間山系A軽石・ローム粒子を多量含む。）

第Ⅲ層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロック・焼土粒子を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。ローム小ブロック・土器粒子が少量点在する。）



第69図 第23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表

1	長 副 甕	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/6。H. 覆土中。
2	長 副 甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面鬘ナデ。赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡橙褐色。F. 胴部下半1/4。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。

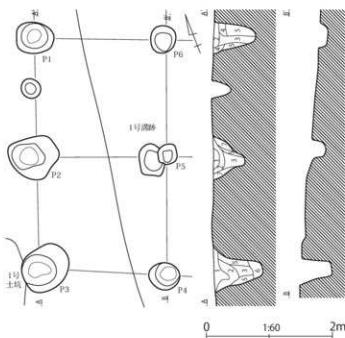
2. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第70図、図版13)

C1地点の調査区中央付近に位置する。重複する第1号溝跡に建物跡の東側を切られているため、遺構の全容は不明である。

建物の形態は、調査区内では北東～南西方向が2間、北西～南東方向が1間確認できるが、中心のP5・P6が他の柱穴に比べて規模が小さく東柱の柱穴である可能性が高いことから、おそらく北東～南西方向が2間以上、北西～南東方向が2間の平面形が長方形を呈する総柱式建物と推測される。建物の向きは、N-22°-Eを向いている。柱通りは比較的良く、いずれも直線上に並んでいる。柱心間は、北東～南西方向が概ね1間1.80mの等間隔、北西～南東方向は1間2mで、1間×1間の平面形は若干北西から南東方向が長い長方形を呈している。柱穴は、側柱穴のP1～P3は長さ60cm～80cmの楕円形を呈し、東柱の柱穴と考えられるP5とP6は直径30cm～45cm程度の円形ぎみの形態を呈している。確認面からの深さは、側柱穴はいずれも50cm～80cmで、東柱と考えられるP5とP6は50cm程度ある。覆土は、黒褐色土を主体とし、浅間山系B軽石とロームブロックを少量含んでいる。また、覆土中には柱痕が見られる。

出土物は、P5以外の各柱穴覆土中から、古墳時代前期～平安時代前期の土器片が少量出土しただけである。



第70図 第1号掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡土層説明

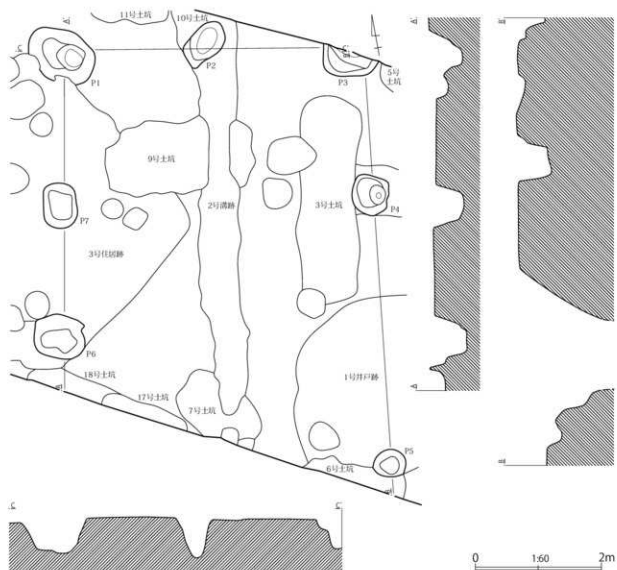
- 第1層：暗灰色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗灰褐色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系B軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗灰褐色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

本建物跡は、覆土中に天仁元年(1108年)降下の浅間山系B軽石を含むことから、中世以降と考えられるが、重複する中世後期の15世紀後半～16世紀前半頃の所産と考えられる第1号溝跡に切られていることから、おそらく西側に近接する第1号井戸跡と同じく、14世紀頃の屋敷に関する建物と推測される。

第2号掘立柱建物跡(第71図、図版13)

C1地点の調査区中央付近に位置し、重複する第1号井戸跡・第2号溝跡・第3号土坑に切られ、第3号住居跡を切っている。本建物跡は、建物の南側が調査区外に延びる可能性があるため、遺構の全容は不明である。

建物の形態は、東西方向2間、南北方向3間以上の平面形が長方形の側柱式建物である。建物の長軸方向は、N-10°-Eを向いている。規模は、東西方向が4.40m、南北方向は6.60mかそれ以上を測る。柱通りは、桁行側・梁行側とも比較的良く直線上に並んでいる。柱心間は、東西・南北両方向

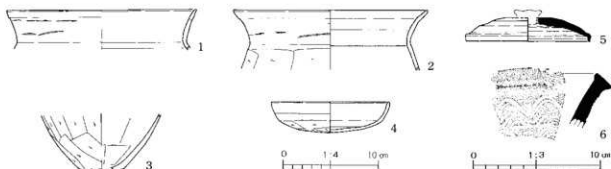


第71図 第2号掘立柱建物跡

とも概ね1間2.20mの等間隔で、1間×1間の平面形は方形を呈している。柱穴は、長さ70cm～112cmの隅丸長方形や楕円形の形態を呈し、確認面からの深さは45cm～62cmある。

出土遺物は、P3やP4の柱穴覆土中から、奈良時代後半(8世紀後半)頃の土師器や須恵器の破片が、少量出土している(第72図)。

本建物跡の時期は、建物跡の形態や遺構の重複関係及び出土遺物の様相から、奈良時代後半(8世紀後半)の所産と考えられる。本建物跡は、北側約25mに位置するB地点の第4号掘立柱建物跡(恋河内・的野2010)と同時期で、建物の向きもほぼ同じである。建物の形態の類似性は不明で、規模は本建物跡の方が一回り小形であるが、建物の側柱穴の形態は類似しており、両建物跡は同時に存在した建物群を構成していた可能性が高い。



第72図 第2号掘立柱建物跡出土遺物

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	削張夾	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/6。H. P4内。
2	長削夾	A. 口縁部径(20.6)。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/4。H. P4内。
3	長削夾	A. 底部径(4.6)。B. 粘土総積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面宛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部1/4。H. P3内。
4	坏	A. 口縁部径(12.6)、器高3.3。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/4。H. P4内。
5	須恵器蓋	A. 口縁部径(13.2)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転巻ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 口縁部1/4。H. P4内。
6	須恵器蓋	B. 粘土総積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に擔播波状文(5本歯?)を数段施す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色、内-暗茶褐色。F. 口縁部破片。H. P4内。

3. 井戸跡

第1号井戸跡(第73図、図版13)

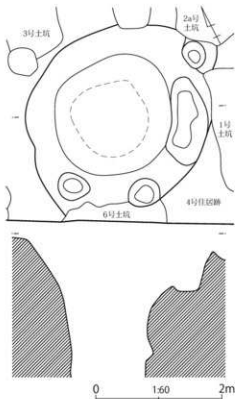
C1地点の調査区中央付近に位置する。重複する第1号土坑・第2a号土坑・第6号土坑に切られ、古代の7世紀末の第4号住居跡と8世紀後半の第2号掘立柱建物跡を切っている。

井戸掘り方の平面形は、南西～北東方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南西～北東方向が3.44m、南東～北西方向が2.80mある。壁は、上半分はやや緩やかに傾斜し、下半分は直径1.30m前後の円形の筒状になって垂直ぎみに深くなっている。湧水が激しく、井戸底面まで調査できなかったが、確認面からの深さは2m以上あるものと思われる。井戸掘り方上半部には、ビット状の掘り込みが複数見られるが、本井戸跡に伴うものか明確ではない。掘り方内からは、石組や木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかったが、覆土中からは井筒構造物の裏込めに使われたと思われる拳大

の川原石が比較的多く出土している。

遺物は、本井戸跡の時期に近いものとして、覆土中から中世の在産片口鉢(No1~9)や渥美窯製品と思われる甕の破片(No10・11)と、柱状砥石の破片が2点(No12・13)出土している(第74図)。在産片口鉢は、13世紀後半から14世紀代のものが主体で、「三日月」状・「半月」状・「角」状・「了」字状など、多様な口縁部形態のものが見られる。特に、No8の体部内面に格子目単位の描目を持つ「了」字口縁の片口鉢は、東谷中世墳墓址出土のもの(浅野1984)と類似しており、地域的特徴をもつものとして注目される。この他では、奈良~平安時代の土師器や須恵器の破片と粗い縄目叩きを施した平瓦の破片(No25)や、古墳時代中期~後期の円筒埴輪の破片(No26・27)などが、覆土中に混入して出土している(第75図)。

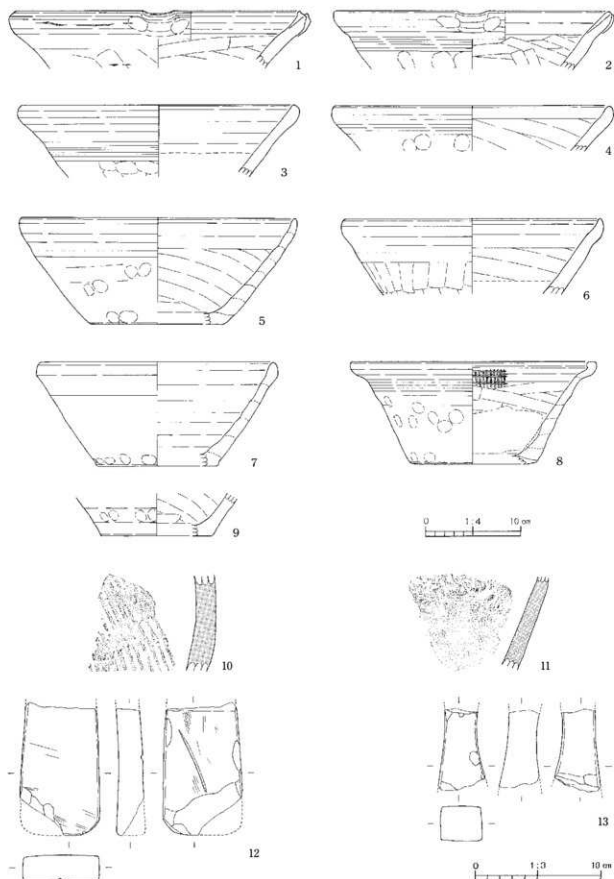
本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物から見て、中世の14世紀代と考えられ、おそらく東側に近接する総柱式建物の第1号掘立柱建物跡と同じ屋敷を構成する施設の一つと推測される。



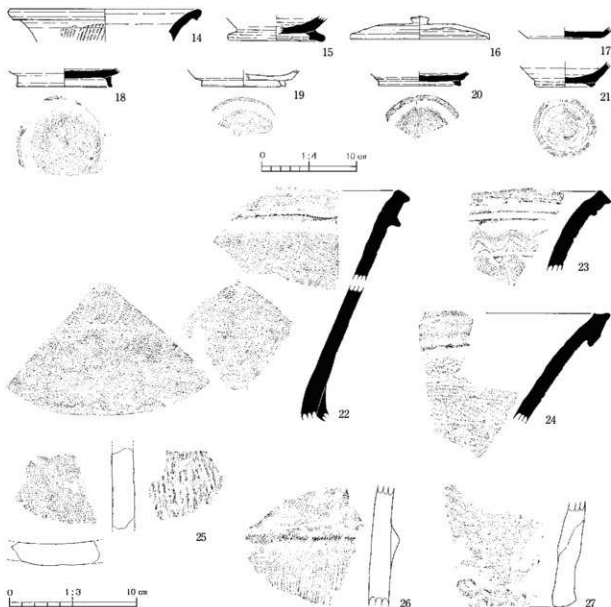
第73図 第1号井戸跡

第1号井戸跡出土遺物観察表

1	片口鉢	A. 口縁部径(31.4). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面匏ナデ. D. 白色粒. E. 内外一暗灰色. F. 口縁部1/5. G. 環元燻焼成. 在地産. H. 覆土中.
2	片口鉢	A. 口縁部径(29.4). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面匏ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外一暗灰色. F. 口縁部1/4. G. 環元燻焼成. 在地産. H. 覆土中.
3	片口鉢	A. 口縁部径(29.8). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ. D. 白色粒. E. 内外一暗灰色. F. 口縁部1/6. G. 環元燻焼成. 体部内面下半は良く擦れている. 在地産. H. 覆土中.
4	片口鉢	A. 口縁部径(29.4). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面指ナデ. D. 白色粒. E. 外一黒灰色, 内一淡褐色. F. 口縁部1/6. G. 環元不良. 口唇部に煤付着. 在地産. H. 覆土中.
5	片口鉢	A. 口縁部径(27.8). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面指ナデ. D. 白色粒. E. 内外一暗灰色. F. 1/6. G. 環元燻焼成. 在地産. H. 覆土中.
6	片口鉢	A. 口縁部径(25.8). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面指ナデ. 体部外面ナデ, 内面指ナデ. 底部外面糸切り. D. 白色粒. E. 内外一暗灰色. F. 口縁部1/6. G. 環元燻焼成. 体部内面下半は良く擦れている. 在地産. H. 覆土中.
7	片口鉢	A. 口縁部径(110). 器高110. 底部径(13.0). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面指ナデ. 底部外面ナデ. D. 白色粒. E. 内外一暗灰色. 内一淡褐色. F. 1/3. G. 環元不良. 外面剥落顕著. 在地産. H. 覆土中.
8	片口鉢	A. 口縁部径(26.0). 器高108. 底部径(13.4). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ, 内面匏ナデ. 底部外面ナデ. D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒. E. 内外一淡褐色. F. 1/4. G. 環元不良. 内面上半に篋積による格子目状の描目を施す. 内面下半剥離. 在地産. H. 覆土中.
9	片口鉢	A. 底部径(12.0). B. 粘土継積み上げ. C. 体部外面ナデ, 内面指ナデ. 底部外面回転糸切り後ナデ. D. 白色粒. E. 内外一暗灰色. F. 破片. G. 渥美窯?. H. 覆土中.
10	渥美窯系	B. 粘土継積み上げ後叩き. C. 胴部外面ナデの後叩き(平行叩き目), 内面ナデ. D. 白色粒. E. 外一暗灰色, 内一淡灰色. F. 破片. G. 渥美窯?. H. 覆土中.
11	渥美窯系	B. 粘土継積み上げ後叩き. C. 胴部外面ナデの後叩き(平行叩き目), 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外一淡灰色. F. 破片. G. 渥美窯?. H. 覆土中.
12	板状砥石	A. 残存長10.7. 最大幅6.3. 厚さ2.1. B. 削り. C. 各面とも研磨. D. 流紋岩. F. 2/3. H. 覆土中.
13	柱状砥石	A. 残存長6.7. 最大幅3.7. 厚さ3.3. B. 削り. C. 各面とも研磨. D. 流紋岩. F. 両端欠損. H. 覆土中.
14	須恵器	A. 口縁部径(20.4). B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形. C. 口縁部外面叩き(平行叩き目)の後回転ナデ, 内面回転ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外一淡灰色. F. 口縁部1/6. G. 環元燻焼成. H. 覆土中.
15	須恵器 高台付甕	A. 高台部径(10.4). B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形. 高台部貼り付け. C. 胴部・高台部内外面回転ナデ. 底部外面糸切り. D. 白色粒. E. 内外一暗茶褐色. F. 高台部1/4. G. 環元燻焼成. 高台部外面に淡緑色の自然軸がかかる. H. 覆土中.
16	蓋	A. 口縁部径(14.8). 器高2.3. B. ロクロ成形. 積み目貼り付け. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転匏ケスリ, 内面回転ナデ. D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒. E. 内外一暗褐色. F. 1/4. G. 酸化燻焼成. 天井部外面に黒煤有り. H. 覆土中.



第74图 第1号井戸跡出土遺物(1)



第75図 第1号井戸跡出土遺物(2)

17	須恵器 坏	A. 底部径7.8。B. ロクロ成形。C. 底部外面手持ち寛ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 底部3/4。G. 環元煙焼成。H. 覆土中。
18	須恵器 高台付埃	A. 高台部径(10.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 高台部内外面回転ナデ。底部外面回転寛ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-細灰色。内-明茶褐色。F. 高台部2/3。G. 環元不良。H. 覆土中。
19	高台付埃	A. 高台部径(9.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面不明。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 高台部1/3。G. 環元煙焼成。H. 覆土中。
20	須恵器 高台付埃	A. 高台部径(8.8)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 高台部内外面回転ナデ。底部外面回転赤切り。D. 黑色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. 高台部1/3。G. 環元煙焼成。H. 覆土中。
21	須恵器 高台付埃	A. 高台部径6.4。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転赤切り。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 体部下半のみ。G. 環元煙焼成。内面に黒色付着物あり。H. 覆土中。
22	須恵器 大	B. 粘土組織積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に6~8本歯の櫛描波状文を4段施す。D. 白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 口縁部破片。G. 環元煙焼成。H. 覆土中。
23	須恵器 大	B. 粘土組織積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文を施す。D. 黑色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 口縁部破片。G. 環元煙焼成。H. 覆土中。
24	須恵器 大	B. 粘土組織積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に4本歯の櫛描波状文を施す。D. 白色粒。E. 外-黒灰色。内-暗茶褐色。F. 口縁部破片。G. 環元煙焼成。H. 覆土中。
25	平瓦	A. 残存長6.5。残存幅7.1。厚さ1.8。B. 不明。C. 凸面側太い縄目叩き、凹面側布目圧痕を残す。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。内-淡茶褐色。F. 破片。G. 環元不良。古代瓦。H. 覆土中。

26	埴輪	B. 粘土細積み上げ。凸帯貼り付け。C. 外面縦ハケ、内面指ナデ。凸帯ナデ。D. 赤色粒、白色針状物質。E. 内外一淡橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
27	埴輪	B. 粘土細積み上げ。C. 外面ヨコハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。

4. 土 坑

土坑は、C・D地点の両調査区内から、46基が検出されている。時期は、古代・中世と推測されるもの9基、近世以降36基、不明1基で、その性格が分かるものはほとんどない。土坑の個々の特徴は、以下の一覧表のとおりである。

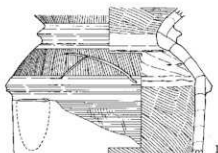
＜土坑一覧表＞

番号	平面形	規模(cm)	深さ	出土遺物	時期	備 考
1	隅丸長方形	202×100	37	土師器・須恵器・内耳銅片少量。	近世後半以降	1掘立建物・1井戸・4住を切る。
2a	隅丸長方形	343×120	28	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	1井戸、2b土坑を切る。
2b	不 明	(66)×(96)	32	なし。	近世	2a土坑に切られ、4土坑を切る。
3	隅丸長方形	333×100	20	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	2掘立建物を切る。
4	不 明	(50)×(92)	34	土師器片少量。	近世以降	2b土坑に切られる。
5	不 明	(42)×(96)	26	土師器片少量。	近世後半	
6	不 明	166×(30)	64	土師器・須恵器片少量。	近世後半	
7	隅丸長方形	146×94	25	土師器片少量。	近世後半以降	2溝を切る。
8	長 方 形	274×120	44	土師器・須恵器・かわらけ片少量。	近世後半以降	
9	隅丸長方形	238×118	33	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	3住・2溝を切る。
10	不 明	(68)×(130)	34	なし。	近世後半	2溝を切る。
11	不 明	(52)×(142)	38	土師器片少量。	近世後半	
12	不 明	(35)×(72)	52	なし。	近世	
13	隅丸方形	123×115	10	土師器片少量。	近世後半以降	
14	隅丸長方形	(174)×105	25	土師器・須恵器・近世陶器片少量。	近世後半以降	
15	隅丸長方形	167×143	42	土師器・須恵器片少量。	近世後半	
16	楕 円 形	184×(114)	30	土師器・須恵器片少量。	近世	3住を切る。
17	不 明	145×(24)	62	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	18土坑を切る。
18	不 明	(148)×34	41	なし。	近世後半以降	17土坑に切られる。
19	円 形	120×118	16	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	
20	不整長方形	96×77	8	土師器片少量。	近世後半以降	
21	隅丸長方形	194×80	33	土師器・須恵器片少量。	近世後半	
22	不 整 形	190×150	80	土師器片少量。	古代～中世	5溝に切られる。
23	隅丸長方形	137×77	26	なし。	近世後半以降	7溝を切る。
24	不 明	(102)×(24)	40	土師器片少量。	古代～中世	12住を切る。
25	円 形	110×105	7	土師器片少量。	近世後半以降	
26	不 整 円 形	115×111	14	土師器片少量。	近世後半以降	
27	長 方 形	238×120	24	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	28土坑を切る。
28	円 形	96×80	62	朝顔形埴輪・土師器・須恵器片少量。	古代	27土坑に切られる。
29	不 明	(114)×(58)	57	須恵器片少量。	古代	13住を切る。
30	不 明	74×(58)	46	土師器片少量。	古代	13住を切る。
31	隅丸方形	68×64	57	土師器片少量。	古代	
53	隅丸長方形	204×(126)	44	土師器・須恵器片多量。	近世後半以降	55土坑に切られる。
54	不 明	154×77	57	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	55土坑を切る。
55	隅丸長方形	216×137	32	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	53・58土坑を切り、54土坑に切られる。
56	隅丸長方形	110×64	27	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	

57	楕円形	54×43	15	片口鉢。	平安時代中期	21住を切る。
58	楕円形	54×(48)	36	土師器片少量。	近世後半以降	55土坑に切られる。
59	不整形	137×(108)	68	土師器・須恵器片少量。	近世後半以降	
60	不明	135×(92)	69	土師器片少量。	近世後半以降	
61	隅丸長方形	233×204	32	土師器・須恵器片多量。石臼(下白)片。	中世以降	67土坑と重複。
62	楕円形	77×57	75	土師器片少量。	古代	
63	不明	83×(77)	72	なし。	不明	23住を切る。
64	楕円形	82×58	38	土師器片少量。	近世	
65	楕円形	74×59	33	なし。	近世	22住を切る。
66	楕円形	97×75	56	なし。	古代	
67	不明	(75)×(196)	16	なし。	不明	61土坑と重複。



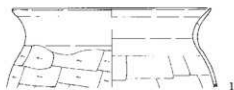
第8号土坑出土遺物



第28号土坑出土遺物



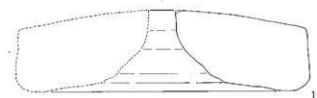
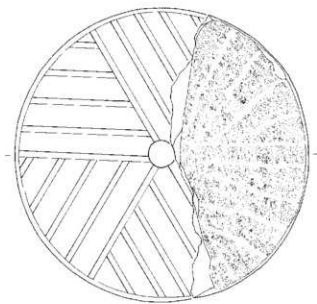
第30号土坑出土遺物



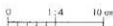
第53・54号土坑出土遺物



第57号土坑出土遺物



第61号土坑出土遺物



第76図 土坑出土遺物

第8号土坑出土土物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径(7.8)、器高1.7、底部径(5.6)。B. ロック成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
---	------	---

第28号土坑出土土物観察表

1	朝顔形埴輪	A. 最大径(22.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面横ハケ・縦ハケ、内面斜方向のハケ。D. 片岩粒、赤色粒、海綿骨針。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/4。G. 内外面割れ口に煤付着。外面に篋記号あり。H. 底面直上。
---	-------	---

第30号土坑出土土物観察表

1	皿	A. 口縁部径(16.0)、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ココナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
1	坏	A. 口縁部径(13.6)、器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ココナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/3。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。

第53・54号土坑出土土物観察表

1	長 副 羹	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ココナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
---	-------	--

第57号土坑出土土物観察表

1	片 口 鉢	A. 口縁部径20.0、器高12.6、底部径10.4。B. 粘土紐積み上げ後ロック整形。C. 口縁部-体部内外面回転ナデの後体部外面下半ケズリ、底部外面ケズリの後ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明灰褐色、肉-暗茶褐色。F. ほぼ完形。G. 環元不良。底部外面は二次焼成を受けて赤色化している。H. 底面直上。
---	-------	--

第61号土坑出土土物観察表

1	形 挽 き 白 (下 白)	A. 直径(31.0)、高さ8.5、ふくみ1.4。B. 削り。C. 内外面雑な研磨。D. 安山岩。F. 1/3。G. 振り目は6角と思われる。H. 覆土中。
---	------------------	--

第1号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗灰色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第2 a、2 b、4号土坑土層説明

<第2 a号土坑>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、浅間山系A軽石・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

<第2 b号土坑>

- 第5層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

<第4号土坑>

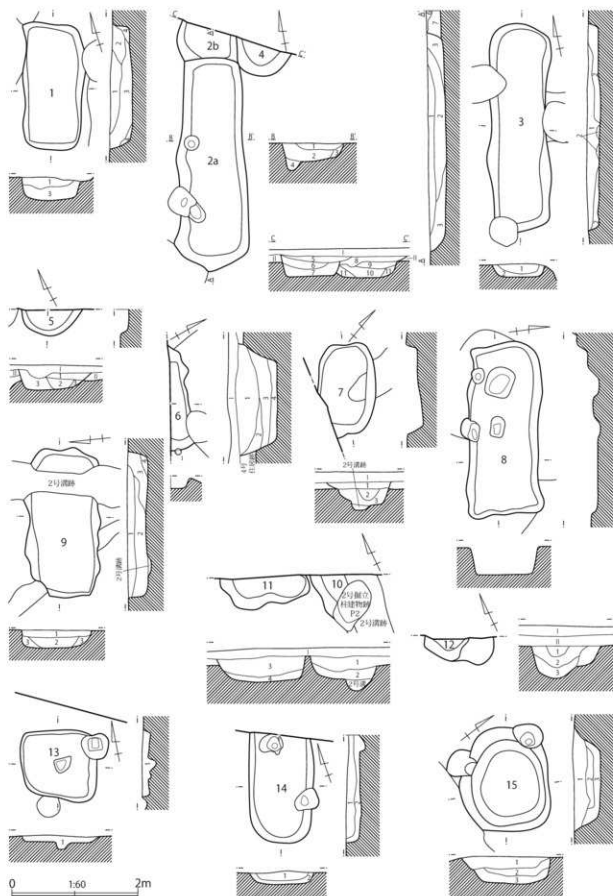
- 第8層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第9層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・鉄斑を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第10層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第3号土坑土層説明

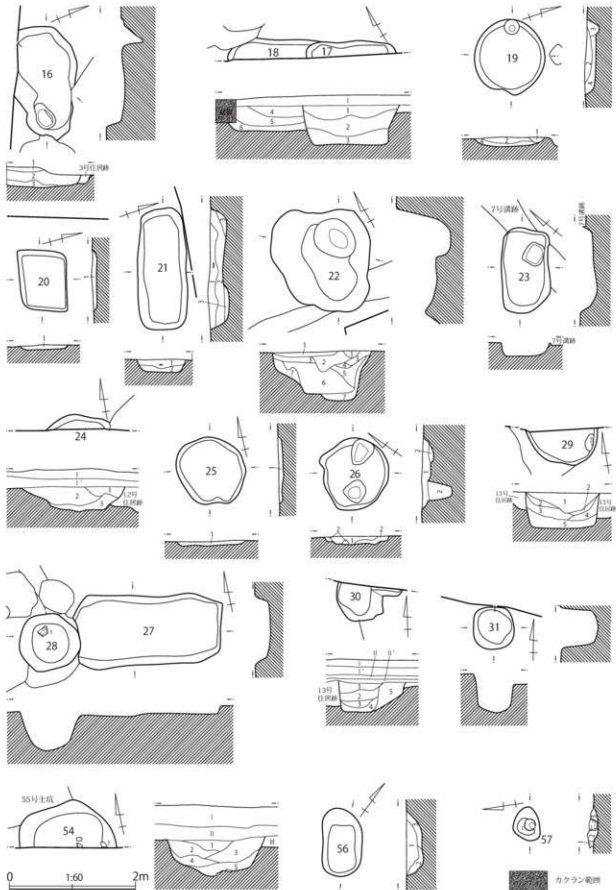
- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、浅間山系A軽石・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5号土坑土層説明

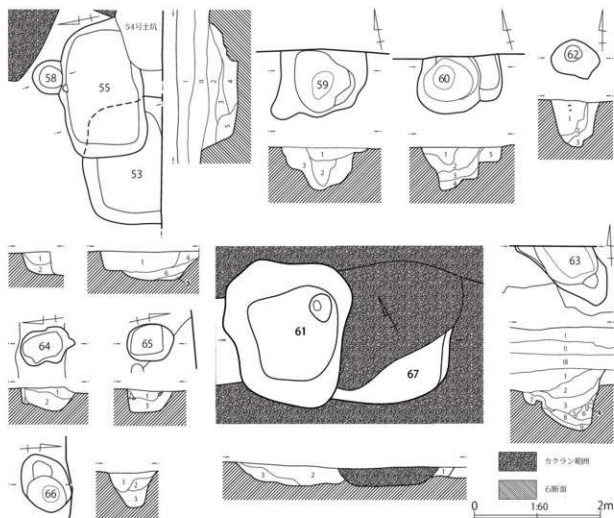
- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）



第77図 土 坑 (1)



第78図 土 坑 (2)



第79図 土 坑 (3)

第6号土坑土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、浅間山系A軽石・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第7号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗灰色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第10・11号土坑土層説明**<第10号土坑>**

- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第11号土坑>

第3層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗灰褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第12号土坑土層説明

第1層：暗灰色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

第13号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第14号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第15号土坑土層説明

第1層：暗灰色土層（浅間山系A軽石を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第16号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第17・18号土坑土層説明**<第17号土坑>**

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第18号土坑>

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗灰色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第19号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第20号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第21号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第22号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第24号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（鉄選を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第25号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第26号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第29号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・暗灰色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・鉄選を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第30号土坑土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第5層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第53・55号土坑土層説明**<第55号土坑>**

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。ローム小ブロックを点在する。しまりをやや有する。）

<第53号土坑>

- 第2層：暗褐色土層（第Ⅱ層に近いが、やや黒味増す。ローム粒子を少量に、ローム小ブロックを微量含む。第Ⅱ層よりしまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（第2層土に径5mm前後のロームブロックを含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・径5～40mmのロームブロックを雲状、斑状に含む。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを斑状に多量含む。しまりをやや有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム小ブロックを多量に、土器の破片が点在する。黒味が強く、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックの斑状の混合土。）

第54号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（現在の表土。上部20cm前後は2～10cm大の丸石・砂利の層。下部は表土。しまりはない。）
 第Ⅱ層：暗褐色土層（表土・ローム粒子・浅間山系A軽石を含む。しまりをやや有する。畑の土か？）
 第Ⅲ層：暗褐色土層（第Ⅱ層に近いが、ローム小ブロックを含む。炭化物を少量含む。やや古いカクラン。）
 第1層：暗褐色土層（第Ⅱ層に近いが、やや黒味増す。ローム粒子を少量に、ローム小ブロックを微量含む。第Ⅱ層よりしまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（第1層土に径5～30mmのロームブロックを含む。）
 第3層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム小ブロックを多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（第2層に近いが、更にロームブロックを多量含む。第1層～3層より黒味が強い。）
 第5層：暗褐色土層（第4層と同じく、やや黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・径5～10mmのロームブロックを含む。粘性ややあり、しまりを有する。）

第56号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子を多量に、径10mmのロームブロック・ローム小ブロックを少量、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）
- 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子をやや多く含む。粘性・しまり弱い。）
- 第3層：暗褐色土層（黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・5～20mmのロームブロックを多量に、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）

第57号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（やや黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・浅間山系A軽石を含む。根つ子穴か？）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（第2層に近いが、ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）

第58号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを少量、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）
- 第2層：褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・大小ロームブロックの混合土。浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）

第59号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子を多量に、径5～15mmのロームブロックを不規則に、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）
- 第2層：暗褐色土層（暗褐色土・灰白粘土の混合土。ローム粒子・径5～10mmのロームブロックを斑状に、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）
- 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・灰白粘土・黒褐色土の混合土。ローム粒子・径5～20mmのロームブロックを斑状に多量、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまり弱い。）

第60号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを少量、焼土粒子を微量、径100mmの灰白粘土ブロック・浅間山系A軽石を含む。粘性ややあり、しまりはない。）
- 第2層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子・ロームブロックを多量に、焼土粒子を微量、径100mmの灰白粘土ブロック・浅間山系A軽石を含む。粘性ややあり、しまりはない。）
- 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・灰白粘土の混合土。ローム粒子・ローム小ブロックを斑状に不規則に、浅間山系A軽石を含む。粘性ややあり、しまりはない。）
- 第4層：暗褐色土層（第3層に近いが、暗褐色土と灰白粘土がよく混ざっている。浅間山系A軽石を含む。粘性ややあり、しまりはない。）
- 第5層：暗褐色土層（やや黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・ロームブロックを斑状に多量、浅間山系A軽石を含む。粘性ややあり、しまりはない。）

第61・67号土坑土層説明**<第67号土坑>**

- 第1層：暗褐色土層（灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。）

<第61号土坑>

- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・土器粒子を少量に、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。）
- 第3層：暗褐色土層（第2層に近いが、ローム粒子・ローム小ブロックを多量含む。）

第62号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性強く、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ロームブロックが更に多く偏在する。粘性強く、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（第1層より黒味更に強く、ローム粒子が少ない。粘性強く、しまりを有する。）

第63号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合土。）
- 第2層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子・焼土粒子を多量に、ローム小ブロック・炭化粒子を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（第2層に近いが、ローム粒子を更に多く含む。径5～10mmのロームブロックを少量含む。）

- 第4層：暗褐色土層（第3層に近いが、ローム粒子を更に多く含む。）
 第5層：暗褐色土層（やや灰色がかった暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合土。しまり弱い。）
 第6層：黄褐色土層（やや灰色がかった暗褐色土・多量のローム粒子・ロームブロックの混合土。しまり弱い。）
 第7層：暗褐色土層（第5層に近いが、ローム粒子・ロームブロック・暗褐色土が未分離。しまり弱い。）
 第8層：黄褐色土層（第6層に近いが、暗褐色土を多量含む。暗褐色土とローム粒子・ロームブロックがよく混ざり、黒味が強い。しまり弱い。）
 第9層：黄褐色土層（第6層に近いが、ロームを更に多く含む。しまり弱い。）

第64号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。上部のみ浅間山系A軽石を含む。粘性ややあり、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多く、灰黄褐色のシルト化した土を含む。粘性ややあり、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（暗褐色土とローム粒子・ロームブロックの混合土。粘性ややあり、しまりを有する。）

第65号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを微量、浅間山系A軽石を含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（第1層土にローム粒子を更に多く含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子をやや多く含む。粘性・しまりともない。）

第66号土坑土層説明

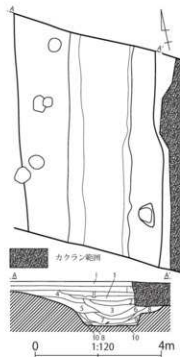
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径5～10mmのロームブロックを微量含む。粘性なし、しまり弱い。）
 第2層：暗褐色土層（第1層土に径5～30mmのロームブロックを斑状に含む。粘性なし、しまり弱い。）
 第3層：暗褐色土層（第2層に近いが、ローム粒子を斑状に多量含む。粘性なし、しまり弱い。）

5. 溝 跡**第1号溝跡（第80図、図版18）**

C1地点の調査区中央部に位置し、重複する第1号掘立柱建物跡を切っている。本溝跡の東側隣接地は、すでに土取りによって破壊されている。

本溝跡は、調査区内ではほぼ南北方向に向いて直線的な流路をとっており、北側のB地点（恋河内・的野2010）でその延長部分が検出されている。規模は、溝の上幅が4.80m以上、底面の下幅が1.70mの均一な幅である。断面は、底面が広く平坦な逆台形のいわゆる箱堀の形態に近い。壁は、下半が直線的にやや急な傾斜で、上半は下半分比べてかなり緩やかに傾斜して立ち上がっている。確認面からの深さは、106cm程度あり、調査区内ではほぼ水平で、勾配はほとんど見られない。覆土中には、細砂や小礫等が顕著に見られないことから、B地点での土層観察の成果と同じく、「常時大量の水が流れていたような形跡は認められない」（恋河内・的野2010）と言える。

遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が比較的多く出土しているが、本溝跡に関係するものとしては、中世後期の15世紀後半～16世紀初頭頃の内耳鍋やかかわりけの破片が見られる。また、北側のB地点でも、同時期の内耳鍋の破片や粉挽臼の上臼と砥石の

**第80図 第1号溝跡**

破片が出土しており(恋河内・的野2010)、中世後期の屋敷溝の出土遺物の様相と類似している。

本溝跡は、形態が比較的規模の大きな箱堀を呈し、北側のB地点で流路が東に向かって直角に曲がり、南側のD地点ではその延長部分が検出されていないことから、おそらく一辺が50m～60m程度の屋敷の北側と西側を区画する溝の一部と推測される。

第1号溝跡土層説明

第1層：現耕作土。

第1層：客土層。

第II層：暗灰色土層（旧耕作土。浅間山系A軽石・鉄斑を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第1層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（鉄斑を多量に、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3層：暗灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：暗灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗灰色土層（鉄斑を均一に、浅間山系B軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第7層：暗灰色土層（浅間山系B軽石・ロームブロック・鉄斑・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗灰色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗灰褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗灰褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）



第81図 第1号溝跡出土遺物

第1号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径 8.2、器高 2.0、底部径 5.1。B. ロック成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 1/2。H. 底面付着。
2	須恵器	B. 粘土積積み上げ後ロック整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 小石、白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
3	内耳鍋	B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、白色針状物質。E. 内外-灰色。F. 口縁部破片。G. 環元焙焼成。在地産。H. 覆土中。
4	内耳鍋	B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 口縁部破片。G. 環元焙焼成。在地産。H. 覆土中。

第2号溝跡（第82図、図版19）

C1地点の調査区中央部に位置し、重複する第7・9・10・11号土坑に切られ、第2号掘立柱建物跡を切っている。

本溝跡は、調査区内ではほぼ南北方向に向いて直線的な流路をとっており、北側のB地点(恋河内・的野2010)でその延長部分が検出されている。南側のD1地点では、第6号溝跡が延長部分に位置するが、若干規模が本溝跡より大きい。規模は、溝の上幅が60cm、底面の下幅が25cm程度の比較的均一な形態である。壁は、直線的に急傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で45cmある。

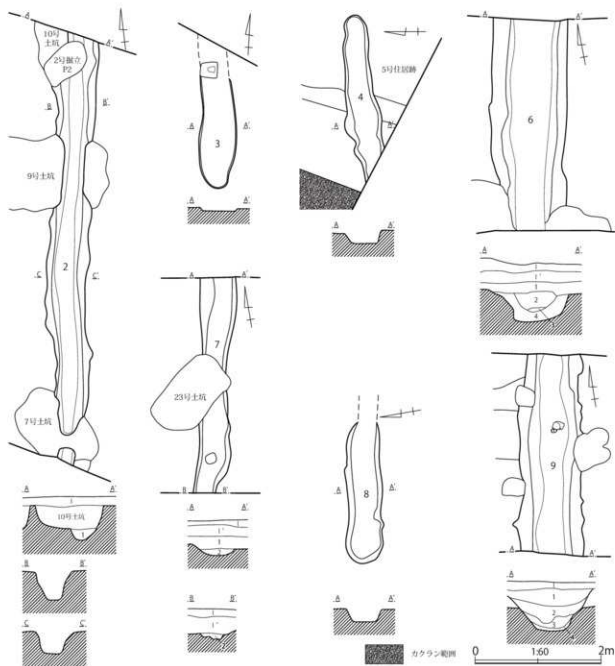
遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。

時期は、B地点の調査結果から、平安時代前期末～中期初頭頃の所産と考えられる。

第3号溝跡 (第82図)

C1地点の調査区東端に位置する。調査区内では、ほぼ南北方向に向いて直線的な流路をとっているが、溝の北側は削平され、南端は途切れている。溝跡の北側に方形の小ピットがあるが、本溝跡と関係するものか不明である。規模は、溝の上幅が50cm～60cm前後、下幅が45cm～55cm前後の比較的一様な幅である。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは5cm程度ある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子や焼土粒子を微量含む黒褐色土を主体にしている。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、不明である。



第82図 第2・3・4・6・7・8・9号溝跡

第2号溝跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6号溝跡土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（鉄斑を多量に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7号溝跡土層説明

第1層：灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9号溝跡土層説明

第1層：暗灰色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗灰色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

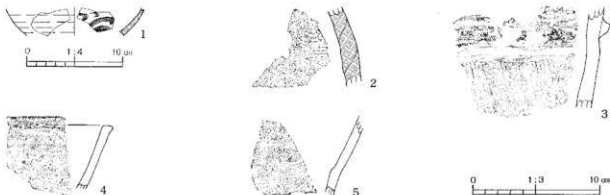
第4号溝跡（第82図）

C1地点の調査区東端に位置し、重複する第5号住居跡を切っている。調査区内では、ほぼ東西方向に向いて直線的な流路をとっているが、溝の東側は途切れている。規模は、溝の上幅が40cm～60cm前後、下幅が30cm前後の比較的均一な幅である。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度ある。底面は、広く平坦である。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、不明である。

第5号溝跡（第84図、図版19）

D1地点の調査区西側に位置し、重複する第8号住居跡・第10号住居跡・第22号土坑・第6号溝跡を切っている。調査区内では、調査区の南壁に沿って東西方向に直線的な流路をとっており、おそらく西側延長部分のD2地点で検出された第18号溝跡と同一の溝と考えられる。調査区内では、溝の北側半分しか検出されていないため、規模や形態は不明である。断面は、壁の上半は緩やかに傾斜し、中位から下半は急傾斜して直線的に落ち込んでおり、確認面からの深さは85cmまで測れる。



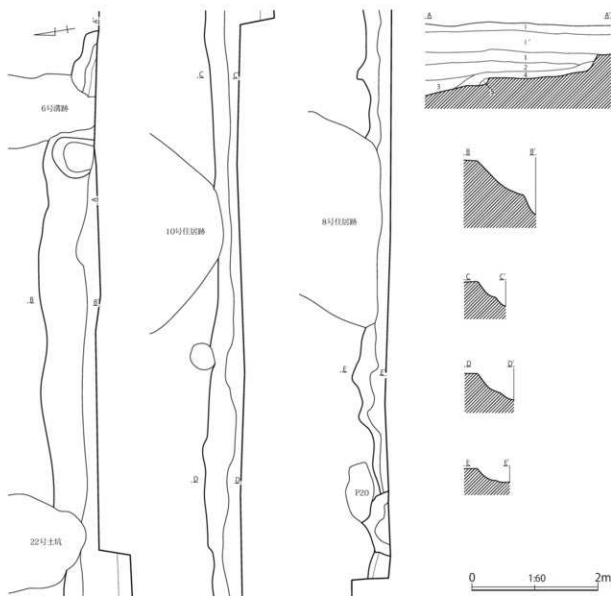
第83図 第5号溝跡出土遺物

遺物は、古代の土師器や須恵器の破片のほか、中世の龍泉窯系青磁碗、常滑窯系甕、在地産内耳鍋などの破片が、覆土中から出土している(第83図)。

時期は、出土遺物の様相から、中世後期の15世紀後半から16世紀初頭頃と考えられる。

第5号溝跡出土遺物観察表

1	龍泉窯系青磁碗	B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。内面に髹描による草花文風の文様を施文。D. 白色粒。E. 内外-淡黄緑色。F. 体部破片。G. 龍泉窯系碗I-2類。H. 覆土中。
2	常滑窯系甕	B. 粘土粒積み上げ後叩き。C. 胴部内外面ナデ。D. 褐色粒、黒色粒、白色粒。E. 外-暗淡黄緑色、内-暗褐色。F. 胴部破片。G. 外面に押印文あり。常滑窯。H. 覆土中。
3	円筒埴輪	B. 粘土粒積み上げ。凸帯貼り付け。C. 外面縦ハケ、内面指ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	内耳鍋	B. 粘土粒積み上げ。C. 口縁部内外面ココナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-暗褐色、内-暗茶褐色。F. 口縁部破片。G. 酸化鉛焼成。在地産。H. 覆土中。
5	内耳鍋	B. 粘土粒積み上げ。C. 口縁部内外面ココナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗灰褐色、内-淡灰褐色、内-淡褐色。F. 口縁部破片。G. 酸化鉛焼成。在地産。H. 覆土中。



第84図 第5号溝跡

第5号溝跡土層説明

- 第1層：灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：灰褐色土層（鉄斑・ロームブロックを均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6号溝跡（第82図、図版19）

D1地点の調査区中央部に位置し、重複する第5号溝跡に切られている。調査区内では、南北方向に向いて直線的な流路をとっている。北側の延長部分には、D1地点やB地点の第2号溝跡が位置するが、規模や形態が異なっており、あるいは第2号溝跡を掘り返した溝の可能性もある。規模は、溝の上幅が120cm、底面の下幅が50cm～60cmの均一な幅である。断面の形態は、底面が広く平坦な逆台形のいわゆる箱堀状で、壁は上半が緩やかに傾斜し、中位から下半は直線的に急傾斜して落ち込んでいる。確認面からの深さは50cmある。

遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。

時期は、覆土の状態から、近世以前と考えられる。

第7号溝跡（第82図、図版19）

D1地点の調査区中央部に位置し、重複する第23号土坑に切られている。調査区内では、南北方向に向いて直線的な流路をとっており、西側5mに位置する第6号溝跡と並走している。規模は、溝の上幅が50cm～60cm、底面の下幅が30cm～35cmの比較的均一な幅である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度ある。底面は、広く平坦である。

遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土している。時期は、不明である。

第8号溝跡（第82図、図版19）

D1地点の調査区東側に位置する。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっているが、溝の西側は途切れ、東側は削平されている。規模は、溝の上幅が55cm前後、底面の下幅が40cmの比較的均一な幅である。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度ある。底面は、広く平坦である。

遺物は、覆土中から古代の土師器片と近世陶磁器片が少量出土しただけである。

時期は、覆土の状態や出土遺物から、近世後半以降の所産と考えられる。

第9号溝跡（第82図、図版19）

D1地点の調査区東側に位置する。調査区内では、南北方向に向いて直線的な流路をとっている。規模は、溝の上幅が85cm～100cm、底面の下幅が30cm～44cmの比較的均一な幅である。断面の形態は、底面が広く平坦な逆台形のいわゆる箱堀状で、壁は上半が緩やかに傾斜し、中位から下半は直線的



第85図 第9号溝跡出土遺物

に急傾斜して落ち込んでいる。確認面からの深さは66cmある。

遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片や近世陶磁器の破片(第85図)が少量出土しただけである。

時期は、出土遺物や覆土中に浅間山系A軽石を含むことから、近世後半(天明3年:1783年)以降と考えられる。

第9号溝跡出土遺物観察表

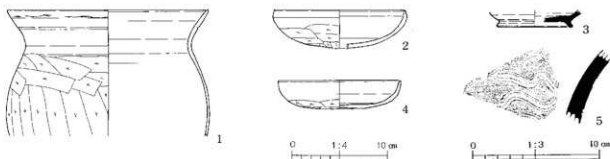
1	肥前系 染付皿	A. 口縁部径(12.2)、器高3.1、高台部径(8.2)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に唐草文、内面に草花文を施文後施軸。D. 白色粒。E. 内外-淡白灰色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	肥前系 染付碗	A. 口縁部径(8.8)、器高4.8、高台部径(3.3)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。内外面とも施文後施軸。D. 白色粒。E. 内外-淡白灰色。F. 体部1/4、底部1/2。H. 覆土中。

第17号溝跡(第87図、図版19)

D2地点の調査区南側半分に位置し、重複する第17号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっている。規模は、溝の上幅が80cm~100cm、底面の下幅が35cm~50cmの比較的均一な幅である。断面の形態は、底面が広く平坦な逆台形のいわゆる箱堀で、壁は直線的に傾斜して立ち上がっている。確認面からの深さは、最高で43cmある。

遺物は、多くの古代の土師器や須恵器の破片(第86図)とともに、少量の中世後期の在産内耳鍋や近世陶磁器の破片が、覆土中から出土している。

時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、近世後半以降と考えられる。



第86図 第17号溝跡出土遺物

第17号溝跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A. 口縁部径21.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗赤茶褐色。F. 上半3/4。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(14.0)、器高4.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
3	須恵器 高台付碗	A. 高台部径(8.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部・高台部内外面ヨコナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 高台部1/4。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高3.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
5	須恵器 甕	B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 頸部内外面回転ナデの後、外面に楊梅波状文(3本歯)を施す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 頸部破片。H. 覆土中。

第18号溝跡(第87図、図版20)

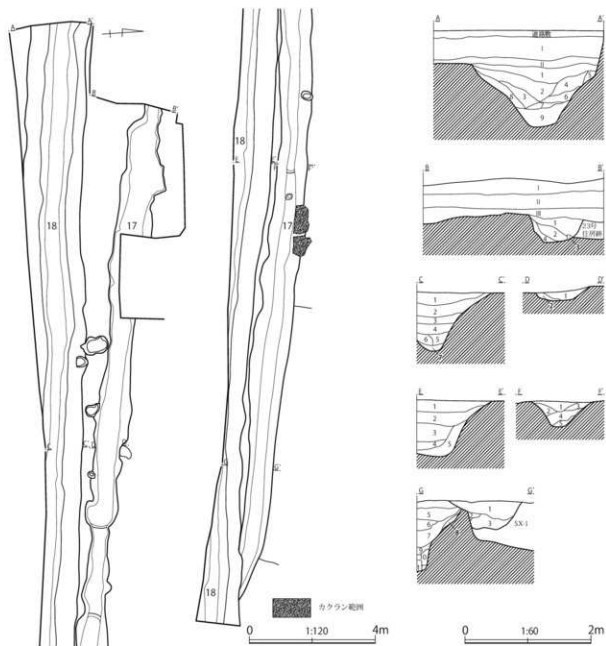
D2地点の調査区南側半分に位置し、重複する第17号溝跡に切られている。調査区内では、調査区の南壁に沿って東西方向に直線的な流路をとっており、東側延長部分のD1地点で検出された第5号溝跡と同一の溝と考えられる。規模は、溝の上幅が2m、底面の下幅が40cm~50cmの比較的均一な幅

である。断面の形態は、底面がやや狭いV字状のいわゆる葉研堀に似た形状で、壁は上半が緩やかに傾斜して立ち上がり、中位から下半は直線的に急傾斜して落ち込んでいる。確認面からの深さは、最高で1mある。

遺物は、多くの古代の土師器や須恵器の破片とともに、少量の中世の常滑窯系甕・山茶碗窯系片口鉢などの破片が、覆土中から出土している。

時期は、東側のD1地点の第5号溝跡と同一の溝と考えられることから、中世後期の15世紀後半から16世紀初頭頃と考えられる。

本溝跡や第5号溝跡は、埋没後その敷地部分が現在の道や水路の一部になっており、溝や堀等による中世後期の地割の一部が、現在まで継承されていることは注目されよう。



第87図 第17・18号溝跡

第17・18号溝跡土層説明

<A-A'>

- 第1層：暗褐色土層（表土層。浅間山系A軽石を多量含む。固くしまりを有する。）
 第Ⅱ層：暗褐色土層（ローム小ブロックを少量、ローム粒子を含む。上部のみに浅間山系A軽石を含む。ややしまりを有する。）
 第1層：暗褐色土層（やや黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・ローム小ブロックを多量含む。焼土粒子を微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（やや黒味の強い暗褐色土を主に、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。焼土粒子を微量含む。マンガンを混入し始める。）
 第3層：暗褐色土層（第2層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子を多量に、角礫を少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（第4層に近いが、ローム粒子・ローム小ブロックを多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（第4層土にマンガンをらしき黒味の強い土を含む。ロームブロックを不規則に含む。）
 第7層：暗褐色土層（第6層に近いが、ローム粒子のみを含む。）
 第8層：暗褐色土層（第3層に近いが、ロームブロックを不規則に、マンガンをらしき土を局部的に含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを斑状に含む。やや粘性あり。上面は所々床面の様に固くしまりを有する。）

<B-B'>

- 第1層：暗褐色土層（下部は表土。上部10～15cmは砂利層。）
 第Ⅱ層：暗褐色土層（旧表土。浅間山系A軽石を多量に、ローム粒子を含む。）
 第Ⅲ層：暗褐色土層（ローム粒子・ローム小ブロックを含む。上部のみに浅間山系A軽石を含む。）
 第1層：暗褐色土層（第Ⅲ層に近いが、ローム小ブロックをやや多く含む。焼土粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、径10mmのロームブロックが点在する。）
 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・径5～20mmのロームブロックの混合土。）
 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・径5～10mmのロームブロックの斑状の混合土。）

<C-C' E-E'>

- 第1層：暗褐色土層（ローム小ブロックを少量、ローム粒子を含む。粘性あり、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ややシルト化する。粘性あり、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・ローム小ブロックの不規則な互層。鉄分(マンガンを茶色の鉱物)を含む。第2層よりシルトがかかる。粘性強くあり、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（第2層に近いが、不規則なラミナをなす。マンガンの縞有り。粘性強くあり、しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックを主に、不規則なラミナをなす。粘性強く、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（第4層に近いが、マンガンを斑状に多量含む。粘性強くあり、しまりを有する。）
 第7層：灰黄褐色土層（灰黄褐色シルト・暗褐色土・マンガンの混合土。粘性強くあり、しまりを有する。）

<D-D'>

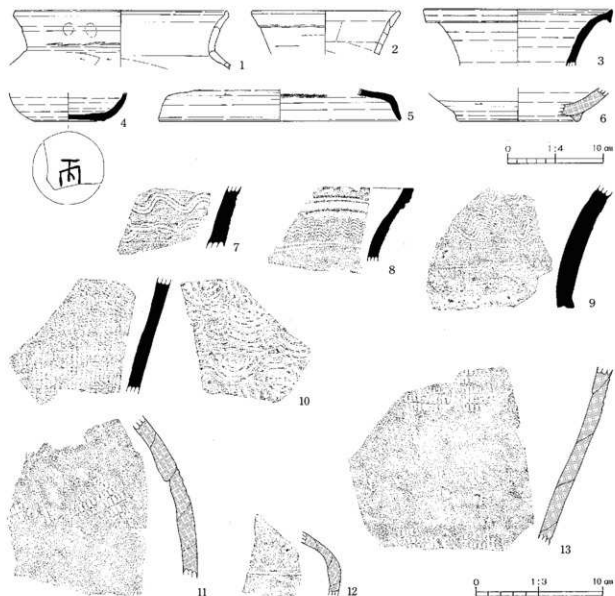
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを少量、上部に灰黄褐色シルトを含む。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。）

<F-F'>

- 第1層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（第1層に対し、灰黄褐色シルトが混入し、更に灰色味増す。ローム粒子・ロームブロックを多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（第2層に近いが、暗褐色土が多く、黒味がやや強い。）
 第4層：暗褐色土層（第3層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（第4層に近いが、白味の強いローム粒子・ロームブロックを多量含む。）

<G-G'>

- 第1層：暗褐色土層（やや灰色がかつた暗褐色土を主に、ローム粒子を多量に、径5～10mmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性ややあり、しまり強い。）
 第2層：暗褐色土層（第1層土に、ローム粒子・径5～15mmのロームブロックを含む。焼土粒子を微量含む。粘性ややあり、しまり強い。）
 第3層：暗褐色土層（第1層に近いが、灰黄褐色シルトが混入し、更に灰色味を増す。ロームブロックを多量含む。粘性ややあり、しまり強い。）
 第4層：暗褐色土層（上部に浅間山系A軽石を少量に、焼土粒子を微量、ローム粒子を含む。）
 第5層：暗褐色土層（第1層に近いが、ローム粒子をやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。）
 第6層：暗褐色土層（第2層に近いが、灰色味が強く、ロームブロックを含まない。粘性ややあり、しまり強い。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・マンガンを斑状に含む。全体にシルト化進む。以下の層より粘性、しまり更に強くなる。）
 第8層：暗褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合土。）
 第9層：暗褐色土層（第7層に近いが、マンガンを更に多く含む。シルト化進む。）
 第10層：暗褐色土層（第8層に近いが、ローム粒子・ロームブロックを多量含む。）
 第11層：灰黄褐色シルト質土（地山か?）



第88図 第18号溝跡出土遺物

第18号溝跡出土遺物観察表

1	胴張夷	A. 口縁部径(23.0)。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土下層。
2	複合口縁壺	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-明茶褐色、内-黒色。F. 口縁部1/6。H. 覆土下層。
3	須恵器壺	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土総積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 口縁部1/5。H. 覆土下層。
4	須恵器坏	A. 底部径(7.6)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転余切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 底部2/3。G. 底部外面に「内」の墨書痕あり。H. 覆土下層。
5	須恵器蓋	A. 口縁部径(26.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転帯ケズリの後ナデ、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色、内-暗茶褐色。F. 口縁部1/6。G. 天井部は叩き整形の可能性も考えられる。H. 覆土下層。
6	山茶碗系片口鉢	A. 高台部径(13.2)。B. 粘土総積み上げ。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデの後外面下瀬回転帯ケズリ。高台部内外面回転ナデ。底部外面回転帯ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 高台部1/4。H. 覆土下層。
7	須恵器壺	B. 粘土総積み上げ後ロクロ整形。C. 頸部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文(2本歯)を数段施す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 頸部破片。H. 覆土下層。
8	須恵器壺	B. 粘土総積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文(5本歯)を施す。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒灰色、内-暗灰色。F. 口縁部破片。H. 覆土下層。

9	須 恵 器	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部内外面回転ナデの後、外面に櫛波状文(7本歯)を数段施す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 胴部破片。H. 覆土下層。
10	須 恵 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平坑叩き目)の後回転ナデ、内面当道具痕を残す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色、内-暗茶褐色。F. 胴部破片。H. 覆土下層。
11	常 滑 壺 系 壺	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部内外面回転ナデの後、外面に格子目状の押印文を施す。D. 小石、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 胴部破片。G. 常滑壺。H. 覆土下層。
12	常 滑 壺 系 壺	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部外面回転ナデ、内面ナデ。胴部外面に沈源を施す。D. 白色粒。E. 外-暗灰色、内-暗灰褐色。F. 胴部破片。G. 外面に淡緑色の自然軸がかかる。常滑壺。H. 覆土中。
13	常 滑 壺 系 壺	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部内外面回転ナデの後、外面に格子目状の押印文を数段施す。D. 小石、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗灰色。F. 胴部破片。G. 常滑壺。H. 覆土上層。

6. その他の遺構と遺物

S X-1 (第89図、図版20)

D 2地点の東端に位置し、重複する第17号溝跡に切られている。

平面形は、若干東側壁が歪んでいるが、東西方向に長い隅丸長方形ぎみの形態を呈している。規模は、東西方向が7.60m、南北方向が3.60mを測る。壁は、東西両壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、北側壁と南側壁の一部はオーバーハングしている。確認面からの深さは、最高で70cmある。底面は、広くやや起伏があり、中央部が若干高く東西両側がやや低くなっている。覆土は、暗褐色土を主体とし、堆積状況はいずれの土層断面も右上がりの堆積で、遺構の西側や北側からの流入が顕著であったことを示している。壁際と中央部の堆積土には、ロームブロックの含有が顕著に見られる。

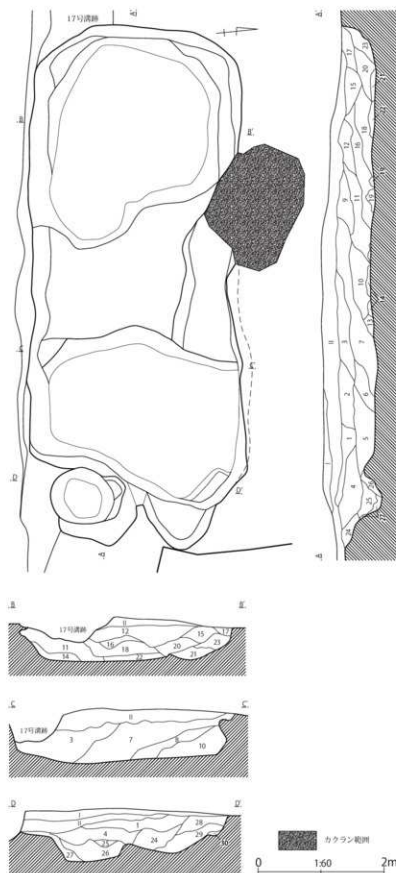
遺物は、覆土中から白鳳時代(7世紀後半)を主体とする土師器や須恵器の破片が多く出土しているが、特に土師器は皿や坏、須恵器は蓋や坏などの供膳器の器種が多く見られる(第90図)。これらの遺物は、完形品は少なくほとんどが破片であり、後述するように本遺構に直接伴うものではなく、覆土埋没過程で周辺から混入したものである。

時期は、直接本遺構の時期を示す遺物が皆無であるため明確にできないが、南側に隣接する第18号溝跡と近接してその長軸方向を合わせていることは、第18号溝跡の流路が規制された土地区画と強い関係性を持つと考えられることから、中世後期以降の可能性が高いと思われる。

本遺構の性格について調査担当者は、東側に隣接する円形の土坑状の掘り込みを堅坑の入口部とするいわゆる地下式坑と推測している。覆土中のロームブロックを多く含む層は、地山ローム土による天井部の直接的な崩落土のような感じではないが、底面が平坦でなく起伏が見られ、一部壁面がオーバーハングしていることから、地下式坑の他に土取りのための採土坑の可能性も考えられよう。

S X-1 出土遺物観察表

1	長 頸 壺	A. 口縁部径(22)2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土上層。
2	小 形 壺	A. 口縁部径14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 上半3/4。H. 覆土上層。
3	皿	A. 口縁部径(21)2。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/4。G. 外面に黒環あり。H. 覆土上層。
4	皿	A. 口縁部径21.2。器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/2強。H. 覆土上層。
5	皿	A. 口縁部径(20)0。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
6	皿	A. 口縁部径(20)0。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 1/4。H. 覆土上層。
7	皿	A. 口縁部径(19)6。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4強。H. 覆土下層。
8	皿	A. 口縁部径(18)8。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。



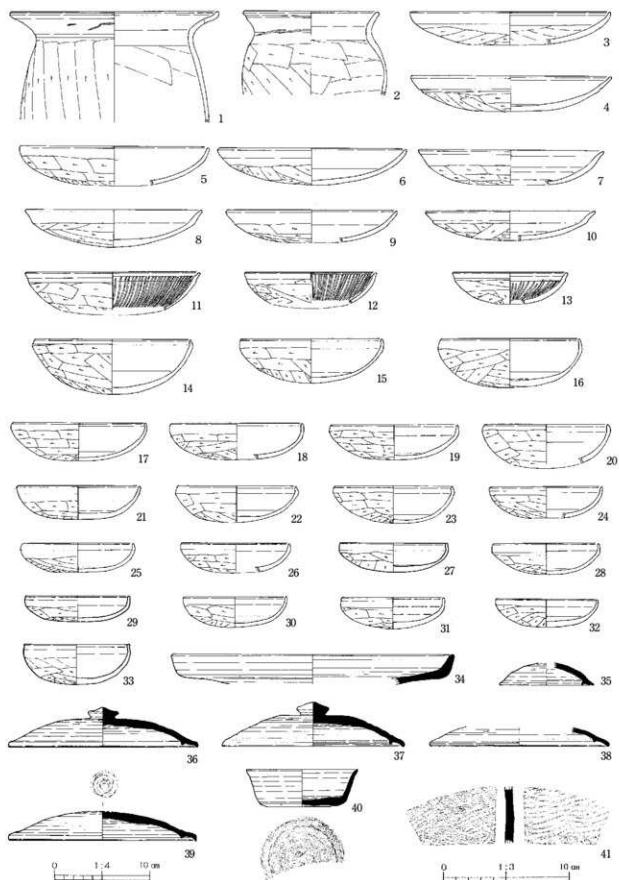
SX-1 土層説明

- 第I層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・土器破片を少量、ローム小ブロックを微量、ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第II層：暗褐色土層（ローム粒子・土器破片を多量に、焼土粒子を少量含む。径5～10mmのロームブロックを局所的にかなり多く含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第1層：暗褐色土層（第II層土に径5～80mmのロームブロックが点在。この層より以下は、しまりはなく、やや軟らかくなる。）
- 第2層：暗褐色土層（第II層に近いが、径5～20mmのロームブロックを多量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（第1層と同じ。）
- 第4層：暗褐色土層（第II層に近いが、径5～40mmのロームブロックを多量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（上部に径5～30mmのロームブロックを含む。下部はローム粒子が大半となり黄褐色。）
- 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合土。ローム小ブロックが分散する。しまり弱い。）
- 第7層：暗褐色土層（第3層に近いが、ローム粒子をやや多く含む。色調明るい。）
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・径5～20mmのロームブロックを局部的に多量含む。）
- 第9層：暗褐色土層（第8層土に径50～100mmのロームブロックを含む。）
- 第10層：暗褐色土層（第8層土に上部に径5～40mmのロームブロックを多量含む。）
- 第11層：黄褐色土層（ローム粒子・径5～150mmのロームブロックを主に、間を暗褐色土・黒褐色ブロックが埋めている。東半にロームブロックが板状に堆積。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒子・径5～40mmのロームブロックを多量含む。）
- 第13層：黄褐色土層（崩落ロームブロック・ローム粒子。）
- 第14層：黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを主に、暗褐色土を含む。）
- 第15層：暗褐色土層（焼土粒子を微量に、ローム粒子を含む。やや灰色がかる。）

第89図 SX-1

- 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを少量含む。）
 第17層：暗褐色土層（第16層に近いが、ローム粒子をやや多く含む。）
 第18層：暗褐色土層（第16層に近いが、径5～100mmのロームブロックを多量含む。）
 第19層：黄褐色土層（ハードロームブロックの集合。）
 第20層：暗褐色土層（第17層に近いが、ローム粒子・径5～50mmのロームブロックを多量含む。）
 第21層：褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・ロームブロックの混合土。）
 第22層：暗褐色土層（暗褐色土・黒褐色土の混合土。シルトを少量含む。）
 第23層：暗褐色土層（暗褐色土・ローム粒子を多量含む。）
 第24層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径5～30mmのロームブロックを少量含む。）
 第25層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを少量含む。）
 第26層：暗褐色土層（第25層に近いが、ローム粒子を少量、ロームブロックを含む。）
 第27層：黄褐色土層（ロームブロック間に暗褐色土を含む。）
 第28層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径5～20mmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりをやや有する。）
 第29層：暗褐色土層（暗褐色土に、黒褐色土が混ざる。ローム粒子・径5～40mmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりをやや有する。）
 第30層：暗褐色土層（第28層土に、斑状に黒褐色土を含む。径5～10mmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりをやや有する。）

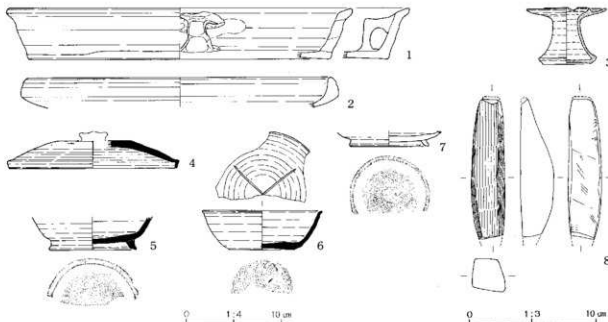
9	皿	A. 口縁部径(18.2), 器高3.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-淡褐色. F. 口縁部1/4. H. 覆土中.
10	皿	A. 口縁部径(18.0), 器高3.1. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 口縁部1/4. H. 覆土上層.
11	暗文付 埴	A. 口縁部径(18.4), 残存高4.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 口縁部1/2. G. 内面に放射状暗文を施す. H. 覆土上層.
12	暗文付 埴	A. 口縁部径(14.0), 残存高3.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明茶褐色. F. 口縁部1/5. G. 内面に放射状暗文を施す. H. 覆土下層.
13	暗文付 埴	A. 口縁部径(12.2), 器高3.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外-明茶褐色. F. 口縁部1/4. G. 内面に放射状暗文を施す. H. 覆土上層.
14	坏	A. 口縁部径16.0, 器高5.7. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-茶褐色. F. 3/4. H. 覆土中.
15	坏	A. 口縁部径(15.0), 器高4.7. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 外-淡橙褐色, 内-明橙褐色. F. 1/3. H. 覆土上層.
16	坏	A. 口縁部径(14.8), 器高5.1. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-茶褐色. F. 1/2. H. 覆土上層.
17	坏	A. 口縁部径(14.2), 器高4.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/2弱. H. 覆土上層.
18	坏	A. 口縁部径(14.0), 器高3.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗褐色. F. 口縁部1/3. H. 覆土上層.
19	坏	A. 口縁部径13.6, 器高3.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 外-明橙褐色, 内-暗橙褐色. F. ほぼ完全. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中.
20	坏	A. 口縁部径(13.2), 残存高4.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗橙褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
21	坏	A. 口縁部径(13.0), 器高3.5. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリの後上半ナデ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗茶褐色. F. 1/2強. H. 覆土上層.
22	坏	A. 口縁部径12.6, 器高3.9. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外-明橙褐色. F. 1/2強. H. 覆土中.
23	坏	A. 口縁部径12.6, 器高4.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗褐色. F. 2/3. H. 覆土中.
24	坏	A. 口縁部径(12.0), 器高3.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗橙褐色. F. 1/2弱. H. 覆土上層.
25	坏	A. 口縁部径11.8, 器高3.1. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-茶褐色. F. 1/2. H. 覆土中.
26	坏	A. 口縁部径(11.6), 残存高3.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗橙褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
27	坏	A. 口縁部径11.4, 器高3.1. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外-淡橙褐色. F. 3/4. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土上層.
28	坏	A. 口縁部径11.2, 器高3.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 片岩粒, 白色粒. E. 内外-淡茶褐色. F. 1/2. H. 覆土中.
29	坏	A. 口縁部径(11.0), 器高2.7. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗橙褐色. F. 2/3. H. 覆土下層.
30	坏	A. 口縁部径11.0, 器高3.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗茶褐色. F. ほぼ完全. H. 覆土中.
31	坏	A. 口縁部径(11.0), 器高3.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外-淡褐色, 内-暗茶褐色. F. 1/2強. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中.



第90図 SX-1 出土遺物

32	坏	A. 口縁部径108, 器高30. B. 粘土積積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗褐色. F. 2/3. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中.
33	坏	A. 口縁部径112, 器高43. B. 粘土積積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明褐色. F. ほは完形. H. 覆土中.
34	須恵器 壺	A. 口縁部径(30.0). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転鋭ケズリの後ナデ, 内面回転ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-淡灰色. F. 口縁部1/6. G. 環元不良. H. 覆土中.
35	須恵器 壺	A. 口縁部径(10.0), 残存高28. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転鋭ケズリ. D. 白色粒. E. 内外-灰色. F. 口縁部1/4. H. 覆土中.
36	須恵器 蓋	A. 口縁部径(20.0), 器高42. B. ロクロ成形. 積み貼り付け. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転鋭ケズリ, 内面一定方向のナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外-灰色. F. 1/2. H. 覆土中.
37	須恵器 蓋	A. 口縁部径(19.2), 器高47. B. ロクロ成形. 積み貼り付け. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転鋭ケズリ, 内面一定方向のナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外-暗灰色. F. 1/3. H. 覆土中.
38	須恵器 蓋	A. 口縁部径(19.0). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転鋭ケズリ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外-暗灰色, 内-暗茶褐色. F. 口縁部1/4. H. 覆土中.
39	須恵器 蓋	A. 口縁部径198, 器高31. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転鋭ケズリ. D. 片岩粒, 白色粒. E. 内外-淡灰色. F. 2/3. G. 天井部外面中央には, 渦巻き状の沈痂が施されており, 積み部を貼り付けずに焼成されている. H. 覆土中.
40	須恵器 坏	A. 口縁部径(118), 器高39, 底部径90. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転鋭切り後, 外面回転鋭ケズリ. D. 白色粒. E. 内外-暗灰色. F. 1/2弱. H. 覆土上.
41	須恵器 壺	A. 粘土積積み上げ後明き. C. 胴部外面明き(斜格子目)の後ナデ, 内面当道具痕(青海波文)を残す. D. 白色粒. E. 内外-暗灰色. F. 胴部破片. H. 覆土中.

攪乱内出土の遺物 (第91図)



第91図 C2地点攪乱内出土遺物

C2地点攪乱内出土遺物観察表

1	焙烙	A. 口縁部径(36.6), 器高54, 底部径(32.0). B. 粘土積積み上げ, 内耳貼り付け. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 底部内外面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外-黒褐色, 内-淡褐色. F. 口縁部1/8. H. 攪乱溝1.
2	焙烙	A. 口縁部径(32.6). B. 粘土積積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外-黒褐色, 内-明茶褐色. F. 口縁部1/5. H. 攪乱溝1.
3	信楽系 台付灯明受皿	A. 口縁部径(8.4), 器高5.0, 底部径6.1. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデの後白色釉を施す. 底部外面回転鋭ケズリ. D. 白色粒. E. 内外-白灰色. F. 口縁部3/4欠損, 台部完形. H. 攪乱-1, 1区.
4	須恵器 蓋	A. 口縁部径(17.8). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転鋭ケズリ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-暗灰色, 内-明茶褐色. F. 口縁部1/4. H. 攪乱-2, 3区.
5	須恵器 高台付塊	A. 高台部径(9.2). B. ロクロ成形. 高台部貼り付け. C. 体部・高台部内外面回転ナデ. 底部外面回転鋭切り. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-淡灰色. F. 高台部1/2. H. 攪乱-2, 1区.
6	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.6), 器高41, 底部径6.8. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転鋭切り. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外-灰色. F. 1/3. G. 底部内面に焼成後の窠掘記号「十」あり. H. 攪乱-2, 1区.
7	高台付塊	A. 高台部径8.4, B. ロクロ成形. 高台部貼り付け. C. 体部・高台部内外面回転ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明褐色. F. 高台部2/3. G. 酸化焼成. H. 攪乱-1, 2区.
8	柱状砥石	A. 残存長113, 最大幅26, 最大厚2.7. B. 剝削り. C. 各平坦面に整形時の櫛歯の痕を残す. D. 流紋岩. F. 両端部欠損. H. 攪乱溝1.

第V章 久下東遺跡A2・B2・B3・F2地点の調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、古墳時代から平安時代の古代集落跡と鎌倉時代から江戸時代の中近世屋敷跡や寺院を主体とする複合遺跡で、女堀川下流域の女堀川と男堀川に挟まれた標高60m～61mの東西方向に帯状に延びる微高地上に立地している。同じ微高地上の西側には北堀久下塚北遺跡、東側には北堀新田遺



第92図 久下東遺跡A2・B2・B3・F2地点全体図

跡(佐々木2010、松本・的野2010、大熊2013)や北堀新田前遺跡(恋河内・松本2008)、南側には久下前遺跡(恋河内・的野2010、松本・的野2010、恋河内2012、松本2013)が隣接している。これらの遺跡は、文化財保護行政上の埋蔵文化財包蔵地の範囲として、現在の地表面における道路等の区画により便宜的に区分されたもので、学問的には独立した複数の個別完結的な遺跡によって形成された遺跡群ではなく、遺構の分布が連続と連続する同一の大規模遺跡を構成するものと考えられる。

本遺跡の発掘調査は、すでに昭和58年3月に住宅建設に伴って第1地点(増田1985)が、平成5年の6月～8月に同じく住宅建設に伴って第2地点(太田2005)が調査されている(第2図)。今回の本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査は、本遺跡の第Ⅲ次調査にあたり、平成19年のA地点から平成23年のH地点まで継続的に実施され、ほぼ遺跡の全域に近い範囲が調査されている(第3図)。

今回報告する地点は、この中のA2・B2・B3・F2の4地点で、西側の北堀久下塚北遺跡と隣接する包蔵地範囲の西端部分にあたる(第92～94図)。調査区内の地形は、起伏がなく全体に平坦であるが、B2地点の中央部が最も高く、B2地点の南側は男堀川に向かって、北側は女堀川に向かって緩やかに傾斜しながら徐々に低くなっている。

4地点から検出された主な遺構は、竪穴式住居跡70軒、井戸跡7基、土坑51基以上、溝跡6条以上である。調査区内から出土した遺物は、縄文時代中期の土器片(第268図)や石器(第270図)から見られるが、遺構の主な時代は、古代の古墳時代前期から近世の江戸時代後期までのものである。

古墳時代の遺構は、竪穴式住居跡46軒と土坑2基である。これらの時期は、前期から後期の長期にわたり、前期は竪穴式住居跡6軒、中期は竪穴式住居跡4軒、後期は竪穴式住居跡36軒と土坑2基で、東端のF2地点以外のはほぼ全域に広がっている。今回報告する調査区において、前期と中期の住居跡は、それぞれ同時期同士の遺構の重複はなく、住居の軸方向もあまり統一性がないようで、前期の住居跡はB2地点北側と中央部の2箇所に別れて分布し、中期の住居跡はB2地点の中央部にかたまつて分布する特徴が見られる。前期・中期の住居群とも、第87号住居跡と第50号住居跡の一边7m程度の大形住居を伴っている。後期の住居跡は、5世紀後半と6世紀後半以降の時期の住居跡が主体で、B2地点の中央部から南側の範囲に密集した遺構の配置をとり、それぞれ同時期同士の遺構の重複も多く見られる。住居の主軸方向も、5世紀後半の住居跡は東方向、6世紀後半以降の住居跡は北東方向にとるものが多い傾向が窺える。調査区南側には、一边8mを測る大形住居の第82号住居跡がある。

白鳳時代から平安時代の遺構は、竪穴式住居跡22軒と土坑2基である。住居跡の半数以上は、7世紀後半の白鳳時代のもので、8世紀の奈良時代から10世紀前半の平安時代中期まで、住居跡数は減少し、かなり閑散とした様相が窺える。住居の主軸方向は、白鳳時代の住居跡は北東方向に、奈良・平安時代の住居跡は東方向に向いているものが多い。

中近世の遺構は、井戸跡7基・土坑6基以上・溝跡6条以上である。中世は、井戸跡4基と溝跡1条で、遺物は12世紀末の鎌倉時代初期から16世紀の戦国時代までのものが見られるが、主体は15世紀後半以降である。井戸跡は、いずれも生活用のものと思われるが、第2号井戸跡からはほぼ完形の板碑が出土している。調査区南端の第9号溝跡は、長方形ぎみに土地を囲繞する規模の大きな薬研堀の掘で、何か特別な施設があるものと思われる。近世は、井戸跡3基・土坑6基以上・溝跡5条以上で、遺物は江戸時代の17世紀から19世紀まで見られるが、主体は18世紀以降である。生活用の井戸や区画溝のほか、紀年銘焙烙や碓石を伴う土坑や土坑墓などもあり、土地利用の変遷は複雑なようである。



第94図 久下東遺跡A2・B2・B3・F2地点全体図(南側)

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第20(SJ2)号住居跡 (第95図、図版22)

A2地点の調査区南西側に位置する。住居跡の南東側コーナー部付近は南側調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。

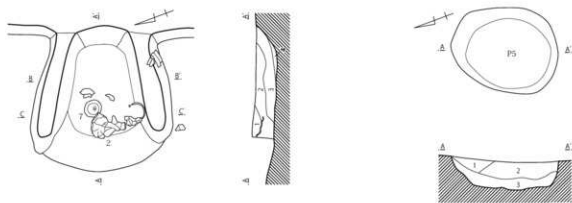
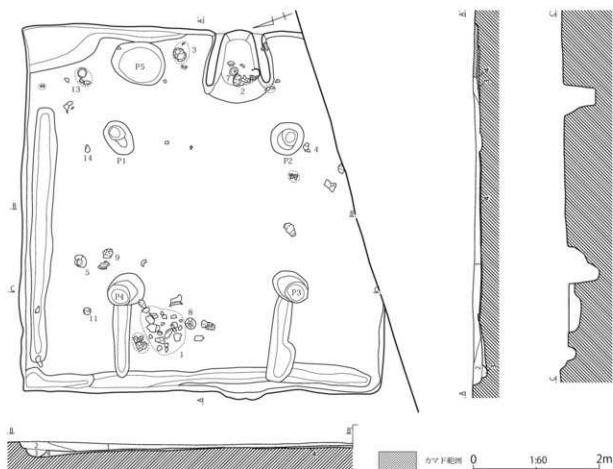
平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、比較的整った方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向が5.75m、南北方向が5.78mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で14cmある。東西両壁下と北側壁下には、幅30cm前後、床面からの深さが10cm前後の壁溝が見られるが、部分的に途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を、全体に薄く埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。いずれも住居の対角線方向に長軸を向けた長さ60cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは50cm程度ある。P3とP4からは、それぞれ西側壁と連結する間仕切溝が掘られている。P5は、その形態から貯蔵穴と考えられるもので、カマドの左側にある。85cm×68cmの楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。底面は広く平坦で、中からは何も出土しなかった。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長115cm、最大幅113cmある。燃焼部は、住居内にあり、住居床面よりも若干低くなっている。燃焼部の中央やや左側寄りの位置には、高坏を伏せた転用支脚が設置されている。上面からは、堯が2個体並んで出土しており、本カマドの堯の掛け方が2個並置式であったことが窺える。本カマドの支脚は、2個並んだ堯の向かって左側の堯の下にしか設置されていないが、これは当地域の2個並置式カマドの一般的な支脚設置のあり方で、B2地点第30号住居跡の2個並置式カマドでも同様の支脚設置が見られる。軸は、灰色粘土ブロックを含む暗灰褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居北西側の床面付近から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器が比較的多く出土している(第96図)。これらの土器は、その出土状態から、本住居で使用していたものを住居の廃絶とともにそのまま遺棄したものと推測される。土器以外では、自然石を利用した磨石(No14)と覆土中から鉄鍬の破片(No15・16)が出土している。

第20(SJ2)号住居跡出土遺物観察表

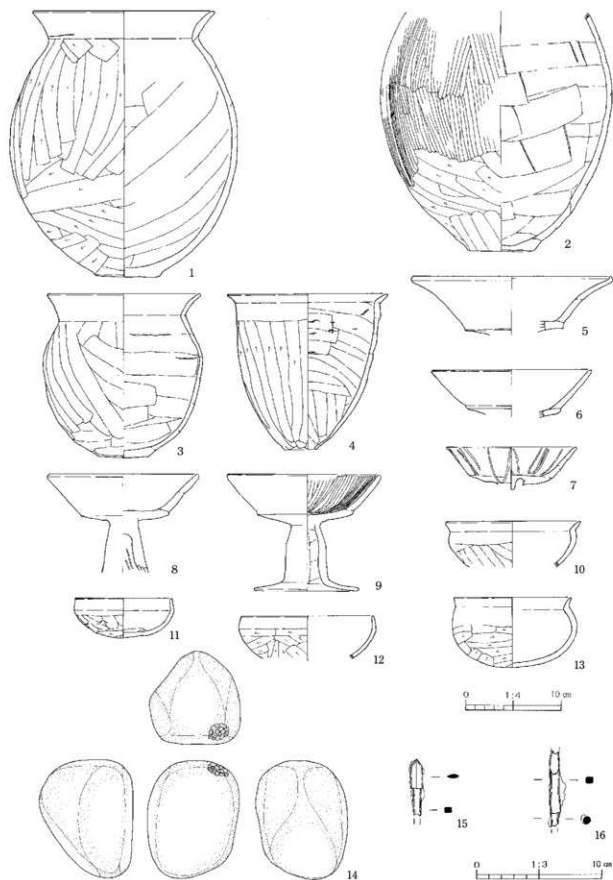
1	長 剛 堯	A. 口縁部径18.9、器高28.2、底部径6.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 床面付近。
2	長 剛 堯	A. 残存高25.3、底部径6.8。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面匏ナデ。底部外面ナデ。D. 角四石、赤色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。H. カマド内。
3	小 形 堯	A. 口縁部径15.8、器高17.4、底部径5.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-灰褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
4	小 形 瓶	A. 口縁部径(16.7)、器高16.4、底部径3.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角四石。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。H. カマド内。
5	有段高坏	A. 口縁部径(20.7)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部2/3。H. 床面付近。
6	高 坏	A. 口縁部径(16.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
7	高 坏	A. 口縁部径(13.5)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、放射状暗文を施す。D. 角四石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部のみ。H. カマド内。



第20(SJ2)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを中量、焼土粒子・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：淡黄褐色土層（淡黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第95図 第20(SJ2)号住居跡



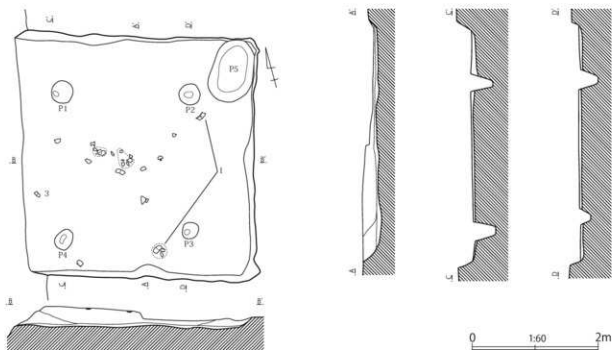
第96図 第20(SJ2)号住居跡出土遺物

8	高 坏	A. 口縁部径(15.5)、残存高10.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 脚端部欠損。H. 床面直上。
9	高 坏	A. 口縁部径15.9。器高12.3、脚端部径11.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
10	坏	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	模 倣 坏	A. 口縁部径10.1、器高4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 角四石。E. 内外-明赤褐色。F. はぼ完形。H. 覆土中。
12	模 倣 坏	A. 口縁部径(13.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径12.2、器高7.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. はぼ完形。H. 覆土中。
14	磨 石	A. 長さ92、幅72、厚さ7.3、重さ738g。C. 自然礫の一部に平坦な摩耗面。D. 砂岩。F. 完形。G. 上面右側に最打痕あり。H. 床面直上。
15	鉄 鉢	A. 長さ45、幅10、厚さ0.4、重さ32g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 身~頸部。H. 覆土中。
16	鉄 鉢	A. 長さ58、幅0.6、厚さ0.6、重さ67g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸~臺部。H. 覆土中。

第21(SJ3)号住居跡 (第97図、図版22)

A2地点の調査区中央やや東側寄りに位置する。住居跡の西側壁を第4号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、比較的整った方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が3.84m、東西方向は3.82mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、比較的浅く床下全面に及んでいる。ピットは、5箇所検出されている。P1~P4は、主柱穴と考えられるもので、住居のはぼ対角線上に配置されている。いずれも長さ30cm前後の円形や楕円形を呈し、床面からの深さはP4が18cmと浅い他はいずれも30cm程度ある。P5は、住居北東コーナー部に位置し、その形態から貯蔵穴と考えられるものである。101cm×68cmの楕円形を呈し、床面からの深さは12cmある。底面は広く平坦で、中

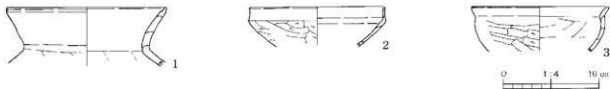


第97図 第21(SJ3)号住居跡

からは何も出土しなかった。

カマドは、住居跡の残存する部分では検出されていないが、P5の位置から推測すると当初住居北側壁にあったものが、第4号溝跡に切られている西側壁に作り替えられた可能性もある。

遺物は、覆土中から古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器の破片が比較的多く出土している(第98図)。これらの土器片は、本住居に直接伴うものではなく、住居廃絶後に周辺から流れ込んだものと考えられる。



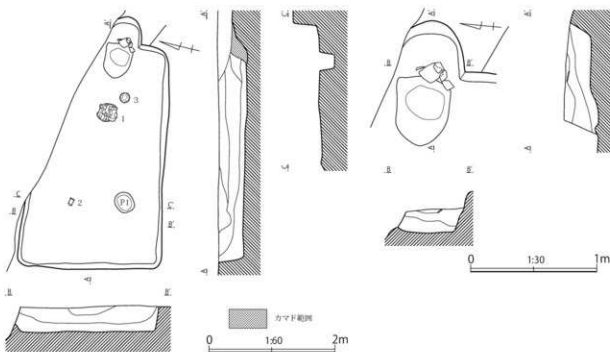
第98図 第21(SJ3)号住居跡出土遺物

第21(SJ3)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(16.6)。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部のみ。H. 覆土中。
2	模倣環	A. 口縁部径(14.2)。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
3	環	A. 口縁部径(14.4)。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。

第22(SJ4)号住居跡(第99図、図版22)

A2地点の調査区中央付近に位置する。住居跡の北側の一部を第4号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

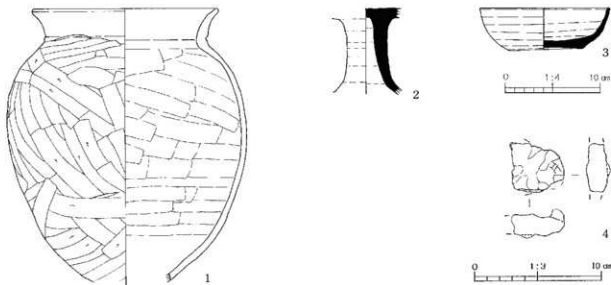


第99図 第22(SJ4)号住居跡

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、ややコーナー部が丸みをもつ長方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向は3.58m、南北方向は2.28mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で42cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を薄く埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態と思われるが、全体に浅く顕著ではない。ピットは、1箇所検出されている。P1は、直径30cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは23cmある。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長100cm、幅は56cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られ、燃焼面は住居の床面より若干低くなっている。袖や煙道部は、残存していなかった。

遺物は、カマド内や覆土中から、奈良時代(8世紀)頃の土師器や須恵器が出土している(第100図)。土器以外では、覆土中から時期不明の埴形滓が1点出土している(No4)。



第100図 第22(SJ4)号住居跡出土遺物

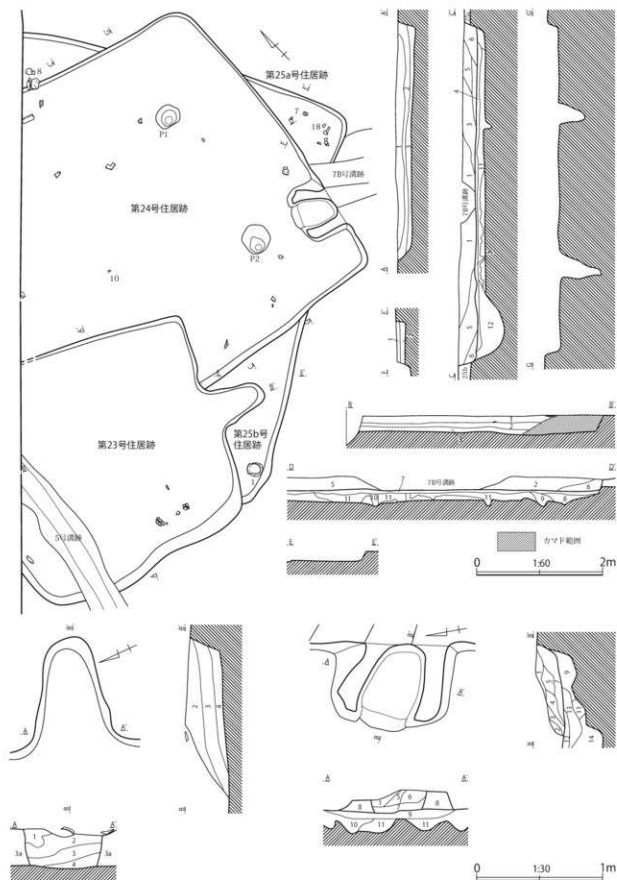
第22(SJ4)号住居跡出土遺物観察表

1	胴張壺	A. 口縁部径19.2、残存高29.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面廻ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
2	須恵器坏	A. 残存高9.0。B. ロクロ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. 脚柱部のみ。H. 覆土中。
3	須恵器坏	A. 口縁部径13.5、器高4.7、底部径7.6。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面切り後外周回転ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
4	埴形鍛冶滓	A. 長さ38、幅4.1、厚さ1.8。C. 鉄分を多く含み、表面は一部ガラス化。F. 破片。G. 磁着あり。H. 覆土中。

第23(SJ1)号住居跡(第101図、図版24)

B2地点の調査区北西隅に位置し、重複する第5号溝跡に切られ、第24号住居跡と第54号住居跡を切っている。住居跡の北西側の一部は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、南側壁と西側壁が歪んでいるが、コーナー部が丸みをもつ方形を基調にしているものと思われる。規模は、南北方向が3.98m、東西方向は3.76mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。各壁下に



第101図 第23～25 b (SJ1～3)号住居跡

第23(SJ1)号住居跡土層説明**<A-A'、B-B'>**

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：黒褐色土層（黄褐色粘土ブロック・ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第24(SJ2)号住居跡土層説明**<C-C'、D-D'>**

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子・マンガン粒を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（灰褐色粘土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量、焼土粒子微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（第3層に準ずる。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を中量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：黒褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：黒褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：黒褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第25 a (SJ3)号住居跡土層説明**<F-F'>**

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

第23(SJ1)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色土層（ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

第24(SJ2)号住居跡カマド土層説明

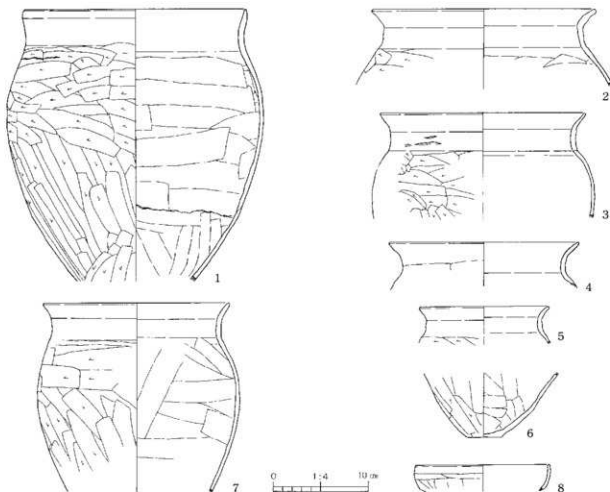
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗灰色土層（灰色粘土粒子を中量、焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗灰色土層（灰色粘土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：灰褐色土層（灰色粘土粒子を主体とし、焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：灰褐色土層（灰色粘土粒子を主体とし、焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：暗褐色土層（灰色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

は、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体に硬化している。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長90cm、幅67cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、燃焼面は住居の床面とほぼ同じである。袖や煙道部は、残存していなかった。

遺物は、覆土中から主に白鳳時代(7世紀後半)と平安時代前期(9世紀)初頭頃の二時期の土器が多

く出土している。おそらく、本住居跡に伴うのは平安時代前期初頭頃の土器群(第102図)で、古い白鳳時代の土器は本住居跡と重複する第54号住居跡からの混入品と推測される。



第102図 第23(SJ1)号住居跡出土遺物

第23(SJ1)号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 罌	A. 口縁部径(23.3)、残存高28.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	長 胴 罌	A. 口縁部径(23.3)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
3	長 胴 罌	A. 口縁部径(21.5)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-にふい橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	長 胴 罌	A. 口縁部径(19.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. カマド内。
5	小形台付罌	A. 口縁部径(13.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
6	長 胴 罌	A. 底部径3.7。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. カマド内。
7	長 胴 罌	A. 口縁部径(19.3)、残存高20.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 3/4。H. カマド内。
8	罌	A. 口縁部径(14.2)、残存高2.7、底部径(13.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。

第24(SJ2)号住居跡(第101図、図版24)

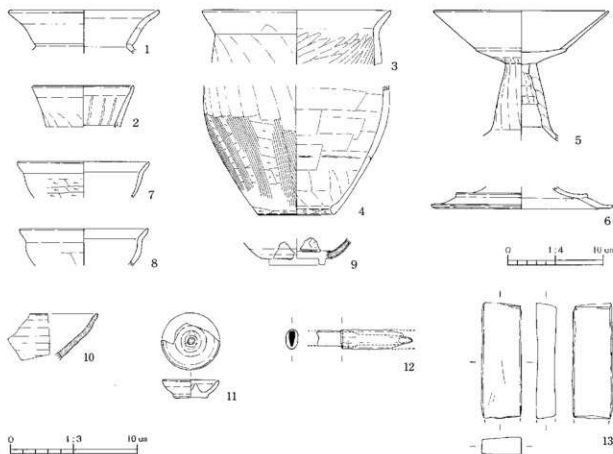
B2地点の調査区北西隅に位置し、重複する第7b号溝跡と第23号住居跡に切られ、第25a号住居

跡を切っている。住居跡の北西側の一部は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が5.60m、東西方向は5.58mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、2カ所検出されている。P1とP2は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の一部と考えられる。いずれも直径40cmの円形を呈し、床面からの深さは42cmと64cmある。

カマドは、住居東側壁の南東コーナー部寄りに位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長70cm、最大幅95cmある。燃烧部は、住居壁面を掘り込まず、住居内に位置する。燃烧面は、住居床面とはほぼ同じ高さである。袖は、灰色粘土ブロックを含む暗灰褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、重複する第7b号溝跡に削平されて、残存していなかった。

遺物は、覆土中から古墳時代中期(5世紀)後半の土器が多く出土している(第103図)。この他、覆土中から中世～近世の遺物(No9～13)も出土しているが、これらの遺物は重複する第7b号溝跡と関係するものであろう。



第103図 第24(SJ2)号住居跡出土遺物

第24(SJ2)号住居跡出土土物観察表

1	単純口縁壺	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	中形直口壺	A. 口縁部径(10.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデの後ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明暗褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 口縁部内面に暗文を施す。H. 覆土中。
3	大形瓶	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
4	大形瓶	A. 底部径(8.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面下半ケズリの後部分的なハケ、上半ナデ。内面罫ナデ。底部内外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-明茶褐色。F. 胴部下半1/4。H. 覆土中。
5	高 杯	A. 口縁部径(18.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
6	有段高杯	A. 脚端部径(19.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 脚端部1/3破片。H. 覆土中。
7	杯	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面罫ナデの後ケズリ、内面丁家ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
8	杯	A. 口縁部径(13.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面丁家ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/6破片。G. 体部外面に黒線あり。H. 覆土中。
9	龍泉窯系青磁碗	B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデの後施釉。D. 白色粒。E. 内外-淡緑色、肉-灰色。F. 体部小破片。G. 内面に草花文風の文様を施す。H. 覆土中。
10	瀬戸窯系碗	B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデの後施釉。D. 白色粒。E. 内外-淡緑色、肉-淡灰色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
11	燗	A. 口縁部径4.6、器高1.5、底部径2.7。B. ロクロ成形。志立彫り付き。C. 口縁部内外面及び底部外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
12	鉄製刀子	A. 残存長7.8。木柄高3.16、幅1.0。刃部幅1.3、厚さ0.4。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 刃部先端欠損。G. 木質の柄の一部を残存。H. 覆土中。
13	板状砥石	A. 残存長9.2、最大幅3.2、厚さ1.6。B. 荒削り。C. 表裏面とも研磨されている。側面には整形時の工具痕(平行条線)が見られる。D. 流紋岩。F. 両側欠損。H. 覆土中。

第25a(SJ3)号住居跡(第101図、図版24)

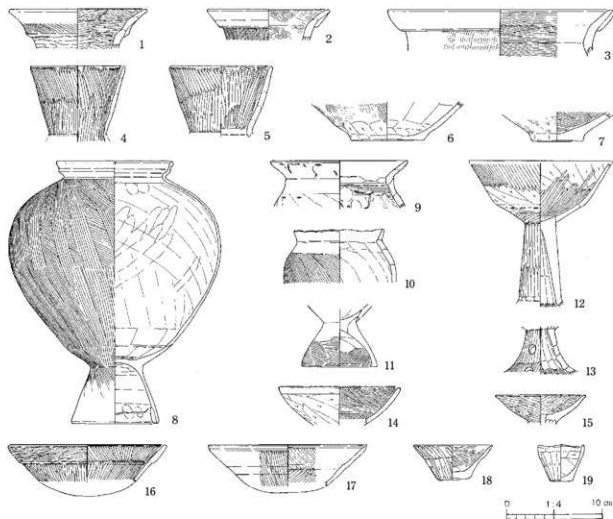
B2地点の調査区北西隅に位置する。重複する第7b号溝跡と第24号住居跡に住居跡の大半を切られているため、遺構の全容は不明である。南西側の第25b号住居跡は、住居跡の平面プランや床面の高さから、本住居跡と同一住居の可能性が高いが、床面直上から平安時代前期(9世紀)初頭頃の完形に近い土師器甕(第105図)が出土していることから、とりあえず別住居として扱った。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈するものと思われる。規模は、北西～南東方向は5.38mまで、北東～南西方向は97cmまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居壁際の覆土中から、古墳時代前期(4世紀)末頃を主体とする土器片が多く出土している(第104図)。

第25a(SJ3)号住居跡出土土物観察表

1	複合口縁壺	A. 口縁部径(14.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後上半ヨコナデ、内面ミガキ。胴部外面ナデ、内面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
2	複合口縁壺	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後ハケ。胴部内外面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡橙褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
3	複合口縁広口壺	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部1/8破片。H. 覆土中。
4	中形直口壺	A. 口縁部径(10.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部下半1/2。H. 覆土中。
5	中形直口壺	A. 口縁部径(11.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
6	壺	A. 底部径7.8。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ハケの後下端ケズリ、内面罫ナデ、外面外面ケズリ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
7	壺	A. 底部径(5.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ハケの後ナデ、内面ハケ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 底部1/3破片。H. 覆土中。



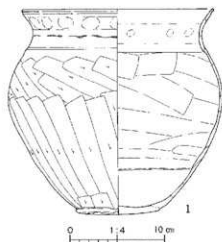
第104図 第25(SJ3)号住居跡出土遺物

8	S字状口縁 台付甕	A. 口縁部径(12.4)、器高27.8、台端部径9.2。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデの後ナデ。台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-暗褐色。F. 1/2。G. 胴部外面採付着。H. 覆土中。
9	甕	A. 口縁部径(14.6)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面兜ナデ、内面ハケの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
10	鉢	A. 口縁部径(9.6)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面兜ナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
11	台付甕	A. 台端部径(8.0)。B. 台部と胴部を粘土経積み上げ後、中央部に粘土塊充填。C. 台部外面ハケの後ナデ、内面ハケの後ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 台部1/4弱。H. 覆土中。
12	高坏	A. 残存高15.2。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ケズリの後ミガキ。胴柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 坏部1/2。脚端部欠損。H. 覆土中。
13	高坏	A. 残存高5.1。B. 粘土経積み上げ。C. 脚柱部外面ミガキ、内面ナデの後下半ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 脚部上半のみ。G. 脚部穿孔は縦2個一組で3方向。H. 覆土中。
14	碗	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土経積み上げ。C. 体部外面ケズリ、内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4弱破片。H. 覆土中。
15	器台	A. 口縁部径(9.6)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。D. 白色粒。E. 内外-明褐色。F. 器受部1/3破片。H. 覆土中。
16	小形浅鉢	A. 口縁部径(16.8)。B. 粘土経積み上げ。C. 内外面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
17	小形浅鉢	A. 口縁部径(17.0)。B. 粘土経積み上げ。C. 内外面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/8破片。H. 覆土中。
18	小形坏	A. 口縁部径8.4、器高3.7、底部径3.5。B. 手捏ね。C. 体部外面ケズリの後雑なミガキ、内面指ナデの後ハケ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
19	小形土器	A. 口縁部径(5.0)、器高3.8、底部径2.4。B. 手捏ね。C. 体部外面ケズリ、内面ナデの後上半ケズリ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

第25b (SJ3)号住居跡 (第101図、図版24)

B2地点の調査区北西隅に位置する。重複する第23号住居跡と第24号住居跡に住居跡の大半を切られているため、遺構の全容は不明である。

調査区内で検出されたのは、住居跡の南東側壁の一部だけであり、住居跡の平面プランや床面の高さは、第25a号住居跡と一致しており、両者は同一住居跡の可能性が高いと思われる。しかしながら、住居の南側コーナー部付近の床面直上から、平安時代前期(9世紀)初頭頃の土師器甕(第105図No1)が出土していることから、一応別の住居跡としたものである。



第105図 第25b (SJ3)号住居跡出土遺物

第25b (SJ3)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(20.2)、器高21.7、底部径8.7。B. 粘土練積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面逆ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡褐色。F. 口縁部1/2欠損。G. 内外面に煤状の黒色附着物あり。胴部外面に黒灰あり。H. 床面直上。
---	---	---

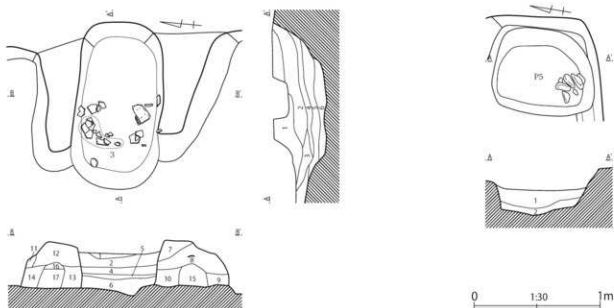
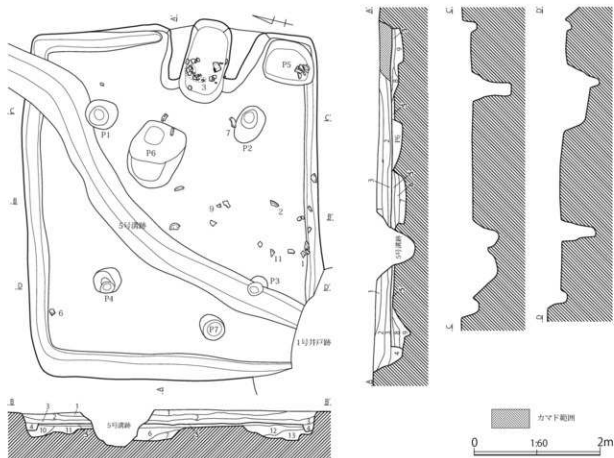
第26 (SJ4)号住居跡 (第106図、図版25)

B2地点の調査区北西側に位置し、重複する第5号溝跡と第1号井戸跡に切られている。遺構の遺存状態は比較的良好である。

平面形は、比較的整った長方形を呈している。規模は、東西方向が5.65m、南北方向が4.72mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。各壁下には、幅20cm前後、床面からの深さ10cm程度の壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、7箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。長さ45cm～60cmの楕円形を呈し、床面からの深さは40cm～60cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の南東側コーナー部に位置する。68cm×82cmの台形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは20cmある。底面直上から、編物石風に棒状の川原石が5個集石された状態で出土している。P6は、やや規模の大きな土坑状の形態で、住居中央部に位置しており、おそらく床下土坑の可能性が高いと思われる。P7は、西側壁際に位置する。直径35cmの円形を呈し、床面からの深さは28cmある。その位置から、入口部施設の可能性もある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対して若干斜めに付設されている。規模は、全長132cm、最大幅162cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。燃焼面は、床面よりもやや低く、奥壁は緩やかに傾斜しながら立ち上がっている。袖は、灰色粘土ブロックを均一に含む暗灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)を主体とする土器の破片が多く出土している(第107図)。



第106図 第26(SJ4)号住居跡

第26(SJ4)号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、黄褐色粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：淡黄褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第13層：淡黄褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第26(SJ4)号住居跡カマド土層説明

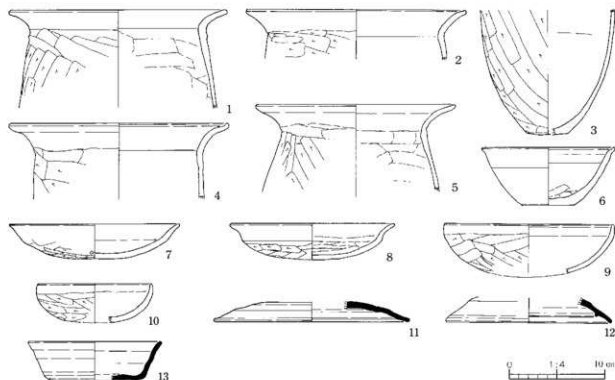
- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、灰褐色粘土粒子・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：灰黄褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：淡黄褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第15層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第16層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第17層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第26(SJ4)号住居跡P5土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第26a(SJ4)号住居跡出土遺物観察表

1	長 副 夾	A. 口縁部径(23.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面鋭ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-ぶい橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 床面付近。
2	長 副 夾	A. 口縁部径(23.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-ぶい橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
3	長 副 夾	A. 底部径(4.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-黄褐色、内-灰黄褐色。F. 胴部下半1/5。H. カマド内。
4	長 副 夾	A. 口縁部径(22.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒。E. 内外-ぶい橙褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
5	長 副 夾	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面鋭ナデ。D. 角四石、黒色粒。E. 内外-ぶい褐色。F. 口縁部2/3。H. カマド内。
6	坏	A. 口縁部径(13.9)。器高6.1。底部径(5.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ。内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-ぶい赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
7	皿	A. 口縁部径(17.7)。器高3.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. 1/3。H. 床面付近。
8	皿	A. 口縁部径(17.5)。器高3.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角四石、黒色粒。E. 外-橙褐色、内-ぶい橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径(14.0)。残存高5.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. 床面付近。
10	坏	A. 口縁部径(11.8)。器高4.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 外-橙褐色、内-ぶい橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
11	須 忠 蓋	A. 口縁部径(17.7)。B. ロコロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-青灰色、内-暗青灰色。F. 破片。H. 床面付近。
12	須 忠 蓋	A. 口縁部径(17.5)。B. ロコロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黄灰色。F. 口縁部1/5破片。H. 覆土中。
13	須 忠 坏	A. 口縁部径(14.0)。器高4.1。B. ロコロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。



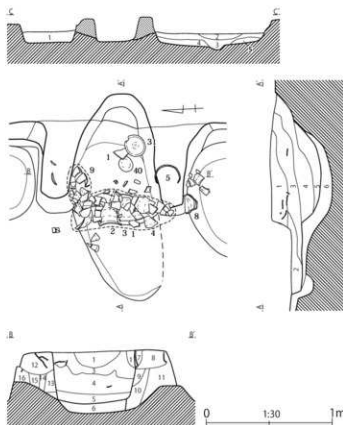
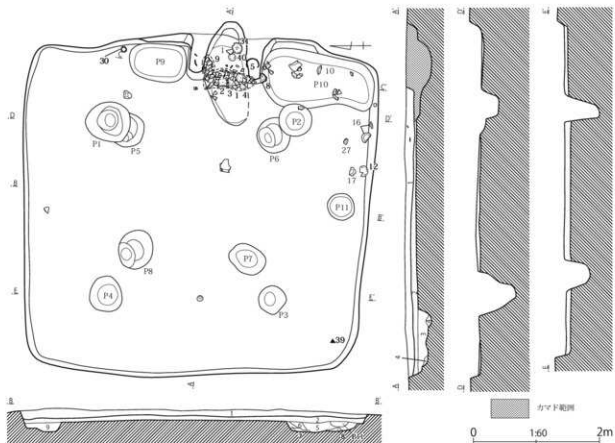
第107図 第26(SJ4)号住居跡出土遺物

第27(SJ5)号住居跡 (第108図、図版25)

B2地点の調査区北西側に位置する。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が5.44m、南北方向が5.66mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、第1層下と第2層下の2面がある。第1層下の床面は、第2層を住居全面に平坦に埋め戻した貼床式である。第2層下の床面は、住居掘り方の周溝状に掘り窪めた部分を埋め戻した貼床式であるが、住居中央部は地山を直接床面になっている。ピットは、11箇所検出されているが、P5～P8は、第2層下の住居掘り方から検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。形態は、45cm～70cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは32cm～60cmある。住居掘り方から検出されたP5～P8は、第2層下の床面形成時の主柱穴と考えられる。P9とP10は、カマドの両側にあり、貯蔵穴と考えられている。いずれも規模の大きな土坑状の形態で、床面からの深さも20cm程度でほぼ同じである。P11は、住居南側壁際の中央付近に位置する。形態は、直径44cmの円形を呈し、床面からの深さは10cmある。その位置や形態から見て、入口部の施設の可能性も考えられる。

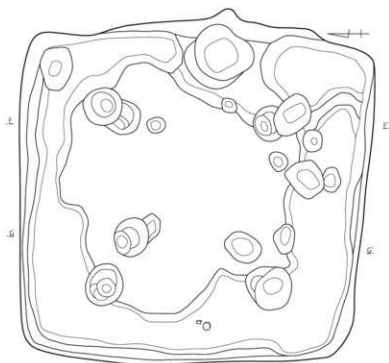
カマドは、住居東側壁の中央付近に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長164cm、最大幅136cmある。燃焼部は住居の壁を掘り込まずに住居内にあり、燃焼面は住居床面よりも一段深くなっている。袖は、灰褐色粘土ブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。袖の芯には、土師器の甕を使用しているが、床面上に甕を伏せる一般的な手法ではなく、袖の中心に入れ込む手法は比較的珍しい補強の形態である。焚口部の天井も土師器の甕によって補強されて



第27(SJ5)号住居跡土層説明

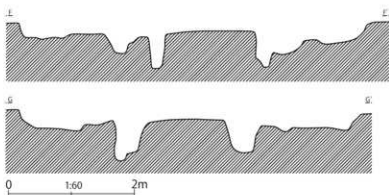
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第108図 第27(SJ5)号住居跡



第27(SJ5)号住居跡貯蔵穴(P9・P10)土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量、灰褐色粘土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、灰褐色粘土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第27(SJ5)号住居跡カマド土層説明

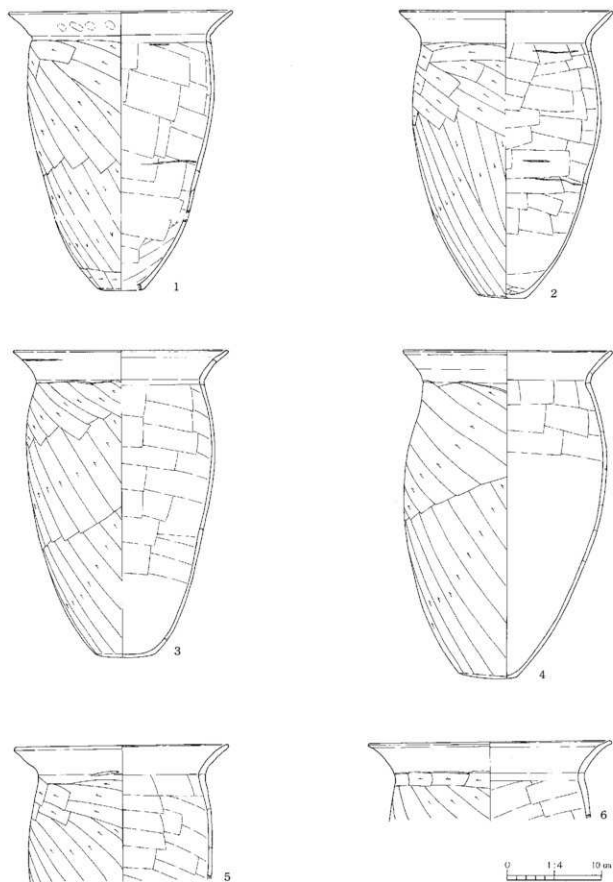
- 第1層：黄褐色土層（焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（灰褐色粘土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：淡黄褐色土層（焼土ブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（灰褐色粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第109図 第27(SJ5)号住居跡掘り方

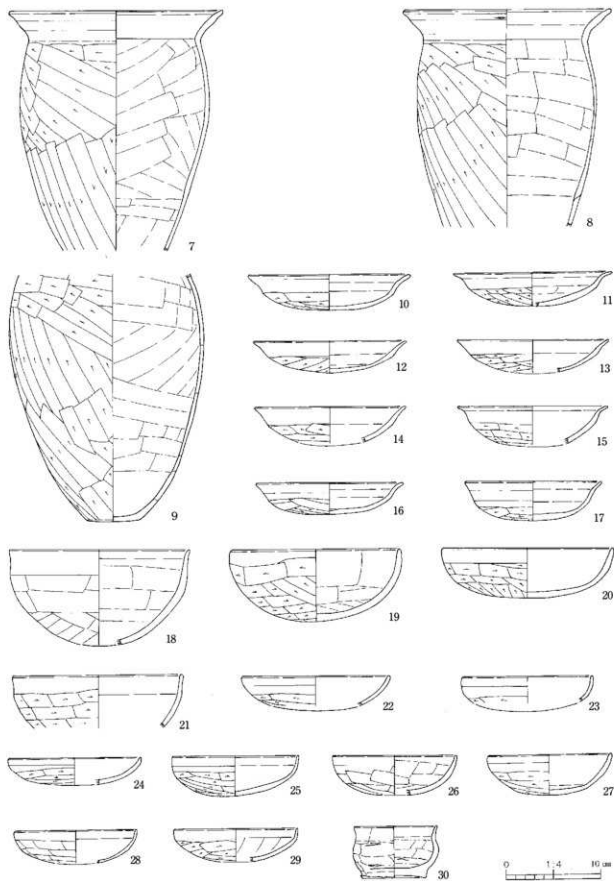
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：黄褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

いたようで、焚口部から複数の土師器甕が入れ子状に連結した状態で出土している。煙道部は、住居壁外に22cmほど延びて削平されている。

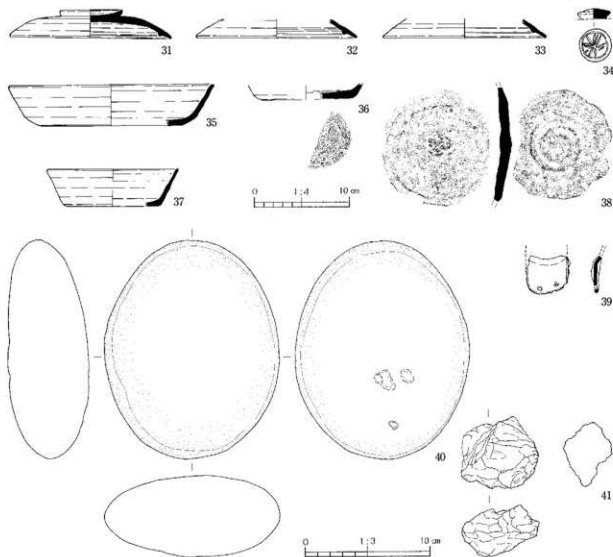
遺物は、カマド内や貯蔵穴上面から、白鳳時代末～奈良時代初頭（7世紀末～8世紀初頭）頃の土師器や須臾器が多く出土している（第110～112図）。



第110図 第27(SJ5)号住居跡出土遺物(1)



第111图 第27(SJ5)号住居跡出土遺物(2)



第112図 第27(SJ5)号住居跡出土遺物(3)

第27(SJ5)号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(236)、推定高296、底部径(50)、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、D. 白色粒、黒色粒、角閃石、E. 内外-橙褐色、F. 2/3、G. 胴部外面煤附着、H. カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径 22.6、器高 30.4、底部径 5.4、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、黒色粒、角閃石、E. 内外-明赤褐色、F. ほぼ完形、G. 胴部外面煤附着、H. カマド内。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径 22.2、器高 32.5、底部径 6.2、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、底部外面ケズリ、D. 角閃石、白色粒、E. 内外-明赤褐色、F. ほぼ完形、G. 胴部外面煤附着、H. カマド内。
4	長 胴 甕	A. 口縁部径(22.0)、器高 34.9、底部径 6.3、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、底部外面ケズリ、D. 角閃石、白色粒、黒色粒、E. 内外-にぶい赤褐色、F. 2/3、H. カマド内。
5	長 胴 甕	A. 口縁部径 22.6、残存高 14.2、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、D. 白色粒、角閃石、E. 内外-にぶい赤褐色、F. 上半 3/4、H. カマド内。
6	長 胴 甕	A. 口縁部径(25.8)、残存高 8.2、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、D. 角閃石、片岩粒、白色粒、E. 内外-橙褐色、F. 口縁部 1/5、H. 覆土中。
7	長 胴 甕	A. 口縁部径 22.6、残存高 25.5、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、D. 白色粒、黒色粒、角閃石、E. 内外-橙褐色、F. 上半のみ、G. 胴部外面煤附着、H. カマド内。
8	長 胴 甕	A. 口縁部径 22.1、残存高 22.9、B. 粘土継積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、D. 白色粒、角閃石、黒色粒、E. 内外-明赤褐色、F. 上半のみ、G. 内外面に黒煤あり、カマド右袖の補強に転用、H. カマド内。
9	長 胴 甕	A. 残存高 26.0、底部径 5.7、B. 粘土継積み上げ、C. 胴部外面ケズリ、内面寛ナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、角閃石、石英、E. 外-橙褐色、内-明赤褐色、F. 下半のみ、G. 胴部外面煤附着、H. カマド内。

10	皿	A. 口縁径17.2, 器高3.7. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 白色粒, 角閃石. E. 外-にぶい橙褐色, 内-橙褐色. F. 3/4. H. P 10内.
11	皿	A. 口縁径(16.8), 器高3.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-にぶい黄橙褐色. F. 1/5. G. 体部外面に黒斑あり. H. 覆土中.
12	皿	A. 口縁径16.2, 器高3.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 黒色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 4/5. H. 覆土中.
13	皿	A. 口縁径16.0, 残存高3.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 外-にぶい黄橙褐色, 内-にぶい褐色. F. 1/2. H. カマド内.
14	皿	A. 口縁径(16.0), 残存高3.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 破片. H. P 10内.
15	皿	A. 口縁径(16.0), 残存高4.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 黒色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 破片. H. 覆土中.
16	皿	A. 口縁径15.6, 器高3.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒, 雲母. E. 内外-橙褐色. F. 完形. G. 体部外面に黒斑あり. H. 覆土中.
17	皿	A. 口縁径14.4, 器高4.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 角閃石. E. 外-にぶい橙褐色, 内-にぶい褐色. F. 4/5. G. 体部外面に黒斑あり. H. 覆土中.
18	鉢	A. 口縁径(19.0), 残存高10.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 黒色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
19	坏	A. 口縁径(17.8), 器高7.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 外-にぶい橙褐色, 内-橙褐色. F. 1/4. G. 体部外面に煤付着. H. P 10内.
20	坏	A. 口縁径(18.2), 器高5.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
21	坏	A. 口縁径(18.0), 残存高5.5. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 破片. H. 掘り方埋土内.
22	坏	A. 口縁径(15.8), 残存高3.1. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 白色粒, 角閃石. E. 内外-橙褐色. F. 破片. H. 覆土中.
23	坏	A. 口縁径(13.8), 残存高2.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
24	坏	A. 口縁径(14.0), 残存高2.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒, 黒色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
25	坏	A. 口縁径(13.4), 器高4.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 角閃石, 黒色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/2. G. 体部外面に煤付着. H. 覆土中.
26	坏	A. 口縁径(13.2), 残存高4.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒, 角閃石. E. 内外-橙褐色. F. 1/5. G. 器面摩耗著しい. H. P 10内.
27	坏	A. 口縁径13.2, 器高4.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 赤色粒, 角閃石. E. 内外-にぶい黄橙褐色. F. はほぼ完形. G. 体部外面に黒斑あり. H. 覆土中.
28	坏	A. 口縁径(13.0), 残存高3.5. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
29	坏	A. 口縁径13.2, 残存高3.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 角閃石. E. 内外-橙褐色. F. 1/3. H. 覆土中.
30	小形鉢	A. 口縁径8.7, 器高5.4, 底部径6.9. B. 粘土継積み上げ. C. 内外面ヨコナデ. 胴部内外面ナデ. 底部外面丁字ナデ. D. 白色粒, 角閃石. E. 内外-にぶい橙褐色. F. はほぼ完形. G. 外面に黒斑あり. H. 覆土中.
31	須恵器蓋	A. 口縁径17.0, 器高3.0. B. ロクロ成形. リング状掴み貼り付け. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転ケズリ. 胴部外面回転ナデ. D. 黒色粒. E. 内外-灰色. F. 完形. H. カマド内.
32	須恵器蓋	A. 口縁径(17.0), 残存高1.9. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転ケズリ. D. 雲母, 白色粒. E. 外-暗灰黄色, 内-灰黄色. F. 破片. G. やや還元不良. H. 覆土中.
33	須恵器蓋	A. 口縁径(17.2), 残存高2.0. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. D. 白色粒. E. 内外-黄灰色. F. 破片. H. 覆土中.
34	須恵器蓋	A. 胴径3.5. B. 貼り付け. C. 外面回転ナデ. D. 白色粒. E. 内外-灰色. F. 胴のみ. G. 天井部との接着面に放射状沈澱を施す. H. カマド内.
35	須恵器坏	A. 口縁径(21.8), 器高4.3, 底部径(14.8). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転ケズリ. D. 白色粒, 白色針状物質. E. 内外-灰色. F. 破片. H. 掘り方内.
36	須恵器坏	A. 底部径(9.8). B. ロクロ成形. C. 体部内外面回転ナデ. 底部外面回転ケズリ. D. 白色粒. E. 外-黄灰色, 内-灰色. F. 底部1/2. H. 覆土中.
37	須恵器坏	A. 口縁径(14.0), 器高3.9, 底部径(9.8). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転ケズリ. D. 白色粒, 黒色粒, 角閃石. E. 外-灰褐色, 内-灰色. F. 破片. H. 覆土中.
38	須恵器瓶	A. 残存高12.0. B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形. C. 胴部内外面回転ナデ. D. 赤色粒, 角閃石, 片岩粒, 白色針状物質. E. 外-褐色, 内-明赤褐色. F. 閉塞部のみ. G. 還元不良. H. 覆土中.
39	小札	A. 残存長3.1, 幅3.3, 厚さ0.2, 重さ7.1g. B. 鍛造. D. 鉄製. F. 破片. H. 覆土中.
40	磨石	A. 長さ17.1, 幅13.7, 厚さ6.4, 重さ1.926g. D. 砂岩. F. 完形. G. 楕円形状の自然礫を素材とする. 敲→磨. 表. 裏面中央に弱い磨耗痕が認められ, 裏面中央は煤付着により黒褐色に変色. H. カマド内.
41	椀形鍛冶滓	A. 長さ5.7, 幅6.0, 厚さ3.8, 重さ113.1g. H. ビット内.

第28(SJ6)号住居跡(第113図、図版25)

B2地点の調査区北西側に位置し、重複する第7b号溝跡と近世土坑墓に切られ、第29号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北西～南東方向が4.28m、北東～南西方向が5.04mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、各床面からの深さは最高で46cmある。各壁下には、幅25cmの比較的均一な幅で、床面からの深さ10cm程度の壁溝が、途切れずに巡っている。床下の掘り方はなく、床面は地山ローム土を直接削って平坦にした直床式のようなものである。住居北東側壁際の中央やや北寄りの床面上には、住居の長軸方向に平行して北東～南西方向に直線的に延びる幅30cm・高さ3cm程度の土堤が2箇所見られる。ピットは、5箇所検出されている。P1は、住居北側コーナー部に位置する。44cm×40cmの円形を呈し、床面からの深さは28cmある。位置的には貯蔵穴であるが、中には下半を欠いた土師器の胴張甕が、口縁部を床面より上に出すようにして、水平に埋設されている。P2～P5は、住居南東側壁際中央部にかたまっている。規模や形態は様々であるが、いずれも浅いものである。住居東側コーナー部付近の床下から、床下土坑が1基検出されている。形態は、200cm×150cmの楕円形を呈し、床面からの深さは16cmある。覆土は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土の単一層で埋められている。

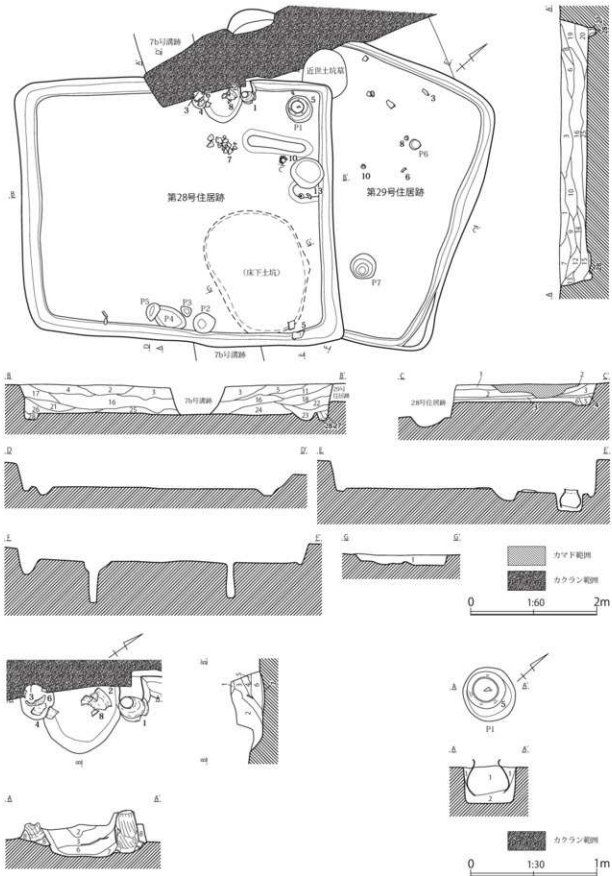
カマドは、住居北西側壁の中央やや北側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されていたようである。カマドの北西側半分は、攪乱溝によって破壊されているため、カマドの全容は不明である。規模は、長さが72cmまで、幅は105cmまで測れる。燃焼部は、住居内にあるのか、壁を掘り込んでいるのか不明であるが、燃焼面は住居床面よりも一段深くなっている。燃焼部内からは、土師器の甕の破片が出土しているが、カマドに掛けられていたものかは不明である。袖は、灰色粘土ブロックを含む灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築し、両袖の先端部には土師器の長胴甕を伏せて補強している。

遺物は、カマド周辺や住居壁際の床面付近から、白鳳時代(7世紀後半)の土器の破片が比較的多く出土している(第114図)。

第28(SJ6)号住居跡土層説明

<A-A'、B-B'>

- 第1層：明褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第4層：暗褐色土層(第3層に準ずる。)
- 第5層：暗褐色土層(第2層に準ずる。)
- 第6層：明褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第7層：暗褐色土層(第2層に準ずる。)
- 第8層：暗褐色土層(ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第9層：明褐色土層(第1層に準ずる。)
- 第10層：明褐色土層(第6層に準ずる。)
- 第11層：暗褐色土層(第2層に準ずる。)
- 第12層：暗褐色土層(第2層に準ずる。)
- 第13層：明褐色土層(ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第14層：明褐色土層(第1層に準ずる。)
- 第15層：明褐色土層(第6層に準ずる。)
- 第16層：明褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性・しまりともない。)



第113図 第28・29(SJ6・7)号住居跡

- 第17層：暗褐色土層（第3層に準ずる。）
 第18層：暗褐色土層（第3層に準ずる。）
 第19層：暗褐色土層（第6層に準ずる。）
 第20層：暗褐色土層（第13層に準ずる。）
 第21層：明褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第22層：暗褐色土層（第2層に準ずる。）
 第23層：暗褐色土層（第3層に準ずる。）
 第24層：明褐色土層（第1層に準ずる。）
 第25層：明褐色土層（第1層に準ずる。）
 第26層：明褐色土層（第6層に準ずる。）
 第27層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第28層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）

第29(SJ7)号住居跡土層説明

<C-C>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第28(SJ6)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（灰褐色粘土粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗灰褐色土層（灰褐色粘土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗灰褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を主体とする。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗灰褐色土層（焼土粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第28(SJ6)号住居跡P1土層説明

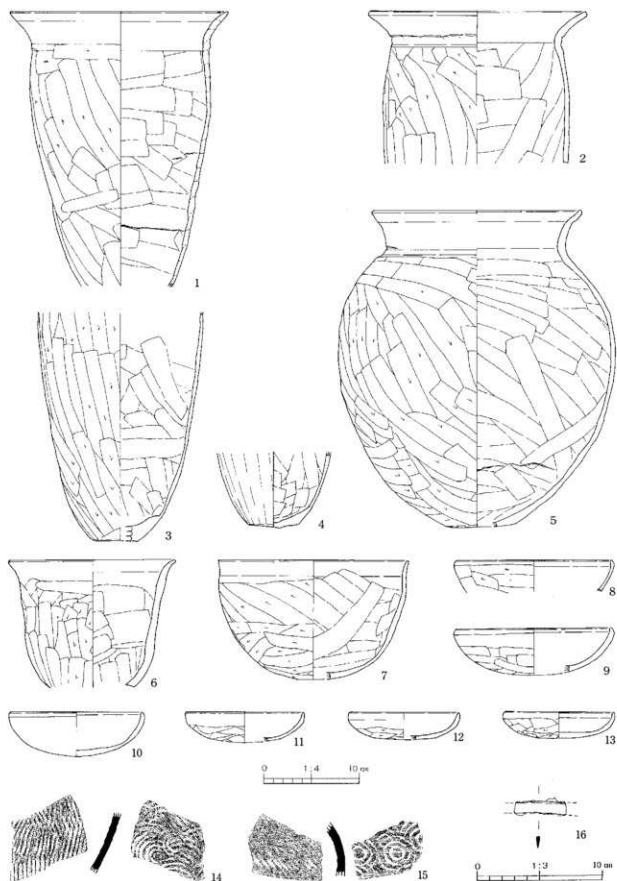
- 第1層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、白色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（白色粘土ブロックを中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第28(SJ6)号住居跡床下土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第28(SJ6)号住居跡出土物観察表

1	長 剛 夾	A. 口縁部径 229、残存高 290。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 5/6。H. カマド内。
2	長 剛 夾	A. 口縁部径(226)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 上半1/4。H. カマド内。
3	長 剛 夾	A. 残存高 241、底部径(46)。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. チャート、赤色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. カマド内。
4	長 剛 夾	A. 残存高 79、底部径(52)。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。H. カマド内。
5	胴 張 夾	A. 口縁部径 220、器高 336、底部径 70。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-灰褐色。F. 5/6。H. P1内、東側コーナー部床面付近。
6	小 形 鉢	A. 口縁部径 173、残存高 134。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角四石、チャート、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 3/4。H. カマド内。
7	大 形 鉢	A. 口縁部径 198、器高 125。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. チャート、白色粒。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 4/5。H. 床面付近。
8	坏	A. 口縁部径(162)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. チャート、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. カマド内。
9	坏	A. 口縁部径(163)、残存高 47。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. カマド内。
10	坏	A. 口縁部径(136)、器高 47。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 床面直上。



第114図 第28(SJ6)号住居跡出土遺物

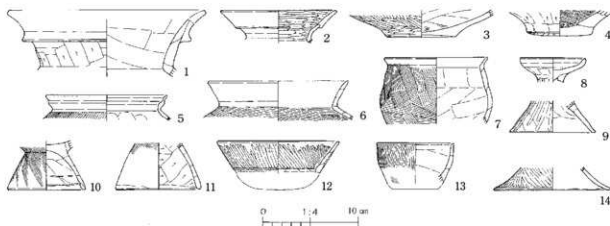
11	坏	A. 口縁部径(123)、残存高31。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. チャート、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径(114)、残存高28。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/6。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径113、器高29。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒。E. 外-橙褐色、内-ぶい黄橙褐色。F. 3/5。H. 床面付近。
14	須 忠 器 壺	B. 粘土総積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
15	須 忠 器 壺	B. 粘土総積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)の後ナデ、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黄灰色、内-灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
16	鉄製 刀子	A. 残存長42、幅09、厚さ02、重さ31g。B. 鍛造。C. 刃部-背部とも直線をなす。D. 鉄製。F. 破片。H. 覆土中。

第29(SJ7)号住居跡(第113図、図版26)

B2地点の調査区北西側に位置し、重複する攪乱溝・近世土坑墓・第28号住居跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸み強い方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、南北方向が4.57m、東西方向は4.14mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。残存する各壁下には、幅15cm前後、床面からの深さ5cm程度の壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、浅く床下全面に及ぶ形態である。ピットは、P6とP7の2箇所が検出されている。P6とP7は、4本支柱穴の一部と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。直径20cmと40cmの円形を呈し、床面からの深さは55cmと64cmある。炬は、住居跡の残存する範囲内からは検出されなかった。

遺物は、床面付近や覆土中から、古墳時代前期(4世紀)末頃の土器の破片が、少量出土しただけである(第115図)。



第115図 第29(SJ7)号住居跡出土遺物

第29(SJ7)号住居跡出土土器観察表

1	複合口縁壺	A. 残存高60。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面匏ナデ。胴部外面ヨコナデの後縁ナケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/2破片。H. 覆土中。
2	二重口縁壺	A. 口縁部径(124)。B. 粘土総積み上げ。C. 口縁部外面不明、内面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
3	壺	A. 底部径(74)。B. 粘土総積み上げ。C. 胴部外面ミガキ、内面ハケの後匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-淡褐色。F. 底部1/2弱。H. 覆土中。
4	壺	A. 底部径(70)。B. 粘土総積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ハケ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部1/4破片。H. 覆土中。

5	S字状口縁 台付 甕	A. 口縁部径(12.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗灰褐色。F. 口縁部 1/6 破片。H. 覆土中。
6	甕	A. 口縁部径(15.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡黄灰色、内-淡黄褐色。F. 口縁部 1/4。H. 床面付近。
7	鉢	A. 口縁部径(11.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-明茶褐色。F. 上半 1/4 弱。H. 覆土中。
8	器 台	A. 口縁部径 7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-暗茶褐色。F. 器受部のみ。G. 器受部の中央は穿孔されていない。外外面係附着。H. 覆土中。
9	器 台	A. 脚端部径(9.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 脚端部 1/3 破片。H. 覆土中。
10	S字状口縁 台付 甕	A. 台端部径 8.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 台部のみ。H. 覆土中。
11	台付 甕	A. 台端部径(9.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後上半ハケ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 台部 1/4。H. 床面付近。
12	小形浅鉢	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ヨコナデの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部 1/5 破片。H. 覆土中。
13	小形 坏	A. 口縁部径(8.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-茶褐色、内-暗茶褐色。F. 口縁部 1/2 弱。H. 覆土中。
14	高 坏	A. 脚端部径(12.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ミガキ、内面丁字ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-黒褐色。F. 脚端部 1/4 破片。H. 覆土中。

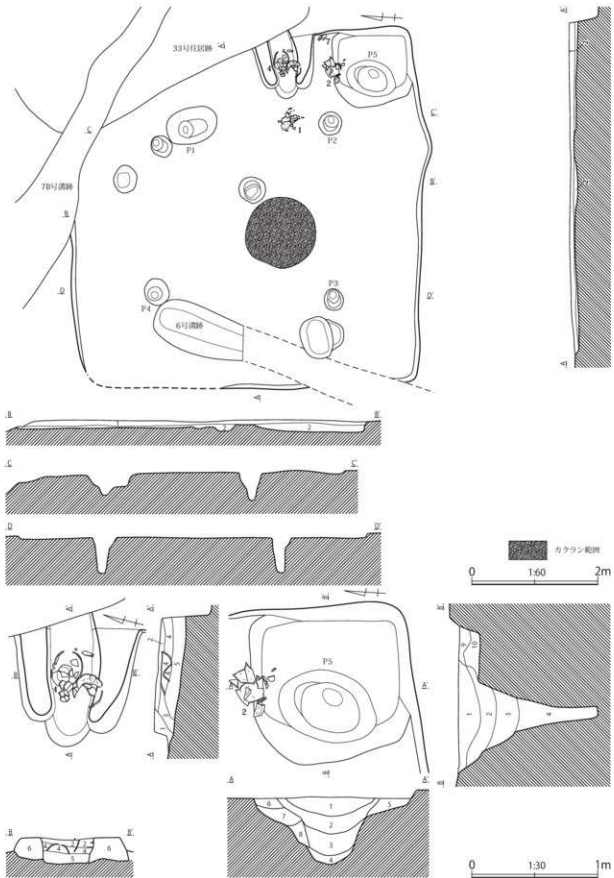
第30(SJ8)号住居跡 (第116図、図版26)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置し、重複する第6号溝跡・第7b号溝跡・第33号住居跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が5.60m、南北方向が5.62mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは8cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、9箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、ほぼ住居の対角線上に配置されている。直径40cmの円形を呈し、床面からの深さは32cm～55cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。122cm×128cmの隅丸長方形を呈し、西側に楕円形を呈する深いピット状の掘り込みが見られる。土層観察の結果では、このピットが隅丸長方形の上半部を切っているが、同様の構造のものは第64号住居跡でも見られることから、P5の貯蔵穴と関係するものと思われる。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。東側を第33号住居跡に切られているため、カマドの全容は不明である。規模は、長さは112cmまで、幅は105cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られ、燃焼面は住居床面よりも一段低くなっている。燃焼部中央付近からは、土師器甕が2個並んだ状態で出土しており、本カマドの甕の掛け方が2個並置式であったことが窺える。支脚は、高坏を伏せた転用支脚であるが、A2地点第20号住居跡の2個並置式カマドと同様に、左側の甕の下だけに設置されている。袖は、灰色粘土ブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。

遺物は、カマド内やカマド周辺の床面付近から、古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器が多く出土している(第117図)。



第116図 第30(SJ8)号住居跡

第30(SJ8)号住居跡土層説明

第1層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第30(SJ8)号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：黒褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第30(SJ8)号住居跡P5土層説明

第1層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・灰色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

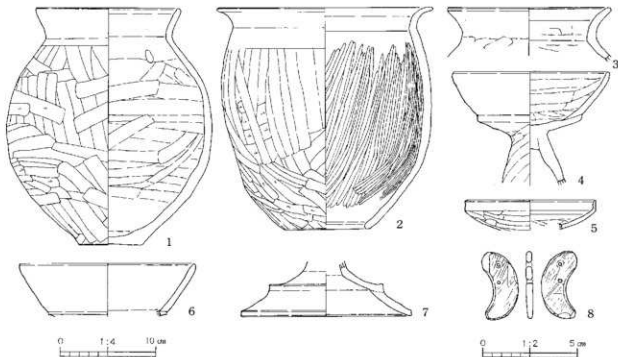
第6層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第117図 第30(SJ8)号住居跡出土遺物

第30(SJ8)号住居跡出土遺物観察表

1	長 刷 甕	A. 口縁部径(15.0)、器高25.0、底部径6.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面瓦ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
2	大 形 甕	A. 口縁部径(22.4)、器高23.4、底部径(8.9)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後ミガキ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径(17.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙褐色、内-明赤褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
4	高 杯	A. 口縁部径16.2、残存高12.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部・杯部内外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-赤褐色、内-帯褐色。F. 4/5。H. カマド内。
5	模 倣 杯	A. 口縁部径(13.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙褐色、内-にぶい黄褐色。F. 1/4。H. 覆土中。

6	高 坏	A. 口縁部径18.2。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 坏部1/3破片。H. カマド内。
7	有段高坏	A. 脚端部径17.6。B. 粘土経積み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚部1/4。H. 覆土中。
8	石製模造品 (勾玉)	A. 長さ3.6、幅1.3、厚さ0.4。B. 板状に剥離後、外形荒削り。C. 表面面研磨。D. 緑色片岩。F. 完形。G. 穿孔は縦2箇所。H. 覆土中。

第31(SJ31)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)。

第32(SJ32)号住居跡 (第118図、図版26)

B2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第86号住居跡と第87号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつやや台形ぎみの長方形を呈している。規模は、東西方向が3.02m、南北方向が2.56m～3.12mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックやローム粒子を多量に含んだ暗褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、4箇所検出されている。P1は、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置することから、貯蔵穴の可能性もある。42cm×34cmの楕円形を呈し、床面からの深さは10cmある。P2は、住居北側壁際付近に位置する。直径40cmの円形を呈し、床面からの深さは14cmある。P3は、住居南側壁際中央付近に位置する。直径40cmの円形を呈し、床面からの深さは14cmある。P4は、住居北西側コーナー部に位置する。直径28cmの円形を呈し、床面からの深さは22cmある。住居中央部の床下からは、床下土坑が1基検出されている。平面形は、直径120cmの円形を呈し、床面からの深さは58cmある。壁は、オーバーハンクしており、底面は広い緩やかな起伏が見られる。覆土は、ロームブロックやローム粒子を含む類似した褐色土で水平に埋められており、上面には貼床が施されている。

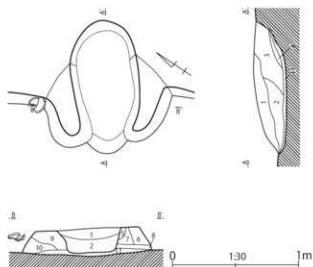
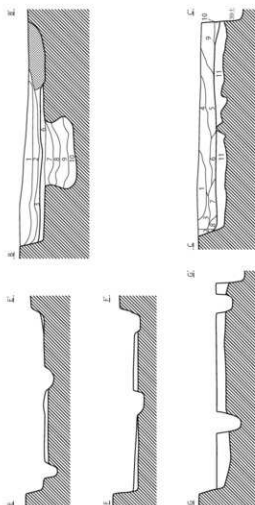
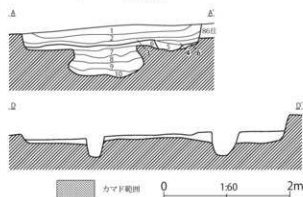
カマドは、住居東側壁の中央の位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長106cm、最大幅102cmある。燃烧部は、住居の壁を55cm程度掘り込んでおり、燃烧面は住居の床面よりも若干低く、ほぼ平坦に作られている。袖は、ロームブロックとローム粒子を含む暗褐色土や褐色土を壁に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、覆土中から白鳳時代(7世紀中頃)を主体とする土器の破片が、少量出土しただけである。

第33(SJ9)号住居跡 (第120図、図版27)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置し、重複する第7b号溝跡に切られ、第30号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.82m、北西～南東方向が5.08mある。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で50cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態であるが、住居東側のカマド周辺は掘り窪めないで浅くなっている。ピットは、4箇所検出されている。P1とP2は、形態や深さが同じで、ほぼ住居の対角線上に位置することから、4本主柱穴の一部の可能性も考えられる。柱穴の見られない他の2本の主柱は、床面に直接据えられ



第118図 第32(SJ32)・86(SJ86)号住居跡

第32(SJ32)号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第9層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第10層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第86(SJ86)号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を中量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第32(SJ32)号住居跡カマド土層説明

第1層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（焼土粒子・黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

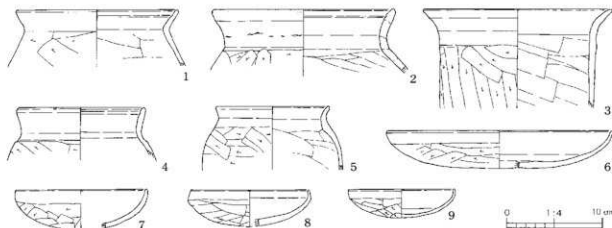
第9層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

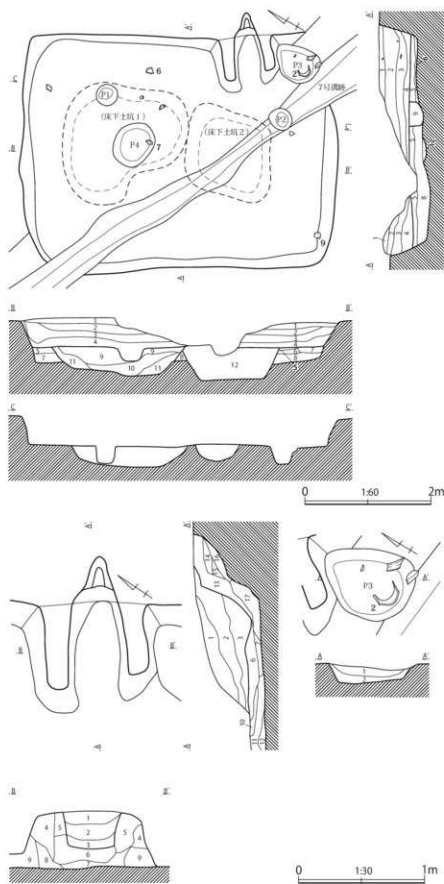
第11層：褐色土層（黄褐色粘土粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

ていたのかもしれない。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。54cm×74cmの不整四角形を呈し、床面からの深さは16cmある。上面からは、土師器甕の破片が出土している。P4は、住居中央部のやや北西側寄りに位置する。62cm×74cmの楕円形を呈し、床面からの深さは22cmある。住居中央部の床面下からは、比較的大形の床下土坑が2基検出されている。これらは同時に掘られたものではなく、床下土坑1が床下土坑2を切っている。

カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長126cm、最大幅110cmある。燃焼部は、住居内にあるが、カマド掘り方を埋め戻して作られ、燃焼面は住居床面とほぼ同じ高さにされている。袖は、ロームブロックと灰褐色粘土ブロックを



第119図 第33(SJ9)号住居跡出土遺物



第33(SJ9)号住居跡土層説明

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第11層：黒褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第12層：灰黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第120図 第33(SJ9)号住居跡

第33(SJ9)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（黄褐色粘土粒子を多量、焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（焼土粒子を多量、黄褐色粘土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗灰色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：黄褐色土層（白色粘土ブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：黒褐色土層（白色粘土ブロック・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：灰黄褐色土層（白色粘土ブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（白色粘土ブロック・ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：暗灰色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第12層：黒褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（焼土ブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第14層：黄褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第15層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第16層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第17層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第33(SJ9)号住居跡P3土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

均一に含む暗灰色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、燃焼部奥壁から住居外に35cm延びて削平されているが、掘り方を埋め戻していることから、素掘りではなく何か構造物を埋設していた可能性がある。

遺物は、貯蔵穴上面や住居中央部の床面付近及び壁際の覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)の土器の破片が出土している(第119図)。

第33(SJ9)号住居跡出土土物観察表

1	甕	A. 口縁部径(167)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-灰褐色、内-褐灰色。F. 破片。H. 覆土中。
2	胴張 甕	A. 口縁部径19.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 床面付近。
3	長 胴張 甕	A. 口縁部径(197)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-灰黄褐色、内-黄灰色。F. 破片。H. 覆土中。
4	小 形 甕	A. 口縁部径13.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
5	小 形 甕	A. 口縁部径(118)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黄橙褐色、内-にぶい褐色。F. 破片。H. 覆土中。
6	皿	A. 口縁部径(23.8)、器高3.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/5。H. 床面付近。
7	坏	A. 口縁部径(137)、残存高4.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/5。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(12.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/5。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径11.0、器高3.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。

第34(SJ10)号住居跡 (第121図、図版27)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置する。住居跡の北東側を重複する第49号住居跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、比較的整った方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が5.04m、東西方向が5.30mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で8cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、貼床式であるが、上下2面ある。住居の掘り方は、主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部をやや深く掘り窪めコーナー部付近には及ばないドーナツ状の形態である。ピットは、P4～P8の5箇所が検出されている。P4～P6は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の一部と考えられる。長さ32cm～52cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは60cm前後ある。P7は、住居中央部の西側寄りに位置する。直径30cmの円形を呈し、床面からの深さは20cm程度ある。P8は、住居南側壁際の中央付近に位置する。直径26cmの円形を呈し、床面からの深さは43cmある。

炬は、住居中央部から北西側に寄った位置にある。床面を若干掘り窪めた地皿炬で、80cm×50cm程度の楕円形を呈している。

遺物は、覆土中から古墳時代前期(4世紀)末頃の土器の破片が少量出土している。土器以外では、住居南側壁際の床面付近から、自然石を利用した砥石の破片が1点出土している(第123図)。

第34(SJ10)号住居跡土層説明

<E-E'、F-F'>

- 第1層：暗褐色土層(1cm程度のロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(3cm程度のロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：黄褐色土層(ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層：褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第5層：褐色土層(ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第6層：暗褐色土層(ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第49(SJ11)号住居跡土層説明

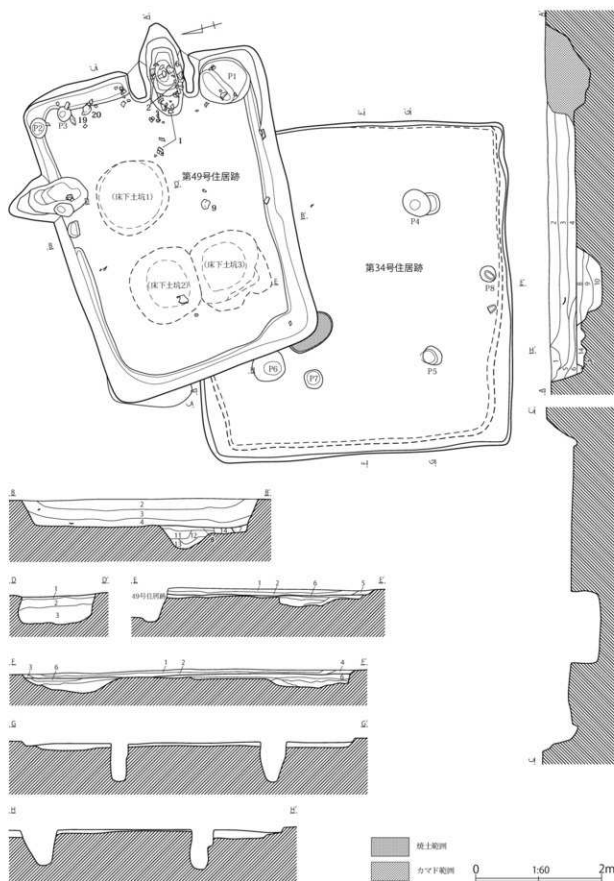
<A-A'、B-B'>

- 第1層：暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第4層：暗褐色土層(ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第5層：黒褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第6層：黒褐色土層(ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第7層：黒褐色土層(ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第8層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第9層：褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第10層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第11層：褐色土層(ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第12層：褐色土層(ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第13層：褐色土層(炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第14層：黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

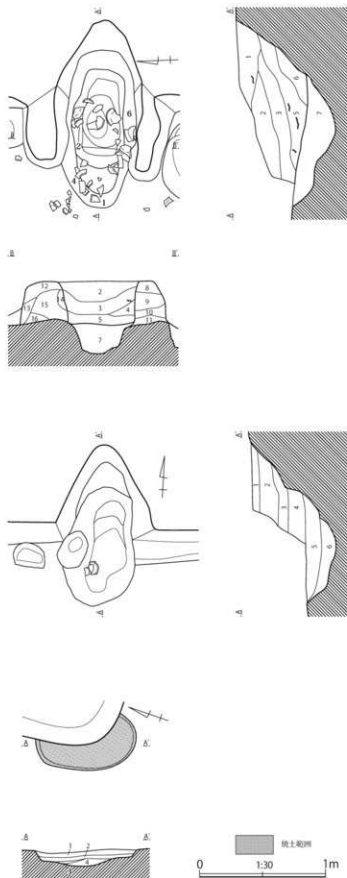
第49(SJ11)号住居跡床下土坑1土層説明

<D-D'>

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)



第121図 第34・49(SJ10・11)号住居跡



第122図 第34・49(SJ10・11)号住居跡カマド・炉

第49(SJ11)号住居跡東側新カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土ブロックを少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黄褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：灰黄褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：灰黄褐色土層（焼土ブロックを多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐灰色土層（焼土粒子を少量、焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：黄褐色土層（ロームブロックを少量、焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐灰色土層（焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第14層：赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第15層：褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第16層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

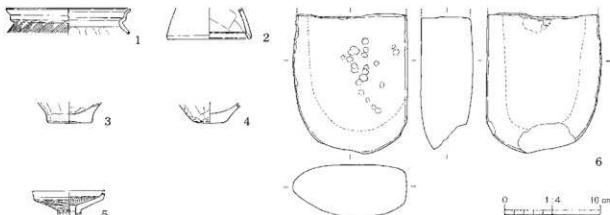
第49(SJ11)号住居跡北側旧カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第3層：黒褐色土層（焼土粒子を多量、焼土ブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐灰色土層（焼土粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第34(SJ10)号住居跡炉土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：赤褐色土層（焼土ブロックを含む。）
 第4層：褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第123図 第34(SJ10)号住居跡出土遺物

第34(SJ10)号住居跡出土遺物観察表

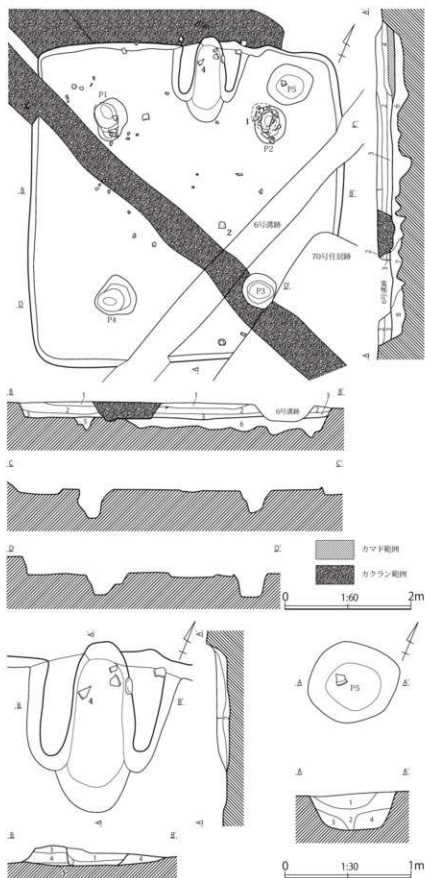
1	S字状口縁台付 甕	A. 口縁部径132。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデの後ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-淡褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
2	S字状口縁台付 甕	A. 台端部径90。B. 粘土継積み上げ。C. 台部外面ナデ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 台端部1/4破片。H. 覆土中。
3	小形 甕	A. 底部径4.8。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡橙褐色。F. 底部2/3。H. 覆土中。
4	小形 甕	A. 底部径3.3。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
5	器 台	A. 口縁部径76。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ナデの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F. 器受部1/4破片。H. 覆土中。
6	砥 石	A. 残存長14.8、最大幅12.0、厚さ5.5、重さ1.100g。B. 川原石を利用。C. 表裏面及び右側面は良く磨かれている。表面中央部に敲打痕が集中し、左側面に連続する敲打痕が見られる。D. 砂岩。F. 1/2。H. 床面直上。

第35(SJ35)号住居跡（第124図、図版28）

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第70号住居跡と第6号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が5.08m、東西方向が4.96mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全体に及ぶ形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。長さ52cm～65cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cm～45cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。76cm×65cmの楕円形を呈し、床面からの深さは25cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模



第124図 第35(SJ35)号住居跡

第35(SJ35)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：黄褐色土層（黒褐色土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第35(SJ35)号住居跡カマド土層説明

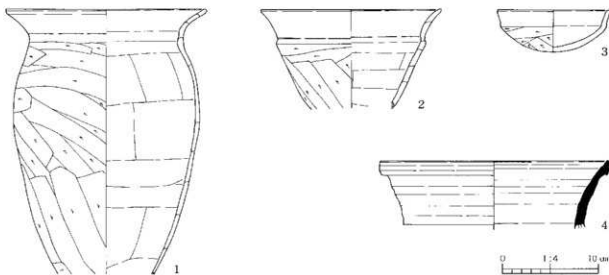
- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（灰褐色粘土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（灰褐色粘土粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第35(SJ35)号住居跡P5土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

は、全長136cm、最大幅120cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼面は、住居の床面より若干低くなっている。袖は、灰褐色粘土粒子を含む褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代後期(6世紀末～7世紀前半)の土器の破片が多く出土している。



第125図 第35(SJ35)号住居跡出土遺物

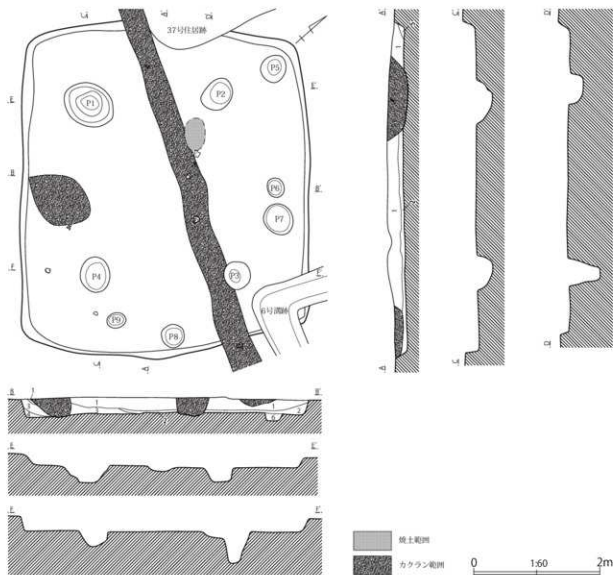
第35(SJ35)号住居跡出土土物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.2)、残存高 27.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面逆ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
2	鉢	A. 口縁部径(9.0)、残存高 10.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、チャート、角閃石。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部 11.6、器高 4.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	須 恵 器 片	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰白色。F. 破片。H. カマド内。

第36(SJ36)号住居跡 (第126図、図版28)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第6号溝跡と第37号住居跡に切られている。住居跡の中央部には、後世の攪乱溝が東西方向に走っている。

平面形は、コーナー部の丸み強い長方形を呈している。規模は、北西～南東方向が5.40m、北東～南西方向が4.58mある。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際ま



第126図 第36(SJ36)号住居跡

第36(SJ36)号住居跡土層説明

第1層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

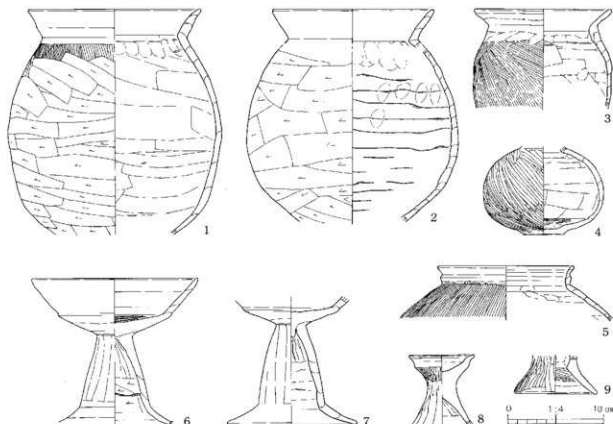
第5層：黄褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

でやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、9箇所検出されている。この中でP1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。長さ44cm～56cmの楕円形や円形を呈し、床面からの深さは22cm～50cmある。

炬は、住居中央部の北東側寄りに位置する。52cm×34cmの楕円形状に床面が焼けただけの炬石等の付属施設を伴わない地床炬である。

遺物は、覆土中から古墳時代前期～中期の土器が少量出土している(第127図)。土器以外では、縄文時代の石鉄1点(第270図)と古銭の「寛永通寶」が1枚覆土中に混入して出土している(第273図)。



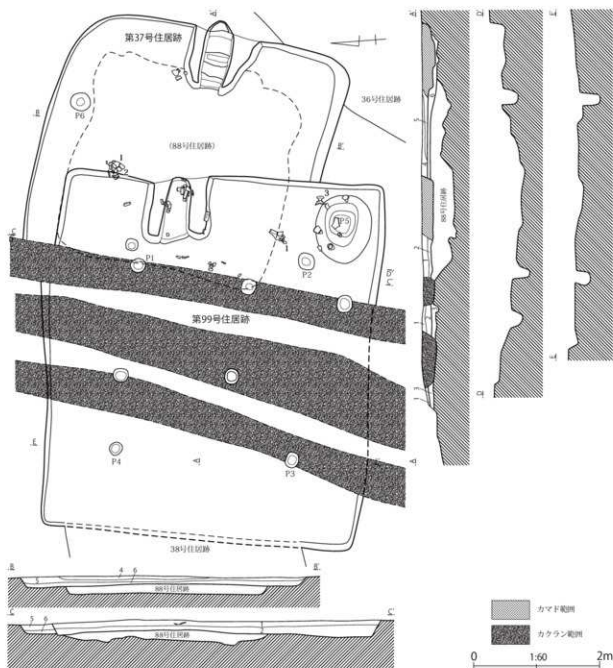
第127図 第36(SJ36)号住居跡出土遺物

第36(SJ36)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(18.4)、残存高23.8。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-にふい黄橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径(17.2)、残存高22.5。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-にふい赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
3	小形甕	A. 口縁部径(14.6)、残存高10.5。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケメ、内面ヘラナデ。D. 角閃石、白色粒、白色針状物質。E. 内外-にふい黄橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	中形直口壺	A. 残存高9.2、底部径(4.2)。B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面ミガキ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ハケ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にふい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
5	S字状口縁付甕	A. 口縁部径(14.4)、残存高5.8。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケメ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 外-にふい橙褐色、内-橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
6	高坏	A. 口縁部径(17.6)、残存高15.5。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ、内面ミガキ。脚柱部外面ナデ、内面ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、片岩粒。E. 内外-にふい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
7	高坏	A. 底部径13.6、残存高13.5。B. 粘土縦積み上げ。C. 坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒、片岩粒。E. 内外-にふい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
8	甕	A. 口縁部径7.0、残存高7.8。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。器受部外面ハケ、内面ナデ。脚部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒、角閃石。E. 内外-にふい褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
9	脚台部	A. 台端部径8.6、残存高4.2。B. 粘土縦積み上げ。C. 脚部外面ミガキ、内面ハケの後下半ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-にふい赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。

第37(SJ37)号住居跡(第128図、図版28)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第99号住居跡に切られ、第36号住居跡と第88号住居跡を切っている。



第128図 第37(SJ37)・99(SJ20)号住居跡

第37(SJ37)・99(SJ20)号住居跡土層説明

<第99号住居跡>

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

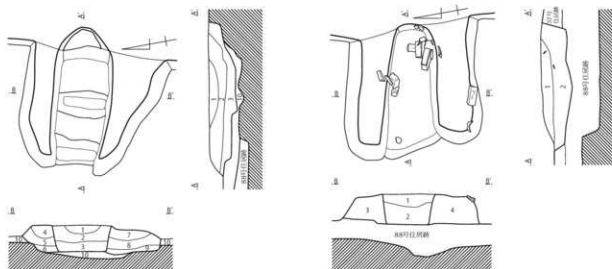
第3層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第37号住居跡>

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

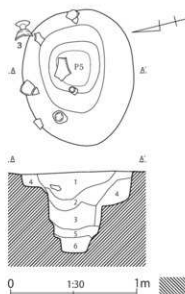
第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第37(SJ37)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第4層：暗褐色土層（黄褐色粘土ブロックを少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：黄褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：黄褐色土層（住居跡第6層と同じ。）



第99(SJ20)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

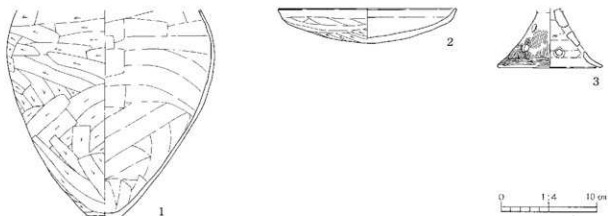
第99(SJ20)号住居跡P5土層説明

- 第1層：黒褐色土層（炭化粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・炭化粒子・青灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第6層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈すると思われる。規模は、南北方向が4.48m、東西方向は3.90mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高11cmある。検出された各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、1箇所検出されている。P6は、住居北側の壁際中央付近に位置している。直径30cmの円形を呈し、床面からの深さは12cmある。

カマドは、住居東側壁の中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長114cm、最大幅116cmある。燃烧部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致する。燃烧面は、住居の床面よりも一段深く、ほぼ平坦に作られている。袖は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、住居の壁外に14cmほど延びて立ち上がっている。

遺物は、住居中央部の床面上や覆土中から、古墳時代前期(4世紀)～平安時代前期(9世紀)の土器片が少量混在して出土している(第130図)が、本住居跡の時期は、遺構の重複関係や遺物の出土状況から、白鳳時代(7世紀後半)頃の所産と思われる、No1の平安時代前期の甕とNo3の古墳時代前期の器台は、混入品と考えられる。また、土器以外では、古銭の「開元通寶」(621年初鑄)が1枚覆土中に混入して出土している(第273図)。



第130図 第37(SJ37)号住居跡出土遺物

第37(SJ37)号住居跡出土遺物観察表

1	長胴甕	A. 残存高21.8、底部径3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-におい-橙褐色、内-橙褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
2	皿	A. 口縁部径(18.8)、器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
3	器台	A. 口縁部径10.8、残存高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 脚部5/6。G. 脚部穿孔は、縦2個一組で3箇所。H. 覆土中。

第38(SJ38)号住居跡(第131図、図版29)

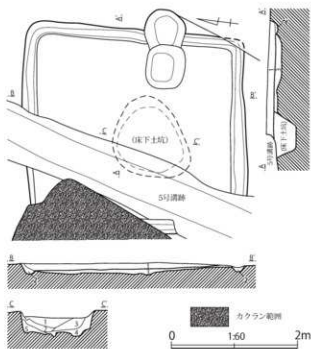
B2地点の調査区中央部の西側に位置し、重複する第5号溝跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈すると思われる。

規模は、東西方向が3.20m、南北方向が3.54mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高10cmある。検出された各壁の壁下には、幅20cm程度、床面からの深さが5cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。住居中央部の床下には、136cm×112cmの楕円形を呈し、床面からの深さが30cm程度の床下土坑が1基ある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁を掘り込んでほぼ直角に付設されている。検出されたのは、カマドの掘り方部分だけであり、袖や煙道部は確認できなかった。

遺物は、覆土中から古墳時代中期(5世紀)後半～白鳳時代(7世紀後半)の土器片が少量出土してい



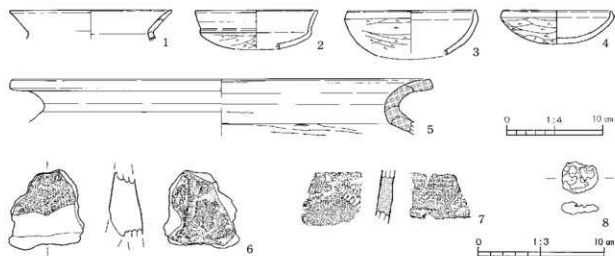
第131図 第38(SJ38)号住居跡

第38(SJ38)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第38(SJ38)号住居跡床下土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第132図 第38(SJ38)号住居跡出土遺物

る。また、重複する攪乱と関係して、埴輪の破片や中世の渥美窯製品と推測される甕の破片も出土している(第132図)。本住居跡の時期は、遺構の形態や出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)の所産と考えられる。

第38(SJ38)号住居跡出土土物観察表

1	長 剛 夾	A. 口縁部径(17.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
2	模 倣 坏	A. 口縁部径(13.0)、残存高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(13.6)、残存高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(11.4)、器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
5	常滑窯系 甕	A. 口縁部径(44.6)、残存高5.9。B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面叩き(平行叩き目)の後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 口縁部破片。H. 西側攪乱内。
6	形象埴輪	A. 残存高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面タテハケ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、赤色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 甕部破片。H. 西側攪乱内。
7	常滑窯系 甕	A. 残存高4.3。B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩きの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 胴部破片。G. 外面に押印文(平行線文)を施す。H. 覆土中。
8	鉄 滓	A. 長さ25、幅28、厚さ10。重さ991g。H. 覆土中。

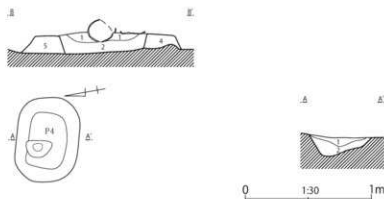
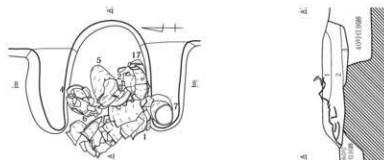
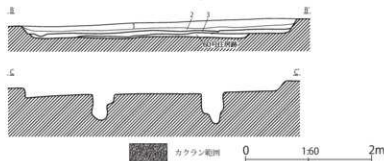
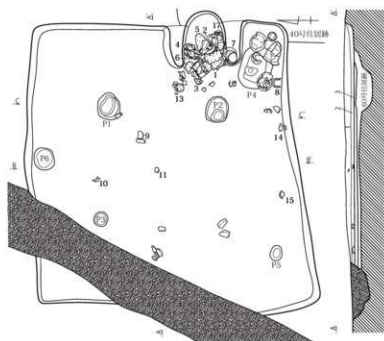
第39(SJ39)号住居跡(第133図、図版29)

B2地点の調査区中央部の西側寄りに位置し、重複する第40号住居跡を切っている。

平面形は、南側壁が歪んでいるが、コーナー部が丸みをもつ長方形を基調にしている。規模は、東西方向が4.40m～4.70m、南北方向が4.08m～4.44mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、6箇所検出されている。P1～P3は、4本主柱穴の一部と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。直径20cm～40cmの円形を呈し、床面からの深さは40cm～46cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。68cm×50cmの隅丸長方形さみの形態を呈し、床面からの深さは15cmある。P5は、住居南西側コーナー部付近にある。長軸25cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。P6は、住居北側壁際の中央にある。直径35cmの円形を呈し、床面からの深さは15cmある。

カマドは、住居東側壁の南側寄りに位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長88cm、最大幅130cmある。燃焼部は、住居の壁を20cmほど掘り込んでいるが、大半は住居内にある。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。両袖の先端部は、土師器の甕を伏せて補強にしていたようであるが、左袖の先端部の補強甕はすでに崩壊してカマド内に落ち込んでいる。焚口部の天井も土師器甕によって補強されていたようで、2個以上の甕を入れ子状に連結させて、袖の補強甕の上に据えられていたものが、焚口部に落下した状態で出土している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や貯蔵穴P4の上面から、白鳳時代(7世紀後半)の土器が多数出土している。

**第39(SJ39)号住居跡土層説明**

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

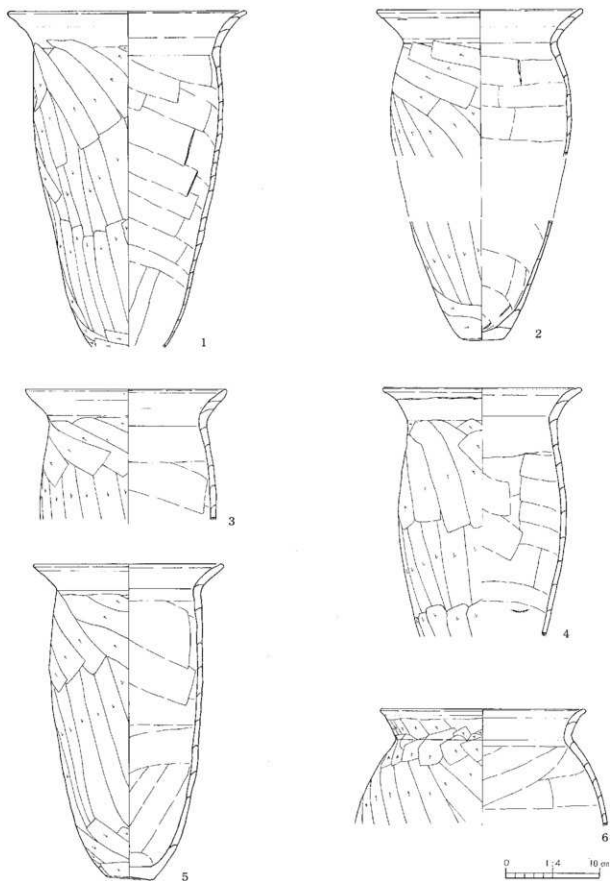
第39(SJ39)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

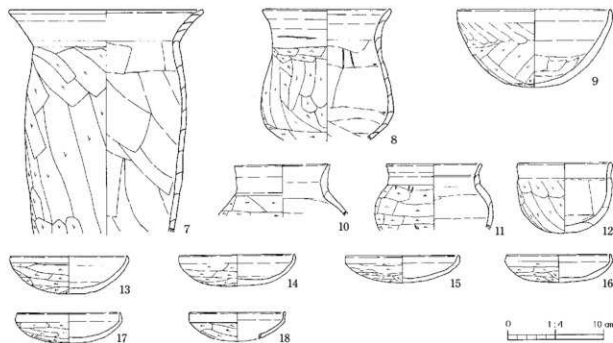
第39(SJ39)号住居跡P4土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第133図 第39(SJ39)号住居跡



第134図 第39(SJ39)号住居跡出土遺物(1)



第135図 第39(SJ39)号住居跡出土遺物(2)

第39(SJ39)号住居跡出土遺物観察表

1	長 頸 甕	A. 口縁部径 248、残存高 35.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. カマド内。
2	長 頸 甕	A. 口縁部径(21.6)、推定高(35.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/5。H. カマド内。
3	長 頸 甕	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 破片。H. カマド内。
4	長 頸 甕	A. 口縁部径(20.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。H. カマド内。
5	長 頸 甕	A. 口縁部径(19.8)、器高 33.2、底部径 5.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 3/4。H. カマド内。
6	胴 張 甕	A. 口縁部径(20.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。H. カマド内。
7	長 頸 甕	A. 口縁部径(13.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/2。H. カマド内。
8	小 形 甕	A. 口縁部径(13.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	鉢	A. 口縁部径(16.0)、器高 8.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上端ナデ、内面ナデ。D. 胡雲母、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
10	短 頸 壺	A. 口縁部径(10.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 床面付近。
11	小形短頸壺	A. 口縁部径(8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/5。H. 床面付近。
12	鉢	A. 口縁部径(9.6)、器高 7.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
13	坏	A. 口縁部径 12.2、器高 4.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角四石。E. 内外-橙褐色。F. 完整。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高 3.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒、胡雲母。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
15	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高 2.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒、胡雲母。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
16	坏	A. 口縁部径(11.0)、器高 3.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-明黄褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
17	坏	A. 口縁部径(10.8)、器高 3.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 外-明黄褐色、内-橙褐色。F. 1/2。H. カマド内。
18	坏	A. 口縁部径(10.8)、残存高 2.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。

第40(SJ40)号住居跡(第136図、図版29)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第39号住居跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が4.85m、南北方向が4.94mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。各壁下には、幅15cm～25cm、床面からの深さが10cm前後の壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、住居と関係すると思われるものはP1～P6の6箇所である。P1～P4は、4本支柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。直径25cm～30cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは50cm～65cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。100cm×90cmの整った方形を呈し、中心部に直径50cm程度の円形を呈するピット状の掘り込みを伴っている。床面からの深さは52cmあり、中央部の上半からは完形に近い複数の甕や高坏がまとも出土している。P6は、住居南側壁際の中央付近にあり、その位置から入口部の施設と関係するピットの可能性が考えられる。42cm×30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは15cmある。

炉は、住居中央部北側寄りの支柱穴P1・P4間近くに位置する。直径30cmの円形を呈する若干床面を掘り窪めた地皿炉で、全体によく焼けて赤色化している。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長64cm、最大幅72cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にあり、燃焼面は住居の床面とほぼ同じ高さである。焚口部前面の床面は、よく焼けて赤色化している。燃焼部の中央には、高坏を伏せた転用支脚が据えられている。袖は、灰色粘土ブロックを含む灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマドや貯蔵穴P5の内外や住居東側の壁際を中心に、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器が多数出土している(第137図)。

第40(SJ40)号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層：黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第3層：黄褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第4層：黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第40(SJ40)号住居跡カマド土層説明

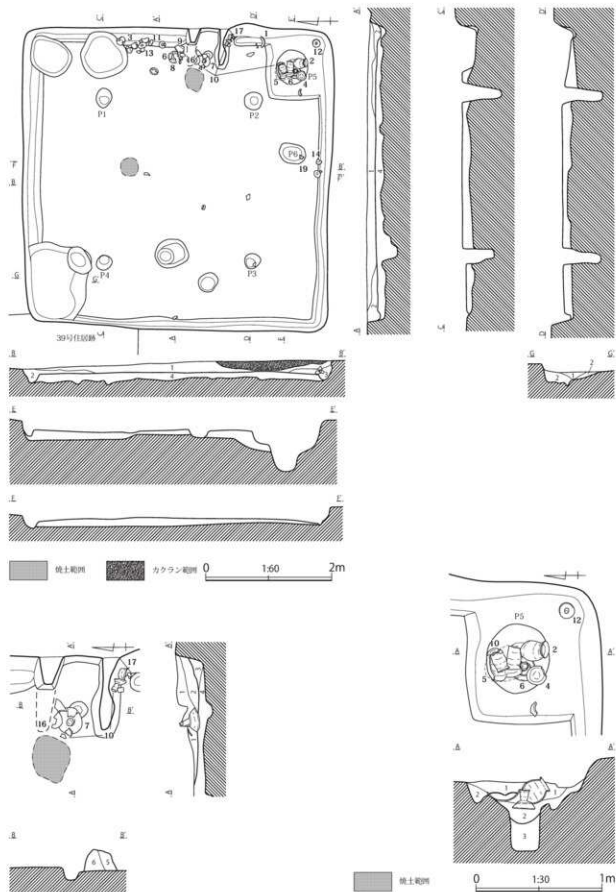
- 第1層：暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層：灰褐色土層(灰色粘土ブロック・ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第6層：灰褐色土層(灰色粘土ブロック・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第40(SJ40)号住居跡P5土層説明

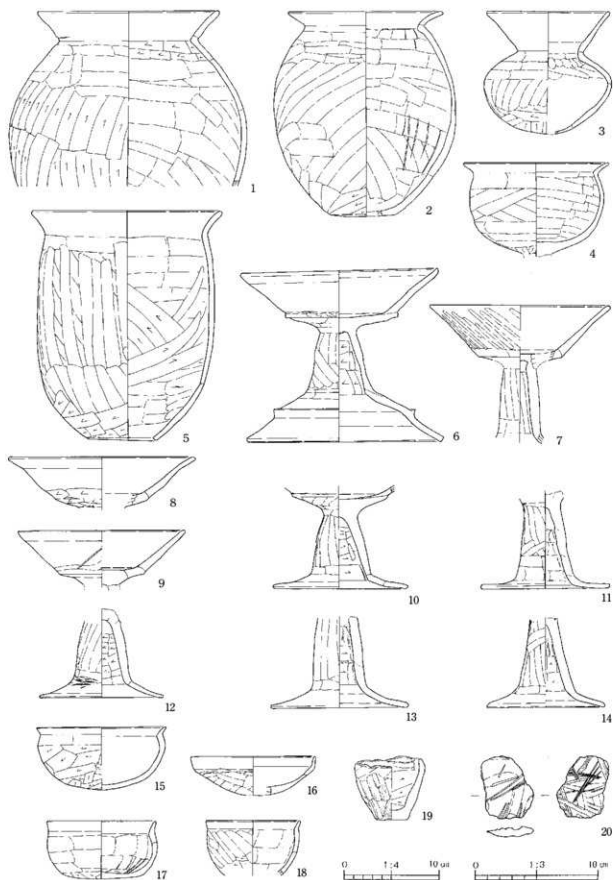
- 第1層：暗褐色土層(ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロックを中量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第40(SJ40)号住居跡<G-G>土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりはない。)



第136図 第40(SJ40)号住居跡



第137図 第40(SJ40)号住居跡出土遺物

第40(SJ40)号住居跡出土土物観察表

1	胴張壳	A. 口縁部径 192, 残存高 18.2, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上位ナデ、内面泡ナデの後上端ケズリ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 外-褐色、内-にぶい褐色。F. 1/5。G. 胴部外面に煤附着。H. 覆土中。
2	長胴壳	A. 口縁部径 16.4, 器高 21.6, 底部径 6.0, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下位ケズリ、内面泡ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. ほぼ定形。G. 胴部外面に黒炭あり。胴部外面煤附着。H. P 5内。
3	中形直口壺	A. 口縁部径(12.8), 器高 13.0, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 床面付近。
4	脚付鉢	A. 口縁部径 15.5, 残存高 9.9, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒、片岩粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 鉢部のみ。H. P 5内。
5	大形瓶	A. 口縁部径 19.2, 器高 24.4, 底部径 7.1, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下位ケズリ、内面泡ナデの後中位ケズリ。D. 白色粒、赤色粒、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ定形。G. 胴部外面に黒炭あり。H. P 5内。
6	有段高坏	A. 口縁部径 21.0, 器高 18.3, 脚端部径(20.8), B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。G. 脚部内面に黒炭あり。H. P 5内。
7	高坏	A. 口縁部径 19.1, 残存高 14.7, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面指ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-にぶい黄橙褐色、内-橙褐色。F. 坏部ほぼ定形、脚柱部 2/3。G. 内外面に黒炭あり。H. カマド内。
8	高坏	A. 口縁部径(19.7), 残存高 5.4, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい黄橙褐色、赤褐色。F. 坏部 3/4。G. 内外面に黒炭あり。H. 床面直上。
9	高坏	A. 口縁部径(17.6), 残存高 5.8, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 坏部 1/2。G. 内面に黒炭あり。H. 床面直上。
10	高坏	A. 残存高 10.9, 脚端部径(14.3), B. 粘土継積み上げ。C. 坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 外-にぶい褐色、内-明赤褐色。F. 脚部 3/4。H. カマド内。
11	高坏	A. 残存高 9.5, 底部径 13.6, B. 粘土継積み上げ。C. 脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-にぶい赤褐色、内-にぶい褐色。F. 脚部 3/4。H. 床面直上。
12	高坏	A. 残存高 9.4, 脚端部径 13.2, B. 粘土継積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部のみ。G. 脚端部内面に黒炭あり。H. 覆土中。
13	高坏	A. 残存高 9.7, 脚端部径 14.6, B. 粘土継積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-明褐色、内-にぶい褐色。F. 脚部のみ。H. 床面直上。
14	高坏	A. 残存高 9.4, 脚端部径 12.5, B. 粘土継積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部のみ。G. 脚端部内外面に黒炭あり。H. 床面直上。
15	坏	A. 口縁部径 13.6, 器高 6.7, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、チャート、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 定形。G. 内面に黒炭あり。H. 床面付近。
16	坏	A. 口縁部径 13.2, 器高 4.0, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。G. 口縁部外面に黒炭あり。H. カマド内。
17	坏	A. 口縁部径 11.4, 器高 6.1, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 定形。G. 体部外面に黒炭あり。H. カマド内。
18	坏	A. 口縁部径(10.0), 残存高 5.6, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 1/3。G. 内外面に黒炭あり。H. 覆土中。
19	小形土器(坏)	A. 口縁部径 7.1, 器高 6.8, 底部径 3.5, B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。体部外面ナデ、内面ケズリ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 定形。G. 外面に黒炭あり。H. P 6内。
20	煎餅状土製品	A. 長さ 4.8, 幅 4.1, 厚さ 0.8, B. 手捏ね。C. 表裏面に植物繊維織の圧痕が多数見られる。D. 角閃石。E. 橙褐色。H. 貯蔵穴内。

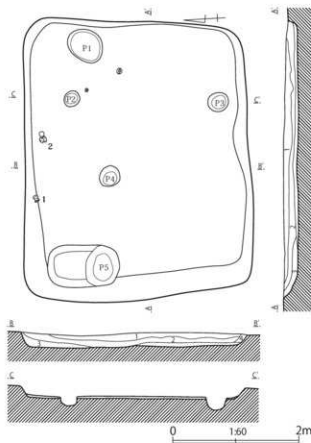
第41(SJ41)号住居跡(第138図、図版30)

B 2 地点の調査区南側に位置する。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈している。規模は、東西方向が4.44m、南北方向が3.62mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。各壁の壁下

には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を、全体に薄く平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、住居跡内から5箇所検出されている。ほとんどのピットはその性格は不明であるが、この中で住居北西側コーナー部に位置するP5は、いわゆる貯蔵穴と考えられる。115cm×68cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは40cmある。住居南側壁中央付近の壁際の覆土中に、焼土粒子の分布が見られたが、カマドと関係するものか明確にできなかった。

遺物は、住居北側の壁際床面上より、古墳時代前期(4世紀)～中期(5世紀)前半頃を主体とする土器の破片が、少量出土しただけである(第139図)。この中で、本住居跡の覆土中に混入して出土したNo3とNo5の網目状摺糸文を施した赤彩壺は、当地域で作られたものではなく、他地域からの搬入品と考えられる。



第138図 第41(SJ41)号住居跡

第41(SJ41)号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第139図 第41(SJ41)号住居跡出土遺物

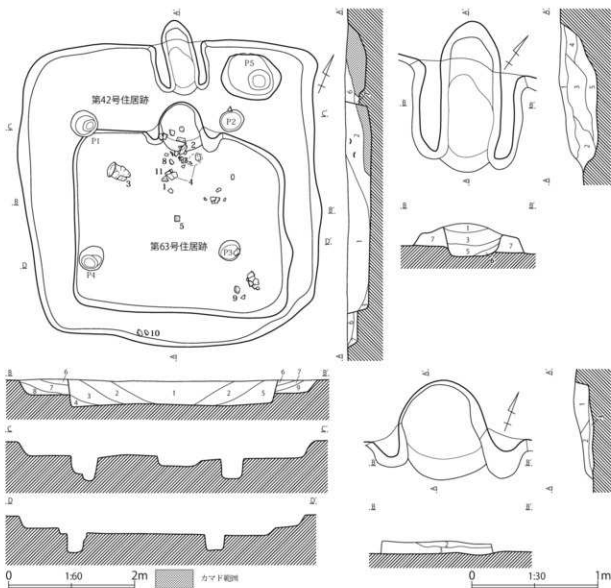
第41(SJ41)号住居跡出土遺物観察表

1	小形直口壺	A. 口縁部径 8.6、器高 8.3、底部径 2.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口唇部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. ほぼ定形。G. 外面に黒斑あり。H. 床面直上。
2	小形直口壺	A. 口縁部径 8.8、器高 7.6、底部径 2.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 定形。G. 外面に黒斑あり。H. 床面直上。
3	複合口縁壺	A. 口縁部径 16.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口唇部及び口縁部外面ナデの後網目状摺糸文、胴部外面ミガキの後赤彩。内面ミガキの後赤彩。D. 白色粒。E. 内外-赤茶褐色。F. 口縁部 1/4。G. No 5 と同一個体。搬入品。H. 覆土中。
4	小形浅鉢	A. 口縁部径 13.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部 1/6。H. 覆土中。
5	壺	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面網目状摺糸文と文様下端のS字状筋文を施文後、胴部下半ミガキの後赤彩。内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-赤茶褐色、内-茶褐色。F. 胴部破片。G. No 3 と同一個体。搬入品。H. 覆土中。

第42(SJ42)号住居跡(第140図、図版30)

B2地点の調査区南側の西端に位置し、重複する第63号住居跡に切られている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、南北方向が4.85m、東西方向が4.70mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方の形態は、住居中央部を第63号住居跡に切られているため、明確にできなかった。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。直径35cm～40cmの円形を呈し、床面からの深さは30cm～40cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置する。90cm×72cmの楕円形を呈し、内部に直径35cmの円形を呈するピット状の掘り込みを伴う。床面からの深さは44cmある。



第140図 第42(SJ42)・63(SJ63)号住居跡

第42(SJ42)・63(SJ63)号住居跡土層説明

<第63号住居跡>

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第42号住居跡>

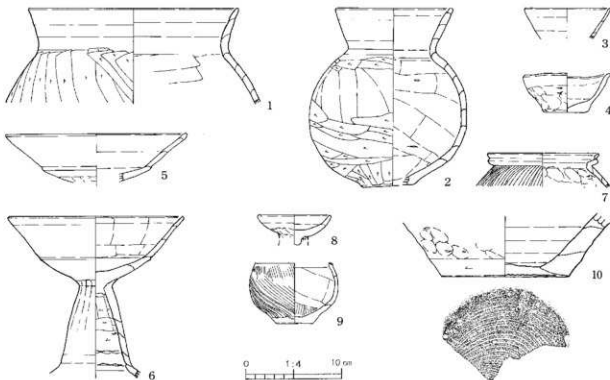
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第63(SJ63)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第42(SJ42)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土ブロックを中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第141図 第42(SJ42)号住居跡出土遺物

カマドは、住居東側壁のほぼ中央の位置に、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長120cm、最大幅88cmある。燃焼部は、住居の壁をあまり掘り込まないで、ほぼ住居内にある。燃焼面

は、住居の床面より一段低くなっている。袖は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、住居の壁外に30cm程度延びて緩やかに立ち上がっている。

遺物は、古墳時代前期の土器も若干見られるが、古墳時代中期後半(5世紀後半)頃の土器が、住居中央部の覆土中から多く出土している(第141図)。

第42(SJ42)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径22.2、残存高10.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面逆ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
2	中形直口甕	A. 口縁部径12.4、器高19.0、底部径5.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面逆ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
3	小形直口甕	A. 口縁部径9.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 外-にぶい橙褐色、内-にぶい赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径9.2、器高4.1、底部径4.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指押さえ、内面ナデ。底部外面ナデの後外縁ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
5	高坏	A. 口縁部径(19.0)、残存高5.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 坏部破片。H. 覆土中。
6	高坏	A. 口縁部径(18.6)、残存高17.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
7	S字状口縁甕	A. 口縁部径(11.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. チャート、角四石。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
8	器台	A. 口縁部径7.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ナデ。D. 片岩粒、角四石。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	鉢	A. 残存高6.5、底部径3.8。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ハケ、内面ハケの後逆ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角四石。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
10	在片口産片口鉢	A. 底部径(13.6)。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 体部外面ナデの後下端ケズリ、内面回転ナデ。底部外面回転承切。D. 片岩粒、チャート、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-浅黄色。F. 底部1/4破片。G. 混入品。H. 覆土中。

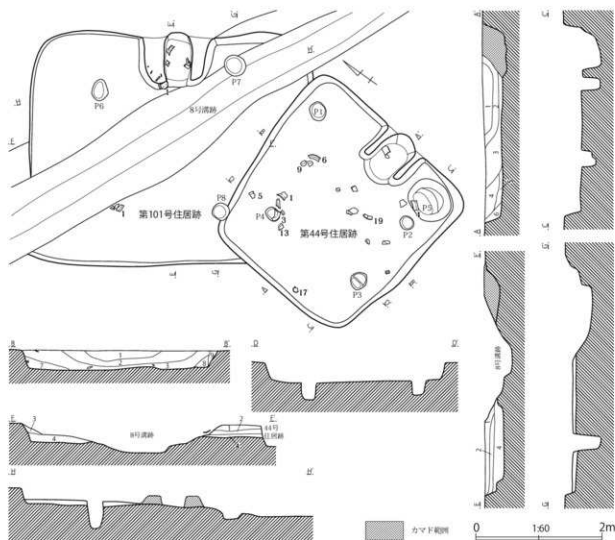
第43(SJ43)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第44(SJ44)号住居跡(第142図、図版31)

B2地点の調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第101号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.14m、南北方向が3.20mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高30cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1は、住居の北東側コーナー部付近に位置する。直径30cmの円形を呈し、床面からの深さは25cmある。P2～P4は、住居の対角線上ではないが、住居コーナー部に寄った規則的な配置が窺えるもので、4本主柱穴の一部の可能性が考えられる。いずれも直径20cm程度の円形を呈し、床面からの深さは20cm～30cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部にある。70cm×60cmの楕円形を呈し、床面からの深さは32cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長90cm、最大幅88cmある。燃焼部は、壁を掘り込まないで住居内にあり、奥壁は住居の壁とはほぼ一致している。燃焼面は、住居の床面より一段低くなっている。袖は、ローム粒子を多量含む黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。



第142図 第44(SJ44)・101(SJ22)号住居跡

第44(SJ44)号住居跡土層説明

<A-A'、B-B'>

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：明黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第101(SJ22)号住居跡土層説明

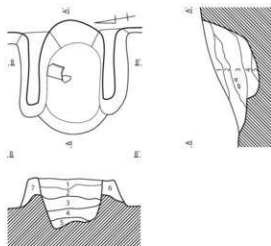
<E-E'、F-F'>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

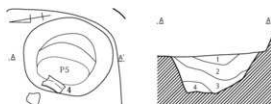
第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



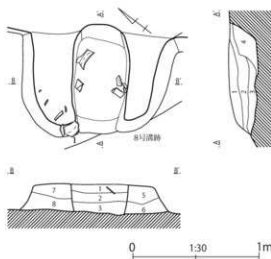
第44 (SJ44) 号住居跡カマド土層説明

- 第1層：褐色土層（焼土ブロックを少量、ロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子・焼土ブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第44 (SJ44) 号住居跡P5土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第101 (SJ22) 号住居跡カマド土層説明

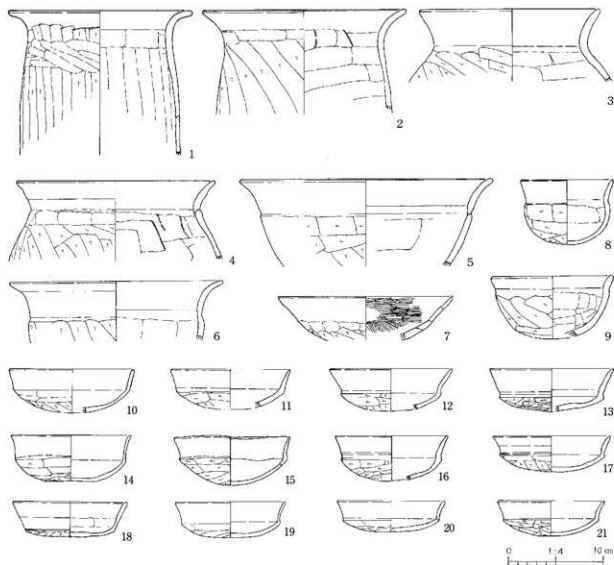
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒子・灰褐色粘土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第143図 第44 (SJ44)・101 (SJ22) 号住居跡

遺物は、古墳時代後期後葉（7世紀前半）の土器の破片が、覆土中から比較的多く出土している。

第44 (SJ44) 号住居跡出土土物観察表

1	長 刷 葉	A. 口縁部径(19.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上端ナデ、内面寛ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-灰褐色。F. 上半1/5。H. 床面直上。
2	長 刷 葉	A. 口縁部径(21.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 外-明褐色、内-い褐色。F. 破片。G. 内面に黒炭あり。H. カマド内。
3	刷 張 葉	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角閃石、石英、白色粒、黒色粒。E. 外-明赤褐色、内-明褐色。F. 上半1/2。H. 床面直上。
4	刷 張 葉	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 破片。H. P5内。
5	大 形 鉢	A. 口縁部径(26.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、角閃石、石英、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 破片。G. 口縁部外面に黒炭あり。H. 床面付近。



第144図 第44(SJ44)号住居跡出土遺物

6	長 胴 甕	A. 口縁部径(224)。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 片岩粒、角四石、石英、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/5破片。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
7	鉢	A. 口縁部径(184)。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ミガキ。D. 角四石、白色粒。E. 外-灰褐色、内-灰黄褐色。F. 破片。G. 内面黒色処理。H. 覆土中。
8	小形鉢	A. 口縁部径(97)、器高68。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径(128)、残存高64。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
10	模 倣 坏	A. 口縁部径(132)、器高46。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
11	模 倣 坏	A. 口縁部径(126)、残存高40。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
12	模 倣 坏	A. 口縁部径(130)、残存高43。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
13	模 倣 坏	A. 口縁部径(130)、器高45。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
14	模 倣 坏	A. 口縁部径(126)、器高49。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-暗灰黄褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
15	模 倣 坏	A. 口縁部径(123)、器高51。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石。E. 外-にぶい橙褐色、内-橙褐色。F. 1/2。G. 器形はかなり歪んでいる。H. 覆土中。
16	模 倣 坏	A. 口縁部径(120)、残存高46。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
17	模 倣 坏	A. 口縁部径(123)、器高38。B. 粘土縦積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 3/4。H. 覆土中。

18	模 倣 環	A. 口縁部径(120)、器高37。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄橙褐色、内-橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
19	模 倣 環	A. 口縁部径(116)、器高38。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
20	模 倣 環	A. 口縁部径114、器高33。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、黒色粒。E. 外-橙褐色、内-にぶい橙褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
21	模 倣 環	A. 口縁部径112、器高37。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、黒色粒。E. 外-橙褐色、内-にぶい橙褐色。F. 4/5。H. 覆土中。

第45(SJ45)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第46(SJ46)号住居跡(第145図、図版31)

B2地点の調査区南側の中央付近に位置し、重複する第47号住居跡と第75号住居跡を切り、第31号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、東西方向が5.20m、南北方向が4.96m～5.51mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で12cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた住居中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、住居跡内から多く検出されているが、その性格が分かるものは、P1～P5の5箇所である。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。直径・長軸が40cm程度の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは40cm～52cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と言われるもので、カマド右側の壁際に位置する。88cm×82cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは23cmある。

カマドは、住居東側壁の中央付近の位置に、壁に対して斜めに付設されている。規模は、全長122cm、最大幅124cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にあり、燃焼面は住居の床面と同じ高さで水平に作られている。軸は、ロームブロックを含む暗褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、燃焼部との境に段をもたず、住居外に斜めに85cmほど水平に延びている。

遺物は、住居の東側の床面付近から、白鳳時代(7世紀中頃)の土器の破片が散乱したような状態で出土している(第146図)。

第46(SJ46)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層(ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層：暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第46(SJ46)号住居跡カマド土層説明

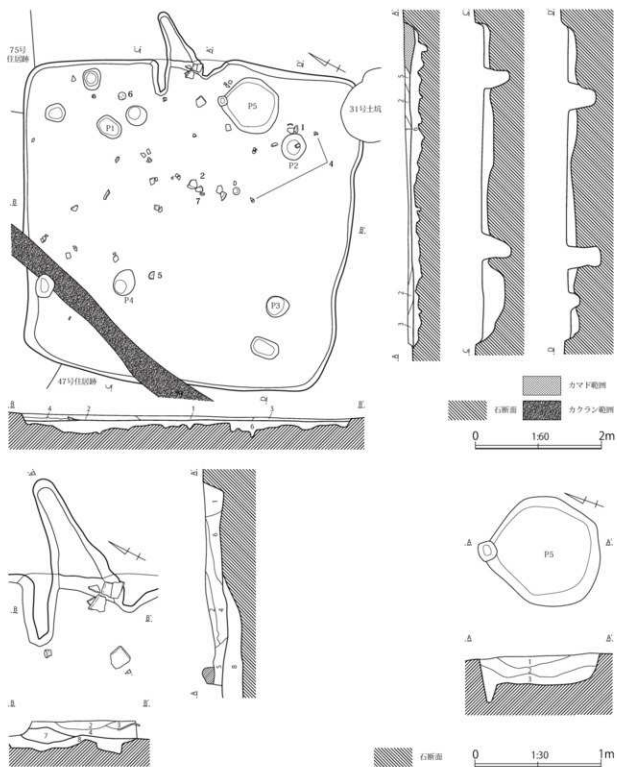
- 第1層：暗褐色土層(ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層：褐色土層(ロームブロックを多量、焼土粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第7層：暗褐色土層(ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第46(SJ46)号住居跡P5土層説明

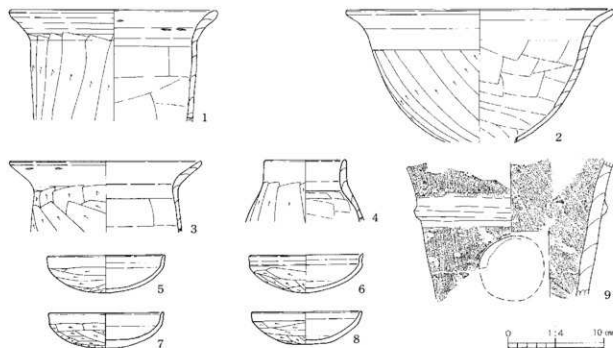
第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第145図 第46(SJ46)号住居跡



第146図 第46(SJ46)号住居跡出土遺物

第46(SJ46)号住居跡出土遺物観察表

1	長 形 鉢	A. 口縁部径(202)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-にぶい黄橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
2	大 形 鉢	A. 口縁部径(284)、残存高140。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 片岩粒、チャート、赤色粒。E. 外-にぶい橙褐色、内-にぶい黄橙褐色。F. 破片。H. 床面直上。
3	長 形 鉢	A. 口縁部径(202)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄橙褐色。F. 胴部下半1/2。H. 床面直上。
4	小 形 鉢	A. 口縁部径(88)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髷ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/4。H. 床面付近。
5	坏	A. 口縁部径(124)、器高39。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-橙褐色。F. 1/2。H. 床面直上。
6	坏	A. 口縁部径122、器高40。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 胡堂母、白色粒。E. 外-にぶい黄橙褐色、内-灰黄褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
7	坏	A. 口縁部径122、器高38。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
8	坏	A. 口縁部径118、器高35。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-橙褐色、内-にぶい橙褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
9	円筒埴輪	A. 残存高143。B. 粘土継積み上げ。凸帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケ一部指ナデ。凸帯ヨコナデ。D. 片岩粒、チャート、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。G. 透孔は円形。H. 覆土中。

第47(SJ47)号住居跡 (第148図、図版31)

B2地点の調査区南側の西側に位置し、重複する第46号住居跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い長方形を基調にしている。規模は、南北方向が3.80m、東西方向は4.40mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態であるが、西側半分がやや深くなっている。ピットは、検出されなかった。住居中央部の床下からは、重複した2基の床下土坑が検出されている。長軸130cmと150cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは28cmと22cmある。覆土は、ロームブロックを含む暗褐色土によって埋め戻されており、上面には貼

床が施されている。

カマドは、住居東側壁の中央付近に付設されている。規模は、長さが76cmまで、最大幅は80cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないようで、燃焼面は住居の床面より若干低くなっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土によって構築されている。

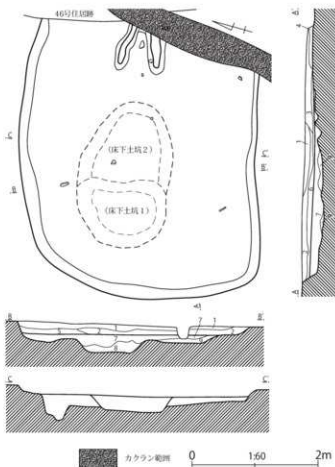
遺物は、カマド内や住居の覆土中から、古墳時代後期初頭～後葉（5世紀末～7世紀前半）頃の土器の破片が、比較的多く出土している。



第147図 第47(SJ47)号住居跡出土遺物

第47(SJ47)号住居跡出土遺物観察表

1	高	環	A. 口縁部径(18.0). B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 環部外面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外-茶褐色, 内-暗茶褐色. F. 環部1/6. G. 内面に雑な放射状の暗文を施す. H. 覆土中.
---	---	---	---



第148図 第47(SJ47)号住居跡

- 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第47(SJ47)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第47(SJ47)号住居跡土層説明

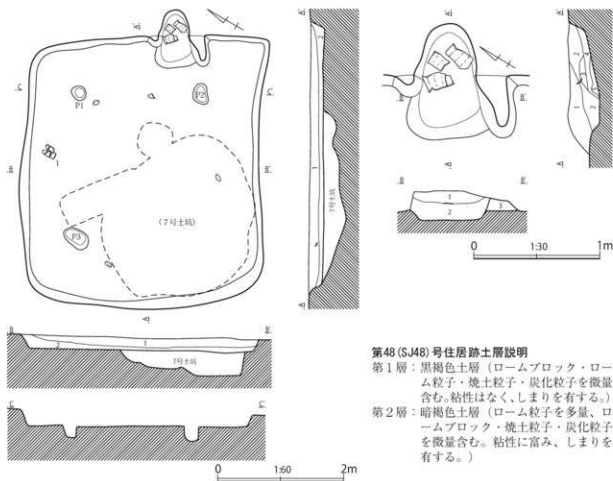
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第48(SJ48)号住居跡(第149図、図版32)

B2地点の調査区南側の中央付近に位置し、重複する第75号住居跡と第7号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を基調にしている。規模は、北東～南西方向が4.33m、北西～南東方向が3.82mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下の前面に及ぶ形態であるが、カマド周辺は浅く、住居の西側半分はやや深くなっている。ピットは、3箇所検出されている。P1～P3は、4本支柱穴の一部と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。長軸24cm～44cmの楕円形を呈し、床面からの深さはいずれも20cm程度ある。

カマドは、住居北東側壁の中央やや東側コーナー部寄りに位置し、壁に対して直角に付設されてい



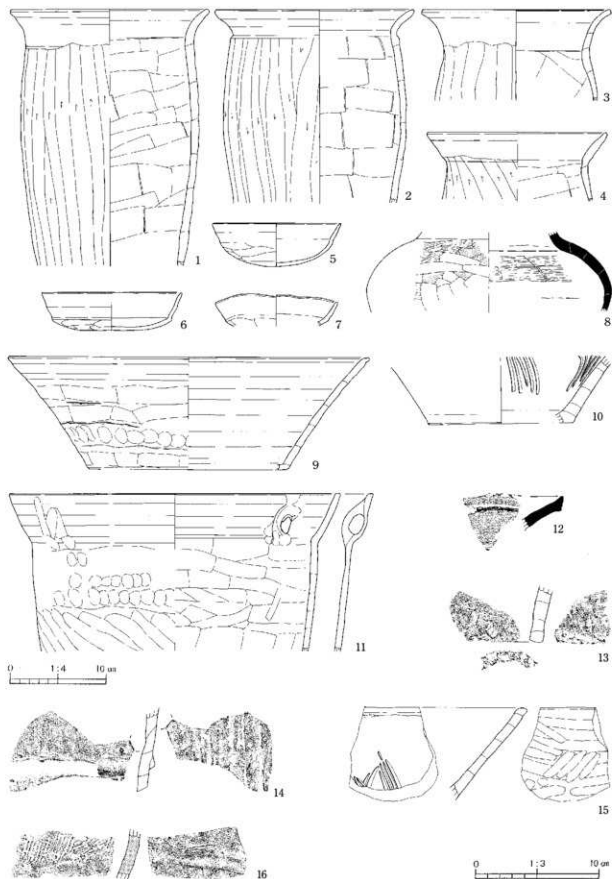
第149図 第48(SJ48)号住居跡

第48(SJ48)号住居跡土層説明

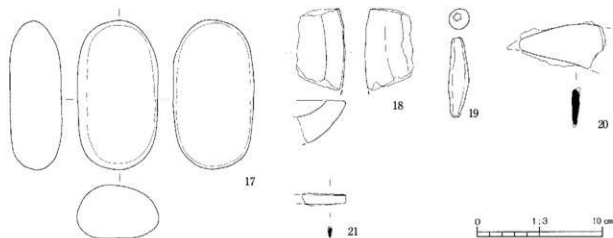
- 第1層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第48(SJ48)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（灰色粘土ブロックを中量、ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：黒褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）



第150図 第48(SJ48)号住居跡出土遺物(1)



第151図 第48(SJ48)号住居跡出土遺物(2)

る。規模は、全長92cm、最大幅100cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、燃焼面は住居の床面よりも一段深くなっている。袖は、灰色粘土ブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居の覆土中から、古墳時代後期後葉(6世紀末～7世紀初頭頃)の土器の破片が多く出土している。また、本住居跡の覆土中から、中世後期の内耳鍋・播鉢・鉢などの在地産土器や常滑窯系甕の破片及び茶臼の破片などが出土しているが、本住居跡は中世後期の遺構との重複がないことから、南側に近接する規模の大きな葉研堀の第9号溝跡と関係するものかもしれない。

第48(SJ48)号住居跡遺物観察表

1	長 別 夾	A. 口縁部径(21.0)、残存高27.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
2	長 別 夾	A. 口縁部径(21.2)、残存高20.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、チャート。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
3	長 別 夾	A. 口縁部径(20.0)、残存高9.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、褐色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	長 別 夾	A. 口縁部径(19.2)、残存高7.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
5	模 倣 坏	A. 口縁部径(13.6)、器高4.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、褐色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
6	模 倣 坏	A. 口縁部径(14.8)、器高4.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色針状物質、赤色粒。E. 内外-にぶい黄橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
7	模 倣 坏	A. 口縁部径(13.0)、残存高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。G. 器形は歪んでいる。H. 覆土中。
8	須 器 壺	B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 外面ハケの後匏ナデ、内面ハケ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-黄灰色、内-灰白色。F. 1/8。H. 覆土中。
9	鉢	A. 口縁部径(38.2)、器高11.8、底部径(21.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面匏ナデ、内面ナデ。D. チャート、角閃石。E. 外-黄灰色、内-灰色。F. 1/4。H. 覆土中。
10	播 鉢	A. 底部径(15.2)、残存高6.9。B. 粘土継積み上げ。C. 体部外面ナデ、内面ナデの後5本1単位の窪目。D. チャート、雲母。E. 外-灰黄褐色、内-にぶい黄橙褐色。F. 底部1/3。H. 覆土中。
11	内 耳 鍋	A. 口縁部径(35.0)、残存高16.6。B. 粘土継積み上げ。内耳取り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面匏ナデ。D. 金雲母、黒色粒。E. 外-暗灰黄色、内-灰黄色。F. 1/5。H. 覆土中。
12	須 器 壺	B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部外面回転ナデの後歯状工具(9本歯)による波状文、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黄灰色。F. 破片。H. 覆土中。
13	円筒埴輪	A. 残存高5.9。B. 粘土継積み上げ。C. 外面タテ方向のナデ、内面ナデ。D. チャート、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。

14	円筒 埴輪	B. 粘土粗積み上げ、凸帯貼り付け。C. 外面タテ方向のナデ。内面ナデ。凸帯ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
15	播 鉢	A. 残存高9.8。B. 粘土粗積み上げ後ロクロ整形。C. 体部外面ナデ、内面ナデの後掘目。D. 片岩粒、チャート。E. 外-橙褐色。内-にぶい赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
16	常滑 窯系 甕	B. 粘土粗積み上げ後叩き。C. 外面掘ナデの後押印文(平行線文)、内面ナデ。D. チャート。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
17	磨 石	A. 長さ11.6、幅6.3、厚さ4.1、重さ514.1g。D. 安山岩。F. 完形。G. 楕円形。器面全体に磨耗が認められ、表面は顕著な磨耗により平滑。H. 覆土中。
18	茶 臼	A. 厚さ3.0、重さ150.1g。C. 表裏側面とも丁寧な研磨。D. 安山岩。F. 下臼受け部破片。H. 覆土中。
19	土 鍾	A. 長さ6.2、最大幅1.6、重さ12.9g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい黄褐色。F. 完形。H. 覆土中。
20	鉄 製 鎌	A. 残存長6.3、幅3.5、厚さ0.6、重さ34.70g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 刃部先端。H. 覆土中。
21	鉄製 刀子	A. 残存長3.4、幅0.75、厚さ0.2、重さ2.14g。B. 鍛造。D. 鉄製。G. 茎部破片。H. 覆土中。

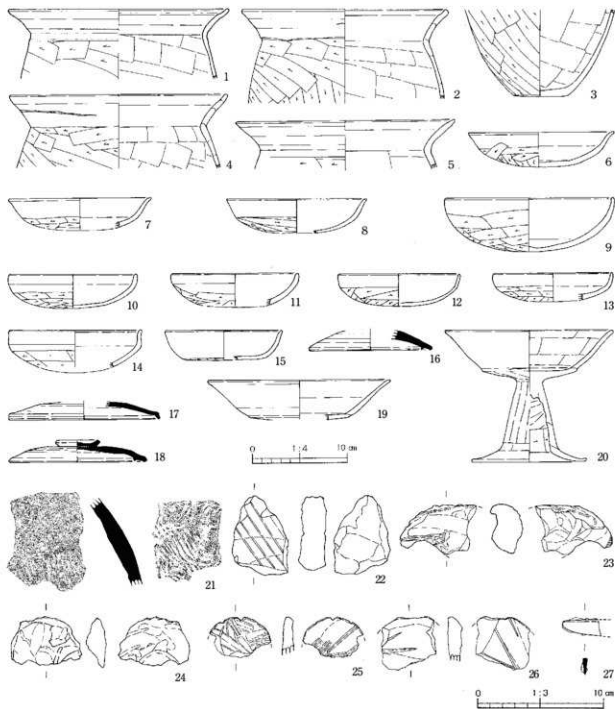
第49(SJ11)号住居跡(第121図、図版32)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置し、重複する第34号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が5.14m、南北方向が3.92mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で46cmある。各壁下には幅20cm～30cm、床面からの深さが8cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、住居の西側半分だけに見られ、東側半分には及んでいない。ピットは、3箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。80cm×74cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。P2とP3は、住居北東側コーナー部に位置する。直径22cm～30cmの円形を呈し、床面からの深さは15cm前後ある。性格は不明である。床下からは、床下土坑が3基検出されている。いずれも住居中央部にあり、床下土坑1は単独で、床下土坑2と床下土坑3は重複している。平面形は、直径110cm程度の円形や隅丸方形さみの形態を呈し、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっているが、床下土坑1は一部の壁面がオーバーハンクしている。床面からの深さは40cm前後あり、底面は広く平坦である。土坑上面は、いずれも暗褐色土(第8層)によって貼床されている。

カマドは、北側壁と東側壁の2箇所にあるが、同時に機能していたものではなく、北側壁から東側壁に作り替えられている。住居の構築当初に作られた北側壁の旧カマドは、北東側コーナー部寄りに位置し、壁をほぼ直角に付設されている。規模は、全長130cm、幅は80cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、燃焼面は住居床面よりも一段深くなっている。新しく作り替えられた東側カマドは、壁中央から南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長148cm、最大幅は124cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、燃焼面は住居床面よりも若干深くなっている。袖は、ロームブロックを均一に含む暗褐色土を盛り上げて構築している。

遺物は、カマド内やカマド周辺の床面付近、及び住居中央部の覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)から奈良時代(8世紀)を主体とする土器の破片が多く出土している(第152図)。また、土器以外では、鉄製刀子の破片や性格不明の粘土塊、及び土壁状や煎餅状の土製品などの破片が、覆土中から複数出土している。



第152図 第49(SJ11)号住居跡出土遺物

第49(SJ11)号住居跡遺物観察表

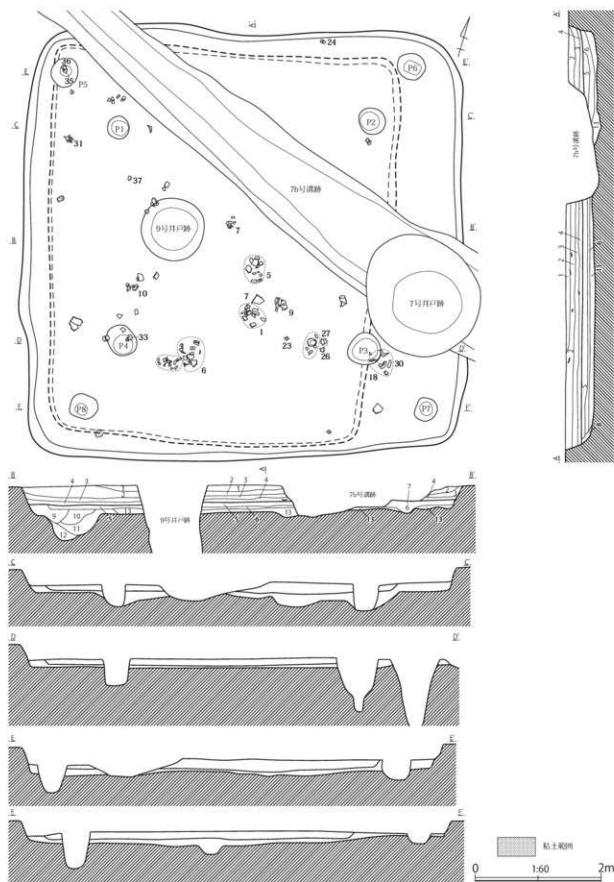
1	長 胴 夾	A. 口縁部径(232)、残存高7.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい橙褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。
2	長 胴 夾	A. 口縁部径(220)、残存高8.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 上半3/4。H. カマド内。
3	長 胴 夾	A. 底部径5.8。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部下半1/2。H. 床面付近。
4	長 胴 夾	A. 口縁部径(229)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、黒色粒、白色粒。E. 外-明黄褐色、内-明赤褐色。F. 上半1/3。H. 床面付近。
5	長 胴 夾	A. 口縁部径(230)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。

6	皿	A. 口縁部径(13.5)、器高3.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/2。G. 外面に黒色附着物あり。H. カマド内。
7	皿	A. 口縁部径(14.6)、残存高3.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙褐色、内-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
8	皿	A. 口縁部径(14.6)、器高3.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径(17.6)、器高5.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径(13.2)、器高3.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 外-にぶい橙褐色、内-にぶい赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径(13.2)、残存高3.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径(12.8)、器高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、石英、赤色粒、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径(12.6)、残存高2.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径(13.9)、残存高3.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
15	坏	A. 口縁部径(12.2)、器高3.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角四石、石英、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
16	須恵器蓋	A. 口縁部径(12.8)、残存高2.2。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一灰黄色。F. 破片。H. 覆土中。
17	須恵器蓋	A. 口縁部径(15.8)、残存高1.9。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白針状物質、白色粒。E. 外-灰色、内-黒灰色。F. 破片。G. 南北企露。H. 覆土中。
18	須恵器蓋	A. 口縁部径(14.4)、器高2.3。B. ロク口成形。横み貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/5。H. カマド内。
19	高坏	A. 口縁部径(19.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部1/5。H. 覆土中。
20	高坏	A. 口縁部径(17.6)、器高13.9、脚端部径(11.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後下半ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
21	須恵器甕	B. 粘土継積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)の後ナデ、内面道具痕(普通波文)を残す。D. 石英、白色粒。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土中。
22	土壁状土製品	A. 残存長6.3、残存幅4.5、厚さ2.1、重さ43.53g。B. 手捏ね。C. 外面は板状の圧痕を残す。内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一暗灰褐色。F. 破片。H. 覆土中。
23	不明粘土塊	A. 長さ3.9、残存幅6.0、厚さ2.3、重さ41.43g。B. 手捏ね。C. 表裏面とも植物の繊維状圧痕を残す。D. 角四石、白色粒。E. 表裏一淡茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
24	不明粘土塊	A. 長さ3.8、幅5.5、厚さ1.5、重さ21.40g。B. 手捏ね。C. 表裏面とも雑なナデ。一部に棒状の圧痕を残す。D. 角四石、白色粒。E. 表裏一淡茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
25	煎餅状土製品	A. 残存長3.2、残存幅4.8、厚さ0.9、重さ11.10g。B. 押延。C. 表裏面とも雑な瓦状工具によるナデ。D. 角四石、白色粒。E. 表裏一暗灰褐色。F. 破片。G. 表裏面赤影。H. 覆土中。
26	煎餅状土製品	A. 残存長4.2、残存幅4.3、厚さ1.1、重さ19.41g。B. 押延。C. 表裏面とも木葉痕風の圧痕を残す。D. 片岩粒、角四石、白色粒。E. 表-暗い灰褐色、裏-暗茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
27	鉄製刀子	A. 残存長3.1、幅1.3、厚さ0.3、重さ3g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 刃部先端。H. 覆土中。

第50(SJ12)号住居跡(第153図、図版32)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置し、重複する第7b号溝跡・第7号井戸跡・第9号井戸跡に切られている。本住居跡は、入り子状に2軒の住居跡が重複していることから、同一場所での拡張住居と考えられる。

拡張前の古い住居跡は、平面形はコーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が6.34m、東西方向が5.46mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。拡張後の新しい住居跡は、平面形はコーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西・南北方向とも7.00mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは26cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、いずれの住居ともルームブロックを均一に含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全体に浅く及ぶ形態である。ピットは、8箇所検出されている。P1～P4とP5～P8は、いずれも住居の対角線上に配置されている。同時に



第153图 第50(SJ12)号住居跡

存在したものがわからないが、いずれもその配置から見て、本住居跡の柱穴と関係するものと考えられる。灰やカマドは検出されなかった。

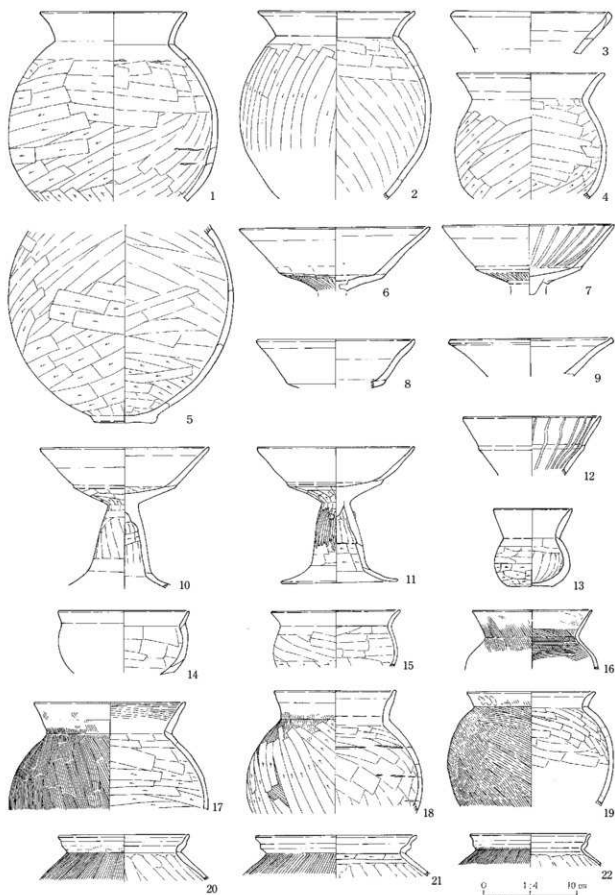
遺物は、住居の床面上や覆土中から、古墳時代前期(4世紀)～中期前半(5世紀前半)頃の土器の破片が比較的多く出土している(第154・155図)。№39の柱状砥石については、出土状態が明確ではなく、その形態からも本住居跡に伴うものではないと思われる。

第50(SJ12)号住居跡土層説明

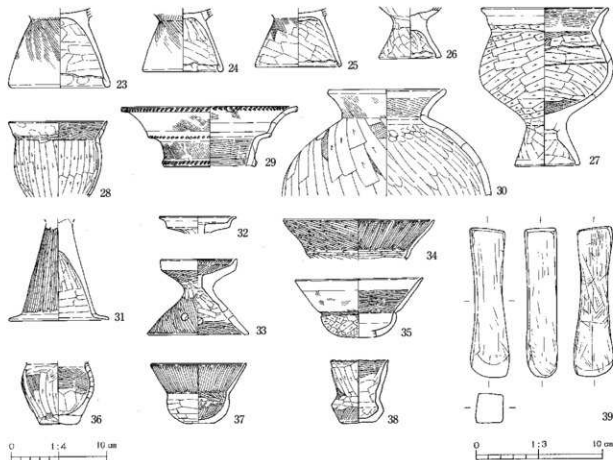
- 第1層：暗褐色土層 (ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第5層：褐色土層 (ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりもない。)
- 第6層：暗褐色土層 (ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第8層：暗褐色土層 (ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層：褐色土層 (ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第10層：暗褐色土層 (ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第11層：褐色土層 (ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第12層：褐色土層 (ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第13層：褐色土層 (ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第50(SJ12)号住居跡出土土物観察表

1	罌	A. 口縁部径 15.6、残存高 23.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒。E. 外-橙褐色、内-ぶい赤褐色。F. 上半1/2。H. 覆土中。
2	罌	A. 口縁部径 16.8、残存高 19.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、チャート。E. 内外-ぶい赤褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。
3	単純口縁空	A. 口縁部径 17.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
4	罌	A. 口縁部径 15.9、残存高 23.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後半匏ナデ。D. 片岩粒、角四石、チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。
5	罌	A. 底部径 6.3、残存高 20.9。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ナデの後下半分ケズリ、内面ケズリの後半ナデ。D. 角四石、赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 下半1/3。H. 覆土中。
6	高 坏	A. 口縁部径 20.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ミガキ、内面ナデ。D. 片岩粒、角四石、チャート、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 坏部破片。H. 覆土中。
7	高 坏	A. 口縁部径 18.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面放射状暗文。坏部外面ミガキ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-ぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. 坏部破片。H. 覆土中。
8	高 坏	A. 口縁部径 17.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-ぶい赤褐色。F. 坏部破片。H. 覆土中。
9	有段高坏	A. 口縁部径 17.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-ぶい褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
10	高 坏	A. 口縁部径 17.6、残存高 14.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ。内面ナデの後部分的にケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	高 坏	A. 口縁部径 16.7、器高 14.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。G. 脚部外面にボタン状の貼り付け2箇所。H. 覆土中。
12	中形直口壺	A. 口縁部径 14.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面放射状暗文。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
13	小形直口壺	A. 口縁部径 6.8、器高 8.2。底部径 4.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-ぶい赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径 13.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面匏ナデ。D. 白色粒。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 口縁部1/5。H. 覆土中。
15	坏	A. 口縁部径 13.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面匏ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-明褐色。F. 上半1/6。H. 覆土中。
16	小形 罌	A. 口縁部径 12.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部内外面ハケ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
17	罌	A. 口縁部径 16.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリの後半匏ナデ。D. 角四石、チャート、赤色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。



第154图 第50(SJ12)号住居跡出土遺物(1)



第155図 第50(SJ12)号住居跡出土遺物(2)

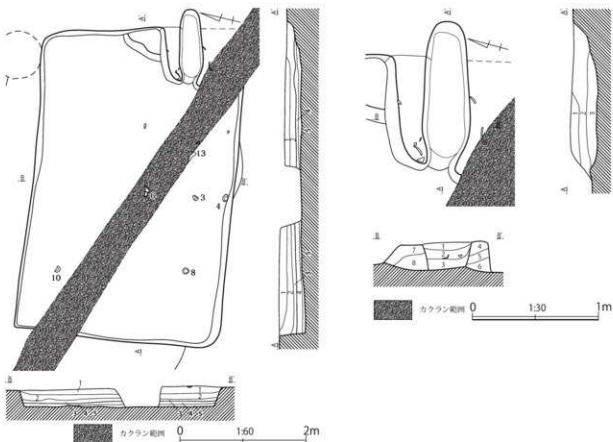
18	甕	A. 口縁部径(130),残存高131。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ。内面造ナデ。D. 角四石、チャート、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。
19	甕	A. 口縁部径136。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ。内面ナデ。D. 角四石、チャート、赤色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 上半1/3。H. 床面直上。
20	S字状口縁台付甕	A. 口縁部径(139)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ。内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-にぶい黄橙褐色。内-浅黄色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
21	S字状口縁台付甕	A. 口縁部径(172)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ。内面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 外-橙褐色。内-にぶい黄橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
22	S字状口縁台付甕	A. 口縁部径(129)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ。内面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
23	S字状口縁台付甕	A. 台端部径108。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後ハケ。内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 台部破片。H. 床面直上。
24	S字状口縁台付甕	A. 台端部径86。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後ハケ。内面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-橙褐色。内-明赤褐色。F. 台部破片。H. 覆土中。
25	S字状口縁台付甕	A. 台端部径92。B. 粘土紐積み上げ。C. 台部外面ナデの後ハケ。内面ナデ。D. 片岩粒、角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 台部破片。H. 覆土中。
26	台付甕	A. 台端部径63。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケの後ナデ。内面ナデ。台部内外面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 台部破片。H. 床面直上。
27	台付甕	A. 口縁部径136。器高168。台端部径68。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部内外面ハケの後ケズリ。台部外面内外面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. ほぼ定形。H. 床面直上。
28	小形甕	A. 口縁部径(104)。残存高80。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部内外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外-灰黄色。内-にぶい橙褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。
29	二重口縁甕	A. 口縁部径186。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部内外面ハケ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部破片。G. 外面に連続刺突文。口縁部内面に刺突による羽状文。H. 覆土中。
30	単純口縁甕	A. 口縁部径126。B. 粘土紐積み上げ。胴部凸帯貼り付け。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ケズリ。内面ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙褐色。内-にぶい赤褐色。F. 上半1/3。H. 覆土中。
31	高坏	A. 残存高107。脚端部径(106)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ミガキ。内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部破片。H. 覆土中。

32	器	台	A. 口縁部径 82. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 器受部外面ケズリ. 内面ナデ. D. 赤色粒. 白色粒. E. 外-明赤褐色. 内-にぶい橙褐色. F. 器受部破片. H. 覆土中.
33	器	台	A. 口縁部径 82. 器高 79. 脚端部径 108. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部外面ヨコナデ. 内面ミガキ. 器受部外面ケズリの後ミガキ. 内面ミガキ. 脚部外面ミガキ. 内面ナデの後下半ハケ. D. 角閃石. 黒色粒. 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 4/5. G. 円孔は3箇所. H. P 4内.
34	小形浅鉢		A. 口縁部径(162). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ナデの後ミガキ. D. 角閃石. 白色粒. E. 内外-にぶい赤褐色. F. 口縁部破片. H. 覆土中.
35	小形浅鉢		A. 口縁部径(136). 器高 62. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ハケの後ナデ. 体部外面ケズリ. 内面ナデ. D. 黒色粒. 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
36	小形土器		A. 残存高 66. 底部径 40. B. 粘土継積み上げ. C. 胴部外面ハケの後ケズリ. 内面ハケの後下半ナデ. 底部外面ナデ. D. 片岩粒. 黒色粒. 白色粒. E. 外-にぶい橙褐色. 内-赤褐色. F. 胴部のみ. H. P 5内.
37	小形直口壺		A. 口縁部径(102). 器高 63. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ミガキ. 体部外面ナデの後ケズリ. 内面ナデの後ミガキ. D. 角閃石. 白色粒. E. 外-明赤褐色. 内-にぶい赤褐色. F. 1/2. H. 床面直上.
38	小形土器		A. 口縁部径(61). 器高 68. 底部径 32. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部外面ケズリ. 内面ハケ. 体部外面ハケの後ケズリ. 内面ハケの後ナデ. D. 角閃石. 白色粒. E. 外-にぶい橙褐色. 内-明赤褐色. F. はば定形. H. P 5内.
39	柱状砥石		A. 長さ 117. 幅 31. 厚さ 26. 重さ 1146g. B. 荒漉り. C. 4面とも使用により平滑. D. 波紋岩. F. 定形. H. 覆土中.

第51(SJ51)号住居跡(第156図、図版33)

B2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第70号住居跡と第6号土坑を切り、住居跡の中央部を後世の擾乱溝が切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が5.00m、南北方向が3.26mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で



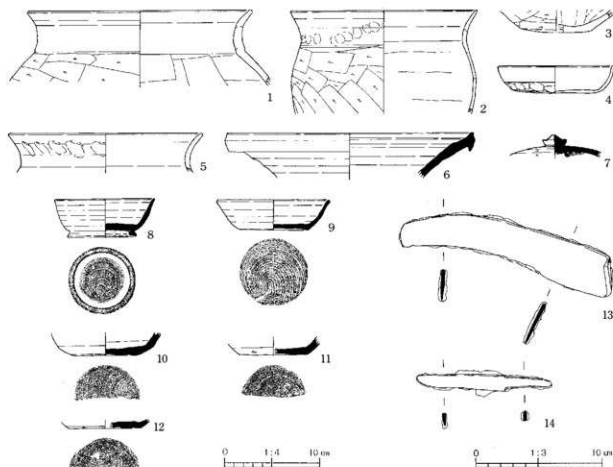
第156図 第51(SJ51)号住居跡

第51(SJ51)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（炭化粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第51(SJ51)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土ブロックを少量、黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第157図 第51(SJ51)号住居跡出土遺物

ある。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは検出されなかった。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長128cm、幅は70cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を30cmほど掘り込んで細長い形態を呈し、焚口部の幅は20cm程度しかない。燃焼面は、住居床面よりも一段深くなっている。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築しており、袖の先端付近には壁

を伏せて補強にしている。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居の床面上や覆土中から、奈良時代(8世紀)末から平安時代前期(9世紀)前半頃の土器が出土している。土器以外では、住居中央部の床面付近から、刀子や鎌などの鉄製品が出土している(第157図)。

第51(SJ51)号住居跡出土土物観察表

1	長 刷 堊	A. 口縁部径(234)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角四石。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/4。H. カマド内。
2	長 刷 堊	A. 口縁部径(19.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石。E. 内外-橙褐色。F. 上半1/3。H. カマド内。
3	堊	A. 底部径(7.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、白色粒。E. 外-黒褐色、内-橙褐色。F. 底部1/2。H. 床面付近。
4	坏	A. 口縁部径(11.9、器高2.9)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. 覆土中。
5	長 刷 堊	A. 口縁部径(20.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角四石。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/5。H. カマド内。
6	須 恵 器 壺	A. 口縁部径(25.8)。B. 粘土継積み上げ後、ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外-灰色。F. 口縁部破片。G. 口唇部に黒色付着物あり。H. 覆土中。
7	須 恵 器 蓋	A. 残存高(2.4)。B. ロクロ成形。横み貼り付け。C. 天井部外面回転ケズリ、内面ナデ。D. 角四石。E. 外-明赤褐色、内-黒褐色。F. 天井部破片。H. 覆土中。
8	須 恵 器 高台付埴	A. 口縁部径(10.4、器高4.1、高台部径7.3)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外-灰色。F. 完形。H. 覆土中。
9	須 恵 器 坏	A. 口縁部径(11.7、器高3.2、底部径7.2)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒。E. 内外-浅黄色。F. 2/3。H. カマド内。
10	須 恵 器 坏	A. 底部径(6.7)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒。E. 内外-ぶい黄色。F. 底部1/2。H. 床面直上。
11	須 恵 器 坏	A. 底部径(7.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 黒色粒。E. 内外-灰色。F. 底部1/2。H. 覆土中。
12	須 恵 器 坏	A. 底部径(7.5)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後外周回転ケズリ。D. 黒色粒。E. 内外-灰色。F. 底部1/2。H. 掘り方埋土。
13	鉄 製 鎌	A. 長さ16.5、幅3.5、厚さ0.3、重さ76.1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 完形。H. 覆土中。
14	鉄 製 刀子	A. 長さ10.6、幅1.2、厚さ0.25、重さ17.7g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 完形。H. 覆土中。

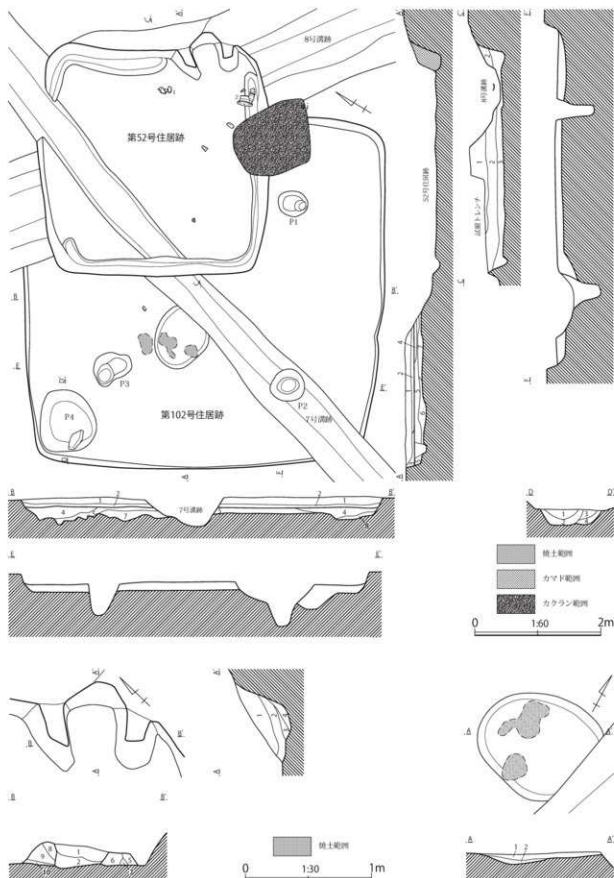
第52(SJ52)号住居跡(第158図、図版33)

B2地点の調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第102号住居跡を切り、遺構上面を第7号溝跡と第8号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.66m、南北方向が3.62mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは、最高で52cmある。各壁下には、幅15cm~30cm、床面からの深さが5cm~10cm程度の壁溝が巡っているが、カマド付近と北側壁の中央部は途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全体に浅く及ぶ形態である。ピットは、検出されなかった。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長70cm、最大幅108cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁とほぼ一致している。燃焼面は、住居の床面よりも若干低くなっている。袖は、ロームブロックとローム粒子を含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居床面付近から、白鳳時代(7世紀後半)の土器が比較的多く出土している。土器以外では、時期不明の角四石安山岩製の磨石(No20)や羽口の破片(No18・19)などが覆土中から出土している(第159図)。



第158図 第52(SJ52)・102(SJ23)号住居跡

第52(SJ52)号住居跡土層説明

<C-C'>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第102(SJ23)号住居跡土層説明

<A-A'、B-B'>

- 第1層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第102(SJ23)号住居跡P1土層説明

<D-D'>

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第52(SJ52)号住居跡カマド土層説明

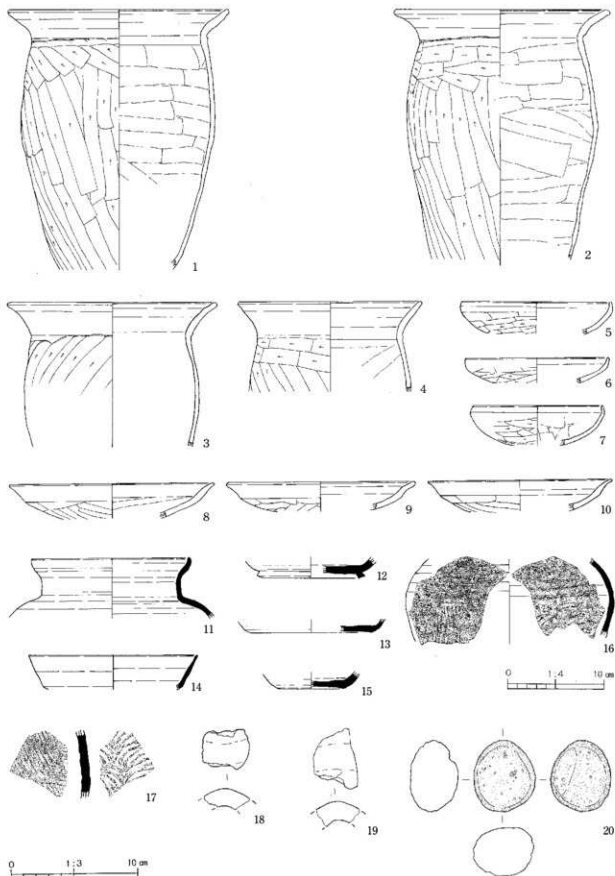
- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第102(SJ23)号住居跡炉土層説明

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第52(SJ52)号住居跡出土遺物観察表

1	長 剛 夾	A. 口縁部径 22.8、残存高 27.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 片岩粒、角四石、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
2	長 剛 夾	A. 口縁部径 22.0、残存高 26.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 片岩粒、角四石、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
3	長 剛 夾	A. 口縁部径(21.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角四石、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
4	長 剛 夾	A. 口縁部径(19.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(15.5)、残存高 3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒、黒色粒。E. 内外一暗褐色。F. 破片。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(14.2)、残存高 2.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(13.4)、残存高 4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一暗褐色。F. 破片。H. 覆土中。
8	皿	A. 口縁部径(21.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
9	皿	A. 口縁部径(19.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒、黒色粒。E. 内外一暗褐色。F. 破片。H. 覆土中。



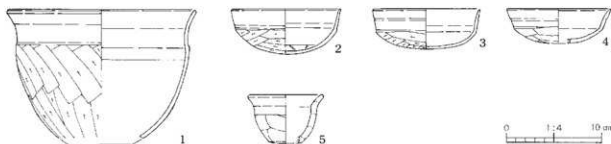
第159図 第52(SJ52)号住居跡出土遺物

10	皿	A. 口縁部径(18.9)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-橙褐色、内-黒褐色。F. 破片。H. 覆土中。
11	須恵器壺	A. 口縁部径(16.4)。B. 粘土層積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-黄灰色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。
12	須恵器高台付壺	A. 高台部径(11.4)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-黄灰色。F. 底部1/4破片。H. 覆土中。
13	須恵器壺	A. 底部径(12.7)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. 底部1/5破片。H. 覆土中。
14	須恵器壺	A. 口縁部径(17.6)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-黄灰色。F. 破片。H. 覆土中。
15	須恵器壺	A. 底部径(6.6)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後外周回転ケズリ。D. 白色粒。E. 外-黄灰色、内-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
16	須恵器壺	A. 胴部最大径(22.0)、残存高8.3。B. 粘土層積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)の後横線、内面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-黄灰色。F. 破片。H. 覆土中。
17	須恵器壺	B. 粘土層積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)の後横線、内面当道具痕(普海波文)を残す。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-黄灰色。F. 破片。H. 覆土中。
18	羽口	A. 残存長3.3、残存幅3.8、厚さ1.5。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰褐色、内-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
19	羽口	A. 残存長4.9、残存幅3.5、厚さ1.6。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰褐色、内-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
20	磨石	A. 長さ5.6、幅4.8、厚さ3.8。B. 自然石を利用。C. 全体に磨減。D. 角閃石安山岩。F. 完形。H. 覆土中。

第53(SJ53)号住居跡(第161図、図版33)

B2地点の調査区中央の西側寄りに位置する。本住居跡は、B地点で検出された竪穴式住居跡の中では最も小形のものである。住居の周辺には柱穴状のピットが多数見られることから、壁外柱穴をもつ住居跡の可能性もあるが、明確なことは不明である。

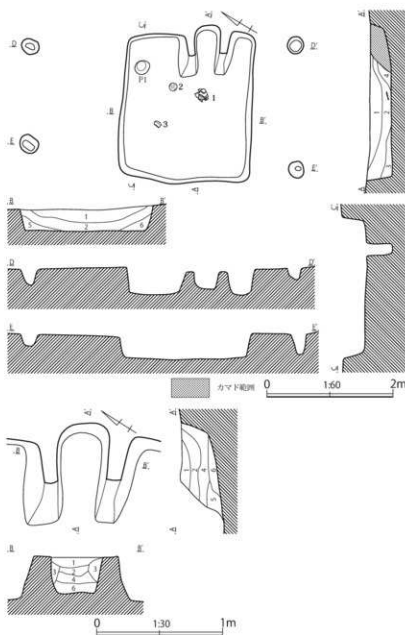
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が238m、南北方向が211mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で40cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、地山ローム土を平坦に削り出した直床式である。ピットは、竪穴の掘り込み内では、1箇所検出されている。P1は、北東側コーナー部に位置する。直径22cmの円形を呈し、床面からの深さは40cmある。



第160図 第53(SJ53)号住居跡出土遺物

第53(SJ53)号住居跡出土遺物観察表

1	大形鉢	A. 口縁部径 200 ~ 213。残存高 13.5。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
2	模倣壺	A. 口縁部径 11.6、器高 4.8。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
3	有段口縁模倣壺	A. 口縁部径(11.4)、器高 4.2。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
4	有段口縁模倣壺	A. 口縁部径(11.0)、器高 3.6。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
5	小形鉢	A. 口縁部径(8.0)、器高 5.1、底部径(3.4)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 1/2。H. 覆土中。



第161図 第53(SJ53)号住居跡

第53(SJ53)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：黒褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第53(SJ53)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

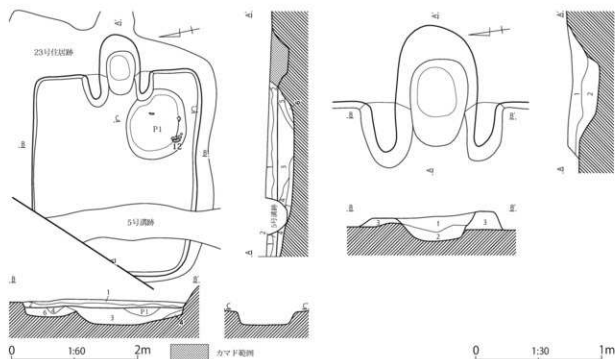
カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長82cm、最大幅96cmある。燃焼部は、住居の壁をあまり掘り込まず、ほぼ住居内にある。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部内面は、あまり焼けていない。袖は、地山ローム土を掘り残して芯にしているようである。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居中央部の床面付近から、古墳時代後期後葉（7世紀前半）頃の土器が、少量出土している（第160図）。この中でNo5の小形鉢は、該期では一般的な器種ではなく、その形態からは当地域において古墳時代後期のカマドに客体的に見られる鉢形支脚（恋河内2008）の一種の可能性もある。

第54(SJ54)号住居跡(第162図、図版34)

B2地点の調査区北西隅に位置し、重複する第5号溝跡・第24号住居跡に切られている。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が3.34m、南北方向が2.68mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全体に及ぶ形態である。ピットは、1箇所検出されている。P1は、住居南東側コーナー部付近に位置するが、カマドの右袖と一部重複していることから、貯蔵穴ではないと思われる。形態は、114cm×96cmの楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。上面に明確な貼床は施されていないが、その形態から床下土坑の可能性も考えられる。



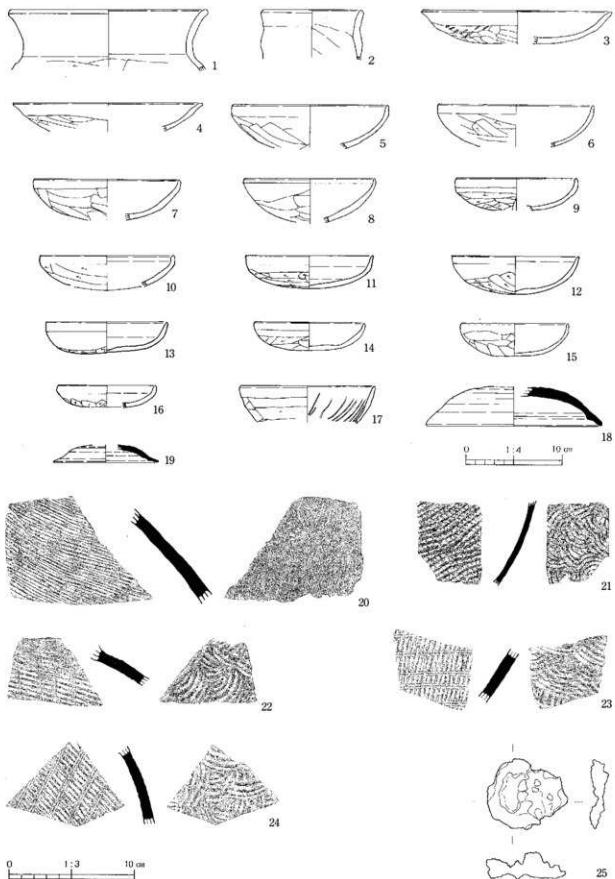
第162図 第54(SJ54)号住居跡

第54(SJ54)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：灰黄褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：灰黄褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第54(SJ54)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を中量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第3層：明灰褐色土層（ロームブロック・灰色粘土粒子を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第163图 第54(SJ54)号住居跡出土遺物

カマドは、住居東側壁の中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長110cm、最大幅115cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで住居外にあり、燃焼面は住居の床面よりも一段深くになっている。袖は、ロームブロックと灰色粘土粒子を含む灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。

遺物は、覆土中から白鳳時代(7世紀後半)を主体とする土器片が少量出土しただけであるが、重複する平安時代前期の第23号住居跡の覆土中から出土した該期の土器も、本住居跡に関連するものと推測される(第163図)。土器以外では、覆土中から小形の椀形鍛冶滓(No25)が1点出土している。

第54(SJ54)号住居跡出土土物観察表

1	削 張 壳	A. 口縁部径(20.3)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 23住覆土中。
2	小 形 壳	A. 口縁部径(10.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰褐色、内-灰褐色。F. 破片。G. 器表面は荒れている。H. 23住覆土中。
3	皿	A. 口縁部径(20.2)。器高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/5。H. 23住覆土中。
4	皿	A. 口縁部径(19.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 23住覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(16.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 23住覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(16.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 23住覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(15.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. チャート、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 23住覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(13.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 23住覆土中。
9	坏	A. 口縁部径(12.6)。器高3.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. チャート、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 23住覆土中。
10	坏	A. 口縁部径(13.6)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 54住覆土中。
11	坏	A. 口縁部径(13.2)。器高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. 54住覆土中。
12	坏	A. 口縁部径12.8。器高4.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. P. 1内。
13	坏	A. 口縁部径(12.4)。器高3.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、石英、角閃石。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。H. 54住覆土中。
14	坏	A. 口縁部径(11.6)。器高3.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、チャート、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 23住覆土中。
15	坏	A. 口縁部径(11.3)。器高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。H. 23住覆土中。
16	坏	A. 口縁部径(10.2)。器高2.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-灰褐色。F. 1/4。H. 54住覆土中。
17	暗 文 坏	A. 口縁部径(14.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. チャート、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 内面放射状暗文。H. 23住覆土中。
18	須 志 罎	A. 口縁部径(18.4)。残存高4.1。B. ロクウ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰白色、内-暗灰黄色。F. 口縁部1/6破片。H. 23住覆土中。
19	須 志 罎	A. 口縁部径(10.8)。残存高1.8。B. ロクウ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰白色。F. 破片。H. 23住覆土中。
20	須 志 罎	B. 粘土継積み上げ後叩き整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-灰黄色、内-黄灰色。F. 破片。H. 23住覆土中。
21	須 志 罎	B. 粘土継積み上げ後叩き整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外-灰白色。F. 破片。H. 23住覆土中。
22	須 志 罎	B. 粘土継積み上げ後叩き整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-灰白色。F. 破片。H. 54住覆土中。
23	須 志 罎	B. 粘土継積み上げ後叩き整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-灰白色。F. 破片。H. 54住覆土中。
24	須 志 罎	B. 粘土継積み上げ後叩き整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-灰白色。F. 破片。H. 54住覆土中。
25	椀形鍛冶滓	A. 長さ3.4。幅5.3。厚さ1.9。重さ59.4g。F. 完形。G. 上面はガスの発泡が顕著に見られる。底着なし。H. 54住覆土中。

第55(SJ13)号住居跡(第164図、図版34)

B2地点の調査区北側の中央部に位置し、重複する第61号土坑に切られている。

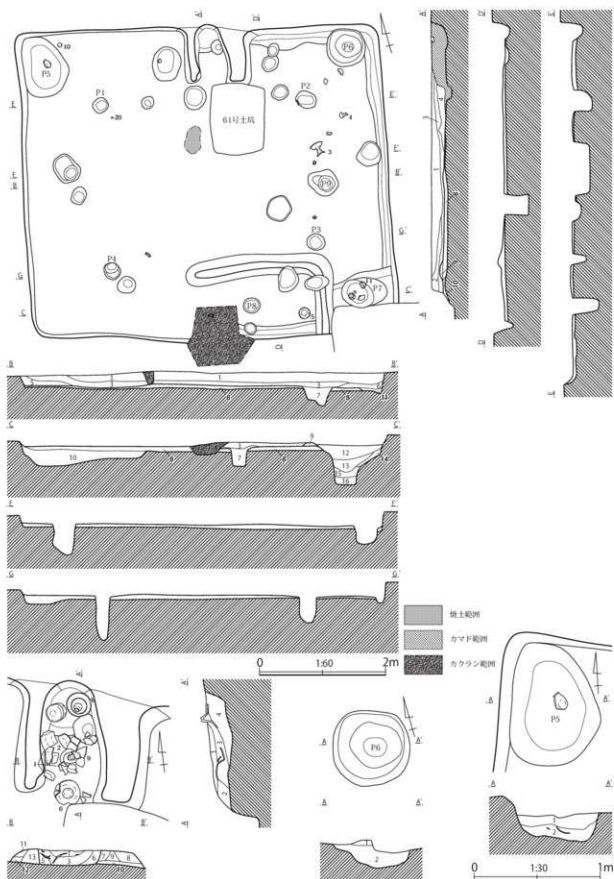
平面形は、コーナー部が丸みをもつ比較的整った長方形を呈している。規模は、南北方向が5.06m、東西方向が5.81mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。住居北側壁下のカマド右側から東側壁下と南側壁下の東側にかけて、幅20cm前後、床面からの深さ10cm前後の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居中央部の床面上には、45cm×25cmの楕円形状に焼けて赤色化した部分が1箇所あり、炉の可能性も考えられる。南側壁際の中央付近には、幅30cm～40cm、床面からの高さ5cm程度のL字状の土堤があり、中にあるP8とともに入口部に関する施設と考えられる。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、すべてが住居と関係するものか明確ではない。この中でP1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。長さ25cm前後の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは30cm～70cmある。P5～P7は、住居の各コーナー部に位置し、P5とP6は浅い土坑状の掘り込みみである。P7は、長方形形状に一段低くなった中に、72cm×48cmの楕円形を呈する深さ60cmの深い掘り込みをもち、中から完形の土器が複数出土していることから、貯蔵穴と考えられるが、後述するように住居廃絶時の北側壁のカマドと同時に作られたものではなく、住居構築当初の東側壁にあったカマドに伴って作られたものであろう。P8は、土堤に囲まれた南側壁際の中央に位置することから、入口部の施設の一部と推測される。直径25cm程度の円形を呈し、床面からの深さは30cmある。

カマドは、住居北側壁のほぼ中央の位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長96cm、最大幅106cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁とほぼ一致している。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、中央部に高坏を伏せた転用支脚を据えている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。カマド内からは、一般的なカマドと異なり、高坏や直口壺などの土器が多く出土している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。本住居跡のカマドは、貯蔵穴と考えられるP7や、入口部施設と関係するL字状の土堤の位置から見て、当初は住居の東側壁に付設されていたと推測され、住居廃絶時に存在したカマドは東側壁から北側壁に作り替えられたものと思われる。

遺物は、カマド内や壁際周辺部の床面付近から、古墳時代中期(5世紀)中葉頃の土器が比較的多く出土している。土器以外では、覆土中から剣形と勾玉の石製模造品が出土している。その他、土錘が2点出土しているが、おそらく本住居跡に伴うものではなく、覆土中から出土した奈良時代後半頃の土器と関係するものと思われる(第165図)。

第55(SJ13)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層：褐色土層(ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第4層：黒褐色土層(炭化粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第5層：褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第6層：褐色土層(ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第7層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)



第164図 第55(SJ13)号住居跡

- 第8層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第13層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第15層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第16層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第55(SJ13)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：黄褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第55(SJ13)号住居跡P5土層説明

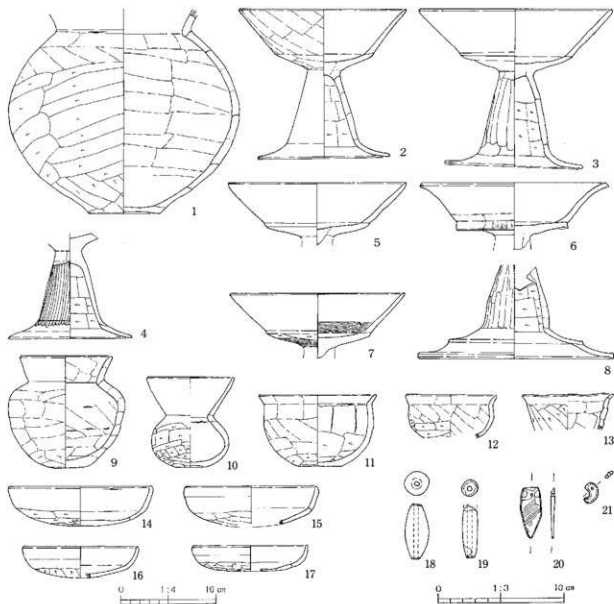
- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

第55(SJ13)号住居跡P6土層説明

- 第1層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、灰黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第55(SJ13)号住居跡出土遺物観察表

1	胴 張 类	A. 残存高 216、底部径 74。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面匊ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 胴部 1/2。H. カマド内。
2	高 坏	A. 口縁部径(175)、器高 159、脚端部径(139)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部・坏部外面ナデ、内面ヨコナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. カマド内。
3	高 坏	A. 口縁部径 201、器高 169、脚端部径(144)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒炭あり。H. 覆土中。
4	高 坏	A. 脚端部径 127。B. 粘土継積み上げ。C. 脚端部外面ナデの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 脚部のみ。G. 内外面に黒炭あり。H. 覆土中。
5	高 坏	A. 口縁部径(185)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 外一橙褐色、内一明赤褐色。F. 坏部のみ。H. 床面直上。
6	有段高坏	A. 口縁部径(193)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部のみ。G. 内外面に黒炭あり。H. カマド内。
7	高 坏	A. 口縁部径(183)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ヨコナデ。坏部外面ハケの後一部ケズリ、内面ハケ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部のみ。H. 貯蔵穴P7内。
8	有段高坏	A. 残存高 98、脚端部径 204。B. 粘土継積み上げ。C. 脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚部のみ。G. 脚端部内外面に黒炭あり。H. カマド内。
9	小形 甕	A. 口縁部径 95、器高 123、底部径 40。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面匊ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 片岩粒、石英、角四石。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 胴部外面は二次焼成を受けている。H. カマド内。
10	小形直口壺	A. 口縁部径 90、器高 94、底部径 30。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部内外面に黒炭あり。H. 床面直上。
11	坏	A. 口縁部径 122、器高 76、底部径 47。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面匊ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、角四石、石英、赤色粒。E. 内外一橙褐色。F. ほぼ完形。H. P7内。



第165図 第55(SJ13)号住居跡出土遺物

12	環	A. 口縁部径(94)、残存高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面蓋ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. カマド内。
13	環	A. 口縁部径(93)、残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、石英。E. 内外-ぶい赤褐色。F. 1/3。H. カマド内。
14	環	A. 口縁部径(148)、器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
15	環	A. 口縁部径(137)、残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
16	環	A. 口縁部径(119)、器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-灰褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
17	環	A. 口縁部径(119)、器高2.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
18	土 錘	A. 長さ4.4、最大径1.9、重さ138g。B. 手摺ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-ぶい黄褐色。F. 完形。H. 覆土中。
19	土 錘	A. 残存長さ4.2、最大径1.2、重さ56g。B. 手摺ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗灰黄色。F. 3/4。H. 覆土中。
20	石製模造品 (削形)	A. 長さ4.0、最大幅1.7、厚さ0.4、重さ3.2g。B. 母岩から板状に剥離後、外形荒割り。C. 表裏側面とも研磨。D. 滑石。F. 完形。G. 上方に穿孔を施す。H. 覆土中。
21	石製模造品 (勾玉)	A. 長さ1.6、最大幅0.8、厚さ0.3、重さ0.9g。B. 外形荒割り。C. 全面研磨。D. 滑石。F. 完形。G. 上方に穿孔を施す。H. 覆土中。

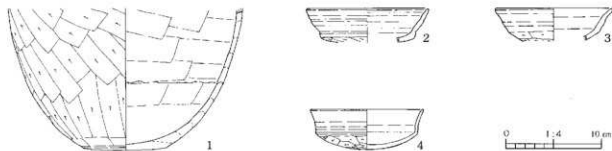
第56(SJ56)号住居跡(第167図、図版34)

B2地点の調査区の南側の西側に位置し、住居跡の中央を後世の掘乱溝に切れ、重複する第57号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東-南西方向が3.64m、北西-南東方向が3.56mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、住居の中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際まで深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、2箇所検出されている。P1とP2は、住居の北側と東側のコーナー部に位置する。住居の規模が比較的小形であることからすると、主柱と関係するものかもしれない。長軸35cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは30cmと40cmある。住居中央部の床下からは、床下土坑が1基検出されている。形態は、134cm×87cmの楕円形を呈し、床面からの深さは52cmある。底面は、やや狭くかなり起伏がある。覆土は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土で埋め戻されており、上面には貼床が施されている。

カマドは、住居北東側壁の中央に位置する。燃焼部と左袖を掘乱溝に切られており、残存しているのは右袖だけである。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代後期後葉(6世紀末～7世紀初頭)頃の土器の破片や、長さ15cm～20cmの自然石が多く出土している(第166図)。



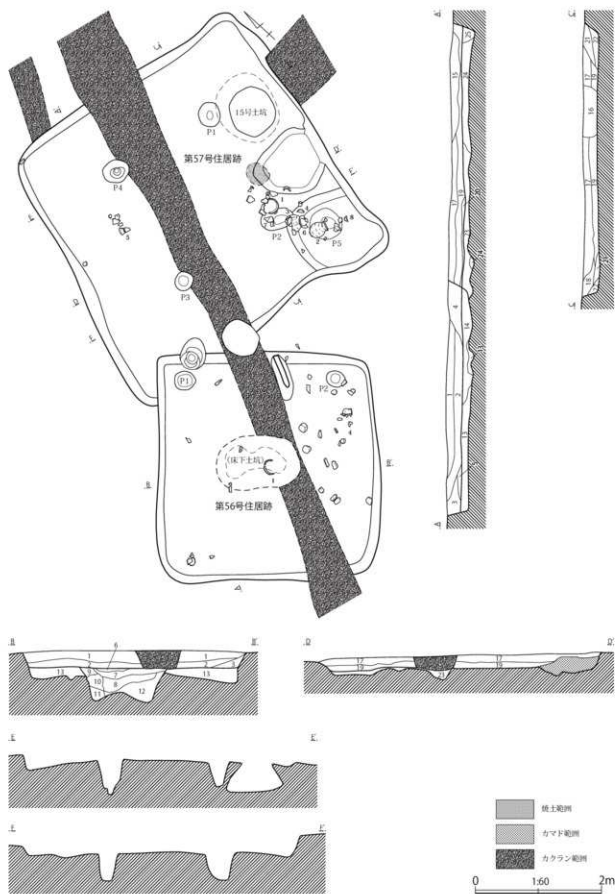
第166図 第56(SJ56)号住居跡出土遺物

第56(SJ56)号住居跡出土遺物観察表

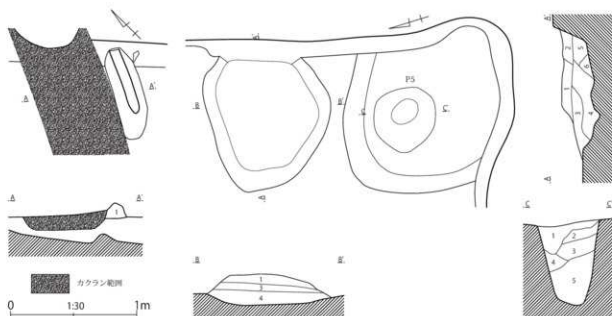
	観察	説明
1	胴張壳	A. 底部径8.8。B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面鬘ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 胴部下半1/2。G. 胴部外面に煤付着。H. 覆土中。
2	有段口縁模盤 甕 坏	A. 口縁部径13.0、残存高3.6。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
3	模盤 甕 坏	A. 口縁部径12.4、残存高3.4。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
4	模盤 甕 坏	A. 口縁部径12.0、器高4.3。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。

第56(SJ56)・57(SJ57)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層(ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層：暗褐色土層(ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第5層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第167図 第56(SJ56)・57(SJ57)号住居跡



第168図 第56(SJ56)・57(SJ57)号住居跡カマド

- 第6層：黒褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：黄褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：黄褐色土層（第8層と同じ。）
 第13層：暗黄褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第19層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第20層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第21層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第22層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第24層：暗黄褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第25層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第56(SJ56)号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を中量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第57(SJ57)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

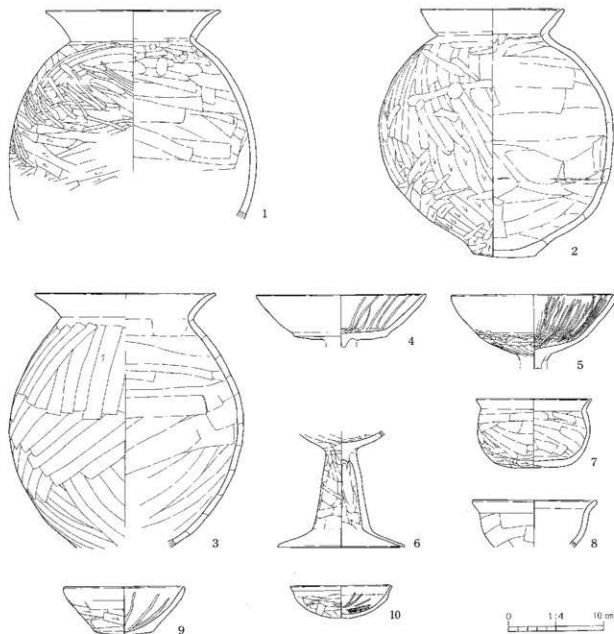
第57(SJ57)号住居跡P5土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第57(SJ57)号住居跡 (第167図、図版35)

B2地点の調査区南側の西寄りに位置し、住居跡の中央部を後世の攪乱溝に切られ、重複する第15号土坑と第56号住居跡に切られている。

平面形は、若干西側壁と南側壁が歪んでいるが、コーナー部が丸みをもつ方形を基調にしている。規模は、東西方向が4.48m～4.80m、南北方向が4.60mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。長軸



第169図 第57(SJ57)号住居跡出土遺物

30cm～50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは40cm～52cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。形態は、136cm×128cmの隅丸方形を基調とし、内部に直径50cmの円形を呈し、床面からの深さが75cmのビット状の落ち込みを伴っている。

カマドは、住居東側壁の中央付近に付設されている。すでに本体は崩壊し掘り方部分しか残存していないため、カマドの詳細は不明である。

遺物は、カマドやP5の貯蔵穴周辺から、古墳時代後期初頭(5世紀後半)頃の土器の破片が比較的多く出土している(第169図)。

第57(SJ57)号住居跡遺物観察表

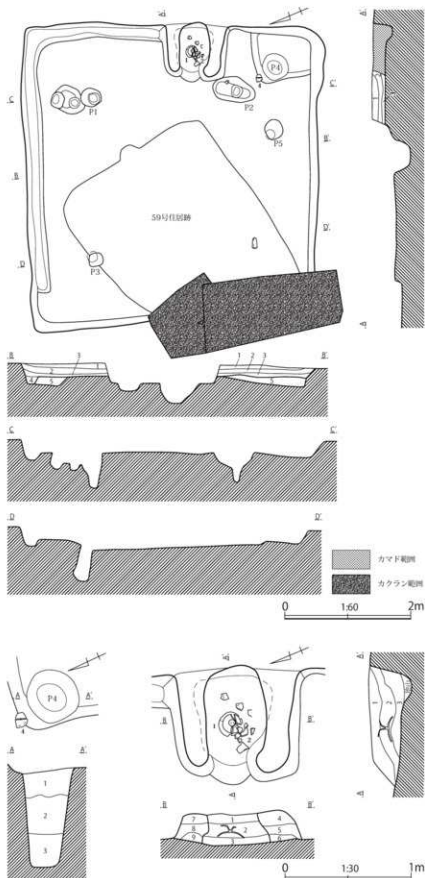
1	長 胴 甕	A. 口縁部径 184、残存高 221。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後縁ナデ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、チャート。E. 内-にふい橙褐色、外-橙褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
2	胴 張 甕	A. 口縁部径 152、器高 263、底部径 66。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。H. P5内。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径 190、残存高 268。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 赤色粒、チャート。E. 内-にふい橙褐色、外-橙褐色。F. 4/5。H. P5内。
4	高 坏	A. 口縁部径(180)、残存高 55。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後放射状暗文。坏部外面ナデ。D. チャート、片岩粒、赤色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 坏部1/2。H. P5内。
5	高 坏	A. 口縁部径 173、残存高 78。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。坏部外面ケズリ。D. 白色粒、黒色粒、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 坏部1/2。H. P5内。
6	高 坏	A. 残存高 120、脚端部径 136。B. 粘土継積み上げ。C. 坏部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリ、脚柱部内外面ヨコナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. P5内。
7	埴	A. 口縁部径 121、器高 72、底部径 50。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
8	埴	A. 口縁部径(128)、残存高 50。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. チャート、片岩粒。E. 内-黒色、外-明赤褐色。F. 1/4。H. P5内。
9	坏	A. 口縁部径(126)、器高 52、底部径(68)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内面ナデ後放射状暗文。D. 白色粒、片岩粒、白色針状物質。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
10	模 倣 坏	A. 口縁部径(108)、器高 34。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ後放射状暗文。D. 白色粒、チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。

第58(SJ14)号住居跡(第170図、図版35)

B2地点の調査区北東側に位置し、重複する第59号住居跡に住居跡中央部を切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ比較的正方形を呈している。規模は、東西方向が4.86m、南北方向が4.84mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。住居北側壁下から東側壁下の北側半分にかけて、幅25cm前後、床面からの深さ10cm前後の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを多量含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、主柱穴に囲まれた住居の中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際まで深く掘り窪めた周溝状の形態である。ビットは、5箇所検出されている。P1～P3は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の一部と考えられる。直径20cm～30cmの円形を呈し、床面からの深さは50cm前後ある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。100cm×85cmの長方形を呈する土坑状の浅い掘り込みの端に、直径40cm、深さ80cmのビット状の掘り込みを伴っている。P5は、直径30cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。住居南側壁際の中央付近に位置しており、その性格は不明である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、

**第58(SJ14)号住居跡土層説明**

- 第1層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第58(SJ14)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土ブロックを少量、ロームブロック・炭化粒子・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、焼土ブロック・黄褐色粘土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黄褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黄褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：黄褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

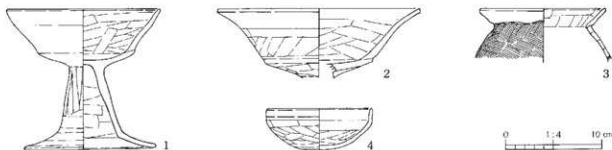
第58(SJ14)号住居跡P4土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第170図 第58(SJ14)号住居跡

全長92cm、最大幅108cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致する。燃焼面は、住居床面よりも一段低くなっている。燃焼部の中央には、高坏を伏せた転用支脚が据えられている。袖は、ロームブロックを均一に含む黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居の覆土中から、古墳時代後期初頭(5世紀末)の土器が少量出土している(第171図)。



第171図 第58(SJ14)号住居跡出土遺物

第58(SJ14)号住居跡出土土物観察表

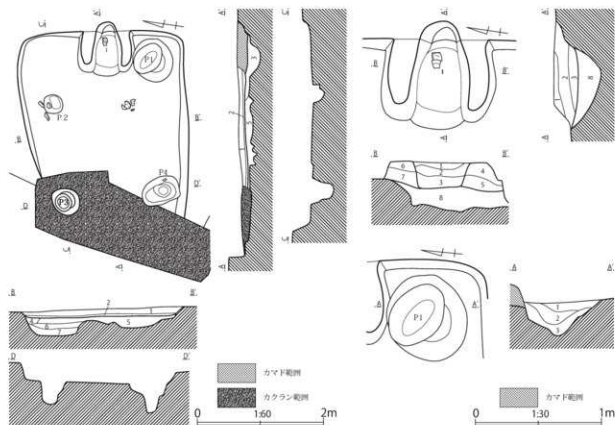
1	高 坏	A. 口縁部径 15.9、器高 15.1、脚端部径 13.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後匏ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面匏ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. はほぼ完形。H. カマド内。
2	有段高坏	A. 口縁部径(21.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 坏部2/3。H. カマド内。
3	甕	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面匏ナデ。胴部外面ハケ、内面匏ナデ。D. 角四石、黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/5。H. 覆土中。
4	模 堂 坏	A. 口縁部径(11.2)、器高 4.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。

第59(SJ59)号住居跡(第172図、図版35)

B2地点の調査区北東側に位置し、重複する第58号住居跡を切っている。住居跡の西側は、掘乱によってすでに破壊されている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈すると思われる。規模は、南北方向が2.66m、東西方向は3.10mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、4箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。70cm×62cmの楕円形を呈し、床面からの深さは26cmある。P2～P4は、その配置から住居の主柱穴の可能性が考えられるものである。P2は30cm×30cmの隅丸方形、P3は42cm×48cmの楕円形、P4は42cm×62cmの楕円形を呈し、床面からの深さはP2が18cm、P3が40cm、P4が48cmある。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央の位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長86cm、最大幅92cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼面は、住居の床面よりも一段深くなっている。袖は、ロームブロックや灰黄褐色粘土を含む暗褐色土を、住居



第172図 第59(SJ59)号住居跡

第59(SJ59)号住居跡土層説明

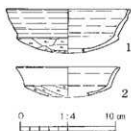
- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子・灰白色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、灰黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第59(SJ59)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・灰黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・灰黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・灰黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：暗褐色土層（住居跡第3層と同じ。）

第59(SJ59)号住居跡P1土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第173図 第59(SJ59)号住居跡
出土遺物

の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、住居の壁外に15cm程度延びて削平されている。

遺物は、カマド内や覆土中から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃の土器が少量出土している(第173図)。

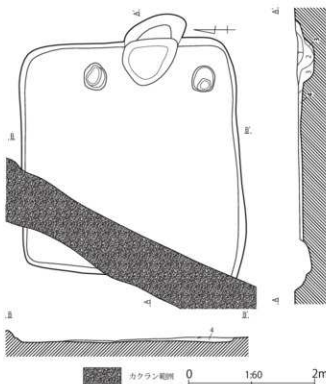
第59(SJ59)号住居跡出土遺物観察表

1	有段口縁 模倣 坏	A. 口縁部径(13.2)、器高4.6。B. 粘土練積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/3破片。H. カマド内。
2	模倣 坏	A. 口縁部径(11.0)、残存高3.1。B. 粘土練積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。

第60(SJ60)号住居跡(第174図、図版36)

B2地点の調査区中央部の西側寄りに位置し、重複する第39号住居跡に上半を切られている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、東西方向が3.66m、南北方向が3.54mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で8cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、住居内から2箇所検出されているが、本住居跡に伴うものか明確ではない。



第174図 第60(SJ60)号住居跡

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。燃烧部の掘り方と煙道部の一部しか残存していなかったため、カマドの詳細は不明である。

遺物は、本住居跡に伴うと思われるものは何も出土しなかった。

第60(SJ60)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(焼土粒子を少量、ロームブロック・灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ロームブロック・焼土粒子を少量、灰褐色粘土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第3層：褐色土層(ローム粒子を多量、灰褐色粘土ブロックを少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

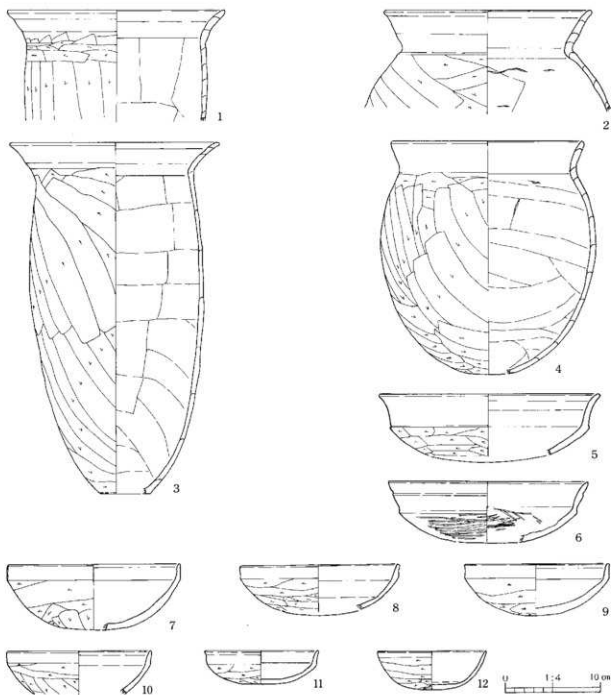
第61(SJ61)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第62(SJ62)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第63(SJ63)号住居跡(第140図、図版36)

B2地点の調査区南側の西端に位置し、重複する第42号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が2.88m、東西方向が3.30mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、深さは最高で40cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、検出されなかった。



第175図 第63(SJ63)号住居跡出土遺物

カマドは、住居北側壁の中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長80cm、最大幅126cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、その大半が住居の壁外にあり、燃焼面は住居の床面とほぼ同じ高さである。軸は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマドの周辺や住居跡の覆土中から、古墳時代後期末頃(7世紀中頃)の土器が多く出土している(第175図)。

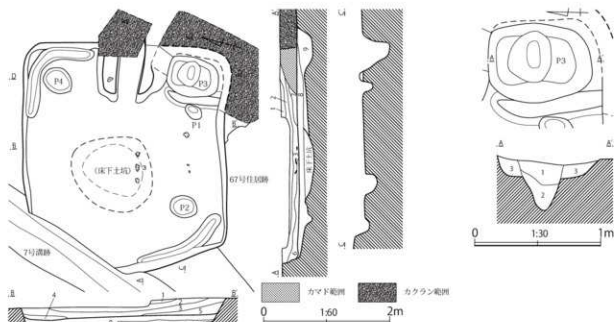
第63号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(23.0)、残存高11.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. カマド内。
2	胴 張 甕	A. 口縁部径22.1、残存高10.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、角四石。E. 内外-橙褐色。F. 破片。G. 内外面とも磨減顕著。H. カマド内。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径22.3、器高37.2、底部径(5.2)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、白色粒、赤色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 3/4。H. 床面付近。
4	胴 張 甕	A. 口縁部径(20.4)、残存高24.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
5	模 倣 坏	A. 口縁部径(23.5)、残存高6.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
6	有段口縁模倣坏	A. 口縁部径(21.2)、残存高6.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ後ミガキ、内面ナデの後ミガキ。D. 角四石、片岩粒。E. 内外-褐色。F. 破片。H. 覆土中。
7	模 倣 坏	A. 口縁部径(18.2)、器高6.9。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-にぶい橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
8	模 倣 坏	A. 口縁部径(17.0)、残存高4.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
9	模 倣 坏	A. 口縁部径(15.3)、器高5.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、ナット。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
10	模 倣 坏	A. 口縁部径(15.3)、残存高4.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-黄橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
11	模 倣 坏	A. 口縁部径(12.1)、器高3.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径(11.6)、器高4.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。

第64(SJ64)号住居跡(第176図、図版36)

B2地点の調査区中央部の東端に位置し重複する第7号溝跡に切られ、第67号住居跡(松本・大熊他2009)を切っている。

平面形は、西側壁がやや歪んでいるが、コーナー部が丸みをもつ方形を基調にしている。規模は、東西方向が3.60m、南北方向が3.24mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。壁溝は、残存する範囲内では住居北東側コーナー部付近と、西側壁の南側半分から南西側コーナー部付近に見られる。床面は、ローム粒子を多量に含む褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下の全面に及ぶが、西側半分がやや深くなっている。ピットは、4箇所検出されている。P1とP2は、ほぼ住居の対角線に配置されていることから、4本主柱穴の一部の可能性が考えられる。長軸が30cmと44cmの楕円形を呈し、床面からの深さは16cmと18cmある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。82cm×63cmの隅丸長方形さみの形態で、中央部を長軸30cmの楕円形を呈する深さ42cmのピット状の掘り



第64 (SJ64) 号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第176図 第64 (SJ64) 号住居跡

第64 (SJ64) 号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（黄褐色粘土粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりはない。）
- 第3層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黄褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

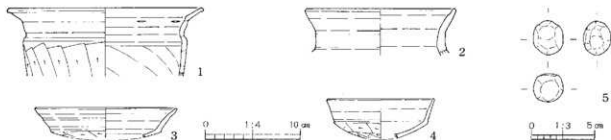
第64 (SJ64) 号住居跡P3土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

込みがある。土層観察の結果では、このピットが隅丸長方形の上半部を切っているが、同様の構造のものは第30号住居跡でも見られることから、P3貯蔵穴と関係するものと思われる。西側には、幅30cm、高さ6cmの土堤を伴っている。P4は、住居北東側コーナー部に位置する。長軸48cmの楕円形を呈し、床面からの深さは18cmある。住居中央部の床下には、140cm×120cmの楕円形を呈し、床面からの深さが16cmの比較的浅い床下土坑が1基検出されている。

カマドは、住居東側壁の中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、長さは106cmまで測れ、最大幅は120cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、燃焼面は住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。軸は、ロームブロックやローム粒子を含む褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、攪乱によって切られているため不明である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代後期後葉(6世紀末頃)の土器の破片が少量出土しており、土器以外では覆土中からやや大形の土玉が1点出土している(第177図)。



第177図 第64(SJ64)号住居跡出土遺物

第64(SJ64)号住居跡出土土物観察表

1	長 形 甕	A. 口縁部径(20.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面髷ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/5破片。H. 覆土中。
2	小 形 甕	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
3	有段口縁 模 倣 甕	A. 口縁部径(15.0)、残存高3.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 床面付近。
4	模 倣 甕	A. 口縁部径(11.4)、器高4.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。
5	土 玉	A. 長さ28、幅25、厚さ22、重さ15g。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色。F. 完形。H. 覆土中。

第65(SJ65)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第66(SJ66)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第67(SJ67)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第68(SJ68)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

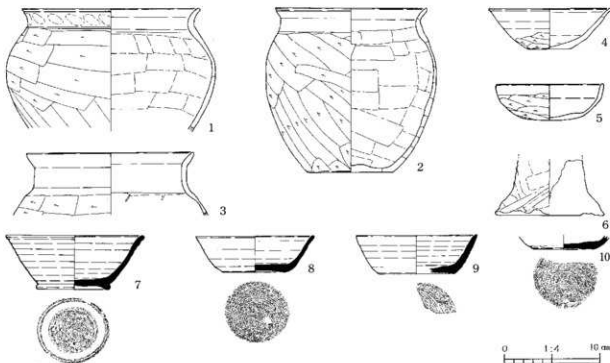
第69(SJ69)号住居跡(第179図、図版36)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第84号住居跡と第100号住居跡を切っている。住居跡の南側壁際を、後世の攪乱溝に切られている。

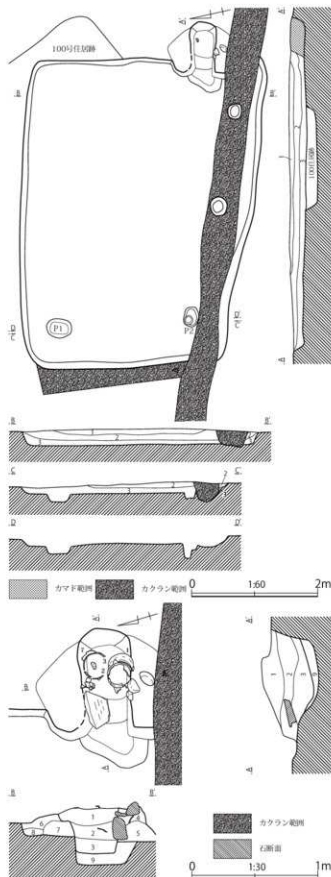
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が4.90m、南北方向が3.74mある。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居掘り方の形態は、明確にできなかった。住居に関係すると思われるピットは、2箇所検出されている。P1とP2は、住居北西側と南西側のコーナー部に位置し、住居の主柱と関係する柱穴の可能性も考えられるものである。いずれも楕円形の形態を呈し、床面からの深さが10cm程度である。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁を掘り込んで直角に付設されている。右側袖の一部は、後世の攪乱溝に切られている。規模は、全長110cm、幅は96cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでその大半が住居の壁外に位置し、燃焼面は住居床面より一段深くなっている。袖は、ローム粒子を含む暗褐色土を、カマド掘り方内の燃焼部奥壁近くから焚口部に廻して構築し、袖の内側には板状や棒状の自然石を部分的に複数立てて、壁面の補強にしていたようである。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。燃焼部内からは、甕が2個横に並んで出土しており、本カマドの甕の掛け方が2個並置式であったことがわかる。カマド内からは、BⅡ型1類(恋河内2008)と思われる土製専用支脚の破片(第178図No6)が1点出土している。カマド内での設置状況が不明であるため、本住居跡に伴うものか明確ではないが、該期のものであれば当地域で最も新しい時期の例として注目される。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、平安時代中期(10世紀)前半の土器が、比較的多く出土している(第178図)。



第178図 第69(SJ69)号住居跡出土遺物



第179図 第69(SJ69)号住居跡

第69(SJ69)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を少量、黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第69(SJ69)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒子・灰褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第69(SJ69)号住居跡出土土物観察表

1	罍	A. 口縁径188. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面匏ナデ. D. 角四石, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 上半のみ. H. カマド内.
2	罍	A. 口縁径170. 器高176. 底部径89. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面匏ナデ. 底部外面ケズリ. D. 角四石, 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 4/5. H. カマド内.
3	罍	A. 口縁径176. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角四石, 石英, 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 口縁部3/4. H. カマド内.
4	坏	A. 口縁径(130). 器高42. 底部径(46). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ. 底部外面ケズリ. D. 角四石, 白色粒. E. 外-にぶい赤褐色. 内-にぶい褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
5	坏	A. 口縁径(114). 器高38. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 角四石, 白色粒. E. 内外-にぶい褐色. F. 1/2. H. カマド内.
6	土製支脚	A. 残存高60. 底部径(116). B. 手摺ね. C. 外面ナデ. D. 角四石, 白色粒. E. 外-灰褐色. F. 破片. G. 底部に黒斑あり. H. カマド内.
7	須恵器高台付坏	A. 口縁径146. 器高57. 高台径76. B. ロクロ成形. 高台部貼り付け. C. 口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り. 高台部内外面回転ナデ. D. 片岩粒, 角四石, 石英, 白色粒. E. 外-にぶい灰褐色. 内-にぶい褐色. F. ほぼ定形. H. カマド内.
8	須恵器坏	A. 口縁径125. 器高38. 底部径67. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 底部外面回転糸切り. D. 片岩粒, 角四石, 白色針状物質, 白色粒. E. 内外-灰黄色. F. 4/5. H. 覆土中.
9	須恵器坏	A. 口縁径(128). 器高41. 底部径(80). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 底部外面回転糸切り. D. 片岩粒, 角四石, 白色針状物質, 白色粒. E. 内外-灰色. F. 1/5. H. 覆土中.
10	須恵器坏	A. 底部径65. B. ロクロ成形. C. 体部内外面ヨコナデ. 底部外面回転糸切り. D. 石英, 黒色粒. E. 内外-黄灰色. F. 底部1/2. H. 覆土中.

第70(SJ70)号住居跡(第180図、図版36)

B2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第35号住居跡を切り、第51号住居跡と第6号土坑に切られている。

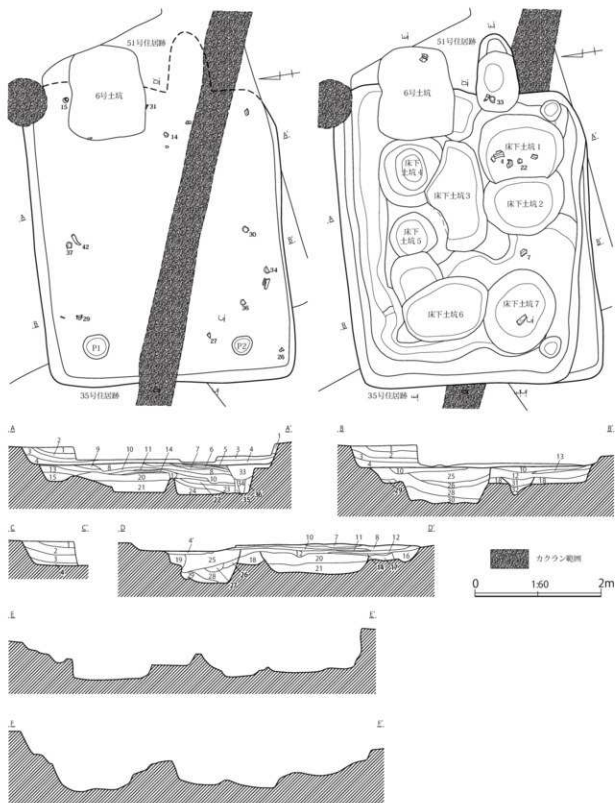
平面形は、残存する部分や住居掘り方から推測すると、やや平行四辺形状に歪んだコーナー部が丸みをもつ長方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向が4.84m、南北方向が3.95mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で34cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、2箇所検出されている。P1とP2は、住居北西側と南西側のコーナー部に位置し、住居の主柱と関係する柱穴の可能性も考えられるものである。直径42cmと34cmの円形を呈し、床面からの深さはいずれも20cm程度ある。住居床下からは、ほぼ床下の全面に床下土坑が7基検出されている。直径100cm程度の円形や長さ140cm程度の楕円形を呈するものが多く、中には土器の破片を多く出土したものもある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されていたようである。カマド本体はすでに削平されており、掘り方部分しか残存していないが、掘り方部分の長さは124cm、最大幅は70cmある。

遺物は、住居の覆土中や床下土坑内から、奈良時代(8世紀)末から平安時代前期(9世紀)初頭頃の土器が多く出土している。土器以外では、住居北側壁際中央付近の床面付近から鉄製鎌や、覆土中から土錘が5点出土している(第181・182図)。

第70(SJ70)号住居跡出土土物観察表

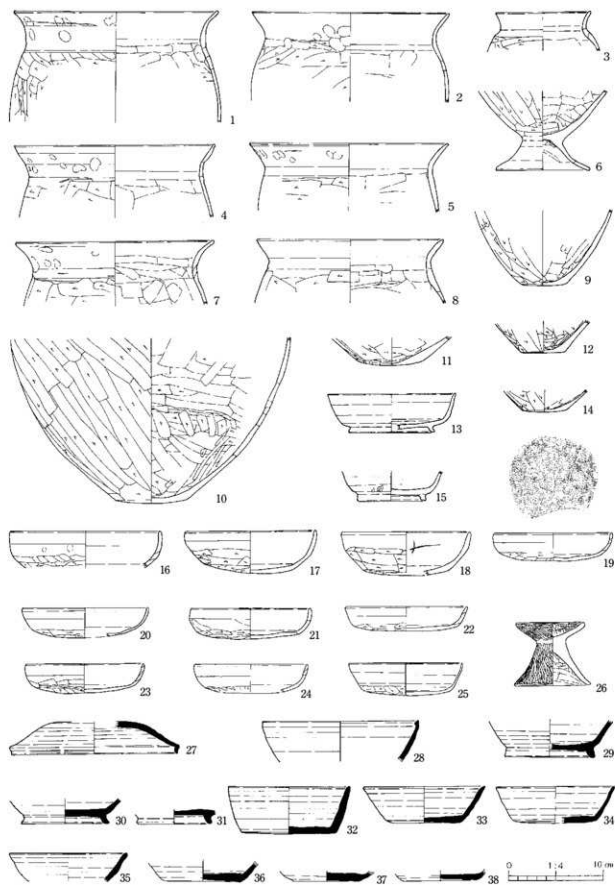
1	長柄罍	A. 口縁径(216). 残存高117. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒, 黒色粒, 角四石. E. 内外-橙褐色. F. 破片. H. 床下土坑4.
2	長柄罍	A. 口縁径(208). 残存高94. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒, 角四石. E. 内外-橙褐色. F. 口縁部1/4. H. 床下土坑4.
3	小形台付罍	A. 口縁径(100). 残存高41. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角四石, 片岩粒. E. 内外-赤褐色. F. 破片. H. 床下土坑4.



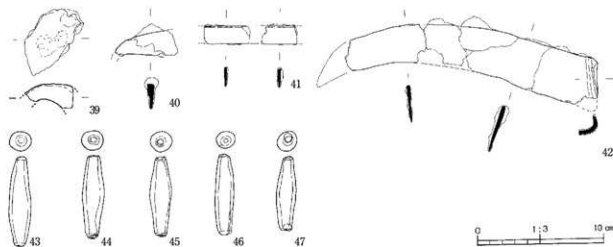
第180図 第70(SJ70)号住居跡

第70(SJ70)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 以下土層注記なし。



第181図 第70(SJ70)号住居跡出土遺物(1)



第182図 第70(SJ70)号住居跡出土遺物(2)

4	長 副 夾	A. 口縁部径 21.2、残存高 7.7。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部 1/4。H. 床下土坑 1。
5	長 副 夾	A. 口縁部径 21.2、残存高 7.2。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 口縁部 1/4。H. 床下土坑 4。
6	小形台付夾	A. 台端部径 10.0、残存高 8.4。B. 粘土経積み上げ。台部貼り付け。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. 胴部下半 1/4。H. 覆土中。
7	長 副 夾	A. 口縁部径 21.0、残存高 6.7。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙褐色。F. 破片。H. 掘り方内。
8	長 副 夾	A. 口縁部径 19.6、残存高 6.7。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部 4/5。H. 床下土坑 4。
9	長 副 夾	A. 残存高 8.0、底部径 5.0。B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、赤色粒、片岩粒。E. 内外-灰褐色、にぶい橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
10	夾	A. 残存高 17.4、底部径 7.6。B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 胴部下半 1/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床下土坑 6・7。
11	夾	A. 残存高 29、底部径 6.8。B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、赤色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 底部破片。H. 床下土坑 6・7。
12	夾	A. 残存高 34、底部径 4.6。B. 粘土経積み上げ。C. 胴部内外面ケズリ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 底部破片。H. 床下土坑 6・7。
13	高台付塊	A. 口縁部径 (13.6)、器高 4.1、高台部径 9.0。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリの後回転ナデ。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 1/2。G. 酸化焙焼成。H. 床下土坑 2。
14	夾	A. 残存高 2.3、底部径 4.6。B. 粘土経積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 破片。H. 床面付近。
15	高台付塊	A. 残存高 3.1、高台部径 7.2。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリの後回転ナデ。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 体部下半のみ。G. 酸化焙焼成。H. 床面付近。
16	坏	A. 口縁部径 (16.0)、残存高 3.9。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/6。H. 床下土坑 4。
17	坏	A. 口縁部径 (14.1)、器高 4.5。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
18	坏	A. 口縁部径 (13.8)、残存高 4.5、底部径 (9.0)。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。G. 体部内面に焼成前の発色号あり。H. 覆土中。
19	坏	A. 口縁部径 12.6、器高 3.0。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 4/5。G. 底部内面に「1」字の発色号(焼成後)あり。H. 床下土坑 1。
20	坏	A. 口縁部径 (13.4)、器高 2.6。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/5。H. 床下土坑 4。

21	坏	A. 口縁部径128、器高32。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 床下土坑3。
22	坏	A. 口縁部径(130)、器高25。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-明赤褐色。F. 1/4。H. 床下土坑1。
23	坏	A. 口縁部径126、器高31。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
24	坏	A. 口縁部径(120)、残存高29。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
25	坏	A. 口縁部径122、器高34。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、片岩粒。E. 内-明赤褐色、外-にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 床下土坑4。
26	器台	A. 口縁部径76、器高6.7、脚端部径8.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部・器受部内外面ナデの後ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、片岩粒。E. 外-にぶい赤褐色 内-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
27	須恵器蓋	A. 口縁部径(176)、残存高34。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
28	須恵器埴	A. 口縁部径(166)、残存高43。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 口縁部1/4。H. 床下土坑4・7。
29	須恵器高台付埴	A. 残存高40、高台部径(96)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰色、内-灰オリーブ色。F. 下半1/2。H. 覆土中。
30	須恵器高台付埴	A. 残存高26、高台部径92。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰黄褐色。F. 破片。H. 覆土中。
31	須恵器高台付埴	A. 残存高20、高台部径80。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 底部外面回転系切り、外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 床面付近。
32	須恵器坏	A. 口縁部径(130)、器高50、底部径(100)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。体部外面下端回転ケズリ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 1/2。H. 覆土中。
33	須恵器坏	A. 口縁部径(130)、器高38、底部径68。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。体部下端回転ケズリ。底部外面回転系切り後回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 1/2。H. 覆土中。
34	須恵器坏	A. 口縁部径(126)、器高39、底部径(90)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
35	須恵器坏	A. 口縁部径(124)、残存高30。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 口縁部1/4。H. 床面直上。
36	須恵器坏	A. 残存高22、底部径80。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰オリーブ色。F. 底部のみ。H. 床面直上。
37	須恵器坏	A. 残存高11、底部径68。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り後外周回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 底部のみ。H. 床面直上。
38	須恵器坏	A. 残存高11、底部径(80)。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転系切り後外周回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 底部1/2。H. 覆土中。
39	羽口(嚴治)	A. 残存長515、残存幅46、厚さ18、重さ2593g。F. 破片。G. 外面ガラス質。一部発泡。内面先端部被熱変色。H. 覆土中。
40	鉄製鎌	A. 残存長49、幅24、厚さ0.5、重さ1084g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 刃部先端。H. 覆土中。
41	鉄製刀子	A. 残存長(73)、幅1.5、厚さ0.2、重さ572g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 刃部破片。H. 覆土中。
42	鉄製鎌	A. 残存長195、幅39、厚さ0.4、重さ7729g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 先端部欠損。H. 覆土中。
43	土 錘	A. 長さ71、最大幅17、重さ1535g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床下土坑4。
44	土 錘	A. 長さ65、最大幅17、重さ1535g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床下土坑6・7。
45	土 錘	A. 長さ62、最大幅17、重さ1463g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 褐色色。F. 完形。H. 床面直上。
46	土 錘	A. 長さ63、最大幅15、重さ1338g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 灰褐色。F. 完形。H. 床下土坑2。
47	土 錘	A. 長さ57、最大幅15、重さ1163g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床下土坑7。

第72(SJ72)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

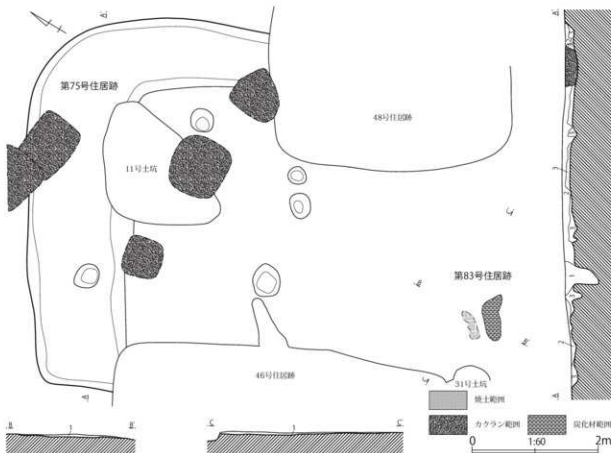
第73(SJ73)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第74(SJ74)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第75(SJ75)号住居跡 (第183図、図版37)

B2地点の調査区南側の中央に位置し、重複する第46号住居跡・第48号住居跡・第11号土坑に切られている。本住居跡は、住居の北側の掘り方部分が残存していただけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する住居掘り方部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向が5.90m、北西～南東方向は4mまで測れる。住居の掘り方は、中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪める周溝状の形態である。ピ



第183図 第75(SJ75)・83(SJ83)号住居跡

第75(SJ75)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層：黄褐色土層 (ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第83(SJ83)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

ットは、多く検出されているが、本住居跡に伴うものは明確ではない。

遺物は、住居跡の掘り方理土から、古墳時代前期(4世紀)を主体とする土器の破片が、少量出土しただけである。

第76(SJ76)号住居跡 B1地点報告済み(松本・大熊他2009)

第77(SJ77)号住居跡(第184図、図版37)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第6号溝跡に切られ、第78号住居跡・第87号住居跡・第104号住居跡・第105号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を基調にしている。規模は、北東～南西方向が4.04m、北西～南東方向が4.30mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、4箇所検出されている。P1～P3は、住居の対角線上ではないが、その配置から支柱穴と関係するものかもしれない。形態は、50cm前後の楕円形や不整形円形を呈し、床面からの深さはいずれも35cm程度ある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。74cm×44cmの楕円形を呈し、床面からの深さは28cmある。

カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部寄りに位置し、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長106cm、最大幅136cmある。燃焼部は、住居の壁を25cm程度掘り込んでおり、燃焼面は住居床面よりも一段深くになっている。焚口部付近には、深さ40cm程度のピット状の掘り込みがあるが、これは土層断面の観察からみて、カマドとは関係なく、住居構築以前のものと考えられる。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む褐色土や黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。両袖の先端部は、No3とNo4の土師器の長胴甕を伏せて補強として利用している。焚口部の上面も、No1とNo2の土師器の長胴甕を2個入れ子状に連結させて補強にしていたようで、No1とNo2の袖先端の補強甕の上に据えられていたものが、カマドの崩壊に伴って下に落下したような状態で出土している。右袖の付け根付近には、No11の底部を欠いた大型鉢を伏せた状態で袖内に埋め込んでいる。これは、住居の床面よりもかなり高い位置であり、袖の芯として利用する土器としてはあまり例のない器種であり、補強以外の目的で埋め込まれたものかもしれない。関連性は明確ではないが、類似した例としては、新宮遺跡D地点の古墳時代後期の第9号住居跡で、カマド左側袖の付け根に、口縁部と胴部下半を欠いた縄文時代中期の深鉢形土器を埋め込んだ例がある(恋河内1995)。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

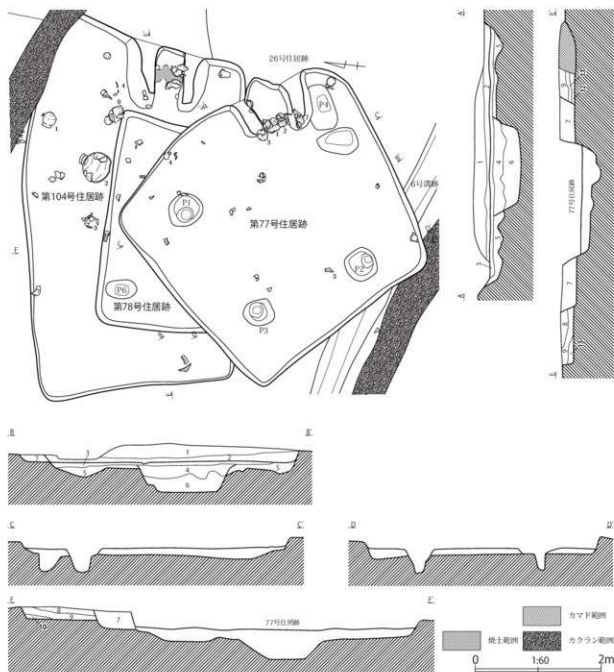
遺物は、カマドの内外や住居中央部の床面付近、及び住居周辺部の覆土中から、古墳時代後期後葉(7世紀前半頃)の土器が多く出土している(第186図)。土器以外では、覆土中から安山岩製の大型砥石が1点出土している(第187図)。

第77(SJ77)・78(SJ78)・104(SJ25)号住居跡土層説明

<第77(SJ77)・78(SJ78)号住居跡>

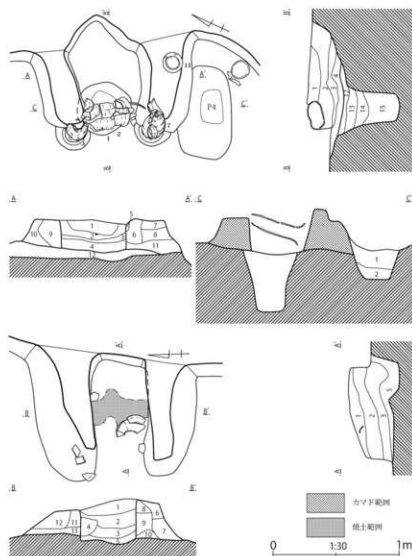
第1層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第2層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)



第184図 第77(SJ77)・78(SJ78)・104(SJ25)号住居跡

- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
<第104(SJ25)号住居跡>
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）



第185図 第77(SJ77)・104(SJ25)号住居跡カマド

- 第11層：黄褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック微量含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第15層：褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第77(SJ77)号住居跡P4土層説明

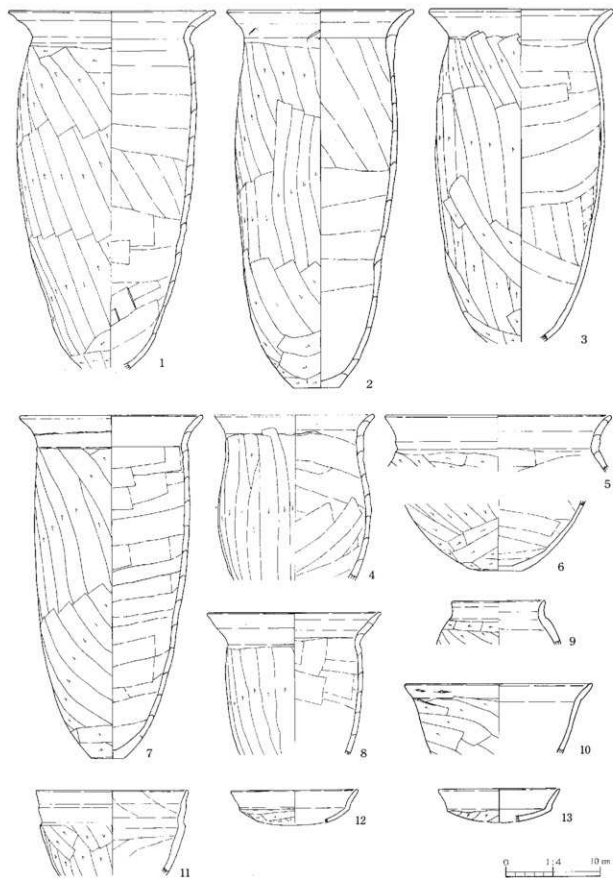
- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第104(SJ25)号住居跡カマド土層説明

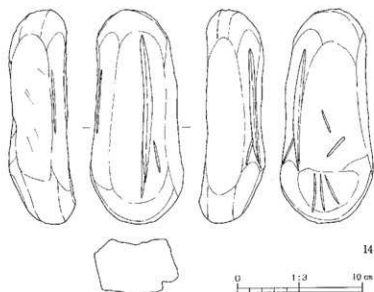
- 第1層：黄褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第77(SJ77)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：黄褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第186図 第77(SJ77)号住居跡出土遺物(1)



第187図 第77(SJ77)号住居跡出土遺物(2)

第10層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第12層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第13層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第77(SJ77)号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径 21.6、残存高 37.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 内外一橙褐色。F. 底部欠損。H. カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径 19.5、器高 40.1、底部径 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. はほぼ完成。H. カマド内。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径 18.8、残存高 35.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 5/6。H. カマド内。
4	小 形 甕	A. 口縁部径(16.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
5	胴 張 甕	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒。E. 外一橙褐色。内一にぶい黄褐色。F. 破片。H. 覆土中。
6	胴 張 甕	A. 底部径 4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 外一灰褐色。内一にぶい褐色。F. 胴部下半のみ。H. 掘り方土。
7	長 胴 甕	A. 口縁部径 18.8、器高 36.2、底部径 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面木葉痕。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 完成。H. カマド内。
8	小 形 甕	A. 口縁部径(18.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、角閃石、石英。E. 内外一にぶい橙褐色。F. 1/2。H. カマド内。
9	鉢	A. 口縁部径(9.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 外一にぶい橙褐色。内一橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
10	鉢	A. 口縁部径(19.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 外一にぶい赤褐色。内一にぶい黄褐色。F. 破片。G. 外面煤付着。H. カマド内。
11	鉢	A. 口縁部径 15.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外一橙褐色。F. 上半のみ。H. カマド内。
12	模 倣 坏	A. 口縁部径(12.3)、残存高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
13	模 倣 坏	A. 口縁部径(12.4)、残存高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/6。H. 覆土中。
14	柱 状 砥 石	A. 長さ 16.6、幅 7.3、厚さ 5.2。B. ケズリにより整形。C. 表裏面・両側面とも良く擦れている。D. 砂岩。F. 完成。G. 各面とも刃物による溝状の痕跡が見られる。H. 覆土中。

第78(SJ78)号住居跡(第184図)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第77号住居跡に切られ、第104号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈すると思われる。規模は、東西方向が3.42m、南北方向が1.72mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態と思われる。ピットは、1箇所検出されている。P6は、住居北西側コーナー部に位置する。50cm×30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは50cmある。

遺物は、覆土中から古墳時代中期から後期の土器破片が少量出土しただけである。

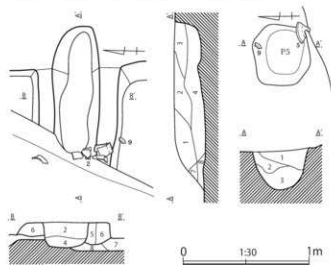
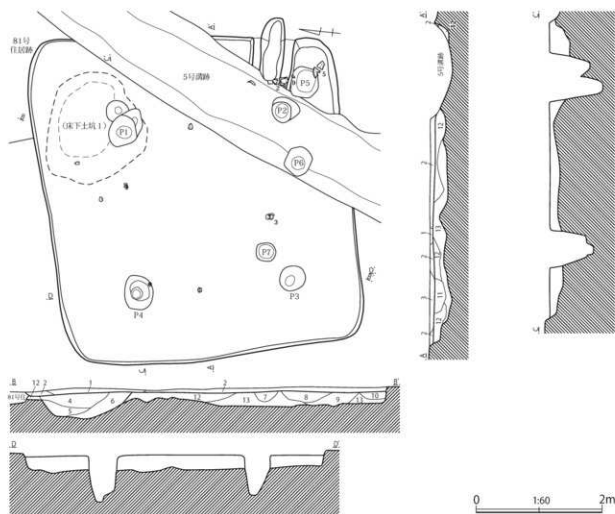
第79(SJ79)号住居跡(第188図、図版37)

B2地点の調査区中央部の西端に位置する。重複する第5号溝跡に切られ、第81号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が4.82m～5.25m、南北方向が4.90mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で8cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた住居の中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際まで深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、7箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。40cm～56cmの楕円形や円形を呈し、床面からの深さは62cm～84cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。44cm～47cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは45cmある。P6は、住居南側壁際中央付近の主柱穴P2・P3間に位置する。直径40cmの円形を呈し、床面からの深さは82cmある。P7は、P3の北東側に位置する。直径30cmの円形を呈し、床面からの深さは45cmある。住居北東側コーナー部付近の床下から、床下土坑が1基検出されている。180cm×160cmの楕円形を呈し、床面からの深さは40cmある。土坑の覆土は、ロームブロックを顕著に含む暗褐色土で埋められており、上面に貼床は施されていない。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対して直角に付設されており、袖の先端部を後世の第5号溝跡に切られている。規模は、長さが112cmまで、最大幅は75cmある。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られ、燃烧面は住居の床面よりも一段深くなっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。先端部付近からは、土師器長胴甕の破片が多く出土しており、あるいはそれらによって補強されていた可能性もある。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、P5周辺や住居中央部の床面付近及び覆土中から、古墳時代後期後葉(7世紀前半頃)の土師器の甕や坏を主体とする土器の破片が多く出土している(第189図)。この他、覆土中から流紋岩製の柱状砥石の破片が1点出土しているが、その形状から見て近世以降の可能性が高く、おそらく重複する第5号溝跡に関係するものであろう。



第188図 第79(SJ79)号住居跡

第79(SJ79)号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰色土層（ロームブロックを中量、浅間山系A軽石を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

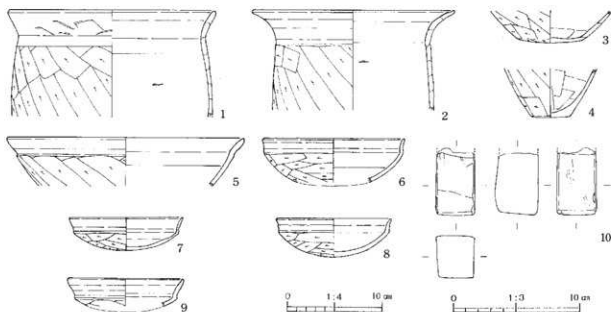
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第79(SJ79)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第79(SJ79)号住居跡P5土層説明

- 第1層：黄褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：淡黄褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第189図 第79(SJ79)号住居跡出土遺物

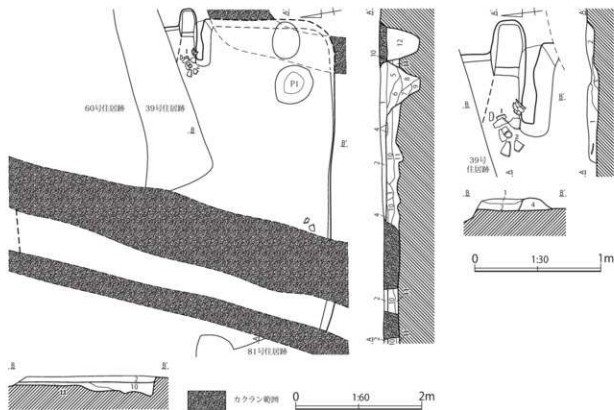
第79(SJ79)号住居跡出土遺物観察表

1	長胴 夾	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	長胴 夾	A. 口縁部径(21.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 上半1/2。H. カマド内。
3	胴張 夾	A. 底部径6.8。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部のみ。G. 外面に黒炭あり。H. 覆土中。
4	長胴 夾	A. 底部径4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡灰褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
5	大形 鉢	A. 口縁部径(25.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
6	模倣 炉	A. 口縁部径(15.0)、残存高4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
7	模倣 炉	A. 口縁部径(12.0)、器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-明橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
8	模倣 炉	A. 口縁部径(12.2)、器高4.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	模倣 炉	A. 口縁部径(12.2)、残存高3.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部1/4破片。H. カマド内。
10	柱状 砥石	A. 残存長5.4、幅3.1、厚さ3.5、重さ100g。B. ケズリにより整形。C. 表裏面とも良く磨かれている。両側面及び端面ケズリ。D. 流紋岩。F. 破片。G. 近世以降の混入品と思われる。H. 覆土中。

第80(SJ80)号住居跡(第190図、図版38)

B2地点の調査区中央部の西側に位置し、住居跡の中央を後世の攪乱溝に切れ、重複する第39号住居跡・第60号住居跡・第81号住居跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が5m、東西方向は4.78mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの



第190図 第80(SJ80)号住居跡

第80(SJ80)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：黒褐色土層 (ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第5層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第6層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第7層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第8層：暗褐色土層 (ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第9層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第10層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第11層：黄褐色土層 (ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第12層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

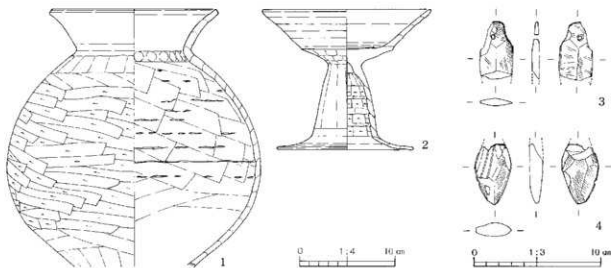
第80(SJ80)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層：黄褐色土層 (ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

深さは最高で10cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、中央部がやや高く、周辺部が壁際まで深くなる周溝状の形態である。ピットは、1箇所検出されている。P1は、住居南東側コーナー部付近に位置する。70cm×58cmの楕円形を呈し、床面からの深さは53cmある。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長90cm、幅は76cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にあり、燃焼面は住居の床面と同じ高さである。燃焼部の焚口付近から、逆位になった高坏の破片が出土しており、転用支脚として使用されていたものかもしれない。袖は、ロームブロックとローム粒子を含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、住居の壁外に30cm程度延びて、斜めに立ち上がっている。

遺物は、カマド内や住居の覆土中から、古墳時代中期(5世紀)中葉頃を主体とする土器が少量出土している(第191図)。土器以外では、覆土中から剣形石製模造品の破片が2個出土している。



第191図 第80(SJ80)号住居跡出土遺物

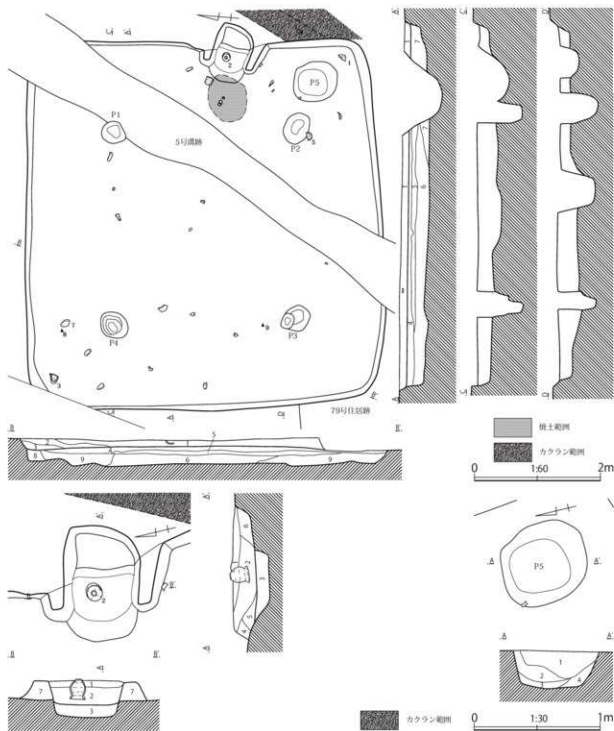
第80(SJ80)号住居跡出土遺物観察表

1	単純口縁壺	A. 口縁部径17.8、残存高27.2。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面ナテの後ケズリ、内面跪ナテ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-茶褐色、内-暗茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	高坏	A. 口縁部径18.0、器高14.8、脚端部径14.4。B. 粘土経積み上げ(脚柱部輪積み)。C. 口縁部内外面ヨコナテ。坏部外面ナテ。脚柱部外面ケズリの後ナテ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナテ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 3/4。G. 転用支脚。H. カマド内。
3	石製模造品(剣形)	A. 残存長4.7、幅2.6、厚さ0.6、重さ9g。B. 母岩から板状に剥離後、敲打により整形。C. 表表面とも丁寧な研磨。D. 粘板岩。F. 2/3。G. 頭部に円孔あり。H. 覆土中。
4	石製模造品(剣形)	A. 残存長4.8、幅2.9、厚さ1.0、重さ18g。B. ケズリにより整形。C. 表表面とも丁寧な研磨。D. 滑石。F. 3/4。H. 覆土中。

第81(SJ81)号住居跡(第192図、図版38)

B2地点の調査区中央部の西端に位置し、重複する第5号溝跡と第79号住居跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が5.83m、南北方向が5.68mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で14cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式であ



第192図 第81(SJ81)号住居跡

第81(SJ81)号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗黄褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・白色粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：黒褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第81(SJ81)号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰色土層（焼土粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：黄褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（灰色粘土ブロックを多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第81(SJ81)号住居跡P5土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

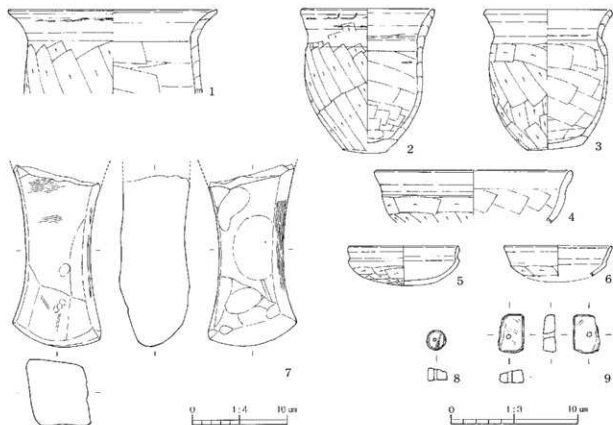
る。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。いずれも長軸50cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは60cm～70cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。62cm×70cmの隅丸長方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは28cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長92cm、最大幅110cmある。燃焼部は、住居の壁を40cmほど掘り込んで奥壁が立ち上がり、燃焼面は住居床面よりも一段低く平坦に作られている。焚口部前面の床面は、よく焼けて赤色化している。燃焼部の中央やや左側寄りには、No2の小形甕を伏せて転用した支脚を据えている。軸は、灰色粘土ブロックを多量含む灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居の床面付近から、古墳時代後期後葉（6世紀後半）の土器片が多く出土している（第193図）。土器以外では、安山岩製の大型柱状砥石、滑石製の玉や穿孔を有する四角い石が出土しているが、大型柱状砥石については、他の遺物と異なって表面に鉄分の付着が顕著であり、該期の住居跡ではこのような大型柱状砥石はほとんど例を見ないことから、重複する近世以降の第5号溝跡と関係する遺物の可能性が高いと思われる。

第81(SJ81)号住居跡出土土物観察表

1	長 副 甕	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-淡灰褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	小 形 甕	A. 口縁部径14.2。器高15.3。底部径4.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 完形。G. 胴部外面に黒炭あり。底部外面は二次焼成を受け赤色化し、全体に磨滅している。H. カマド転用支脚。
3	小 形 甕	A. 口縁部径(13.6)。器高14.9。底部径6.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。G. 底部外面に黒炭あり。H. 床面直上。
4	鉢	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡灰褐色、内-茶褐色。F. 口縁部1/5破片。H. 覆土中。
5	模 造 壇	A. 口縁部径(11.6)。器高4.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。H. 床面直上。
6	模 造 壇	A. 口縁部径(11.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。



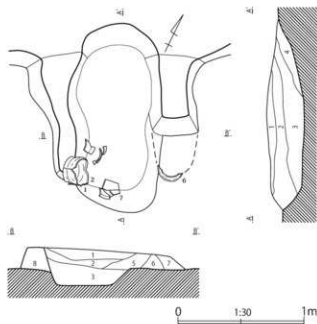
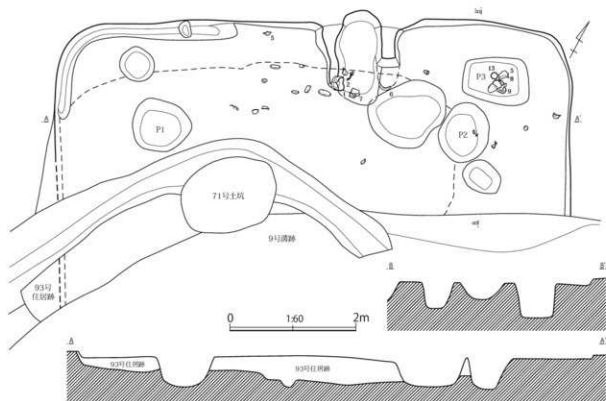
第193図 第81(SJ81)号住居跡出土遺物

7	大形 柱状 砥石	A. 残存長19.2、最大幅9.2、厚さ7.3、重さ1000g。B. ケズリにより整形。C. 表裏面とも丁寧な研磨。両側面に刃物による擦痕あり。D. 安山岩。F. 2/3。H. 覆土中。
8	石製 玉	A. 直径1.6、高さ1.0、重さ4g。B. 管切り。C. 側面研磨。表裏面未調整。D. 滑石。F. 完形。H. 床面直上。
9	石製 玉	A. 長さ3.1、幅2.0、厚さ1.0、重さ12g。B. ケズリにより整形。C. 表裏面・側面とも研磨。D. 滑石。F. 完形。H. 床面直上。

第82(SJ82)号住居跡 (第194図、図版38)

B2地点の調査区南側の南端からB3地点の調査区北東端にかけて位置し、重複する第9号溝跡と第71号土坑に切られ、第93号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸み強い方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が8.20m、南北方向は4.25mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。住居北西側コーナー部周辺の壁下には、幅20cm、床面からの深さが5cm程度の壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、第93号住居跡と重複しているため明確ではないが、床下全面に及ぶようである。ピットは、本住居跡に関係すると思われるものは、3箇所検出されている。P1とP2は、主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。いずれも長軸95cmの楕円形を呈し、床面からの深さは50cmある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置する。105cm×76cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは55cmある。P3内からは、底面上から土師器の甕の破片と坏が、覆土中から土師器の高坏や壺と華大の川原石が、周辺から落ち込んだような状態で重なって出土している。

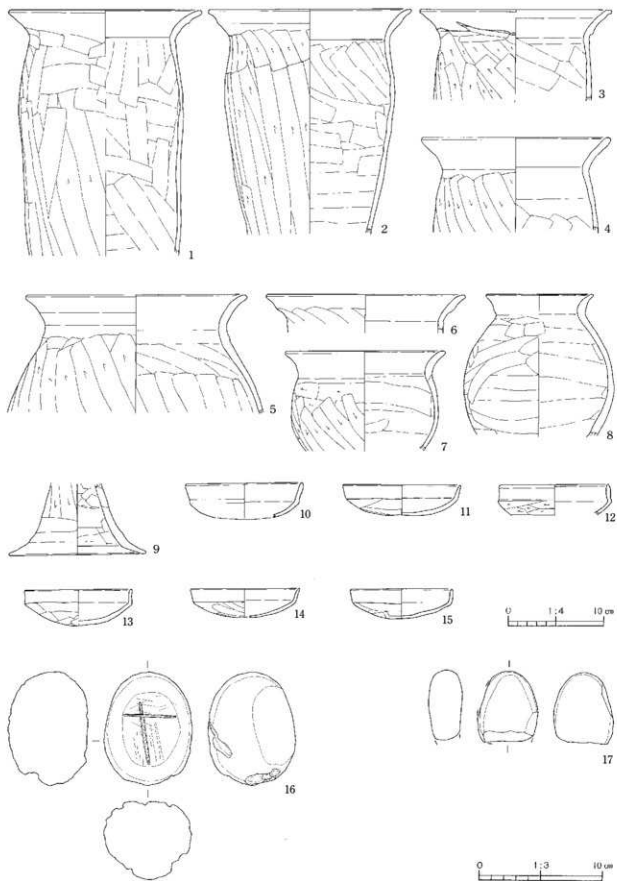


第82(SJ82)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を中量、ロームブロック・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗灰色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第194図 第82(SJ82)号住居跡

カマドは、住居北側壁の中央やや東側寄り位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長150cm、最大幅137cmある。燃焼部は、住居の壁を30cmほど掘り込んでいるが、大半は住居内にある。燃焼面は、住居の床面よりも一段深く、緩やかに傾斜して煙道部に移行するようである。袖は、灰褐色粘土ブロックを多量に含む灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。両袖の先端部は、土師器の甕を伏せて補強していたようである。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。



第195図 第82(SJ82)号住居跡出土遺物

遺物は、カマドや貯蔵穴P3内及び住居の覆土中から、古墳時代後期後葉(7世紀前半頃)の土器が比較的多く出土している(第195図)。

第82(SJ82)号住居跡出土土器観察表

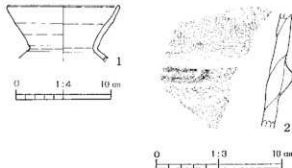
1	長 胴 甕	A. 口縁部径(20.2)、残存高26.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 上半1/5。H. カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.6)、残存高23.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内-橙褐色、外-にぶい黄橙褐色。F. 上半1/5。H. カマド内。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径(20.5)、残存高9.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 上半1/3。H. 掘り方内。
4	長 胴 甕	A. 口縁部径(20.0)、残存高10.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
5	胴 張 甕	A. 口縁部径(23.4)、残存高12.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 金雲母、角四石、白色粒。E. 内-橙褐色、外-にぶい黄橙褐色。F. 破片。H. P3内。
6	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.2)、残存高4.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、赤色粒。E. 内-橙褐色、外-にぶい黄橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
7	小 形 甕	A. 口縁部径(17.0)、残存高10.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-にぶい黄橙褐色。F. 上半1/5。H. カマド内。
8	小 形 甕	A. 口縁部径(23.4)、残存高15.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。G. 器面荒れ、内外面摩滅。H. P3内。
9	高 杯	A. 脚端部径14.4、残存高7.7。B. 粘土組織み上げ。C. 脚住部内外面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内-黄橙褐色、外-橙褐色。F. 脚部1/2。H. P3内。
10	模 倣 杯	A. 口縁部径(12.6)、残存高3.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 破片。G. 器面荒れ、摩滅。H. 覆土中。
11	模 倣 杯	A. 口縁部径(12.6)、器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. 覆土中。
12	模 倣 杯	A. 口縁部径(11.6)、残存高3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 破片。H. 掘り方内。
13	模 倣 杯	A. 口縁部径11.4、器高3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. P3内。
14	模 倣 杯	A. 口縁部径(11.6)、残存高3.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/6。H. 覆土中。
15	模 倣 杯	A. 口縁部径11.0、器高3.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. 覆土中。
16	磨 石	A. 長さ8.9、幅6.9、厚さ6.2、重さ216.9g。D. 軽石。F. 完形。G. 楕円形。表、裏面に磨耗痕が認められ、いずれも平滑。磨耗範囲には線刻が認められる。H. 掘り方内。
17	磨 石	A. 残存長さ5.6、幅4.7、厚さ2.7、重さ32.2g。D. 軽石。F. 下部欠損。G. 小型の磨石。表面は磨耗により浅く窪む。H. 覆土中。

第83(SJ83)号住居跡(第183図、図版39)

B2地点の調査区南側の中央に位置する。本住居跡は、炉と炭化粒子の分布が確認されただけであるため、遺構の全容は不明である。

炉は、地山ローム土が48cm×16cmの範囲に焼けて赤色化しただけの地皿炉で、南東側には炭化粒子の分布が認められる。

遺物は、古墳時代前期～後期の土器や埴輪の破片が、少量出土しただけである(第196図)。



第196図 第83(SJ83)号住居跡出土遺物

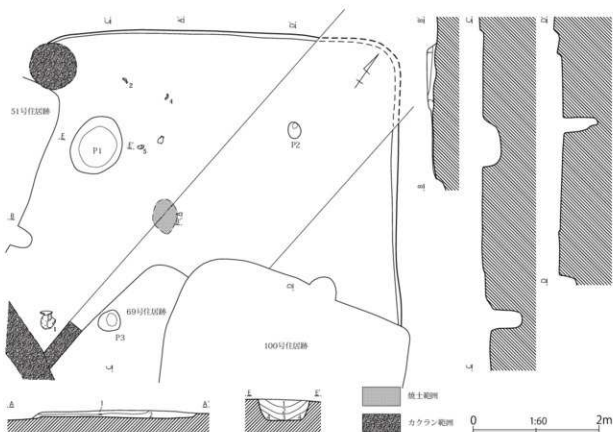
第83 (SJ83)号住居跡出土土物観察表

1	中形直口壺	A. 口縁部径(120)。B. 粘土粗積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	埴輪	B. 粘土粗積み上げ。凸帯貼り付け。C. 外面ハケの後凸帯部ヨコナデ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。

第84 (SJ84)号住居跡 (第197図、図版39)

B2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第51号住居跡・第69号住居跡・第100号住居跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈すると思われる。規模は、北西～南東方向は5.18mまで、北東～南西方向は6.20mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床



第197図 第84 (SJ84)号住居跡

第84 (SJ84)号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第84 (SJ84)号住居跡P1土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

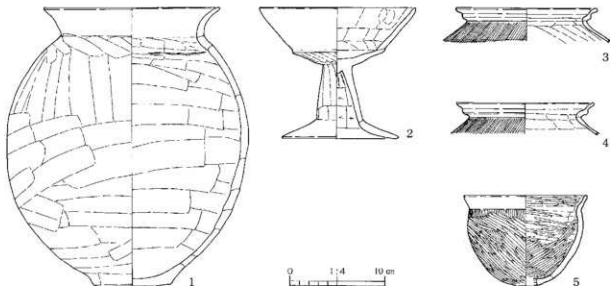
第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、3箇所検出されている。P1は、住居中央部の西側寄りに位置する。98cm×78cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cmある。P2とP3は、住居の対角線上に配置されていると思われる、4本主柱穴の一部の可能性が高い。30cm前後の楕円形や不整形を呈し、床面からの深さはいずれも55cm程度ある。

炉は、住居中央部のやや南西側寄りに位置する。掘り込みを持たず、床面が54cm×40cmの楕円形状に焼けて赤色化しただけの地皿炉である。

遺物は、覆土中や床面付近から、古墳時代中期(5世紀)の土器破片が少量出土しているが、住居南側コーナー部付近の床面上からは、完形に近い甕が1点出土している(第198図)。



第198図 第84(SJ84)号住居跡出土遺物

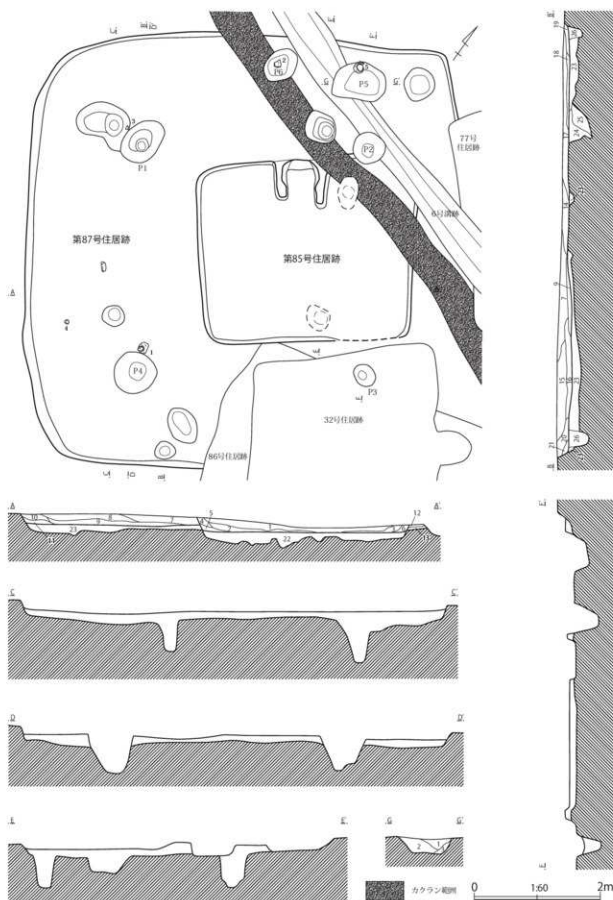
第84(SJ84)号住居跡出土土物観察表

1	甕	A. 口縁部径183、器高295、底部径80。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後部分的にナデ、内面兎ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-灰黄褐色。F. ほぼは完形。G. 胴部外面に煤付着。H. 覆土中。
2	高杯	A. 口縁部径163、器高139、底部径120。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
3	S字状口縁台付 甕	A. 口縁部径145。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-にぶい灰橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	S字状口縁台付 甕	A. 口縁部径143。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 外-橙褐色、内-にぶい黄橙褐色。F. 破片。G. 内外面に煤付着。H. 覆土中。
5	鉢	A. 口縁部径126、器高95。B. 粘土積積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ミガキ。胴部外面ハケの後雑なミガキ、内面ナデの後ミガキ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/5。H. 覆土中。

第85(SJ85)号住居跡(第199図、図版39)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第6号溝跡に切られ、第86号住居跡・第87号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北西～南東方向が2.90m、北東～南西方向が3.52mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、中央部を浅く掘り残し、周辺部を壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形



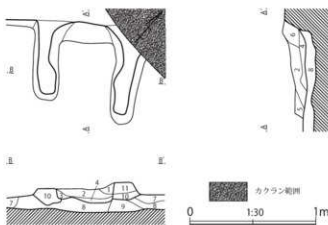
第199図 第85 (S.J85) ・ 87 (S.J87) 号住居跡

第85(SJ85)・87(SJ87)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第17層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第19層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第21層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第22層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第24層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第25層：黄褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第26層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第87(SJ87)号住居跡P5土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

**第200図 第85(SJ85)号住居跡カマド****第85(SJ85)号住居跡カマド土層説明**

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

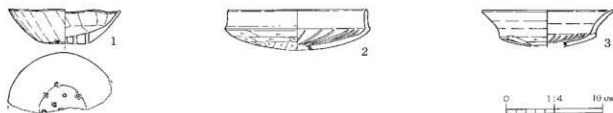
- 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：黄褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

態である。ピットは、検出されなかった。

カマドは、住居北西側壁の中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長80cm、

最大幅90cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にあり、燃焼面は住居の床面とほぼ同じ高さである。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、覆土中から古墳時代後期中葉(6世紀後半)頃を主体とする土器の破片が、少量出土しただけである(第201図)。



第201図 第85(SJ85)号住居跡出土遺物

第85(SJ85)号住居跡出土遺物観察表

1	多孔瓶	A. 口縁部径(11.8)、残存高3.6、底部径5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部内外面ナデ。D. 赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 体部下半のみ。G. 多孔瓶の下半を再利用。H. 覆土中。
2	横楕円	A. 口縁部径(14.8)、器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 石英、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-にぶい黄褐色。F. 1/4。G. 口縁部内外面に黒珠あり。H. 覆土中。
3	横楕円	A. 口縁部径(14.0)、器高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 角閃石、白色粒。E. 外-黒褐色、内-褐色。F. 1/3。H. カマド内。

第86(SJ86)号住居跡(第118図、図版39)

B2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第87号住居跡を切り、第32号住居跡・第85号住居跡・第39号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が4.36m、南北方向が4.28mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を、平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、P5～P9の5箇所検出されている。P5は、カマドの掘り方部分と推測されるもので、住居東側壁際の中央付近に位置する。床面からの深さが10cm程度で、覆土中にはロームブロックと炭化粒子を含んでいる。P6～P9は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。直径30cmの円形や長軸40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは26cm～40cmある。

カマドは、残存していなかったが、先述したように東側壁際のP5が、カマド掘り方の痕跡と推測される。

遺物は、覆土中から古墳時代中期後半(5世紀後半)頃を主体とする土器の破片が、少量出土しただけである。

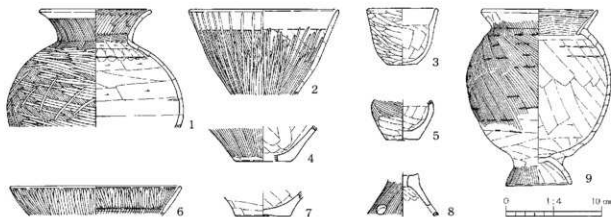
第87(SJ87)号住居跡(第199図、図版39)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第6号溝跡・第32号住居跡・第85号住居跡・第86号住

居跡・第77号住居跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形を呈していたと思われる。規模は、北西～南東方向が6.98m、北東～南西方向が6.94mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、住居内から多数検出されているが、住居と関係すると思われるものは、P1～P6の6箇所である。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。直径40cm～長軸70cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは50cm～60cmある。P5は、住居北側コーナー部付近に位置し、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるものかもしれない。85cm×60cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは38cmある。P6は、住居北西側壁際の中央やや北側寄りに位置する。覆土中にロームブロックと炭化粒子を含み、床面からの深さは30cm程度ある。

遺物は、住居壁際の周辺部床面付近から、古墳時代前期(4世紀)を主体とする土器が少量出土している(第202図)。この中で、No1の赤彩された単純口縁壺は、その胎土から見て当地域のものではなく、他地域からの搬入品と思われる。



第202図 第87(SJ87)号住居跡出土遺物

第87(SJ87)号住居跡出土土器観覧表

1	単純口縁壺	A. 口縁部径(11.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケの後ミガキ。胴部外面ハケの後雑なミガキ、内面ナデの後上半ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-赤茶褐色、内-茶褐色。F. 上半のみ。G. 外面及び口縁部内面に赤彩を施す。H. 覆土中。
2	中形直口壺	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケの後ミガキ、内面ナデの後ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 口縁部内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
3	小形鉢	A. 口縁部径(7.6)、器高6.0、底部径3.2～4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 1/2。G. 底部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
4	鉢	A. 底部径(6.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面ハケ、内面ケズリの後ナデ。底部外面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 外-褐色、内-橙褐色。F. 底部1/5。G. 底部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
5	小形鉢	A. 底部径3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ハケの後下半ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 胴部1/2。H. 覆土中。
6	小形浅鉢	A. 口縁部径(18.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
7	鉢	A. 底部径(6.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 角四石、石英、白色粒。E. 外-褐色、内-ふい黄褐色。F. 底部1/4。H. 覆土中。

8	器	台	A. 残存高44。B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ハケ、内面ナデの後ハケ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-赤褐色。F. 脚上半4/5。G. 穿孔は3箇所。H. 覆土中。
9	台	付 堿	A. 口縁部径124、器高188、台端部径70。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ハケ。胴部外面ナデの後ハケ、内面艶ナデ。台部外面ハケ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-茶褐色。F. 3/4。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。

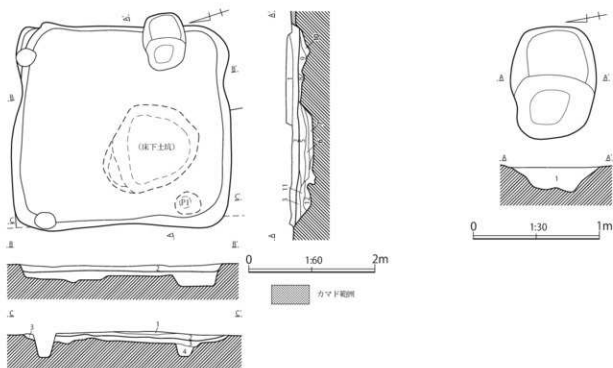
第88(SJ88)号住居跡 (第203図、図版40)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第37号住居跡と第99号住居跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.20m、南北方向は3.52mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で12cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、床下から1箇所検出されている。P1は、住居南西側のコーナー部付近に位置している。直径42cm×35cmの楕円形を呈し、掘り方底面からの深さは20cmある。住居中央部のやや南西側寄りの位置から、床下土坑が1基検出されている。162cm×134cmの楕円形きみの形態を呈し、床面からの深さは22cmある。

住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁を切るカマドの掘り方に類似した土坑状の掘り込みがあるが、本住居跡に関係するものか不明である。

遺物は、白鳳時代(7世紀末)と平安時代中期(10世紀前半)頃の土器が少量出土している(第204図)。



第203図 第88(SJ88)号住居跡

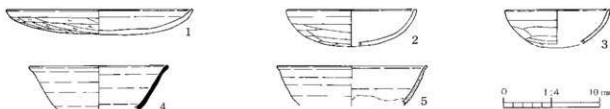
第88(SJ88)号住居跡土層説明

- 第1層：褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第88(SJ88)号住居跡土坑状掘り込み土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第204図 第88(SJ88)号住居跡出土遺物

第88(SJ88)号住居跡出土遺物観察表

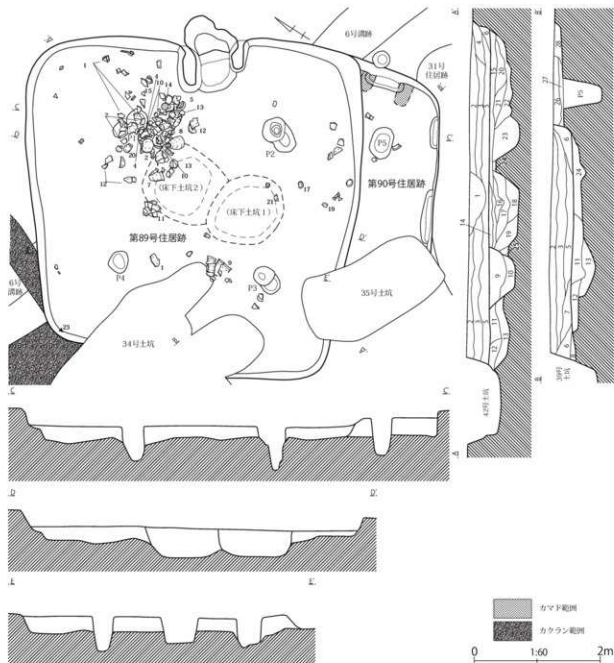
1	皿	A. 口縁部径 19.6. 器高 2.7. B. 粘土細積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 3/4. H. 掘り方内.
2	坏	A. 口縁部径(13.6). 器高 3.9. B. 粘土細積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
3	坏	A. 口縁部径(11.6). 残存高 3.6. B. 粘土細積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
4	須 器 坏	A. 口縁部径(15.6). 残存高 4.8. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. D. 白色粒. E. 外-にぶい黄色, 内-灰黄色. F. 破片. H. 覆土中.
5	灰 軸 陶 器 塊	A. 口縁部径(16.0). 残存高 4.2. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. D. 白色粒. E. 内外-灰白色. F. 破片. G. 内外面施軸. H. 覆土中.

第89(SJ89)号住居跡（第205図、図版40）

B 2 地点の調査区中央部の東端に位置し、重複する第34号土坑・第35号土坑・第6号溝跡に切られ、第89号住居跡を切っている。

平面形は、台形状にやや歪んでいるが、コーナー部の丸みが強い方形を基調にしている。規模は、北東～南西方向が4.90m～5.44m、南東～北西方向が4.87m～5.36mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた中央部をやや高く掘り残し、周辺部は壁際までやや深く掘り込んだ周溝状の形態である。ピットは、4箇所検出されている。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に位置されている。直径30cm～40cmの円形を呈し、床面からの深さは45cm～68cmある。住居中央部から、重複した床下土坑が2基検出されており、床下土坑1が床下土坑2を切っている。長軸130cm程度の楕円形さみの形態を呈し、床面からの深さは40cmと46cmある。いずれも覆土中に白色粘土ブロックが見られ、ロームブロックを含む暗褐色土で埋め戻されていることから、カマド構築材などに使用したと思われる白色粘土を充填保管していた、いわゆる床下粘土土坑と思われる。

カマドは、住居の北東側壁の中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長122cm、最大幅114cmある。燃焼部は、住居の壁を50cm程度掘り込んでおり、燃焼面は住居の床面よりも一段低くなっている。袖は、白色粘土ブロックを含む灰黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

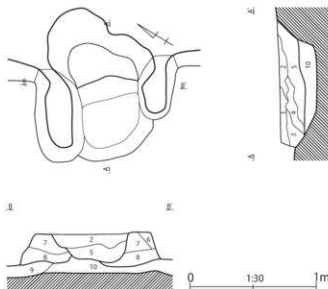


第205図 第89(SJ89)・90(SJ90)号住居跡

第89(SJ89)・90(SJ90)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：灰黄褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第18層：暗褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第19層：暗褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第21層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第22層：黒褐色土層（ロームブロックを中量、白色粘土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第24層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第25層：灰黄褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第26層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第27層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第28層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



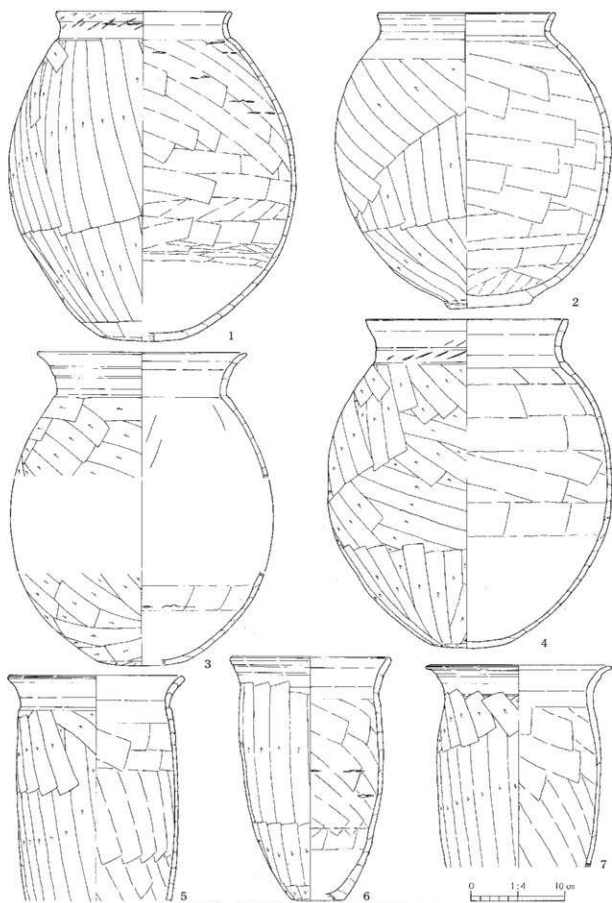
第206図 第89(SJ89)号住居跡カマド

第89(SJ89)号住居跡カマド土層説明

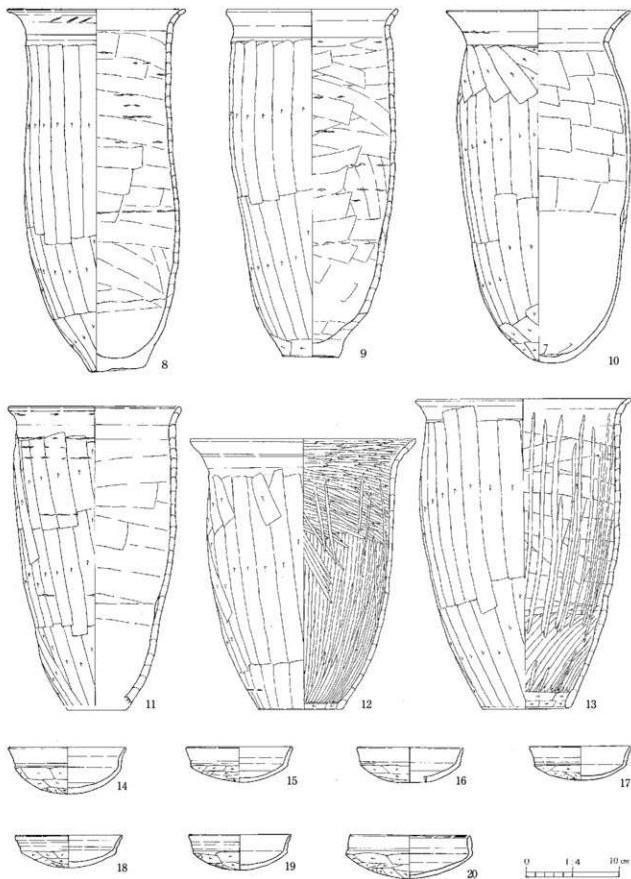
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を中量、炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：灰黄褐色土層（白色粘土ブロック・焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：灰黄褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第8層：灰黄褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：灰黄褐色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

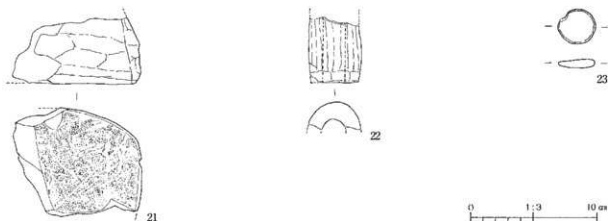
遺物は、住居中央部や壁際の覆土中から、古墳時代後期後葉（6世紀後半～7世紀初頭頃）の土器がまとまって出土している（第207・208図）。これらの土器には時間幅があり、No1・2・5・6・8・9・11・12・14・20などの古い時期のものと、No3・4・7・10・15～19などの新しい時期の2時期のものが見られる。しかしながら、これらは混在して出土しており、その出土状況に差異が見られないことから、いずれも住居廃絶後の覆土埋没過程に、周辺から投棄されたものと思われる。土器以外では、土製支脚と羽口の破片と、円盤状の土製品が出土している。この中の羽口の破片は、整った細い柱状の形態で、外面の調整も丁寧であり、おそらく該期のものではなく混入したものと思われる。



第207图 第89(SJ89)号住居跡出土遺物(1)



第208图 第89(SJ89)号住居跡出土遺物(2)



第209図 第89(SJ89)号住居跡出土遺物(3)

第89(SJ89)号住居跡出土遺物観察表

1	胴張 甕	A. 口縁部径 18.6、器高 34.7、底部径(8.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半丁寧なナデの後上半匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
2	胴張 甕	A. 口縁部径(18.8)、器高 31.3、底部径 9.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。G. 外面は二次焼成を受けて荒れている。H. 覆土中。
3	胴張 甕	A. 口縁部径(22.0)、推定高(33.1)、底部径 9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半丁寧なナデの後上半匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 上半1/2弱、下半2/3。H. 覆土中。
4	胴張 甕	A. 口縁部径 21.4、器高 34.6、底部径 8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半丁寧なナデの後上半匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-暗褐色。F. はほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面直上。
5	長 胴張 甕	A. 口縁部径 18.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 上半のみ。H. 床面直上。
6	長 胴張 甕	A. 口縁部径 17.0 ~ 17.6、器高 25.8、底部径(5.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 4/5。G. 胴部外面に黒斑あり。器形はかなり歪んでいる。H. 覆土中。
7	長 胴張 甕	A. 口縁部径 19.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-明橙褐色、内-淡橙褐色。F. 上半1/2弱。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
8	長 胴張 甕	A. 口縁部径 18.8、器高 38.4、底部径 5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半丁寧なナデの後上半匏ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. はほぼ完形。H. 床面直上。
9	長 胴張 甕	A. 口縁部径 18.2、器高 36.9、底部径 6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. はほぼ完形。H. 覆土中。
10	長 胴張 甕	A. 口縁部径 19.4、器高 37.4、底部径 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半丁寧なナデの後上半匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. はほぼ完形。G. 胴部外縁は磨滅している。H. 床面直上。
11	長 胴張 甕	A. 口縁部径 18.2、残存高 31.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面下半丁寧なナデの後上半匏ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 4/5。G. 胴部外面に煤附着。H. 床面直上。
12	大 形 瓶	A. 口縁部径 24.0、器高 28.7、底部径(9.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。内面ミガキ。胴部外面ケズリの後下端ナデ、内面ミガキ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
13	大 形 瓶	A. 口縁部径 22.8、器高 37.8、底部径 9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデの後端ミガキ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
14	模 倣 塚	A. 口縁部径 12.4、器高 4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 完形。H. 床面直上。
15	模 倣 塚	A. 口縁部径 11.2、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 4/5。G. 内外面とも斑点状剥落あり。H. 覆土中。
16	模 倣 塚	A. 口縁部径(11.2)、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。
17	模 倣 塚	A. 口縁部径(10.8)、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
18	模 倣 塚	A. 口縁部径 11.2、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-明橙褐色。F. 2/3。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。

19	模倣環	A. 口縁部径 10.8、器高 3.7。B. 粘土練積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
20	模倣環	A. 口縁部径 12.8、器高 4.6。B. 粘土練積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
21	土製支脚	A. 残存高 5.3。B. 手捏ね。C. 外面雑なナデ。E. 外-淡茶褐色。F. 破片。G. 底部外面に繊維状の圧痕あり。H. 覆土中。
22	羽口	A. 残存長 5.3、残存幅 4.2。B. 手捏ね。C. 外面ナデ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-明茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
23	円盤状土製品	A. 長さ 3.0、幅 2.8、厚さ 0.7、重さ 5g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-茶褐色。F. ほほは定形。H. 覆土中。

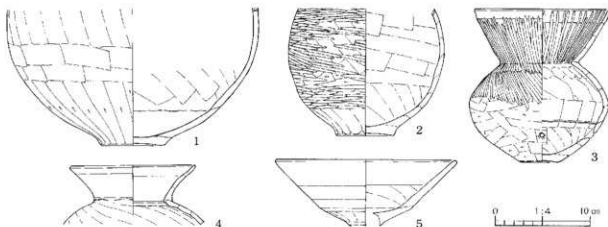
第90(SJ90)号住居跡(第205図、図版40)

B2地点の調査区中央部の東端に位置する。住居跡の大半を重複する第42号土坑・第6号溝跡・第31号住居跡(松本・大熊他2009)・第89号住居跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸み強い方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南東方向は3.40mまで、北西～南東方向は1.26mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。残存する各壁の壁下には、幅10cm、床面からの深さ5cm程度の壁溝が部分的に見られる。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、住居の南東側周辺部しか残存していないため全容は不明であるが、床下の前面に及んでいる。ピットは、P5の1箇所が検出されている。50cm×35cmの楕円形を呈し、床面からの深さは60cmある。

カマドは、住居東側壁南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長52cm、最大幅83cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にあり、燃焼面は住居の床面とほぼ同じである。袖は、ロームブロックを含む褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。本カマドは、燃焼部の下に壁溝が見られることから、住居構築当初のものではなく、作り替えられたものと考えられる。

遺物は、住居跡の覆土中や床下の掘り方内から、古墳時代前期(4世紀)～後期初頭(5世紀末)頃の土器が少量出土している(第210図)。この中で前期の中形直口壺(No3)は、胴部下半に焼成後の小穿孔が施されており、祭祀用に転用されたものと思われる。



第210図 第90(SJ90)号住居跡出土遺物

第90(SJ90)号住居跡出土土物観察表

1	壺	A. 底部径70。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-淡茶褐色。F. 胴部下半1/2。H. 掘り方内。
2	壺	A. 底部径62。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面匏ケズリ→ナデ→罐なミガキ、内面匏ナデ、底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 胴部下半1/2。H. 掘り方内。
3	中形直口壺	A. 口縁部径144、器高162、底部径41。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデの後ミガキ。胴部外面ケズリ→ナデ→上半ミガキ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部下半に焼成後の穿孔あり。胴部外面に黒斑あり。H. 掘り方内。
4	単純口縁壺	A. 口縁部径(132)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面丁寧なナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 掘り方内。
5	高 坏	A. 口縁部径(192)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 坏部1/4破片。G. 口縁部外面に黒斑あり。H. 覆土中。

第91(SJ91)号住居跡(第211回、図版40)

B3地点の調査区中央に位置し、重複する第64号土坑に切られている。

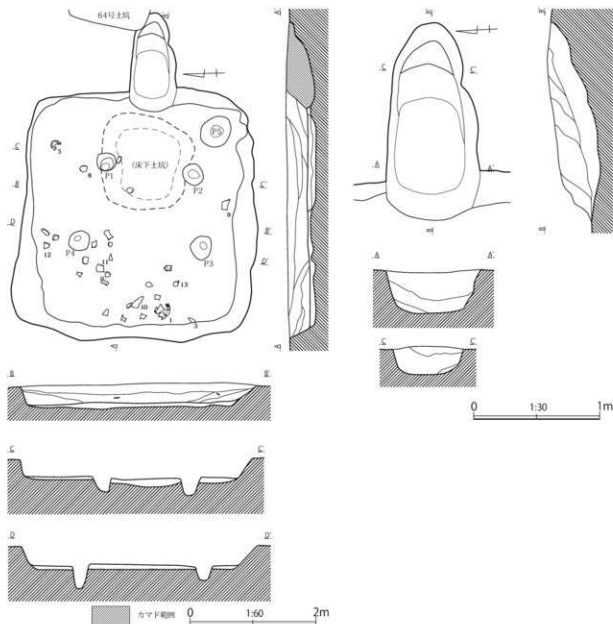
平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が4.04m、南北方向が3.85mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で34cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、住居の対角線上ではなく、住居の平面形と相似形ではない台形的な配置をとっているが、その規則的な配置から、支柱穴の可能性が考えられる。いずれも直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは22cm～38cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。55cm×44cmの楕円形を呈し、床面からの深さは20cm程度ある。カマド焚口前の床下からは、床下土坑が1基検出されている。152cm×148cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは14cmある。

カマドは、住居東側壁の中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長156cm、最大幅76cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、その大部分が住居の壁外にある。燃焼部は、住居の床面より一段低く、緩やかに傾斜しながら煙道部に移行する。

遺物は、住居の覆土中を主体に、奈良時代末～平安時代前期(8世紀末～9世紀前半)の土師器や須恵器の破片が比較的多く出土している(第212回)。

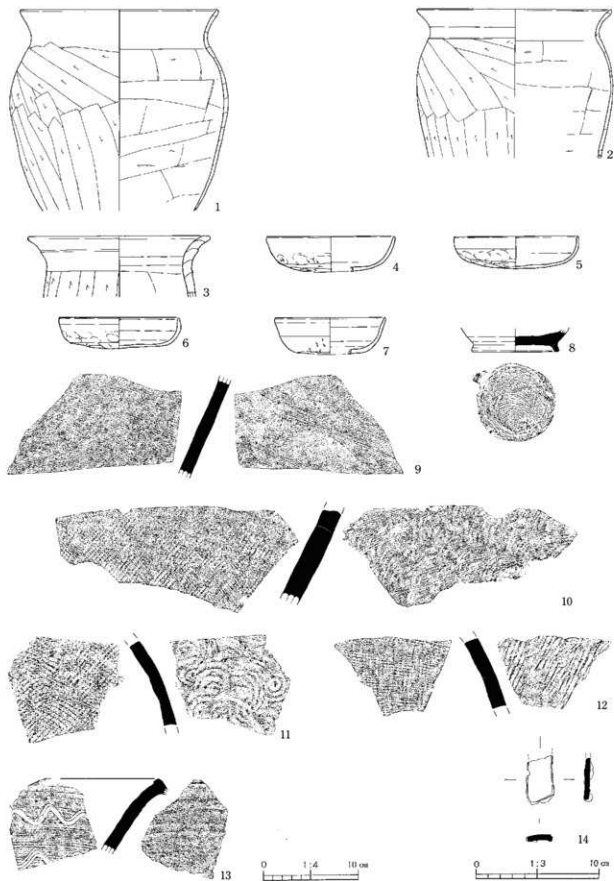
第91号住居跡出土土物観察表

1	甕	A. 口縁部径(210)、残存高213。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/4。H. 床面直上。
2	甕	A. 口縁部径(208)、残存高157。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、赤色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/5。G. 歪みあり。H. カマド内。
3	甕	A. 口縁部径(194)、残存高65。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 角閃石、片岩粒、チャート。E. 内外-橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(136)、器高37。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/4。H. 貯蔵穴内。
5	坏	A. 口縁部径132、器高34。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、角閃石。E. 内外-にぶい橙褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径128、器高32。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、角閃石。E. 内外-橙褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(118)、器高38、底部径(74)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 1/5。H. 覆土中。



第211図 第91(SJ91)号住居跡

8	須 忠 器 高台付 坑	A. 残存高 25、高台部径 92。B. ロック成形。高台部貼り付け。C. 底部外面回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-にふい黄橙褐色。F. 1/3。G. 還元不良。H. 覆土中。
9	須 忠 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面叩き(平行叩き目)の後ナデ、内面ハケ状工具によるナデ。D. 白色粒、角四石。E. 内-灰白色、外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
10	須 忠 器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕の後ナデ。D. 白色粒、チャート、角四石。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
11	須 忠 器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕を残す。D. 白色粒、チャート。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
12	須 忠 器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕を残す。D. 白色粒、チャート。E. 内-黄灰色、外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
13	須 忠 器 甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面宛あるいは榭描による波状文。D. チャート、白色粒。E. 内外-灰色。F. 口縁部破片。H. 床面直上。
14	不明鉄製品	A. 残存長 36、幅 21、厚さ 0.4、重さ 786g。D. 鉄製。F. 破片。G. やや反りがある。H. 覆土中。



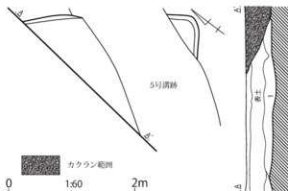
第212図 第91(SJ91)号住居跡出土遺物

第92(SJ92)号住居跡(第213図、図版41)

B3地点の調査区西端に位置し、重複する第5号溝跡に切られている。住居跡の大半は、西側調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北東～南西方向は1.93mまで、北西～南東方向は2.80mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは5cm程度ある。壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、形態は不明であるが、壁際まで及んでいる。

遺物は、何も出土しなかった。

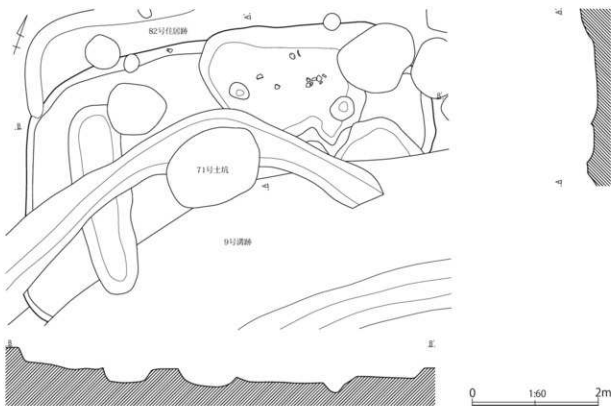


第213図 第92(SJ92)号住居跡

第93(SJ93)号住居跡(第214図)

B2地点の調査区南端とB3地点の調査区北東端に位置し、重複する第82号住居跡・第9号溝跡・第71号土坑に切られている。本住居跡は、住居北側の掘り方部分しか残存していないため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、かなり歪んでいるが、コーナー部の丸みが強い長方形を



第214図 第93(SJ93)号住居跡

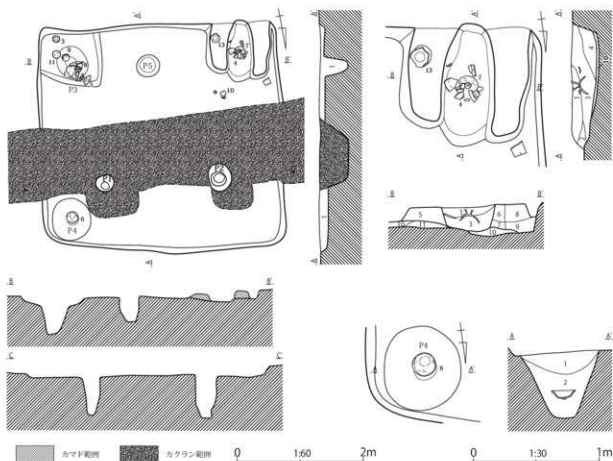
基調にしているものと思われる。規模は、東西方向が6.62m、南北方向は4.00mまで測れる。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。本住居跡に伴う可能性が高いピットは、2箇所検出されているが、その性格等は不明である。

遺物は、掘り方埋土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである。

第94(SJ15)号住居跡（第215図、図版41）

B2地点の調査区北東端に位置し、住居跡の中央部を東西に走る後世の擾乱溝に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が3.68m、東西方向が3.88mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で12cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1とP2は、住居の対角線上に配置されていることから、支柱穴と関係するものと思われる。30cm～40cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さはいずれも60cm程度ある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居南東側コーナー部に位置する。100cm×85cmの長方形に一段低くなり、中央部に54cm×46cmの楕円形を呈する床面からの深さ58cmのピット状の掘り込みがある。P3の中や上面からは、大形甑・高坏・小形直口壺・坏などの土器が多く出土している。P4は、住居北東側コーナー部に位置する。68cm×60cmの楕円形を呈し、床面からの深さは52cmある。P4内の覆土中位から、高坏の坏



第215図 第94(SJ15)号住居跡

第94(SJ15)号住居跡土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第94(SJ15)号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（焼土粒子・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、黄褐色粘土粒子を少量、焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黒褐色土層（ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：黄褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第8層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第9層：褐色土層（ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第10層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第11層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

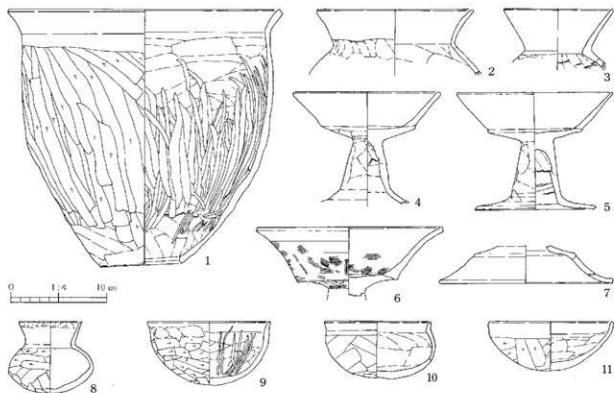
第94(SJ15)号住居跡P4土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

部が正位で出土している。P5は、住居南側壁際の中央付近に位置する。直径35cmの円形を呈し、床面からの深さは38cmある。

カマドは、住居南側壁の南西コーナー部の位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長98cm、最大幅104cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、住居内にある。燃焼面は、住居の床面よりも一段低くなっている。燃焼部中央には、高坏を伏せた転用支脚が据えられている。袖は、黄褐色粘土を含む暗褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残



第216図 第94(SJ15)号住居跡出土遺物

存していなかった。

遺物は、カマドの内外や貯蔵穴(P3)の中から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器が多く出土している(第216図)。

第94(SJ15)号住居跡出土遺物観察表

1	大形 瓶	A. 口縁部径 28.8、器高 27.4、底部径 8.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ後ケズリ、内面ナデの後ミガキ。D. 白色粒。E. 外-明橙褐色、内-橙褐色。F. ほぼ完形。H. P3内。
2	甕	A. 口縁部径 16.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 破片。H. カマド内。
3	中形直口壺	A. 口縁部径 11.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 破片。H. P3。
4	高 杯	A. 口縁部径 15.2、残存高 11.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端四部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 脚端部欠損。H. カマド内。
5	高 杯	A. 口縁部径 16.2、器高 12.5、脚端部径 12.4。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端四部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/2。H. P3内。
6	有段高杯	A. 口縁部径 19.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部、杯部内外面ハケの後ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい赤褐色、内-橙褐色。F. 杯部 1/2。H. P4内。
7	有段高杯	A. 脚端部径 18.2。B. 粘土継積み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 破片。H. カマド内。
8	小形直口壺	A. 口縁部径 6.4、器高 7.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. ほぼ完形。H. P3内。
9	杯	A. 口縁部径 12.8、器高 6.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後暗文を施す。D. 白色粒。E. 外-明橙褐色、内-橙褐色。F. 完形。H. P3内。
10	杯	A. 口縁部径 11.0、器高 6.1、底部径 2.8。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-明橙褐色、内-明赤褐色。F. 4/5。H. 床面付近。
11	杯	A. 口縁部径 12.8、器高 5.3。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. チャート、白色粒、黒色粒。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. ほぼ完形。H. P3内。

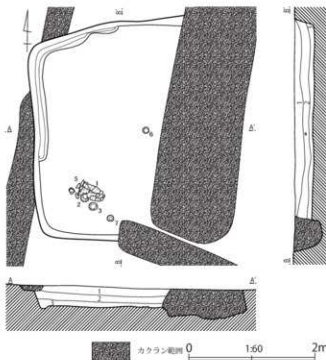
第95(SJ16)号住居跡(第217図、図版41)

B2地点の調査区北東側に位置し、住居跡の東側を掘乱溝に切られている。

平面形は、残存する部分から推測するとコーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が3.50m、東西方向は2.72mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。住居北側壁下の西側から西側壁下の北側にかけて、幅15cm~20cm、床面からの深さ5cm程度の壁溝が巡っている。住居の掘り方はなく、床面は地山ローム土を直接削って平坦にした直床式である。

第95(SJ16)号住居跡土層説明

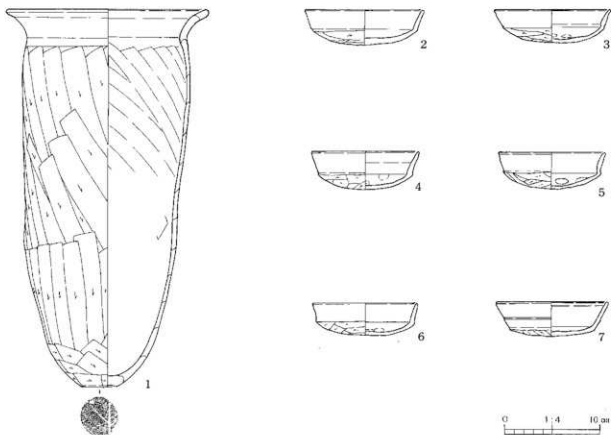
- 第1層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第3層：黒褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)



第217図 第95(SJ16)号住居跡

残存する住居内からは、カマドやピットは検出されなかったが、カマドはおそらく攪乱溝によって破壊された住居東側壁に付設してあったと思われる。

遺物は、住居中央部や南西側コーナー部近くの床面付近から、古墳時代後期後葉(6世紀末～7世紀初頭)頃の土器が比較的多く出土している(第218図)。



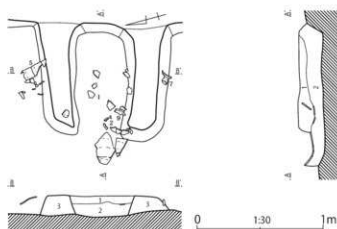
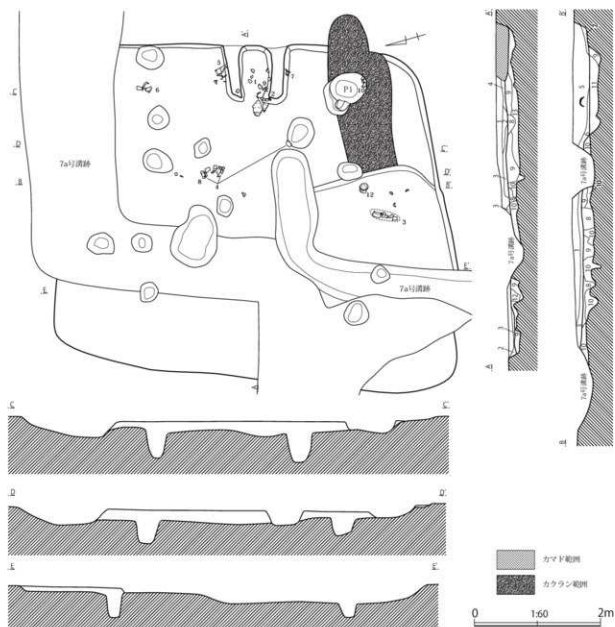
第218図 第95(SJ16)号住居跡出土遺物

第95(SJ16)号住居跡出土土器観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径 20.9、器高 40.0、底部径 3.7。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 外-にぶい黄橙褐色、内-にぶい橙褐色。F. ほほ完彩。G. 胴部外面煤付着。H. 床面直上。
2	模 倣 椀	A. 口縁部径 12.4、器高 3.7。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. ほほ完彩。H. 床面直上。
3	模 倣 椀	A. 口縁部径 12.0、器高 3.5。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完彩。H. 床面付近。
4	模 倣 椀	A. 口縁部径 11.2、器高 4.0。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/6。H. 覆土中。
5	模 倣 椀	A. 口縁部径 11.0、器高 3.9。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完彩。H. 床面付近。
6	模 倣 椀	A. 口縁部径 10.8、器高 3.4。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完彩。H. 床面直上。
7	模 倣 椀	A. 口縁部径 11.6、器高 3.6。B. 粘土経積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石、黒色粒。E. 内外-橙褐色。F. 完彩。H. 床面付近。

第96(SJ17)号住居跡(第219図、図版41)

B2地点の調査区北側の東寄りに位置し、重複する第7a・7b号溝跡に切られている。住居跡の西側半分は、すでに削平されて掘り方部分しか残っていない。



第96(SJ17)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・灰白色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第219図 第96(SJ17)号住居跡

第96(SJ17)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・灰白色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・明黄褐色粘土ブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第9層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：黒褐色土層（ロームブロックを中量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第11層：黒褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

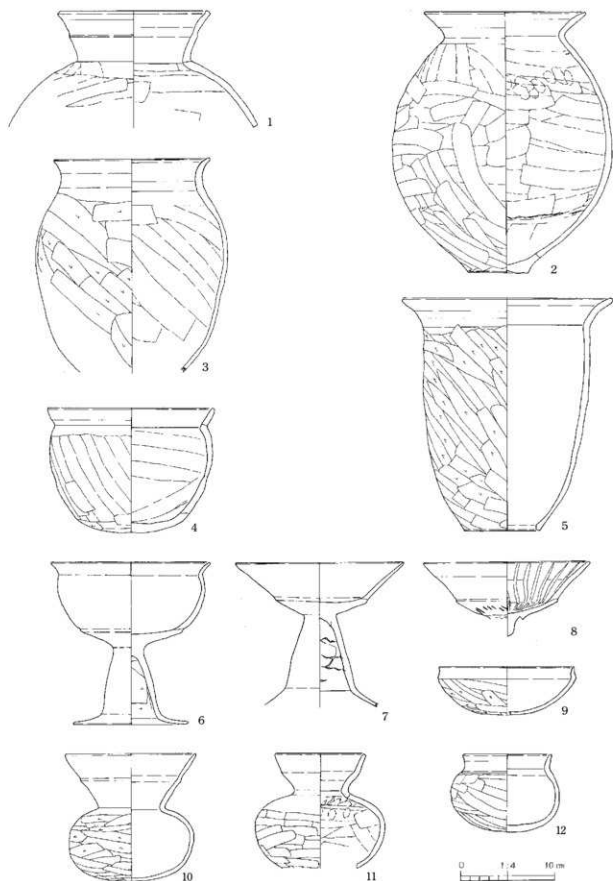
平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸み強い長方形を呈するものと思われる。規模は、東西方向が5.30m、南北方向は6.42mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で14cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、中央部を浅く掘り残し、周辺部をやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。住居の掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。ピットは、多数検出されているが、その性格が分かるものはほとんどない。この中で、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置するP1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、60cm×50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは73cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長90cm、最大幅110cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にあり、燃焼面は住居の床面よりも若干低くなっている。袖は、灰褐色粘土ブロックを多量含む暗灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマドの内外や住居中央付近の覆土中から、古墳時代中期(5世紀)後半の土器が、比較的多く出土している(第220図)。また、土器以外では、覆土中から縄文時代の石鏃が1点出土している(第270図)。

第96(SJ17)号住居跡出土土物観察表

1	壺	A.口縁部径115.6。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面匱ナデ。D.白色粒。E.外-にふい赤褐色、内-明赤褐色。F.上半1/6。H.カマド内。
2	胴張 壺	A.口縁部径17.0。器高27.7。底部径6.1。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.チャート、黒色粒、白色粒。E.外-灰褐色、内-赤褐色。F.1/3。H.カマド内。
3	長 胴 壺	A.口縁部径16.4。残存高22.4。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.角閃石、白色粒。E.外-にふい褐色、内-褐色。F.1/5。H.覆土中。
4	大 形 鉢	A.口縁部径117.3。器高13.1。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.黒色粒、白色粒。E.外-にふい赤褐色、内-灰黄褐色。F.1/6。H.覆土中。
5	大 形 瓶	A.口縁部径21.8。器高24.6。底部径8.0。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外-にふい赤褐色、内-明赤褐色。F.1/2。H.カマド内。
6	脚 付 鉢	A.口縁部径116.6。器高17.1。脚部径120。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外-にふい赤褐色。F.1/2。H.覆土中。
7	高 坏	A.口縁部径117.8。残存高15.2。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚部内外面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外-にふい赤褐色、内-明赤褐色。F.1/5。H.カマド内。
8	高 坏	A.口縁部径117.4。B.粘土継積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。D.白色粒。E.内外-にふい赤褐色。F.坏部1/4。H.覆土中。



第220図 第96(SJ17)号住居跡出土遺物

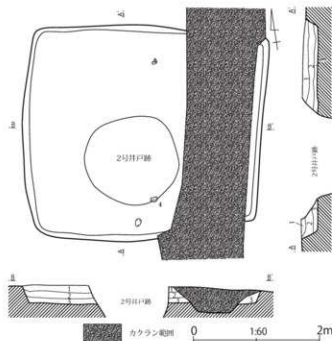
9	模 倣 環	A. 口縁部径 142, 器高 51. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外- 橙褐色. F. ほぼ完形. H. カマド内.
10	中形直口壺	A. 口縁部径(137), 器高 135. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外- 赤褐色. F. 3/5. H. P1内.
11	中形直口壺	A. 口縁部径(94), 残存高 122. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. チャート, 白色粒. E. 外- 橙褐色, 内- 赤褐色. F. 1/3. H. 覆土中.
12	広口短頸壺	A. 口縁部径 92, 器高 82. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. D. チャート, 白色粒. E. 内外- 橙褐色. F. 完形. H. 覆土中.

第97(SJ18)号住居跡 (第221図、図版42)

B2地点の調査区北側の東端に位置し、重複する第2号井戸跡に切られている。住居跡の東側を、後世の攪乱溝に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が3.46m、東西方向が3.80mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、地山ローム土を直接削って平坦にした直床式で、床面下に掘り方を伴わない。ピットやカマド等の住居内施設は、見られなかった。

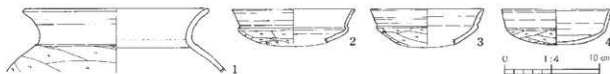
遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代後期後葉(6世紀末～7世紀初頭)頃の土器の破片が、少量出土している(第222図)。



第221図 第97(SJ18)号住居跡

第97(SJ18)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりもない。)
 第3層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)



第222図 第97(SJ18)号住居跡出土遺物

第97(SJ18)号住居跡出土土物観察表

1	胴張 壺	A. 口縁部径(196). B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 外- 明茶褐色, 内- 淡茶褐色. F. 口縁部 1/4 破片. G. 胴部外面に黒斑あり. H. 覆土中.
2	模 倣 環	A. 口縁部径(130), 残存高 3.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外- 淡橙褐色. F. 口縁部 1/5 破片. H. 覆土中.
3	模 倣 環	A. 口縁部径(120), 残存高 3.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外- 明橙褐色. F. 口縁部 1/6 破片. H. 覆土中.
4	模 倣 環	A. 口縁部径 11.6, 器高 3.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外- 明橙褐色. F. ほぼ完形. H. 覆土中.

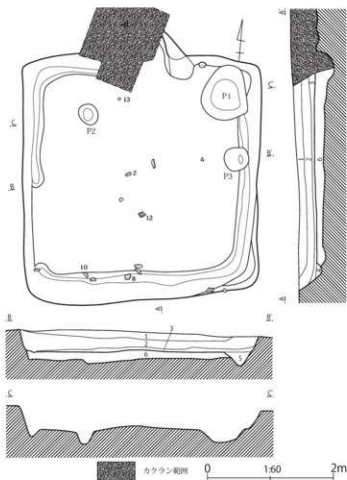
第98(SJ19)号住居跡(第223図、図版42)

B2地点の調査区中央部の東端に位置し、重複する第71号住居跡・第72号住居跡・第73号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、南北方向が4.00m、東西方向が3.80mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。各壁の壁下には幅25cm前後、床面からの深さが10cm程度の壁溝が巡っているが、カマド右側の北東側コーナー部と西側壁の南側半分の2箇所が途切れている。床面は、ロームブロックを含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に及ぶ形態である。ピットは、3箇所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置する。88cm×76cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは30cmある。P2は、住居の対角線上にあるが、1箇所だけであるため、支柱との関係は不明である。長さ35cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cmある。P3は、住居東側壁際の中央に位置する。直径40cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居北側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。カマドの西側半分は攪乱によって破壊されているため、カマドの全容は不明である。規模は、長さ86cmまで、幅は88cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られ、燃焼面は住居の床面とほぼ同じである。袖は、燃焼部掘り方の壁面に、灰褐色粘土ブロックを均一に含む暗灰褐色土を、燃焼部奥壁付近から焚口部まで貼って構築している。煙道部は、攪乱に切られているため不明である。

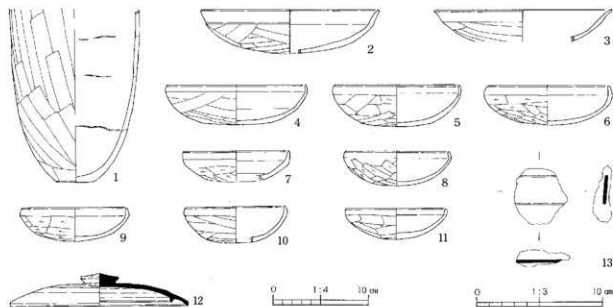
遺物は、住居跡の覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)を主体とする土器の破片が少量出土している(第224図)。また、土器以外では、板状の鉄器の破片が1点覆土中から出土している。



第223図 第98(SJ19)号住居跡

第98(SJ19)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
 第2層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・灰白色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
 第3層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
 第4層：暗褐色土層(ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
 第5層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
 第6層：褐色土層(ロームブロック・明黄褐色粘土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)



第224図 第98(SJ19)号住居跡出土土物

第98(SJ19)号住居跡出土土物観察表

1	長 胴 甕	A. 残存高 18.3, 底部径 4.0. B. 粘土継積み上げ. C. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ. 底部外面ケズリ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 外-明赤褐色, 内-灰黄褐色. F. 下半 1/3. H. 覆土中.
2	皿	A. 口縁部径(19.0), 器高 4.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒. E. 内外-いぶい赤褐色. F. 1/6. H. 覆土中.
3	皿	A. 口縁部径(18.8), 残存高 3.3. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 赤色粒, 黒色粒. E. 外-明褐色, 内-明赤褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
4	坏	A. 口縁部径(14.8), 器高 4.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角四石, 黒色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 1/5. H. 覆土中.
5	坏	A. 口縁部径(13.2), 器高 4.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角四石, 黒色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
6	坏	A. 口縁部径 12.8, 器高 4.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 外-明赤褐色, 内-明褐色. F. 5/6. H. 覆土中.
7	坏	A. 口縁部径(11.2), 残存高 3.1. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 角四石, 黒色粒. E. 外-明褐色, 内-明赤褐色. F. 1/6. H. 覆土中.
8	坏	A. 口縁部径(11.2), 器高 3.6. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 1/2. H. 覆土中.
9	坏	A. 口縁部径(11.0), 器高 3.5. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒. E. 外-いぶい褐色, 内-いぶい橙褐色. F. 1/2. H. 覆土中.
10	坏	A. 口縁部径(10.5), 残存高 3.8. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外-明赤褐色. F. 1/4. H. 覆土中.
11	坏	A. 口縁部径(10.8), 器高 3.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ, 内面ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 2/5. H. 覆土中.
12	須 恵 器 蓋	A. 口縁部径 18.8, 器高 3.4. B. ロクロ成形. 横み貼り付け. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転ケズリ, 内面回転ナデ. D. 白色粒. E. 内外-灰色. F. 1/4. H. 覆土中.
13	板状鉄製品	A. 長さ 4.4, 幅 4.3, 厚さ 0.2, 重さ 21g. B. 鍛造. D. 鉄製. F. 破片. H. 覆土中.

第99(SJ20)号住居跡 (第128図、図版42)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第38号住居跡に切られ、第37号住居跡と第88号住居跡を切っている。住居跡の中央部は、並走する3条の攪乱溝によって破壊されている。

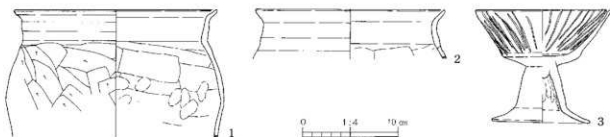
平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈すると思われる。規模は、東西方向が5.80m、南北方向が5.26mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で10cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、4本主柱穴に囲まれた住居中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際

までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、多数検出されているが、住居に関係すると思われるものはP1～P5の5箇所である。P1～P4は、4本主柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。いずれも直径20cm～25cmの円形を呈し、床面からの深さは30cm～40cmある。P5は、貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。108cm×88cmの楕円形を呈し、床面からの深さは68cmある。

カマドは、住居東側壁の中央北側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長108cm、最大幅110cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼面は、住居の床面よりも一段低く、平坦に作られている。燃焼部内の右袖奥には、板状の石が一枚立てられており、袖内面の補強に使われていたものと思われる。袖は、ローム粒子や焼土粒子を含む褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されている。

遺物は、カマド内や住居覆土中から、古墳時代後期初頭(5世紀末)～平安時代前期(9世紀末)頃の土器片が多く出土している(第225図)。

本住居跡は、その住居の形態が古墳時代後期初頭頃のものに非常に酷似しているが、遺構の重複関係やカマド内やその周辺から平安時代の土器が出土していることから、平安時代の所産と考えざるをえない。



第225図 第99(SJ20)号住居跡出土遺物

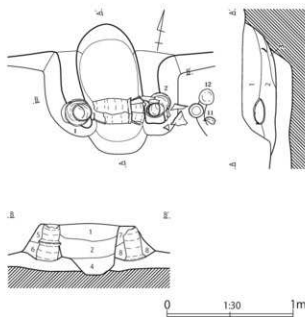
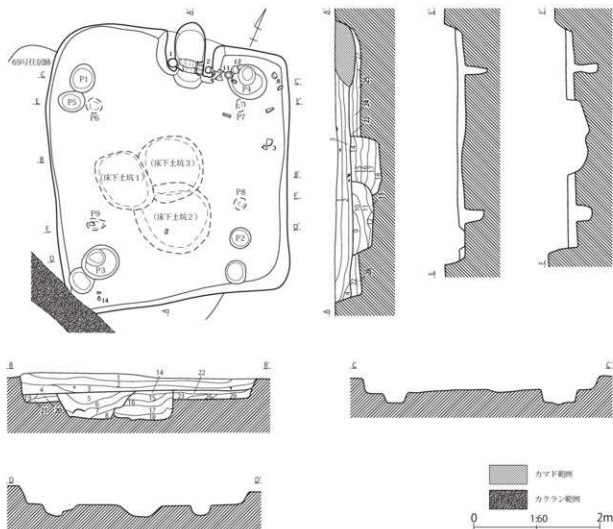
第99(SJ20)号住居跡出土土物観察表

1	長 刷 栗	A. 口縁部径 21.2. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面笊ナデ. D. 黒色粒, 白色粒. E. 外-明赤褐色, 内-橙褐色. F. 上半破片. H. 床面付近.
2	長 刷 栗	A. 口縁部径 20.0. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリ, 内面笊ナデ. D. 角閃石, 白色粒. E. 内外-橙褐色. F. 破片. H. カマド内.
3	高 坏	A. 口縁部径 14.2. 器高 121. 脚端部径 10.4. B. 粘土継積み上げ. C. 口縁部内外面ナデの後放射状暗文. 脚柱部内外面ナデ. 脚端部内外面ヨコナデ. D. 角閃石. E. 外-にぶい褐色, 内-にぶい赤褐色. F. 5/6. H. 床面付近.

第100(SJ21)号住居跡(第226図、図版42)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第69号住居跡に切られ、第84号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ台形状に歪んだ長方形を呈している。規模は、南北方向が3.72m～4.56m、東西方向が3.88mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土と黒褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下の前面に及ぶ形態である。ピットは、床面上でP1～P5の5箇所と、床下からP6～P9の4箇所が検出されている。P1～P3は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、主柱穴と関係するものかもしれない。形態は、30cm～40cm程度の円形を呈し、床面からの深さは15cm～20cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置する。60cm×55cmの楕円形を呈し、中央に直径30



第226図 第100(SJ21)号住居跡

第100(SJ21)号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：褐色土層（焼土ブロックを少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

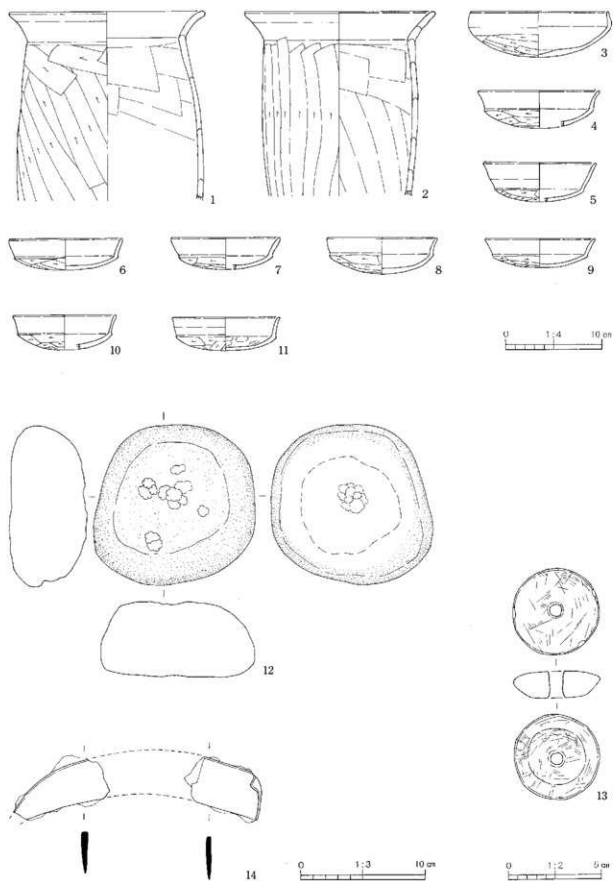
第8層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第100(SJ21)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
<床下土坑1>
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（炭化粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
<床下土坑2>
 第9層：黒褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
<床下土坑3>
 第14層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第18層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
<住居掘り方埋土>
 第19層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第21層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第22層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（灰白色粘土粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第24層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第25層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第26層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第27層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第28層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第29層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

cmの円形を呈するピット状の掘り込みを伴っている。床面からの深さは、30cmある。P5は、P1の南側に隣接している。42cm×33cmの楕円形を呈し、床面からの深さは10cmある。P6～P9は、床下から検出されたもので、その規則的な配置から、住居構築当初の4本主柱穴の可能性もある。長さ25cm～30cmの円形や楕円形を呈し、掘り方底面からの深さは30cm～40cmある。住居中央部の床下からは、相互に重複した床下土坑が3基検出されている。形態は、長さ1m前後の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは30cm～50cmある。床下土坑1と床下土坑2は、上面に貼床がされてなく、覆土中にローム粒子や焼土粒子や炭化粒子を含んで類似しているが、一番古い床下土坑3は、上面に貼床が施され、ロームブロックとローム粒子を含む類似した暗褐色土の土層がほぼ水平堆積しており、他の床下土坑とは覆土の様相が異なっている。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、住居の壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長105cm、最大幅106cmある。燃焼部は、住居の壁を10cm程度掘り込んでおり、燃焼面は住居床面よりも一段深くなっている。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土で、住居の壁



第227図 第100(SJ21)号住居跡出土遺物

に直接貼り付けて構築している。両袖の先端部は、土師器の甕を使って補強しているが、右袖は1個の甕を伏せているのに対して、左袖は2個の甕の口縁を合わせて立てている。焚口部の上面も、甕を2個入れ子状に連結させて補強に使用していたようで、袖の補強甕の上に据えられていたものが、下に落下した状態で出土している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や貯蔵穴(P4)の周辺から、古墳時代後期後葉頃の土器が多く出土している。土器以外では、石製紡錘車や鉄製鎌などが出土している(第227図)。

第100(SJ21)号住居跡出土遺物類表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径 20.2, 残存高 20.1, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 角四石, E. 内外-明赤褐色, F. 上半のみ, H. カマド内。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径 19.8, 残存高 19.5, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 角四石, 石英, 赤色粒, E. 外-橙褐色, 内-明赤褐色, F. 上半4/5, H. カマド内。
3	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(14.4), 器高 4.9, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, 石英, E. 内外-橙褐色, F. 1/3, H. 覆土中。
4	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(12.8), 残存高 3.8, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, E. 内外-橙褐色, F. 1/4, H. 床下土塊。
5	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(12.0), 器高 4.2, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, 白色粒, E. 内外-にぶい黄褐色, F. 1/4, H. 床下土塊。
6	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(12.0), 器高 3.2, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, E. 内外-にぶい褐色, F. 1/4, H. 床下土塊。
7	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(11.6), 器高 3.4, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, 黒色粒, E. 内外-にぶい黄褐色, F. 1/4, H. カマド内。
8	模 倣 塚 環	A. 口縁部径 11.4, 器高 3.8, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 角四石, 雲母, 赤色粒, E. 内外-にぶい橙褐色, F. 4/5, H. 覆土中。
9	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(11.2), 器高 3.0, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, E. 外-にぶい褐色, 内-にぶい橙褐色, F. 1/2, H. 床下土塊。
10	模 倣 塚 環	A. 口縁部径(10.8), 器高 3.6, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, 白色粒, E. 外-明褐色, 内-橙褐色, F. 1/4, H. 床下土塊。
11	模 倣 塚 環	A. 口縁部径 11.1, 器高 3.5, B. 粘土継積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 角四石, 赤色粒, E. 内外-橙褐色, F. 完形, H. 床面付近。
12	敲 き 石	A. 長さ 12.5, 幅 12.7, 厚さ 6.0, B. 自然石を利用, D. 安山岩, C. 表裏面中央に敲打による複数の凹穴, F. 完形, G. 裏面中央煤付着, H. 床面付近。
13	石製紡錘車	A. 直径 4.6, 高さ 1.5, 孔径 0.7, B. 寛削り, C. ケズリ後, 全面研磨, D. 蛇紋岩, F. 完形, H. 覆土中。
14	鉄 製 鎌	A. 長さ(200), 幅 3.5, 厚さ 0.6, 重さ 62g, B. 鍛造, D. 鉄製, F. 2/3, H. 覆土中。

第101(SJ22)号住居跡(第142図、図版43)

B2地点の調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第8号溝跡と第44号住居跡に切られている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈している。規模は、東西方向が3.72m、南北方向が4.54mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは16cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、3箇所検出されている。P6とP8は、住居の対角線付近に配置されていることから、4本主柱穴の一部の可能性が高いと思われる。直径37cmと26cmの楕円形や円形を呈し、床面からの深さはいずれも44cmある。P7は、カマド右側に位置する。直径35cm円形を呈し、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居東側壁の中央の位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長90cm、最大幅124cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼面は、住居



第228図 第101(SJ22)号住居跡出土遺物

の床面とほぼ同じ高さで、平坦に作られている。袖は、ロームブロックを含む褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されている。

遺物は、カマド内や住居覆土中から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)の土器片が少量出土しただけである(第228図)。

第100(SJ21)号住居跡出土遺物観察表

1	長 刺 堖	A. 口縁部径(19.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 外-内-黄褐色。内-内-黄褐色。F. 破片。H. カマド内。
2	模 倣 瓦	A. 口縁部径(13.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黄褐色。F. 破片。H. カマド内。

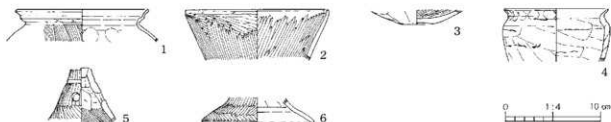
第102(SJ23)号住居跡(第158図、図版43)

B2地点の調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第52号住居跡と第7号溝跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が5.50m、南北方向が5.77mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残し、周辺部は壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、4箇所検出されている。P1～P3は、4本主柱穴の一部と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。50cm前後の楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは50cm～70cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居北西側コーナー部に位置する。100cm×92cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは25cmある。上面からは、台石と思われる大形の扁平な石が1個出土している。

炉は、住居中央部のP2・P3間に近い西側寄りに位置する。80cm×120cmくらいの楕円形を呈し、床面を5cm程度掘り窪めた地皿炉である。

遺物は、P4の上面から出土した台石のほかは、覆土中から古墳時代前期(4世紀)後葉の土器の破片が少量出土しただけである(第229図)。



第229図 第102(SJ23)号住居跡出土遺物

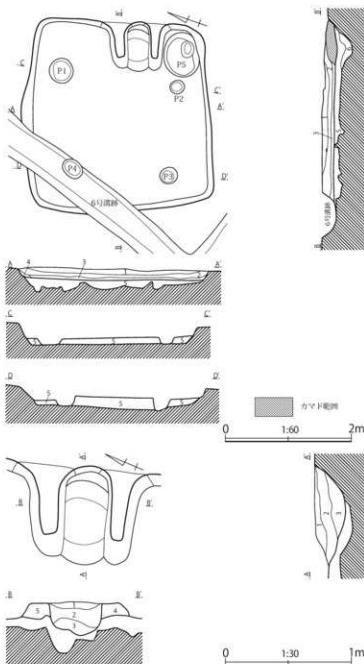
第102(SJ23)号住居跡出土遺物観察表

1	S字状口縁台付堖	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
2	中形直口壺	A. 口縁部径(15.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
3	中形直口壺	A. 底部径(3.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ハケの後薄ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-黒褐色。F. 底部1/2破片。H. 覆土中。
4	小形鉢	A. 口縁部径(11.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
5	高 坏	A. 残存高5.7。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ミガキ、内面ハケの後上半ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 胴部上半分のみ。G. 燒成前穿孔は3箇所。外面上半に泡描沈線を施す。H. 覆土中。
6	高 坏	A. 脚端部径(12.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 脚端部外面ミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 脚端部1/5破片。H. 覆土中。

103(SJ24)号住居跡(第230図、図版43)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第6号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.10m、南北方向が3.00mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線付近に配置されていることから、4本主柱穴の可能性が高いと思われる。直径25cm～38cmの楕円形や円形を呈し、床面からの深さは10cm～20cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれ



第230図 103(SJ24)号住居跡

第103(SJ24)号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

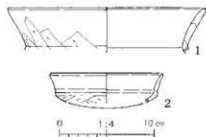
第103(SJ24)号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

るもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。70cm×53cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長78cm、最大幅110cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼面は、住居の床面より一段深くなっている。袖は、ローム粒子や焼土粒子を含む褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居覆土中から、古墳時代中期(5世紀)～後期後葉(7世紀前半)の土器片が、少量出土しただけである(第231図)。



第231図 第103(SJ24)号住居跡出土遺物

第103(SJ24)号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径 21.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
2	横楕円	A. 口縁部径 12.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 覆土中。

第104(SJ25)号住居跡(第184図、図版43)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第77号住居跡・第78号住居跡に切られている。

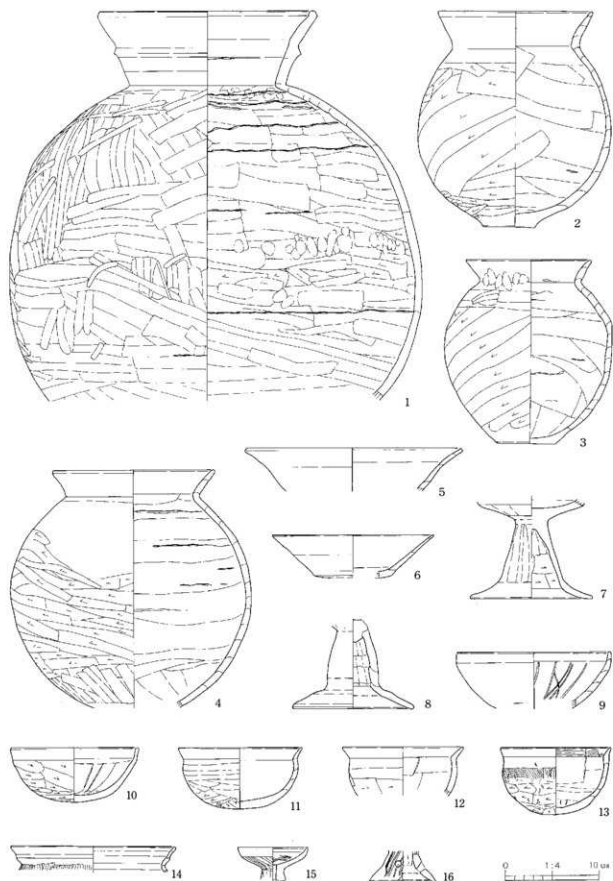
平面形は、住居東側壁がかなり歪んでいるが、コーナー部が丸みをもつ長方形を基調にしている。規模は、東西方向が6.08m、南北方向が3.42mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居の掘り方は、床下全面に浅く及ぶ形態である。ピットは、残存する範囲内では、検出されなかった。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長103cm、最大幅136cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、奥壁は住居の壁と一致している。燃焼面は、住居の床面とほとんど同じ高さで平坦に作られている。袖は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居東側半分の床面付近から、古墳時代後期初頭(5世紀末頃)の完形に近い土器が多く出土している(第232図)。

第104(SJ25)号住居跡遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径 23.2、残存高 41.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリの後ナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内-黒色、外-橙褐色。F. 上半2/3。G. 胴部外面煤付着。H. 覆土中。
2	壺	A. 口縁部径 16.6、器高 22.8、底部径 5.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒、片岩粒。E. 内外-明褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
3	壺	A. 口縁部径 13.2、器高 19.4、底部径 6.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、チャート。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
4	壺	A. 口縁部径 17.1、残存高 25.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 角閃石、白色粒、赤色粒。E. 外-にぶい褐色、内-暗赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。



第232図 第104(SJ25)号住居跡出土遺物

5	高 坏	A. 口縁部径(232)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、白色粒、白色針状物質。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
6	高 坏	A. 口縁部径(172)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-明褐色。F. 破片。H. 覆土中。
7	高 坏	A. 残存高108, 脚端部径(130)。B. 粘土継積み上げ。C. 坏部内外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
8	高 坏	A. 残存高94, 脚端部径(130)。B. 粘土継積み上げ。C. 脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、赤色粒。E. 外-にぶい黄橙褐色、内-明赤褐色。F. 脚部破片。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径(162)、残存高60。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデの後放射状暗文。D. 白色粒、角閃石。E. 外-にぶい黄褐色、内-橙褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径136, 器高5.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面跑ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-赤褐色、内-にぶい黄褐色。F. 完形。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径(131)、器高6.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 外-明赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径(128)、残存高5.2。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-にぶい赤褐色、内-赤褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径11.6, 器高7.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ナデ。体部外面ハケの後下半ケズリ、内面跑ナデ。D. 赤色粒、白色粒、片岩粒、角閃石。E. 内外-橙褐色。F. 完形。H. 覆土中。
14	S字状口縁台 付 壺	A. 口縁部径(174)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、角閃石。E. 内外-浅黄褐色。F. 破片。H. 覆土中。
15	器 台	A. 口縁部径(74)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ナデの後ミガキ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-赤褐色。F. 器受部破片。H. 覆土中。
16	高 坏	A. 残存高32、脚端部径(70)。B. 粘土継積み上げ。C. 脚部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。脚端部内面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 脚部破片。G. 脚部に焼成前の穿孔あり。H. 覆土中。

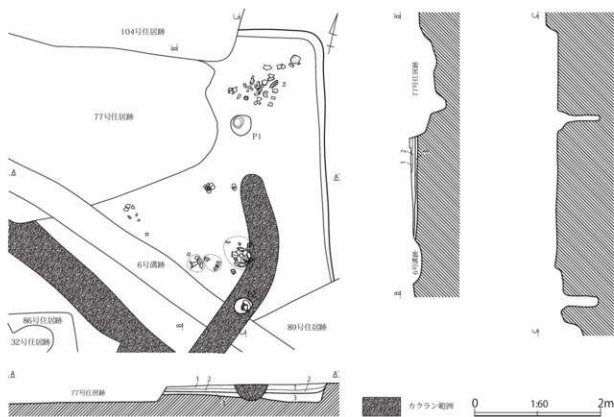
第105(SJ26)号住居跡 (第233図、図版44)

B2地点の調査区中央部に位置する。重複する第77号住居跡・第86号住居跡・第89号住居跡・第104号住居跡と第6号溝跡及び複数の攪乱溝に住居跡の大半を切られており、遺構の遺存状態はあまり良好とはいえない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は5.10mまで、東西方向は4.66mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅緻であるが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居の掘り方は、主柱穴に囲まれた中央部を浅く掘り残り、周辺部は壁際までやや深く掘り窪めた周溝状の形態である。ピットは、2箇所検出されている。P1とP2は、4本主柱穴の一部と考えられ、おそらく住居の対角線上に配置されていると思われる。形態は、いずれも直径30cmの円形を呈し、床面からの深さは70cm程度ある。P2内からは、高坏の脚部と小形鉢の破片が出土している。

炉やカマドは、残存する住居の範囲内からは検出されなかったが、出土土器の時期からすると、本住居跡はカマドを伴っていた可能性が高く、その場所は、第77号住居跡と第104号住居跡によって破壊された住居北側壁に付設されていた可能性が高い。

遺物は、住居の床面上から古墳時代中期後半(5世紀後半)を主体とする土器が、多くの破片になって散乱したような状態で出土している(第234図)。



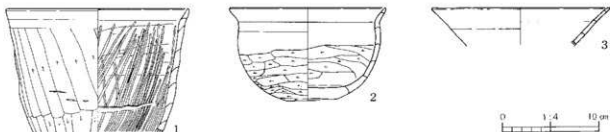
第233図 第105 (SJ26)号住居跡

第105 (SJ26)号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第234図 第105 (SJ26)号住居跡出土遺物

第105 (SJ26)号住居跡出土遺物観察表

1	小形瓶	A. 口縁部径(19.0), 残存高13.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後縦方向の窪みガキ。D. 赤色粒, 白色粒。E. 外-にぶい黄褐色, 内-にぶい橙褐色。F. 口縁部~胴部破片。H. P2内。
2	鉢	A. 口縁部径16.5, 器高9.8, 底部径5.5。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデの後下半ケズリ。底部外面ケズリ, 内面ナデ。D. 角閃石, 赤色粒, 白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。H. 床面直上。
3	高杯	A. 口縁部径(18.6), 残存高4.1。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 角閃石, 白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部破片。H. P2内。

2. 井戸跡

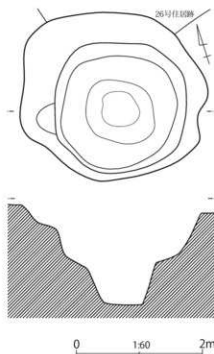
第1(SE1)号井戸跡(第235図、図版44)

B2地点の調査区北側の西端に位置し、重複する白鳳時代の第26号住居跡を切り、近世後半以降の第5号溝跡に上面を切られている。

井戸掘り方の平面形は、不整形形もしくは隅丸方形きみの形態を呈している。規模は、南北方向が2.68m、東西方向が3.02mある。断面は、いわゆる漏斗状の形態で、壁は上半が緩やかに傾斜して落ち込み、下半が円柱状に垂直きみに深くなっている。西側上半の壁面に、小規模なテラス状の段が見られるが、これは井戸掘削時の作業足場として利用されていたものと思われる。確認面からの深さは、1.58mある。井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

遺物は、覆土中から古代の平安時代前期を主体とする土師器や須恵器の破片と、中世の常滑窯系の甕と在地産片口鉢の破片、時期不明の大形砥石と鉄滓が出土している(第236図)。その他、近世以降の土器や陶磁器の破片も少量出土しているが、これらは本井戸跡に伴うものではなく、重複する第5号溝跡と関係する遺物と推測される。

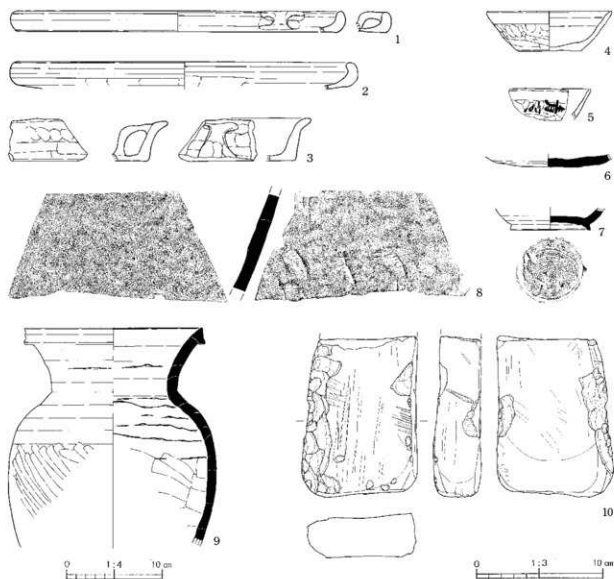
本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世以前の所産と考えられる。



第235図 第1(SE1)号井戸跡

第1号井戸跡出土遺物観察表

1	埴 焙	A. 口縁部径(34.6)、器高22、底部径(33.8)。B. 粘土継積み上げ、内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石、赤色粒。E. 内-明赤褐色、外-赤褐色。F. 口縁部1/8。H. 覆土中。
2	埴 焙	A. 口縁部径(36.0)、残存高29。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面匏ナデ、内面ナデ。D. チャート、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部1/8。H. 覆土中。
3	埴 焙	A. 器高45。B. 粘土継積み上げ、内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面匏ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、雲母。E. 内外-いぶい黄褐色。F. 破片。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(13.2)、器高4.2、底径6.6。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
5	坏	B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、赤色粒。E. 内外-いぶい橙褐色。F. 破片。G. 外面に墨書「青□」あり。H. 覆土中。
6	須 恵 器 坏	A. 底部径12.0。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転匏ケズリ、内面回転ナデ。D. チャート、白色針状物質。E. 内-黄灰色、外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
7	須 恵 器 高台付埴	A. 残存高24。高台部径8.4。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 底部外面回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、チャート。E. 内外-灰黄色。F. 破片。H. 覆土中。
8	須 恵 器 甕	B. 粘土継積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)の後ナデ、内面当道具痕の後ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
9	須 恵 器 甕	A. 口縁部径18.8、残存高23.0。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面回転ナデの後下位半ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、赤色粒。E. 外-灰色、内-いぶい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
10	板状砥石	A. 残存長12.7、幅9.1、厚さ3.8、重さ634.3g。C. 4面とも研磨。D. 砂岩。F. 上部欠損。G. 砥面は平滑。左側面は鼓打痕が顕著。鼓石に転用カ。H. 覆土中。



第236図 第1(SE1)号井戸跡出土遺物

第2(SE2)号井戸跡(第237図、図版44)

B2地点の調査区北側の東寄りに位置し、重複する第97号住居跡を切っている。

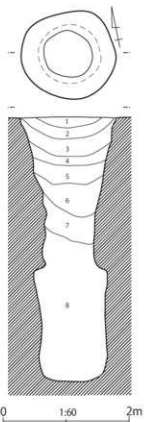
井戸掘り方の平面形は、やや歪んだ円形の形態を呈している。規模は、南北方向が1.40m、東西方向が1.50mある。断面は、円筒状の形態で、壁は垂直ぎみに傾斜して落ち込んでいる。下半の壁面は、オーバーハングしてやや広がっているが、これは湧水による壁面の崩落によるものであろう。確認面からの深さは、4.43mある。覆土は、下半は壁崩落土の黄褐色粘土ブロックが顕著に見られ、上半は自然堆積の状況を示している。井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

遺物は、覆土中から古代の土器の破片も多く出土しているが、本井戸跡の時期に近いと思われるものでは、ほぼ完形の板碑(No4)のほか、かわらけ(No1)や常滑窯系の甕の破片(No2・3)などが、少量出土している(第238図)。

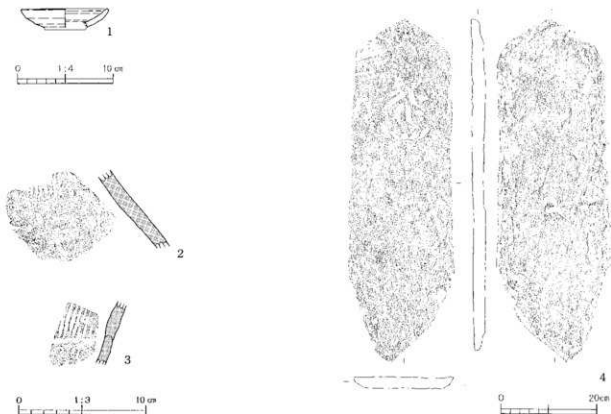
本井戸跡の時期は、これらの出土遺物の様相から、中世の所産と考えられる。

第2号井戸跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：黒褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：黒褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：灰黄褐色土層（黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第237図 第2(SE 2)号井戸跡



第238図 第2号井戸跡出土遺物

第2号井戸跡出土物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径(92)、残存高2.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	常滑蓋系 壺	B. 粘土継積み上げ後叩き。C. 内外面ナデ。D. 白色粒、淡褐色粒。E. 内外-淡灰褐色。F. 胴部上半破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。
3	常滑蓋系 壺	B. 粘土継積み上げ後叩き。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-茶褐色、内-淡茶褐色。F. 胴部下半破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。
4	板 碑	A. 長さ73.0、最大幅22.5、厚さ2.8、重さ7.2kg。B. 母岩から板状に剥離後、外形荒削り。側縁部裏面側からの剥離と敲打。C. 表面は荒い研削後、阿弥陀一尊種子と差座を彫刻。表面は部分的に横方向の整ヶズリ痕あり。D. 緑泥片質。F. ほぼ完形。G. 表面は鉄分の付着が顕著。H. 覆土中。

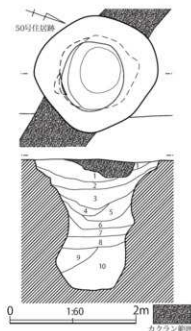
第7(SE7)号井戸跡(第239図、図版44)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置し、重複する第50号住居跡を切り、上面を掘溝溝に切られている。

井戸掘り方の平面形は、楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向が1.96m、北東～南西方向が1.85mある。断面は、いわゆる漏斗状の形態で、壁は上半が緩やかに傾斜して落ち込み、下半が円柱状に垂直ぎみに深くなっている。確認面からの深さは、2.06mある。井筒中位の北側壁面に、小規模なテラス状の段があるが、これは井戸掘削時の作業足場と考えられる。井筒下半の南側壁面は、オーバーハングしてやや広くなっているが、これは湧水による壁面の崩落によるものであろう。覆土は、下半は壁崩落土の黄褐色粘土ブロックが顕著に見られ、上半は自然堆積の状況を示している。井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

遺物は、覆土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである(第240図)。

本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期以降の所産と考えられる。



第239図 第7(SE7)号井戸跡



第240図 第7号井戸跡出土遺物

第7号井戸跡土層説明

- 第1層: 黒褐色土層(焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層: 暗褐色土層(ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層: 暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第5層: 暗褐色土層(ローム粒子を多量、炭化粒子・黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第6層: 暗褐色土層(黄褐色粘土ブロックを少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第7層: 褐色土層(黄褐色粘土ブロックを少量、ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第8層: 褐色土層(黄褐色粘土ブロックを多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第9層: 黄褐色土層(黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第10層: 黄褐色土層(礫を多量含む。粘性・しまりともない。)

第7号井戸跡出土物観察表

1	有段口縁 模 倣 環	A. 口縁部径(120)、器高4.7。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヶズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
---	---------------	--

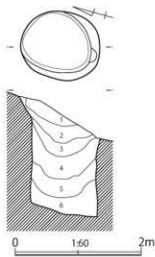
第8(SE8)号井戸跡(第241図、図版44)

B2地点の調査区南側の東端に位置し、重複する第9号溝跡(松本・大熊他2009の第1号溝跡)を切っている。

井戸掘り方の平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、現状で南北方向が1.27m、東西方向が1.08mある。断面は、いわゆる漏斗状の形態と推測され、壁は上半が緩やかに傾斜して落ち込み、下半が垂直ぎみに円柱状に深くなっている。現状での深さは1.90mあり、遺構確認面からの深さは2.30m位と推測される。覆土は、自然堆積の状況を示している。井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

出土遺物は、江戸時代中期(18世紀)を主体とする多数の近世陶磁器や土器と、漆塗椀・曲物・板状の木製品、棧瓦の破片、砥石や粉挽臼の破片などが出土している(第242・243図)。この他では、縦横が20cm~30cm、厚さ15cm程度の丸みを帯びた角閃石安山岩で、表面の一部に繋ケズリによる雑な平坦面をもつ大形の石が7個とその小破片が多数出土している。これらの角閃石安山岩は、中世以降に石材として流通したもので、本井戸上面の石組みに使われていたものかもしれないが、中には被然により部分的に赤色化したり、煤が付着したものも見られる。

本井戸跡の時期は、出土遺物の様相から、江戸時代中期(18世紀)以降の所産と考えられる。



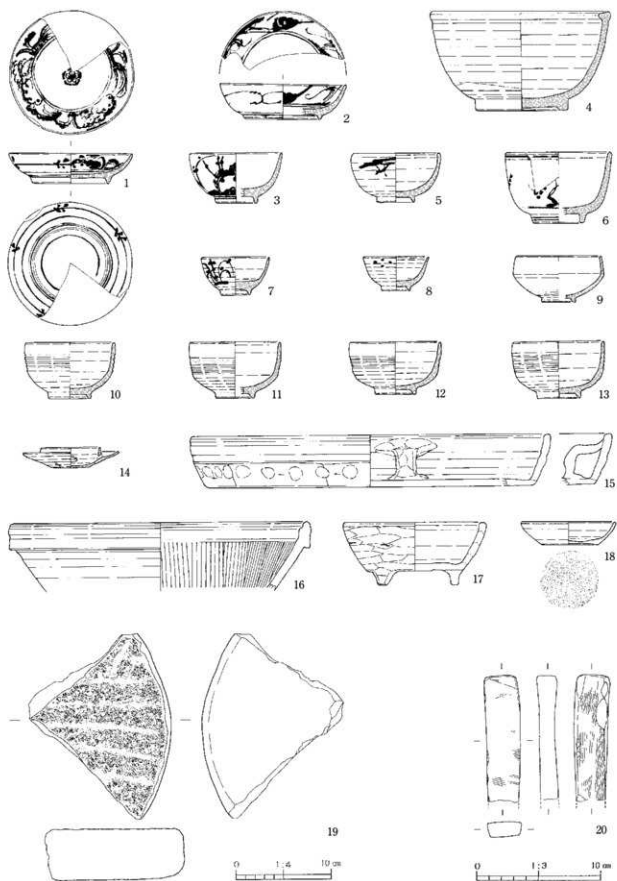
第241図 第8(SE8)号井戸跡

第8号井戸跡土層説明

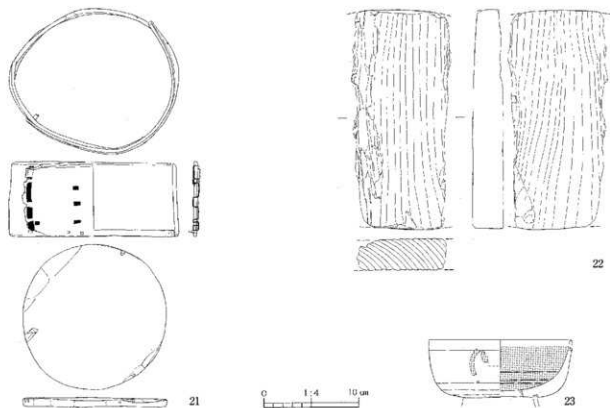
- 第1層：黒褐色土層 (ロームブロック・小礫を中量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第2層：黒褐色土層 (小礫を中量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第3層：黒褐色土層 (ロームブロック・小礫を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第4層：黒褐色土層 (小礫を少量含む。粘性・しまりともない。)
 第5層：暗灰色土層 (小礫を少量含む。粘性・しまりともない。)
 第6層：暗灰色土層 (砂粒を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第8号井戸跡出土遺物観察表

1	肥前系 肥前土	A. 口縁径130、器高32、高台径80。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。内外面に草花文を施した後、透明釉を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡灰白色。F. 3/4。G. 内面中央に五弁花文の高麗印判。H. 覆土中。
2	肥前系 肥前土	A. 口縁径113.4、器高37、高台径42。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に唐草文、内面に草花文を施した後、透明釉を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡白灰色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。
3	肥前系 肥前土	A. 口縁径98、器高53、高台径44。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に草花文を施した後、透明釉を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡白灰色。F. 1/2。G. くらわんか。H. 覆土中。
4	瀬戸美濃系 片口鉢	A. 口縁径194、器高106、高台径98。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデの後施釉。高台部回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-暗黄褐色。F. 1/3。G. 底部内面に漆道具痕あり。H. 覆土中。
5	瀬戸美濃系 碗	A. 口縁径96、器高52、高台径41。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。外面に鉄絵による草花文を施した後、灰釉を施す。高台部回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 1/2。H. 覆土中。
6	陶器碗	A. 口縁径114、器高75、高台径64。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。外面に草花文を施した後、全面施釉。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 1/2弱。G. 内外面回転ナデが見られる。H. 覆土中。
7	陶器碗	A. 口縁径72、器高40、高台径32。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。外面に草花文を施した後、全面施釉。D. 白色粒。E. 内外-淡緑灰色。F. 1/2強。H. 覆土中。
8	陶器碗	A. 口縁径70、器高36、高台径30。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。外面に施した後、全面施釉。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 1/2。H. 覆土中。
9	瀬戸美濃系 碗	A. 口縁径92、器高49、高台径36。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデの後施釉。高台部回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡黄白色。F. 1/3。H. 覆土中。
10	瀬戸美濃系 碗	A. 口縁径98、器高55、高台径44。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後、体部外面中に4条沈線。体部外面下半及び底部外面に鉄釉を施した後、体部外面上半と内面に灰釉を施す。D. 白色粒。E. 体部外面上半・内面-淡白色。体部外面下半・底部外面-暗茶褐色。F. 1/2弱。G. 内外面の灰釉部分に大きな貫入が見られる。H. 覆土中。



第242図 第8(SE8)号井戸跡出土遺物(1)



第243図 第8(SE8)号井戸跡出土遺物(2)

11	瀬戸美濃系碗	A. 口縁部径 9.8、器高 5.9、高台部径 4.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後、体部外面中位に5条沈線。体部外面下半及び底部外面に鉄軸を施軸後、体部外面上半と内面に灰軸を施軸。D. 白色粒。E. 体部外面上半・内面 - 淡灰色、体部外面下半・底部外面 - 黒茶褐色。F. 1/2。G. 内外面の灰軸部分に大きな貫入が見られる。H. 覆土中。
12	瀬戸美濃系碗	A. 口縁部径 9.6、器高 6.0、高台部径 4.6。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後、体部外面中位に5条沈線。体部外面下半及び底部外面に鉄軸を施軸後、体部外面上半と内面に灰軸を施軸。D. 白色粒。E. 体部外面上半・内面 - 淡白色、体部外面下半・底部外面 - 黒茶褐色。F. 1/2。G. 内外面の灰軸部分に大きな貫入が見られる。H. 覆土中。
13	瀬戸美濃系碗	A. 口縁部径 9.6、器高 5.9、高台部径 4.6。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後、体部外面中位に4条沈線を施す。体部外面下半及び底部外面に鉄軸を施軸後、体部外面上半と内面に灰軸を施軸。D. 白色粒。E. 体部外面上半・内面 - 淡灰色、体部外面下半・底部外面 - 暗茶褐色。F. 1/2強。G. 内外面の灰軸部分に大きな貫入が見られる。H. 覆土中。
14	瀬戸美濃系燈明受皿	A. 口縁部径 6.2、受部径 10.2、器高 2.1、底部径 3.9。B. ロクロ成形。C. 口縁部・体部内外面上半回転ナデ、体部外面下半・底部外面回転削ケズリ。内面施軸。D. 白色粒。E. 内外 - 暗茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
15	埴 埴	A. 口縁部径 3.82、器高 5.4、底部径 3.50。B. 底部円盤上での粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 体部内外面ヨコナデ。底部外面未調整(ささくれ状の細かなひび割れを残す)。D. 赤色粒、白色粒。E. 外 - 黒灰色、内 - 暗灰色。F. 口縁部 1.8。G. 外面彫付者顯著。H. 覆土中。
16	播 鉢	A. 口縁部径 32.0。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面回転ナデ、内面回転ナデの後8本歯の歯歯状工具による放射状の掻目を左回りに施す。D. 白色粒。E. 内外 - 明茶褐色。F. 口縁部 1/6 破片。H. 覆土中。
17	火 鉢	A. 口縁部径 15.2、器高 6.6、底部径 10.2。B. 粘土紐積み上げ。足貼り付け。C. 体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面未調整。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外 - 暗灰色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
18	かわらけ(燈明皿)	A. 口縁部径 10.0、器高 2.5、底部径 5.4。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外 - 淡褐色。F. 1/2弱。G. 口唇部に油煙あり。H. 覆土中。
19	粉 焼 臼	A. 直径 35.0、高さ 5.4、重さ 1.659g。B. 荒割りからケズリ。C. 表表面・側面とも雑な磨削。D. 花崗岩。F. 1/4。H. 覆土中。
20	柱状砥石	A. 残存長 10.2、幅 2.8、厚さ 1.7、重さ 72g。B. 荒割り。C. 表面は良く擦れて平滑。両側面と表面は整形時の工具痕跡(平行条線)を残す。D. 流紋岩。F. 2/3。G. 表面に鉄分の付着顯著。H. 覆土中。
21	曲 物	A. 口縁部・底部径 15.2、器高 7.8。B. 厚さ 0.7cmの円形の底板に、薄い銅板を二重に巻き付け、最初と最後の端の部分を樹皮で覆っている。底板と銅板は竹釘を9箇所打ち付けて留めている。D. 底板 - スギ、銅板 - サワラ。F. 完形。H. 覆土中。
22	板状木製品	A. 長さ 22.6、残存幅 10.1、厚さ 3.2。B. 上下端は切断面。C. 表表面ケズリ。D. スギ。F. 1/2?。H. 覆土中。
23	漆塗碗	A. 口縁部径 14.8、残存高 5.4、高台部径 7.8。B. ロクロ。C. 体部内外面ロクロによるケズリ出しの後、外面黒色漆・内面赤漆を塗布。E. 外 - 黒色、内 - 赤色。F. 1/2弱。G. 外面に赤色漆による文様あり。H. 覆土中。

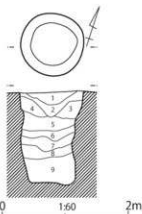
第9 (SE9)号井戸跡 (第244図、図版44)

B2地点の調査区北側の中央付近に位置し、重複する第50号住居跡を切っている。

井戸掘り方の平面形は、比較的整った円形の形態を呈している。規模は、南北方向が1.00m、東西方向が1.00mある。断面は、円筒状の形態で、壁は垂直ぎみに落ち込んでいる。確認面からの深さは、1.72mある。覆土は、自然堆積の状況を示している。井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

遺物は、覆土中から古代の土器の破片が多数出土しているが、本井戸跡の時期に近いものとしては、常滑窯系の甕の破片がいくつか見られる程度である(第245図)。

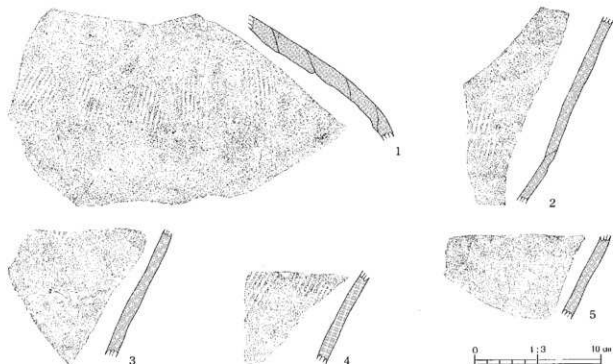
本井戸跡の時期は、出土した常滑窯系甕の特徴から、中世前期(14世紀以前頃)と考えられる。



第244図 第9 (SE9)号井戸跡

第9号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第5層：暗褐色土層 (ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第6層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第7層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第8層：暗褐色土層 (ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第9層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)



第245図 第9号井戸跡出土遺物

第9号井戸跡出土遺物観察表

1	常滑窯系 壺	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 外面ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡緑色、内-暗褐色。F. 胴部上半破片。G. 外面に淡緑色の自然釉がかかる。外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。
2	常滑窯系 壺	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 外面ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. 胴部下半破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。
3	常滑窯系 壺	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 外面ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. 胴部下半破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。
4	常滑窯系 壺	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 外面ナデ、内面寛ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. 胴部下半破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。
5	常滑窯系 壺	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 外面ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗灰色、内-暗褐色。F. 胴部下半破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土中。

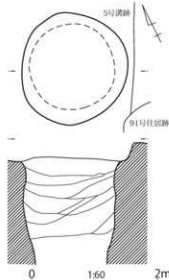
第12(SE1)号井戸跡 (第246図、図版44)

B3地点の調査区北東側に位置し、重複する後世の攪乱溝に上面を切られている。

井戸掘り方の平面形は、比較的整った円形を呈している。規模は、南北方向が1.72m、東西方向が1.76mある。断面は、円筒状の形態で、壁は垂直ぎみに落ち込んでいる。確認面からの深さは、1.60m以上ある。覆土は、自然堆積の状況を示している。井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

遺物は、覆土中から古墳時代を主体とする古代の土師器や須恵器の小破片と円筒埴輪の破片が出土しただけである。

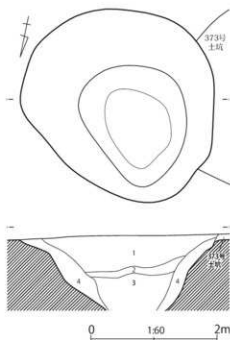
本井戸跡の時期は、中世以降の所産と思われる。



第246図 第12(SE1)号井戸跡

第14号井戸跡 (第247図、図版48)

F2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第373号土坑を切っている。井戸掘り方の平面形は、北西～南東方向に長い楕円形を呈している。規模は、北西～南東方向が3.23m、北東～南西方向が2.86mある。断面は、いわゆる漏斗状の形態を呈するものと思われ、壁は上半が緩やかに傾斜して落ち込み、未調査の下半は円柱状に垂直ぎみに深くなるものと思われる。確認面からの深さは、1.20m以上ある。覆土は、自然堆積の状況を示している。



第247図 第14号井戸跡

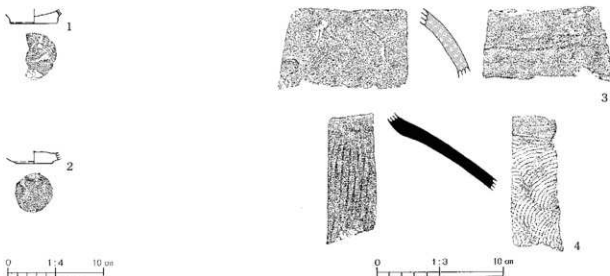
第14号井戸跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径0.5～2cmの礫を含み、浅間山系A軽石を含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（やや灰色がかっている。第1・3層と明確に区分できる。礫、遺物はほとんど含まれない。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：黒褐色土層（古墳時代以降の土器を多く含む。径10cm以上の片岩、径0.5～2cmの礫を含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径1～10cmのロームブロックを多く含む。礫、土器はほとんど含まない。粘性に富み、しまりを有する。）

井戸掘り方の内部には、石組みや木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

遺物は、覆土中から古代の土器の小片が多数と、縄文時代の打製石斧(第270図)と、中世のかわらけや常滑窯系甕の破片が少量出土しただけである(第248図)。

本井戸跡の時期は、覆土の状態から、近世以降の所産と考えられる。



第248図 第14号井戸跡出土遺物

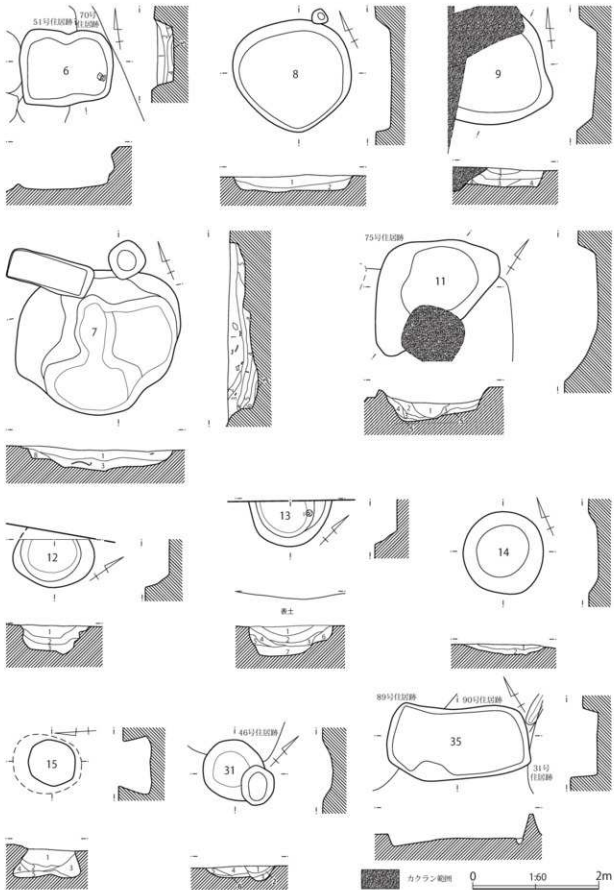
第14号井戸跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 底部径5.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 絹雲母、白色針状物質。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 底部1/2破片。H. 覆土上層。
2	かわらけ	A. 底部径4.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 絹雲母、白色針状物質、赤色粒。E. 内外-灰褐色。F. 底部のみ。H. 覆土上層。
3	常滑窯系甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい茶褐色、内-灰黄褐色。F. 胴部破片。G. 外面に平行線文様の押印文を施す。H. 覆土上層。
4	須忠器 甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-灰色、内-黒褐色。F. 胴部破片。H. 覆土上層。

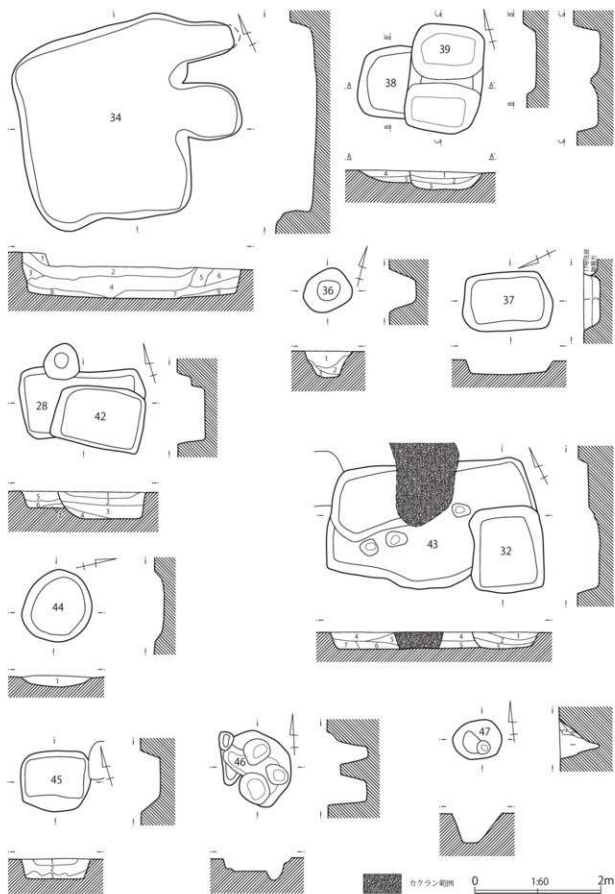
3. 土 坑

番号	平面形	規模(cm)	深さ	出土遺物	時期	備考
6	隅丸長方形	148×122	66	なし。	平安前	51住に切られ、70住を切る。
7	不整円形	278×236	48	土師器片多量。	古墳後期	IIHSK6 48住に切られる。
8	不整円形	186×178	24	土師器片少量。	不明	IIHSK14
9	不明	(178×155)	30	なし。	*	IIHSK15
10						B 1 地点報告済み
11	不整形	237×156	54	なし。	不明	IIHSK31 75住を切る。
12	楕円形	130×(90)	45	なし。	*	IIHSK34
13	円形?	132×(74)	46	土師器片少量。	平安?	IIHSK35 平安
14	円形	126×130	15	土師器片少量。	不明	IIHSK36
15	円形	74×72	50	土師器・須忠器片、かわらけ、焙烙、火鉢、香炉、瓦、砥石	近世	IIHSK37 57住を切る。
16						B 1 地点報告済み
17						B 1 地点報告済み
18						B 1 地点報告済み
19						B 1 地点報告済み
20						B 1 地点報告済み

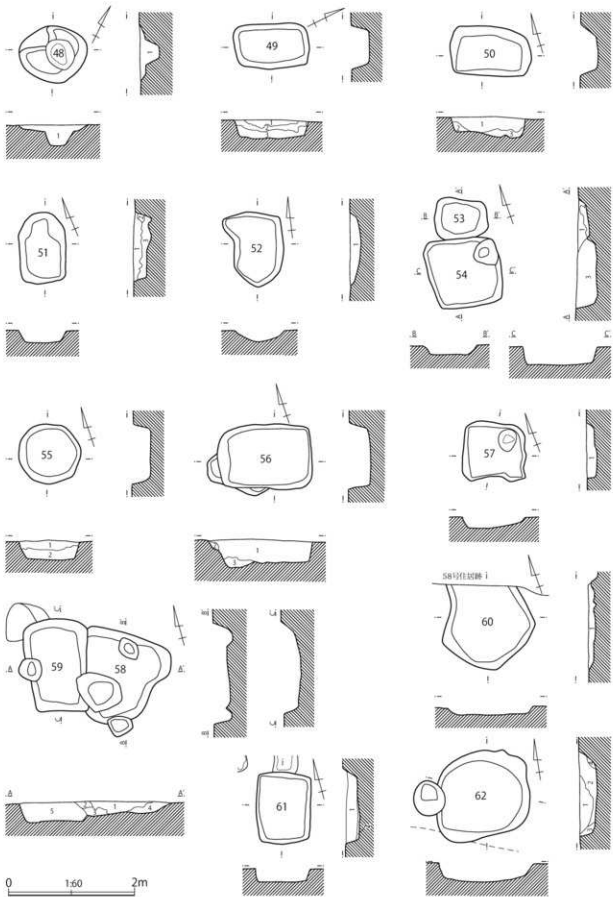
21						B1地点報告済み
22						B1地点報告済み
23						B1地点報告済み
24						B1地点報告済み
25						B1地点報告済み
26						B1地点報告済み
27						B1地点報告済み
28	隅丸長方形	200×114	26	なし。	不明	42土坑に切られる。
29						B1地点報告済み
30						B1地点報告済み
31	楕円形	64×93	16	なし。	不明	旧SK38 46住を切る。
32	隅丸長方形	137×116	26	なし。	*	43土坑を切る。
33						B1地点報告済み
34	隅丸不整形	350×320	66	土師器片少量。	近世後半以降	旧SK39 86・89住を切る。
35	隅丸長方形	228×118	42	なし。	不明	旧SK42 89・90住を切る。
36	楕円形	75×62	42	なし。	*	
37	隅丸長方形	144×92	24	なし。	*	75住を切る。
38	不明	114×(80)	19	なし。	*	
39	隅丸長方形	172×116	42	なし。	*	
40						B1地点報告済み
41						B1地点報告済み
42	隅丸長方形	142×100	42	なし。	近世後半	28土坑を切る。
43	隅丸長方形	335×196	27	なし。	不明	32土坑に切られる。
44	円形	116×106	18	なし。	*	
45	隅丸長方形	110×96	31	なし。	*	
46	不整形	123×101	20	土師器片少量。	古墳後期	
47	楕円形	78×61	66	なし。	不明	
48	楕円形	108×90	33	なし。	*	
49	隅丸長方形	120×70	30	なし。	*	
50	隅丸長方形	124×80	32	なし。	*	
51	隅丸長方形	113×73	27	なし。	*	
52	不整形	120×96	18	なし。	*	
53	隅丸長方形	84×67	14	なし。	近世後半以降	54土坑を切る。
54	隅丸方形	118×110	30	なし。	不明	53土坑に切られる。
55	円形	100×95	30	なし。	*	
56	隅丸長方形	150×104	38	なし。	*	
57	隅丸方形	100×95	16	なし。	*	
58	不整形	148×(146)	22	なし。	*	59土坑を切る。
59	隅丸長方形	146×102	30	なし。	*	58土坑に切られる。
60	不整形	148×(156)	12	なし。	*	
61	長方形	114×86	22	なし。	*	
62	楕円形	150×134	28	なし。	*	
63	隅丸長方形	137×85	10	土師器片少量。	*	旧SK1 古墳後遺物
64	隅丸長方形	130×75	10	なし。	*	旧SK2
65	長方形	82×60	31	土師器片少量。	*	旧SK3 古墳中遺物
66	不整形	67×43	12	土師器・須恵器片少量。	*	旧SK4 古代
67	長方形	135×67	56	土師器片少量。	*	旧SK5
68	不整形	135×80	41	土師器片少量。	*	旧SK6 古墳中・白鳳遺物
69	長方形	107×70	64	土師器・近世磁器片少量。	近世以降	旧SK7
70	長方形	172×54	18	なし。	不明	旧SK8
71	楕円形	153×117	20	なし。	*	旧SK9
373	不整形円形	307×(204)	10	土師器片少量。	中世以前	14井戸に切られる。
374	隅丸長方形	106×(140)	13	土師器・須恵器片少量。	中世以前	



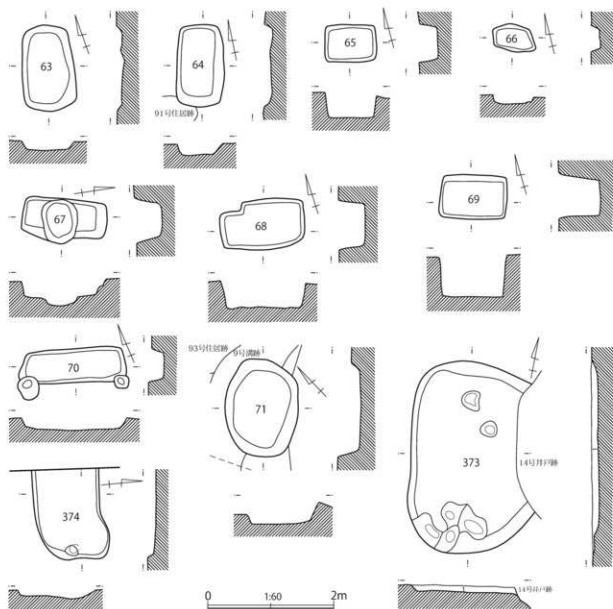
第249図 土 坑 (1)



第250図 土 坑 (2)



第251圖 土 坑 (3)



第252図 土 坑 (4)

第6号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子・炭化粒子を少量、焼土粒子・黄褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第5層：褐色土層 (ロームブロック・黄褐色粘土ブロックを多量、焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第7号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
- 第3層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第4層：暗褐色土層 (ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第5層：黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第7層：黄褐色土層 (ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層：黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第37号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第38・39号土坑土層説明**<第39号土坑>**

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第38号土坑>

- 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第28・42号土坑土層説明**<第42号土坑>**

- 第1層：褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第28号土坑>

- 第5層：褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第32・43号土坑土層説明**<第32号土坑>**

- 第1層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

<第43号土坑>

- 第4層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第44号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第45号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第47号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第48号土坑土層説明

- 第1層：黄褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第49号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。）
 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を含む。）

第50号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：褐色土層（ロームブロックを含む。）
 第3層：褐色土層（ロームブロックを多量含む。）

第51号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
 第2層：黄褐色土層（ロームブロックを含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）

第52号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第53・54号土坑土層説明

<第53号土坑>

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。）

<第54号土坑>

第3層：暗褐色土層（白色粒子を含む。）

第55号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）

第2層：黄褐色土層（ローム粒子を少量含む。）

第56号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。）

第2層：黄褐色土層（ローム粒子を含む。）

第3層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。）

第57号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。）

第58・59号土坑土層説明

<第58号土坑>

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。）

第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを中量含む。）

<第59号土坑>

第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。）

第60号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第61号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第2層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第62号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）

第3層：褐色土層（ロームブロックを微量含む。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第374号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック、径0.1cm以下のローム粒子を含む。粘性、しまりともない。）

第13号土坑出土遺物観察表

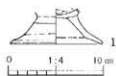
1	小形台付甕	A. 台端部径98。B. 粘土継積み上げ。C. 底部外面ナデ、内面寛ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外～淡茶褐色。F. 台部のみ。H. 覆土中。
---	-------	--

第46号土坑出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外～淡橙褐色。F. 口縁部1/8破片。H. 覆土中。
---	-------	--

第7号土坑出土遺物観察表

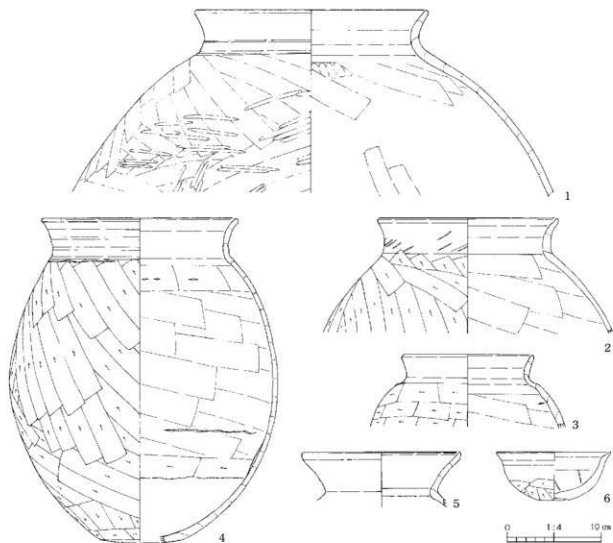
1	胴 張 甕	A. 口縁部径248。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外～暗橙褐色、内～淡茶褐色。F. 胴部上半1/2。H. 覆土中。
2	胴 張 甕	A. 口縁部径192。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外～暗橙褐色。F. 上半のみ。H. 覆土中。
3	鉢	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外～茶褐色、内～暗褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
4	胴 張 甕	A. 口縁部径20.8。器高34.3。底部径(8.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外～暗茶褐色、内～淡灰褐色。F. 1/2。G. 外面に煤付着。H. 覆土中。
5	単 純 口 縁 壺	A. 口縁部径(16.8)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外～暗茶褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(12.2)。器高5.1。底部径3.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外～暗橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。



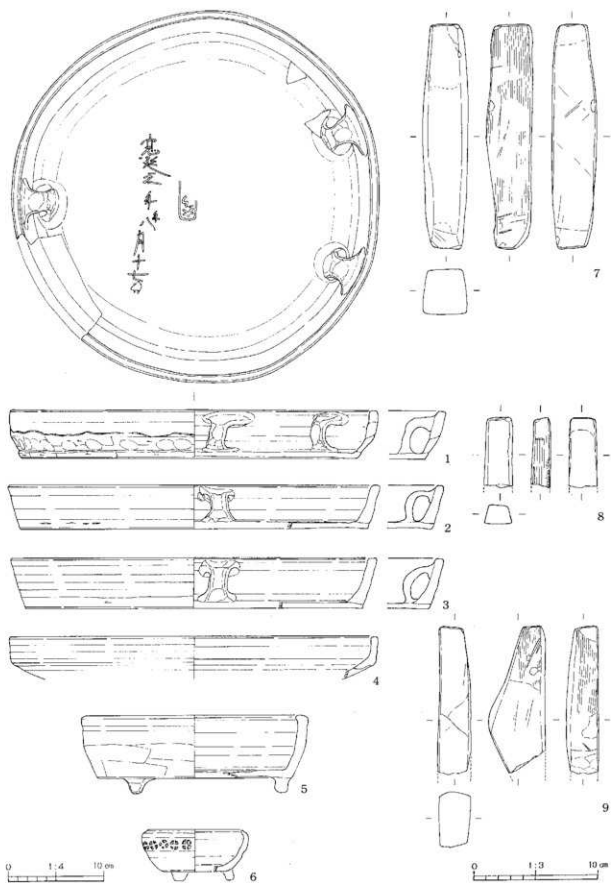
第253図 第13号土坑出土遺物



第254図 第46号土坑出土遺物



第255図 第7号土坑出土遺物



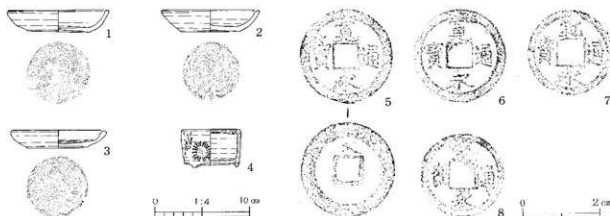
第256图 第15号土坑出土遺物

第15号土坑出土土物観察表

1	焙	焙	A. 口縁部径38.8、器高5.1、底部径35.6。B. 底部円盤上での粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面雑なケズリ。底部外面未調整(ささくれ状の細かなひび割れを残す)。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡橙褐色。F. ほほ完形。G. 外面塚付存。内面に「寛延三年(1750年)年八月十七(日)」の刻書(焼成後)あり。内面中央に刻印。H. 覆土中。
2	焙	焙	A. 口縁部径(39.4)、器高4.6、底部径(36.8)。B. 底部円盤上での粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/5。H. 覆土中。
3	焙	焙	A. 口縁部径(38.8)、器高5.3、底部径(35.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面下端ケズリ。底部外面未調整(ささくれ状の細かなひび割れを残す)。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/8。H. 覆土中。
4	焙	焙	A. 口縁部径(39.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡茶褐色。F. 口縁部1/6。H. 覆土中。
5	火	鉢	A. 口縁部径(24.0)、器高8.2、底部径(20.6)。B. 底部円盤上での粘土紐積み上げ。足貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面下平ケズリの後ナデ。底部外面未調整(ささくれ状の細かなひび割れを残す)。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
6	香	炉	A. 口縁部径(10.0)、残存高4.4、底部径(7.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡灰褐色、内-淡褐色。F. 1/4。G. 足は剥離している。H. 覆土中。
7	柱状	砥石	A. 長さ18.0、幅3.6、厚さ3.6、重さ415g。B. 荒削り。C. 表裏面は良く磨れて平滑。両側面は整形時の歯面の繋痕を残す。D. 流紋岩。F. 完形。H. 覆土中。
8	柱状	砥石	A. 残存長さ5.6、幅2.3、厚さ1.5、重さ34g。B. 荒削り。C. 表裏面は良く磨れて平滑。片方の側面に整形時の歯面の繋痕を残す。D. 流紋岩。F. 1/3。H. 覆土中。
9	柱状	砥石	A. 残存長さ11.8、幅2.6、厚さ4.5、重さ193g。B. ケズリにより板状に整形。C. 表面は良く磨れて平滑。両側面と裏面は整形時の工具痕(平行条痕)を残す。D. 流紋岩。F. 2/3。G. 表面は鉄分の付着顕著。H. 覆土中。

近世土坑墓(第113図、図版47)

B2地点の調査区北西側に位置し、重複する第28号住居跡と第29号住居跡を切っている。調査時には掘乱として扱われたため、遺構の詳細は不明であるが、覆土中から燈明皿として使用されていた完形のかわらけ3個体と、瀬戸美濃系の筒型香炉、及び六道銭の可能性が高い寛永通宝4枚が重なって出土していることから、土坑墓と考えられるものである。平面形が直径70cm×80cmの円形を呈することから、座(桶)棺を埋設した土坑墓と推測される。時期は、遺物の様相や出土した寛永通宝の銭種が寛文8年(1668年)初鑄の文銭1枚とそれ以後の新寛永3枚の構成であることから、江戸時代前半(17世紀後半～18世紀前半頃)と考えられる。



第257図 近世土坑墓出土遺物

近世土坑墓出土土物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径10.8、器高2.3、底部径6.7。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. ほほ完形。H. 覆土中。
2	かわらけ (燈明皿)	A. 口縁部径10.4、器高2.3、底部径6.5。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 完形。G. 口唇部の一部に油煙付着。H. 覆土中。

3	かわらけ (燈明皿)	A. 口縁部径102, 器高19, 底部径64. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り. D. 赤色粒, 白色粒. E. 内外-淡褐色. F. 完形. G. 口唇部の一部に油煙付着. 内外面に煤付着. H. 覆土中.
4	瀬戸美濃系 筒形香炉	A. 口縁部径63, 器高40, 底部径58. B. ロクロ成形. 足(3足)貼り付け. C. 体部内外面回転ナデの後, 外面と口唇部に灰軸を施す. 底部外面回転ナデ. D. 白色粒. E. 内外-乳白色. F. 完形. G. 体部外面に押印による菊花風の草花文を施文. H. 覆土中.
5	古 銭	A. 直径25. B. 鋳造. D. 銅製. F. 完形. G. 寛永通宝(文銭). 裏に「文」の字あり. 寛文8年(1668年)初鋳. H. 覆土中から4枚重なって出土.
6	古 銭	A. 直径25. B. 鋳造. D. 銅製. F. 完形. G. 寛永通宝(新寛永). 裏は無文. H. 覆土中から4枚重なって出土.
7	古 銭	A. 直径23. B. 鋳造. D. 銅製. F. 完形. G. 寛永通宝(新寛永). 裏は無文. H. 覆土中から4枚重なって出土.
8	古 銭	A. 直径22. B. 鋳造. D. 銅製. F. 完形. G. 寛永通宝(新寛永). 裏は無文. H. 覆土中から4枚重なって出土.

4. 溝 跡

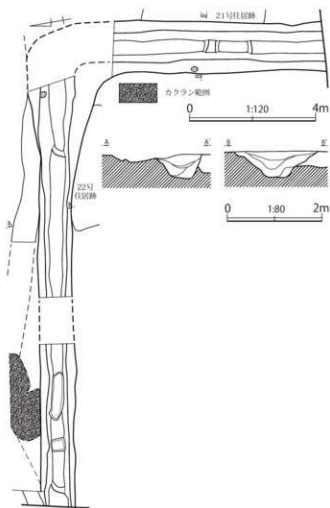
第4 (SD1)号溝跡 (第258図)

A2地点の調査区西側から中央部にかけて位置し、重複する第21号住居跡と第22号住居跡を切っている。

調査区内では、東西方向に向けて直線的な流路をとり、中央部で南側に向かって直角に曲がっている。その延長部分は、南側隣接地のB地点にも見られるが、B1地点(松本・大熊他2009)とF1地点(恋河内・的野2012)の境界にあたる現地表面の地境に一致していることから、攪乱として扱われたため、調査はされていない。

形態は、溝の上幅が110cm～165cm、下幅が45cm前後の比較的均一な幅である。断面は、壁が直線的ではあるが、かなり緩やかに傾斜し、底面が平坦でやや狭い箱堀と葉研堀の中間的な形態の逆台形を呈している。確認面からの深さは55cmある。調査区内での溝底面の比高差は、南→北→西に向かって徐々に低くなっている。

遺物は、覆土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである。



第258図 第4 (SD1)号溝跡

第5 (SD5)号溝跡 (第93・94図)

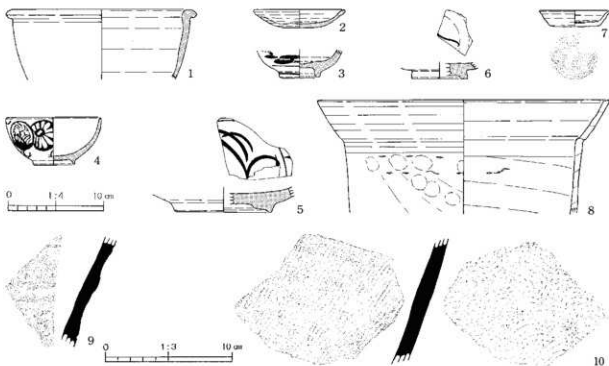
B2地点の調査区西側からB3地点の調査区西端にかけて位置し、重複する第26号住居跡・第38号住居跡・第54号住居跡・第79号住居跡・第81号住居跡・第92号住居跡・第1号井戸跡を切っている。

調査区内では、南北方向に向けて地形の等高線に直交した直線的な流路をとっているが、調査区北側ではやや蛇行している。形態は、溝の上幅が90cm～140cm、下幅が20cm前後の比較的均一な幅である。断面は、壁の上半が緩やかに傾斜し、下半が直線的に傾斜して深くなる逆台形を呈している。確

認めからの深さは最高で60cmある。調査区内での溝底面の比高差は、南から北に向かって徐々に低くなっている。

遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片のほか、中世前期の龍泉窯系青磁碗、後期の内耳鍋やかわらけの破片と、江戸時代中期(18世紀)の陶磁器の破片が少量出土している(第259図)。

本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物から、近世後半以降と考えられる。調査時には攪乱として扱われ調査されていないため明確ではないが、本溝跡の東側2.5mに同様の溝が一定の間隔を保って並走しており、両溝跡の間を道とした道路側溝的性格の溝と推測される。



第259図 第5号溝跡出土遺物

第5号溝跡出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系鉢	A. 口縁部径 ϕ 20.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデの後、灰軸を施軸。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外-淡黄白色。F. 口縁部1/4。G. 外面は部分的に緑色軸による彩文あり。内外面とも細かな貫入が見られる。H. 覆土中。
2	瀬戸美濃系燈明皿	A. 口縁部径9.8。器高1.9。底部径3.4。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、鉄軸を施す。底部外面回転軸ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2強。G. 内面に重ね焼き痕あり。H. 覆土中。
3	陶器碗	A. 底部径4.4。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデの後、施軸。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 体部下半のみ。G. 体部外面に青灰色の絵文様あり。内外面とも細かな貫入が見られる。H. 覆土中。
4	肥前系染付碗	A. 口縁部径 ϕ 10.0。器高5.0。底部径(4.4)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデの後施軸。D. 白色粒。E. 内外-淡白色。F. 1/4。G. 体部外面に青灰色の文様を施す。H. 覆土中。
5	青磁鉢	A. 高台部径 ϕ 10.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後施軸。D. 白色粒。E. 内外-淡青色。F. 高台部1/4。G. 底部内面に草花文風の文様を施す。H. 覆土中。
6	龍泉窯系青磁碗	A. 高台部径 ϕ 6.0。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後施軸。D. 白色粒。E. 内外-淡緑色。F. 高台部1/4。G. 内面に草花文風の文様を施す。H. 覆土中。
7	かわらけ	A. 口縁部径7.4。器高1.7。底部径5.2。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転軸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-橙褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
8	内耳鍋	A. 口縁部径 ϕ 11.0。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面ナデ、内面笥ナデ。D. 白色粒。E. 外-黒色、内-暗灰色。F. 口縁部1/4。G. 外面煤付着跡著。口唇部磨滅。H. 覆土中。
9	須恵器	B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、外面に柳掛流状文を施す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 頸部破片。H. 覆土中。
10	須恵器	B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面に当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。

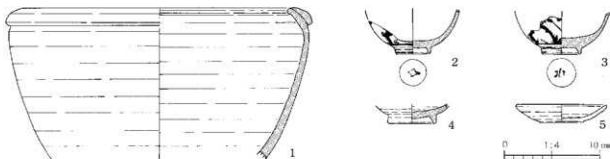
第6 (SD6)号溝跡 (第93・94図)

B2地点の調査区中央部に位置し、重複する第24号住居跡・第26号住居跡・第30号住居跡・第35号住居跡・第36号住居跡・第77号住居跡・第85号住居跡・第87号住居跡・第89号住居跡を切っている。第8号溝跡とも重複しているが、新旧関係は明確にできなかった。

調査区内では、一辺23mほどのL字状の流路をとり、溝跡の東端は第7号溝跡と重複して途切れているが、北端は第7b号溝跡の2m手前で途切れている。形態は、溝の上幅が60cm前後、下幅が35cm前後の比較的均一な幅である。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がる逆台形を呈している。確認面からの深さは30cmある。

遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片のほか、肥前系磁器の染付碗や瀬戸美濃系陶器の鉢や碗を主体とする江戸時代中期(18世紀)の陶磁器などの破片が少量出土している(第260図)。

本溝跡は、その形態や溝の両端が途切れていることから、土地を区画する区画溝と考えられるが、西側の第5号溝跡や東側の第7号溝跡と直交及び平行する流路をとっており、土地利用の計画性の高い区画溝と言える。



第260図 第6号溝跡出土遺物

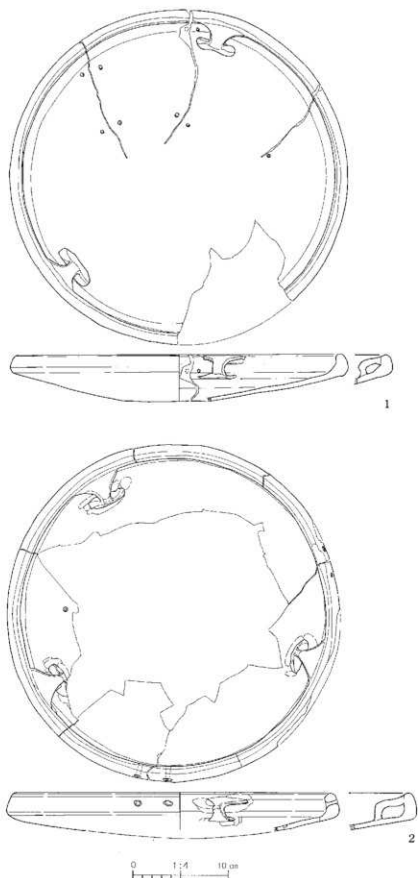
第6号溝跡出土遺物観察表

1	陶大鉢	A. 口縁部径(32.4)。B. 粘土経積み上げ後ロクロ整形。C. 内外面回転ナデの後、輪軸。D. 褐色粒、淡黄色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	肥前系染付碗	A. 高台部径3.8。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデの後、体部外面に草花文、黒色釉を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡白灰色。F. 1/2。G. 高台内に銘あり。高台部砂付着。「くらわんか」。H. 覆土中。
3	肥前系染付碗	A. 高台部径4.2。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデの後、体部外面に草花文、黒色釉を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡白色。F. 体部下半のみ。G. 高台内に銘あり。「くらわんか」。H. 覆土中。
4	瀬戸美濃系鉄輪軸	A. 高台部径5.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデの後、鉄輪を施す。D. 白色粒、淡黄白色粒。E. 外-茶褐色、内-黒茶褐色。F. 体部下半のみ。H. 覆土中。
5	かわらけ	A. 口縁部径(9.6)。器高1.9。底部径4.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転ネ切り。D. 赤色粒、淡乳白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

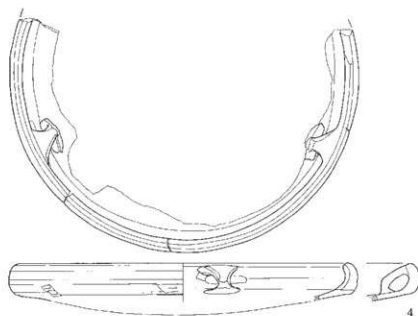
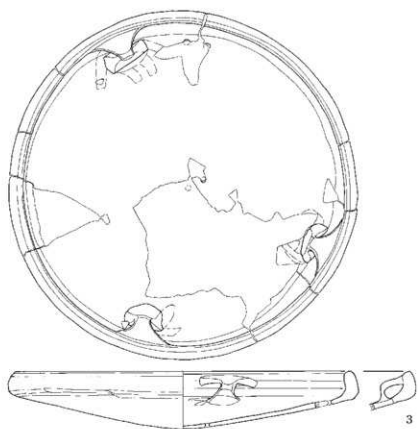
第7 (SD7)号溝跡 (第93・94図)

B2地点の調査区東側から北側にかけて位置し、重複する第23号住居跡・第52号住居跡・第64号住居跡・第96号住居跡を切っている。調査区内では、南北方向に直線的な流路をとっているが(第7a号溝跡)、溝北端部で重複するほぼ直角に西に向かって直線的に延びる攪乱とされた溝跡も関連する溝の可能性があるため、その攪乱溝の部分を第7b号溝跡とした。

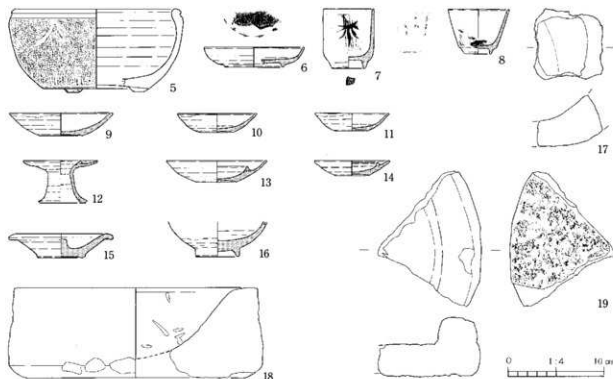
形態は、攪乱とされた調査区北側の東西方向に流路をとる部分については調査されていないため不明であるが、南北方向に向く部分については、溝の上幅が62cm～90cm、下幅が35cm前後の比較的均一



第261図 第7b号清跡出土遺物(1)



第262図 第7b号溝跡出土遺物(2)



第263図 第7b号溝跡出土遺物(3)

な幅である。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がる逆台形を呈している。確認面からの深さは最高で34cmある。

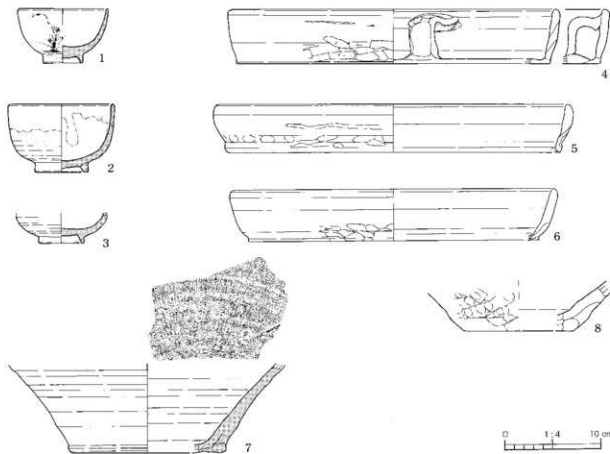
遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片のほか、近世の焙烙や陶磁器の破片及び石臼等の石製品の破片が出土している(第261～263図)。

本溝跡は、南北方向に流路をとる部分は調査区西側の第5号溝跡と形態が類似し、その流路の方向もほぼ一致して並走していることから、両溝跡は同時期に存在し、計画的な土地区画において有機的な関係をもつ溝群と思われる。

第7b号溝跡出土遺物観察表

1	埴	焙	A. 口縁部径348、器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外-明赤褐色、内-橙褐色。F. ほぼ完成。G. 内耳は推定3箇所。2孔一对の補修孔5箇所あり。外面煤付着。H. 覆土中。
2	埴	焙	A. 口縁部径338、残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石。E. 外-橙褐色、内-内黄褐色。F. 2/3。G. 内耳は3箇所。口縁部に2孔一对の補修孔2箇所あり。底部に未貫通補修孔1箇所あり。H. 覆土中。
3	埴	焙	A. 口縁部径362、器高6.2。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石。E. 外-橙褐色、内-明赤褐色。F. 4/5。G. 底部に2孔一对の補修孔2箇所あり。H. 覆土中。
4	埴	焙	A. 口縁部径35.6、残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部外面ヨコナデの後部部分的なケズリ。口縁部内面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、赤色粒。E. 内外-橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
5	火	鉢	A. 口縁部径(17.2)、器高8.7、底部径(11.0)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。足貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。外面短糸目型押。D. 片岩粒、赤色粒。E. 内外-内黄褐色。F. 2/3。G. 足は3足。H. 覆土中。
6	肥	前系 染付 皿	A. 口縁部径(10.6)、器高2.1、高台部径(6.2)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰白色。F. 1/3。G. 内外面透明釉。見込人物文か。H. 覆土中。
7	肥	前系 染付 碗	A. 口縁部径(6.4)、器高6.3、高台部径3.5。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 片岩粒。E. 内外-灰白色。F. 2/3。G. 内外面透明釉。外面草花文。底部外面に角弁「福」。H. 覆土中。

8	肥前系 染付小坏	A.口縁部径65、器高47、高台部径28。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外-灰白色。F.4/5。G.内外面透明釉。外面草花纹。外面淡青。高台銘。H.覆土中。
9	信楽系 灯明皿	A.口縁部径108、器高24、底部径44。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリ。D.黒色粒。E.内外-灰白色。F.ほぼ完形。G.内面灰釉。内面に窯道具痕。外面油煙付着。H.覆土中。
10	信楽系 灯明皿	A.口縁部径84、器高20、底部径33。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部回転匱ケズリ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-灰黄色。F.ほぼ完形。G.灰釉。内面に窯道具痕。外面油煙付着。H.覆土中。
11	信楽系 灯明皿	A.口縁部径78、器高19、底部径33。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリ。D.片岩粒。E.内外-灰白色。F.ほぼ完形。G.内面灰釉。内面に窯道具痕。外面油煙付着。H.覆土中。
12	信楽系 台灯明受皿	A.口縁部径(78)、器高45、底部径(54)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリ。D.白色粒、片岩粒。E.内外-灰ナリ-ブ色。F.2/3。G.内面灰釉。H.覆土中。
13	信楽系 灯明受皿	A.口縁部径(106)、器高23、底部径42。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリ。D.片岩粒。E.外-灰白色、内-淡黄色。F.4/5。G.内面灰釉。H.覆土中。
14	信楽系 灯明受皿	A.口縁部径80、器高16、底部径34。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリ。D.白色粒。E.内外-灰白色。F.完形。G.内面灰釉。外面油煙付着。H.覆土中。
15	瀬戸美濃系 蓋	A.口縁部径(110)、器高25、底部径(48)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部回転糸切り。D.白色粒。E.内外-にぶい赤褐色。F.1/2。G.鉄軸。H.覆土中。
16	瀬戸美濃系 碗	A.残存高37、高台部径46。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転匱ケズリ。高台貼付。D.白色粒。E.外-淡黄色、内-にぶい黄褐色。F.体部下半のみ。G.内外面鉄軸。H.覆土中。
17	石皿	A.残存長55、最大幅54、最大厚40。重さ1034g。C.表裏面とも研磨。D.安山岩。F.破片。H.覆土中。
18	石鉢	A.口縁部径(258)、器高(95)、底部径(230)。C.口縁上面から内面は平滑に磨き仕上げ。D.安山岩。F.破片。H.覆土中。
19	粉挽白 (上白)	A.残存長109、厚さ63、重さ7745g。C.雑な研磨。D.安山岩。G.振り合わせ面周縁はわずかに磨減。掘目は不明瞭。F.1/6。H.覆土中。



第264図 第8号溝跡出土遺物

第8 (SD8)号溝跡 (第265図)

B2地点の調査区中央部に位置し、東端はB1地点にかかる。重複する第45号住居跡・第52号住居跡・第61号住居跡・第71号住居跡・第101号住居跡・第102号住居跡・第6号溝跡と重複している。調査区内では、東西方向に直線的な流路をとっているが、東側はやや南に向かって緩やかに湾曲している。溝の東西両端は、明確に途切れている。

形態は、溝の上幅が西側で150cm、東側で180cm、下幅が西側で30cm、東側で50cmある。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がる逆台形を呈している。確認面からの深さは最高で50cmある。溝底面は、東に向かって緩やかに低くなっており、東西両側の比高差は20cm程度である。

遺物は、覆土中から古代の土師器と須恵器の甕の破片、中世の内耳鍋の破片、近世の焙烙・陶器・瓦などの破片が、少量ながら出土している(第264図)。

本溝跡の時期は、B1地点の報告(松本・大熊他2009)では、古墳時代の遺構とされたが、出土遺物の様相や覆土上半に浅間山系A軽石を含むことから、近世後半頃の所産と考えられる。

本溝跡は、B地点の調査区全体から見ると、溝跡の西端は、第5号溝跡かそれと並走する攪乱溝による区画に規制されて途切れており、東端は南側に向かって緩やかに湾曲していることから、その南側のB1地点第3号溝跡の区画と関係する可能性も考えられる。

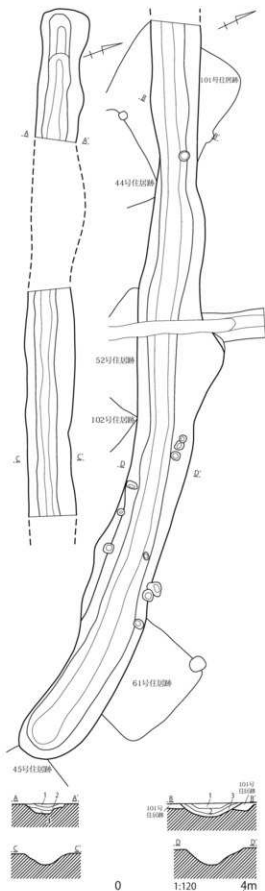
第8号溝跡土層説明

<A-A'>

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：褐灰色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：褐灰色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<B-B'>

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を少量、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



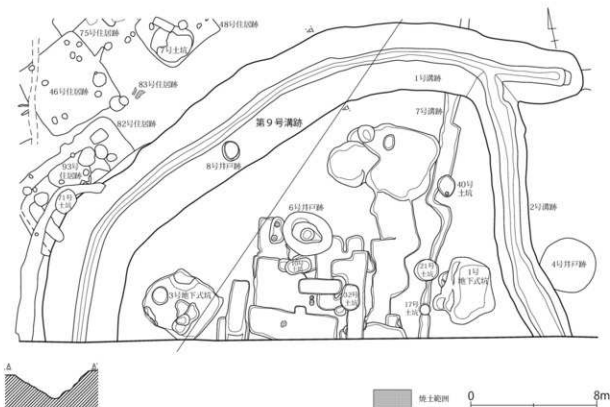
第265図 第8号溝跡

第8号溝跡出土遺物観察表

1	肥前系 附碗	A. 口縁部径96、器高57、高台部径42。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に草花文を施した後施釉。高台部外面に圈線2条、内面に1条。D. 白色粒。E. 内外-灰白色。F. 1/2。H. 覆土中。
2	瀬戸美濃系 碗	A. 口縁部径112、器高72、高台部径56。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-黄褐色、内-浅黄色。F. 1/3。G. 内外面施釉。H. 覆土中。
3	瀬戸美濃系 碗	A. 残存高32、高台部径48。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-褐色、内-浅黄色。F. 1/3。G. 内外面施釉。H. 覆土中。
4	埴 焙	A. 口縁部径(35.2)、器高58、底部径(33.3)。B. 粘土継積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部外面ヨコナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-黒褐色、内-灰黄褐色。F. 口縁部-底部破片。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
5	埴 焙	A. 口縁部径(37.8)、器高51、底部径(35.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-黒褐色、内-灰色。F. 口縁部破片。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
6	埴 焙	A. 口縁部径(34.8)、器高54、底部径(31.0)。B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石。E. 外-灰黄褐色、内-にぶい黄色。F. 口縁部破片。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
7	丹波系 揉鉢	A. 残存高94、底部径(16.6)。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転筒ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 体部下位-底部破片。G. 内外面自然釉。掻目は8本面。内面磨減顕著。H. 覆土中。
8	片口鉢	A. 残存高53、底部径(11.4)。B. 粘土継積み上げ。C. 体部外面ナデ、内面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、片岩粒。E. 外-灰黄色、内-暗灰黄色。F. 底部破片。H. 覆土中。

第9 (SD1)号溝跡 (第266図、図版47)

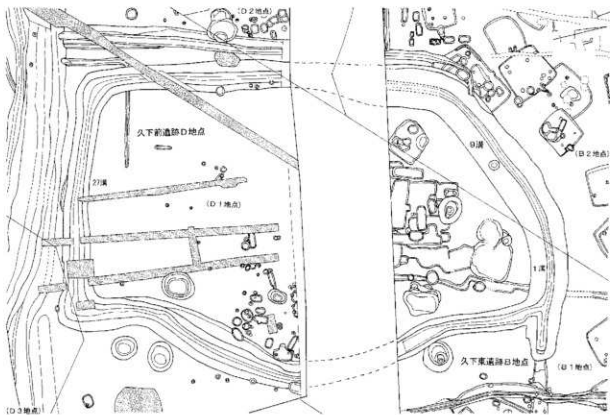
B2地点の調査区南側に位置し、重複する第82号住居跡と第93号住居跡を切り、第8号井戸跡と第7号溝跡に切られている。東側隣接地のB1地点の報告(松本・大熊他2009)では、第1号溝跡とされたものであるが、道路を挟んで南側に近接する久下前遺跡D1地点(恋河内2012)の調査によって、同地点の第27号溝跡と同一の土地を囲繞する区画溝であることが判明している(第267図)。



第266図 第9号溝跡

溝跡の規模は、溝の上幅が5m前後、下幅が40cm前後ある。断面の形態は、壁が直線的に緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が狭い逆台形の菜研堀を呈している。確認面からの深さは、最高で1.73mある。溝底面の比高差は、B1地点とB3地点の東西両端ではあまり差異は見られない。

遺物は、B2地点の調査区内では古代の土師器や須恵器の破片、中世の内耳鍋や播鉢等の在産土器の破片、近世陶磁器の破片などが、それぞれ少量出土しただけである。

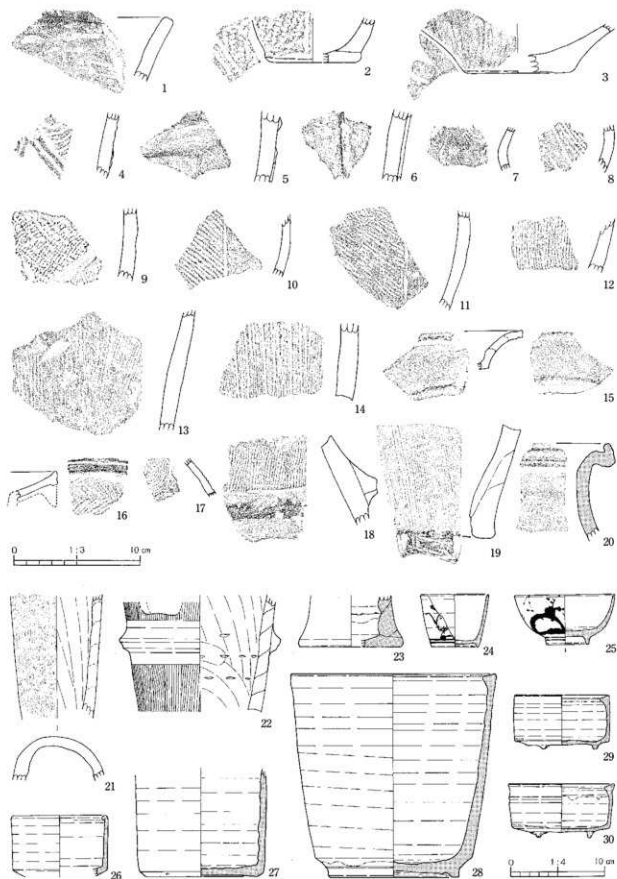


第267図 久下東遺跡第1・9号溝跡、久下前遺跡第27号溝跡全体図(恋河内2012より)

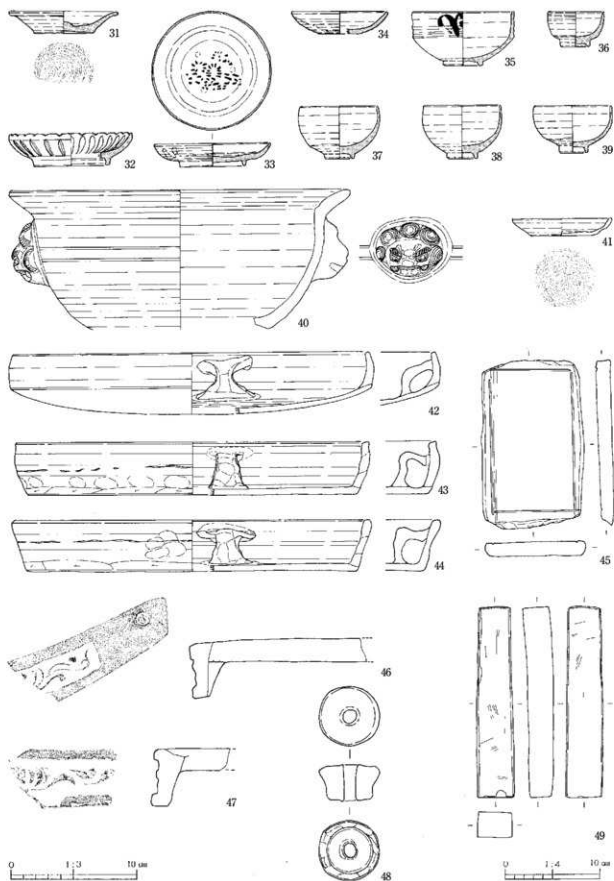
5. その他の出土遺物

その他の出土遺物観察表

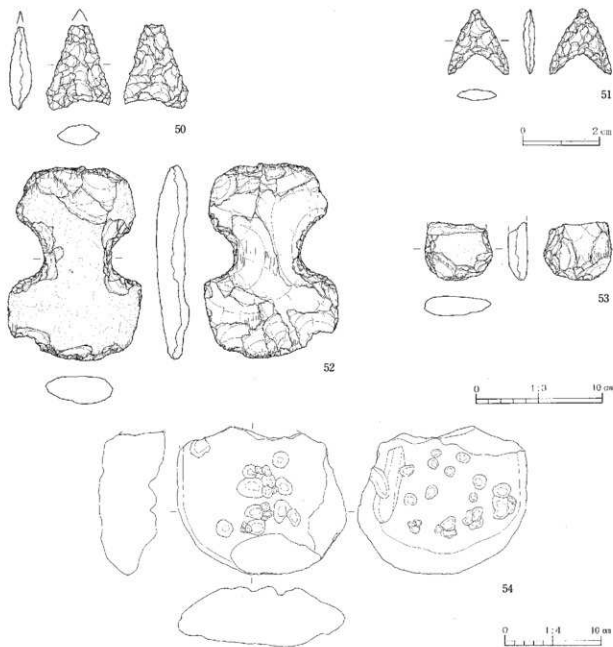
1	深	鉢	B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡褐色、内-淡灰褐色。F. 口縁部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第7b号溝跡覆土中。
2	深	鉢	A. 底部径(7.8)。B. 粘土層積み上げ。C. 胴部外面は地文に単節縄文(LR)を施した後、縦に2本沈線と1本の蛇行沈線を交互に施す。内面ミガキ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-茶褐色、内-淡褐色。F. 底部1/3。G. 縄文時代中期加曾利EⅡ式。H. 第50SJ12)号住居跡覆土中。
3	浅	鉢	A. 底部径(9.0)。B. 粘土層積み上げ。C. 胴部外面ミガキ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色、内-黒色。F. 底部1/4。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第48SJ48)号住居跡覆土中。
4	深	鉢	B. 粘土層積み上げ。C. 胴部外面は真ん中に沈線を有する隆帯を貼り付け後、半截竹管による魚鱗状短沈線に近い弧状の平行線文を施す。内面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利系(加曾利EⅢ式段階)。H. 第78号溝跡覆土中。
5	深	鉢	B. 粘土層積み上げ。C. 胴部外面は隆帯を貼り付け後、平行沈線文を施す。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第50SJ12)号住居跡覆土中。
6	深	鉢	B. 粘土層積み上げ。C. 胴部外面は隆帯貼り付け後、両側ミガキ。内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式かEⅣ式。H. 第33SJ9)号住居跡覆土中。
7	深	鉢	B. 粘土層積み上げ。C. 胴部外面は沈線区画の懸垂文内に無節縄文。内面ミガキ。D. 白色粒。E. 内外-淡黄褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅣ式。H. 第28SJ6)号住居跡覆土中。



第268図 その他の出土遺物 (1)

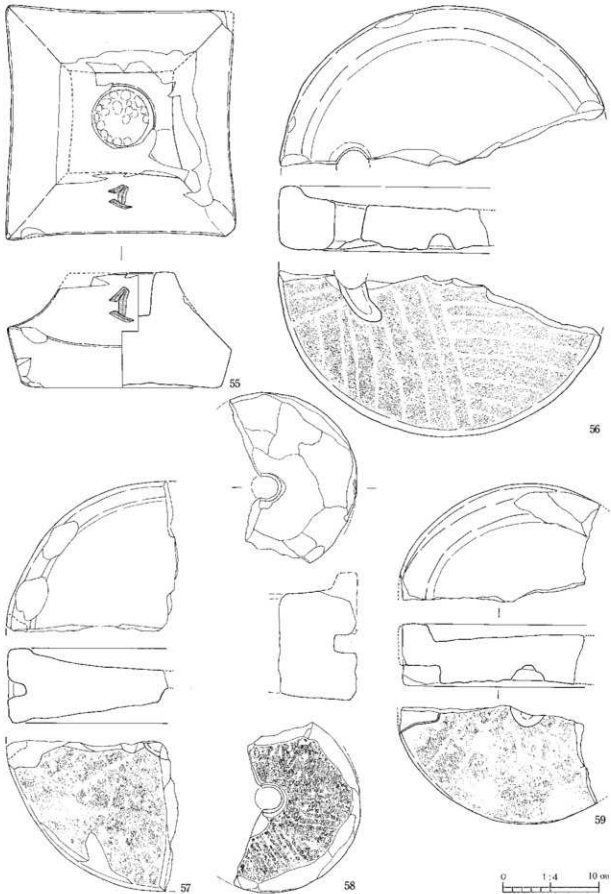


第269図 その他の出土遺物 (2)

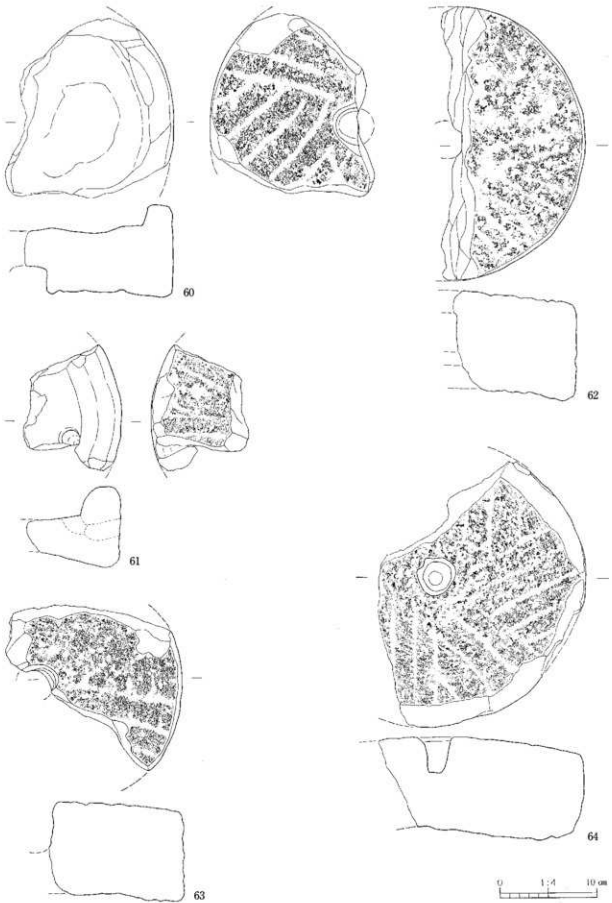


第270図 その他の出土遺物(3)

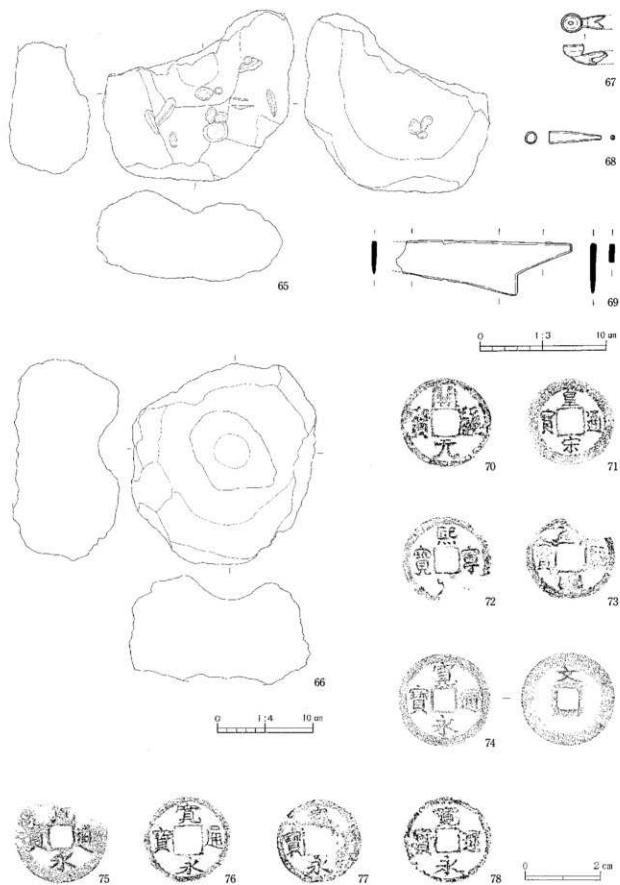
8	深	鉢	B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面は沈線区画と無節縄文。内面ミガキ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡黄褐色、内-橙褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第27(SJ 5)号住居跡覆土中。
9	深	鉢	B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面は微隆帯の片側を単節縄文(L,R)、反対側に平行沈線文を施す。内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡灰褐色、内-淡橙褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第44(SJ44)号住居跡覆土中。
10	深	鉢	B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面は沈線により区画し、施文部は無節縄文、無門部はミガキを施す。内面ミガキ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第23(SJ 1)号住居跡覆土中。
11	深	鉢	B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面は沈線により施文部(無節L縦転がし)と無文部(ミガキ)を区画。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第25(SJ 3)号住居跡覆土中。
12	深	鉢	B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面は櫛歯状工具による条線を施す。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第44(SJ44)号住居跡覆土中。
13	深	鉢	B. 粘土縦積み上げ。C. 胴部外面は櫛歯状工具による条線を施す。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-淡白褐色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第53(SJ53)号住居跡覆土中。



第271図 その他の出土遺物（4）



第272図 その他の出土遺物（5）



第273図 その他の出土遺物（6）

14	深鉢	B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面は櫛歯状工具による各線を描す。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡白色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曾利EⅢ式。H. 第44(S)44号住居跡遺土中。
15	二重口緑壺	B. 粘土継積み上げ。C. 口唇部内外面ヨコナデ。口縁部外面ハケ。内面ナデ。有段部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部破片。G. 口唇部と有段部内外面に櫛歯状工具による連続刺突文。口縁部内面に同一の櫛歯状工具による線彩文を施す。古墳時代前期。H. 第55(S)39号住居跡遺土中。
16	パレス壺	B. 粘土継積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部破片。G. 口縁部外面は沈澱による模様文を施した後、赤彩。内面は櫛歯状工具の連続刺突による線彩文を施す。購入品。古墳時代前期。H. 第33(S)11号住居跡遺土中。
17	壺	B. 粘土継積み上げ。C. 胴部外面ナデの後、櫛歯(7本歯)横線文と波状文を施す。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 胴部破片。G. 古墳時代前期。H. 第69(S)69号住居跡遺土中。
18	形象埴輪	B. 粘土継積み上げ。C. 外面ハケ。内面ナデ。凸帯上ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外-淡赤褐色、内-淡褐色。F. 破片。G. 古墳時代後期。H. 複乱内。
19	円筒埴輪	B. 粘土継積み上げ。C. 外面ハケ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-暗褐色。F. 破片。G. 古墳時代後期。H. 表土。
20	常滑壺系壺	B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒、橙褐色粒。E. 内外-茶褐色。F. 破片。G. 常滑編年5形式(13世紀前半)。H. 表土。
21	形象埴輪	A. 残存高130、最大径96。B. 粘土継積み上げ。C. 外面ハケ。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡灰褐色、内-暗褐色。F. 破片。G. 古墳時代後期。馬形埴輪の足か?。字久保窯産。H. 表土。
22	円筒埴輪	A. 残存高124、最大径170。B. 粘土継積み上げ。C. 外面ハケ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡黄褐色、内-暗黄褐色。F. 1/3。G. 古墳時代後期。H. 表土。
23	瀬戸壺系系瓶	A. 残存高55、底径(110)。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡緑色、内-白褐色。F. 底部1/2。G. 胴部外面施釉。古瀬戸中期様式(13世紀末~14世紀前半)?。H. SX-1。
24	肥前系土環	A. 口縁部径72、器高5.6、高台径50。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に草文文を施す。D. 白色粒。E. 内外-白色。F. 1/3。G. 内外面に無色釉を施す。江戸時代中期。H. 調査区内。
25	肥前系土付鉢	A. 口縁部径10.6、器高5.3、高台径4.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面に草文文を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡白色。F. 3/4。G. 内外面に無色釉を施す。「くわわんか」。江戸時代中期。H. 表土。
26	青磁細器	A. 口縁部径102、残存高6.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-緑灰色、内-淡褐色。F. 口縁部1/4。G. 外面に緑灰色釉を施す。江戸時代中期。H. 調査区南側。
27	瀬戸美濃系土器	A. 残存高114、底径130。B. ロクロ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。底部外面磨き面。D. 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 胴部下半1/2。G. 内外面に鉄釉を施すが、内面及び底部外面は非常に薄い。江戸時代中期以降。H. 表土。
28	瀬戸美濃系深鉢	A. 口縁部径(218)、器高21.6、高台径138。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色、内-淡黄白色。F. 1/3。G. 内外面に鉄釉を施す。江戸時代中期以降。H. 表土。
29	瀬戸美濃系外壺	A. 口縁部径(109)、器高5.7、底部径10.0。B. ロクロ成形。足貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-緑灰色、内-暗灰色。F. 1/2。G. 口唇部内面及び体部外面に緑灰色釉を施す。足は3足。江戸時代中期。H. 表土。
30	瀬戸美濃系内壺	A. 口縁部径(112)、器高5.7、底部径(104)。B. ロクロ成形。足貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗黄褐色、内-淡黄白色。F. 1/2。G. 口唇部内面及び体部外面に淡緑色釉を施す。足は3足。江戸時代中期。H. SX-1。
31	瀬戸美濃系蓋	A. 口縁部径(116)、器高2.3、底部径6.2。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡黄白色。F. 1/3。G. 内面に透明釉を施す。江戸時代中期。H. 表土。
32	瀬戸美濃系壺	A. 口縁部径(130)、器高3.4、底部径(80)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡緑色。F. 口縁部1/6。G. 内外面に透淡緑色釉を施す。江戸時代中期。H. 表土。
33	瀬戸美濃系皿	A. 口縁部径124、器高2.4、底部径6.8。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰白色。F. 完形。G. 内外面に布釉後、内面に鉄釉による菊花文を施す。江戸時代中期。H. 表土。
34	瀬戸美濃系燈明皿	A. 口縁部径(102)、器高2.3、底部径(44)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色、内-淡灰色。F. 1/2弱。G. 内外とも鉄釉を施す。江戸時代中期以降。H. 調査区内。
35	瀬戸美濃系壺	A. 口縁部径10.8、器高5.7、高台径4.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡黄白色。F. 3/4。G. 内外面に施釉。外面に鉄釉による文様を施す。江戸時代中期。H. 表土。
36	瀬戸美濃系壺	A. 口縁部径(60)、器高3.7、高台径3.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色、内-白褐色。F. 1/4。G. 内外面に鉄釉を施す。江戸時代中期。H. 表土。
37	瀬戸美濃系壺	A. 口縁部径(84)、器高5.5、高台径3.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色、内-淡白色。F. 2/3。G. 内外面に鉄釉を施す。江戸時代中期。H. 表土。
38	瀬戸美濃系壺	A. 口縁部径(82)、器高5.6、高台径3.2。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色、内-淡白色。F. 2/3。G. 内外面に鉄釉を施す。江戸時代中期。H. 表土。
39	瀬戸美濃系壺	A. 口縁部径(82)、器高5.0、高台径3.0。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒褐色、内-淡白色。F. ほぼ完形。G. 内外面に鉄釉を施す。江戸時代中期。H. 表土。
40	火鉢	A. 口縁部径36.0、残存高147。B. 粘土継積み上げ後ロクロ整形。把手貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデの後内面ミガキ。胴部内外面回転ナデ。外面中位2条沈澱陶ミガキ。胴部外面は吹きにより、斑点状の細かな窪みをつける。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-黒灰褐色。F. 口縁部2/3。G. 把手の獅子面は製作。獅子面の口の両端は、内側に向かって円形に深く窪んでおり、金輪等が付いていた可能性がある。「ドロヒバチ」。時期不明。H. 表土。
41	かわらけ	A. 口縁部径10.4、器高1.8、底部径6.6。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 完形。G. 江戸時代中期。H. 表土。
42	焙烙	A. 口縁部径(37)、残存高6.4、底部径(38)。B. 底部内盤上での粘土継積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面未調整(とさくれ状の凹み亀裂を残す)。内面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部1/4。G. 江戸時代中期。H. SX-2。

43	焙 烙	A. 口縁部径(37.4)、器高5.6、底部径(34.8)、B. 底部円盤上での粘土組織み上げ、内耳貼り付け、C. 口縁部内外面回転ナデ、体部外面下端ケズリ、底部外面未調整(さざくれの細かい亀裂を残す)、内面ナデ、D. 白色粒、E. 口縁部外-黒褐色、底部外面-淡褐色、内-暗灰褐色、F. 口縁部1/2弱、G. 江戸時代中期、H. 表土。
44	焙 烙	A. 口縁部径(38.0)、器高5.5、底部径(34.8)、B. 底部円盤上での粘土組織み上げ、内耳貼り付け、C. 口縁部内外面回転ナデ、体部外面未調整(さざくれの細かい亀裂を残す)、内面ナデ、D. 白色粒、E. 口縁部外-黒褐色、底部外面-淡褐色、内-暗灰褐色、F. 口縁部1/4弱、G. 江戸時代中期、H. 表土。
45	土 製 硯	A. 長さ17.8、幅10.8、厚さ1.5、B. 粘土塊叩きによる押延、C. 表裏面・側面ともナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外-明褐色、F. 完形、G. 表面に定義を使用した長方形の沈凹区画を施す。酸化焙、H. SX2。
46	棧瓦(軒瓦)	A. 残存長14.2、残存幅16.9、厚さ1.9、B. 瓦当貼り付け、C. 凹凸面ともナデ、D. 黒色粒、白色粒、E. 凹凸-暗灰色、F. 破片、G. 瓦当文様は唐草文、瓦当面隅に赤の刻印、H. 複乱井戸。
47	棧瓦(軒瓦)	A. 残存長6.2、残存幅9.0、厚さ1.7、B. 瓦当貼り付け、C. 凹凸面ともナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 凹凸-暗灰色、F. 破片、G. 瓦当文様は唐草文、H. 複乱井戸。
48	土製紡錘車	A. 上面径4.8、下面径3.6、高さ2.9、重さ61g、B. 手捏ね、C. 上下面・側面ともナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 上面・側面-赤茶褐色、下面-淡褐色、F. 完形、G. 古代、H. 表土。
49	柱状砥石	A. 長さ20.2、幅3.9、厚さ2.9、重さ412g、B. 荒削り、C. 各面とも良く揃っている、D. 波紋岩、F. 完形、G. 各面とも鉄片付き顕著、G. 近世以降、H. 表土。
50	石 鏝	A. 残存長2.2、幅1.7、厚さ0.6、重さ16g、D. チャート、F. ほぼ完形、G. 凹基無蒸籠、H. 第36号住居跡(S)36 覆土。
51	石 鏝	A. 長さ1.7、幅1.6、厚さ0.3、重さ0.5g、D. チャート、F. 完形、G. 凹基無蒸籠、H. 第96号住居跡(S)17 覆土。
52	打製石斧	A. 長さ15.3、幅10.5、厚さ2.5、重さ391.4g、C. 割線の周縁を直接打撃による半両面調整、両側縁中央は敲打による調整が顕著、D. 粘板岩、F. 完形、G. 分銅形、刃部周辺に磨減痕、H. 第14号井戸跡覆土。
53	打製石斧	A. 残存長4.7、幅5.3、厚さ1.6、重さ49.1g、C. 礫皮をもつ両片の両側縁を直接打撃により調整、D. 頁岩、F. 刃部のみ、G. 刃部周辺に磨減痕、H. 第14号井戸跡覆土。
54	多孔石	A. 残存長17.7、最大幅15.3、厚さ6.9、重さ1649.2g、D. 安山岩、F. 上端部欠損、G. 表裏面に磨減痕や漏斗状の凹欠がある。被熱により黒く変色している部分がある、H. 第7号溝跡覆土。
55	五輪塔(火輪)	A. 幅24.2×24.7、高さ12.2、重さ4kg、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面研磨、裏面整ヶズリ、D. 角四石、安山岩、F. ほぼ完形、G. 梵字内彫り、H. 表土。
56	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(35.0)、高さ6.8、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 砂岩、F. 1/2弱、G. 楕目はおそらく6角と思われる、H. SX2。
57	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(36.0)、高さ7.9、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 花崗岩、F. 1/4、G. 楕目は磨減して不明瞭、側面に挽き木穴あり、H. SX2。
58	茶 臼(上 白)	A. 直径(19.4)、高さ11.5、重さ2.8kg、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 砂岩、F. 1/2弱、G. 楕目は磨減しているが、おそらく6角と思われる、側面に方形の挽き木穴あり、H. 調査区内。
59	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(29.0)、高さ6.5、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 安山岩、F. 1/3、G. 楕目は磨減しているが、おそらく6角と思われる、H. 表採。
60	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(31.0)、高さ9.8、重さ2.6kg、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 安山岩、F. 1/4、G. 楕目は磨減しているが、おそらく6角と思われる、H. 調査区内。
61	粉 挽 臼(下 白)	A. 残存長13.3、高さ8.5、重さ960g、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 安山岩、F. 破片、G. 楕目は磨減している、窪かけ穴あり、H. 調査区内。
62	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(30.0)、高さ11.7、重さ5.65kg、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 安山岩、F. 1/2、G. 志極穴は貫通している、楕目は磨減して不明瞭、H. 調査区内。
63	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(32.0)、高さ10.7、重さ3.17kg、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 安山岩、F. 1/8、G. 楕目は磨減して不明瞭、H. 調査区内。
64	粉 挽 臼(上 白)	A. 直径(31.0)、高さ10.9、重さ7.56kg、B. 荒削りの後ケズリ、C. 表面と側面研磨、D. 花崗岩、F. 1/3、G. 楕目は磨減しているが、おそらく6角と思われる、H. 調査区内。
65	窪 み 石	A. 残存長18.1、幅19.6、高さ9.0、重さ1.65kg、B. ケズリ、C. 表面研磨、D. 安山岩、F. 2/3、H. 調査区内。
66	窪 み 石	A. 残存長20.9、幅19.1、高さ11.1、重さ3.47kg、B. ケズリ、C. 表面研磨、D. 安山岩、F. 3/4、G. 一部に被熱痕あり、表面中央破砕、H. 調査区内。
67	煙管(扉首)	A. 残存長3.5、高さ1.7、火口径1.6、筒径1.1、D. 銅製、F. 基部欠損、H. SX2。
68	煙管(吸口)	A. 長さ4.1、最大径0.9、D. 銅製、F. ほぼ完形、H. SX1。
69	包 丁	A. 直径2.4、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 開元通寶、裏は無文、唐銭、621年初鋳、H. 第37(S)37号住居跡。
70	古 銭	A. 直径2.3、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 皇宋通寶、裏は無文、宋銭、1039年初鋳、H. Pit 1群-1。
71	古 銭	A. 直径2.35、B. 鋳造、D. 銅製、F. 縁の1/4欠損、G. 熙寧元寶、裏は無文、宋銭、1068年初鋳、H. 調査区内。
72	古 銭	A. 直径2.35、B. 鋳造、D. 銅製、F. 縁の1/4欠損、G. 元豊通寶、裏は無文、宋銭、1078年初鋳、H. Pit 1群-1。
73	古 銭	A. 直径2.4、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 寛永通寶(文銭)、裏面に「文」の字あり、寛文8(1668)年初鋳、H. SX1。
74	古 銭	A. 直径2.4、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 寛永通寶(新寛永)、裏は無文、H. SX1。
75	古 銭	A. 直径2.2、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 寛永通寶(新寛永)、裏は無文、H. 表土。
76	古 銭	A. 直径2.25、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 寛永通寶(新寛永)、裏は無文、H. 表土。
78	古 銭	A. 直径2.3、B. 鋳造、D. 銅製、F. 完形、G. 寛永通寶(新寛永)、裏は無文、H. 第36(S)36号住居跡。

(恋河内昭彦)

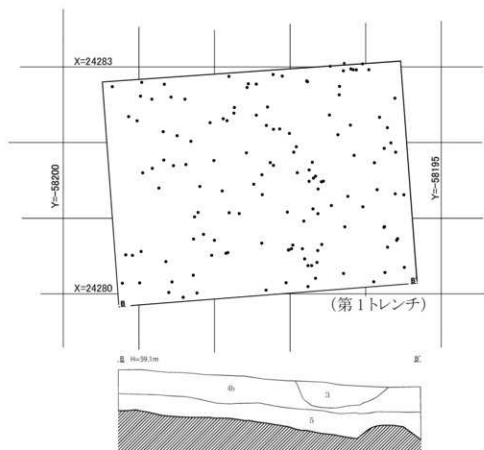
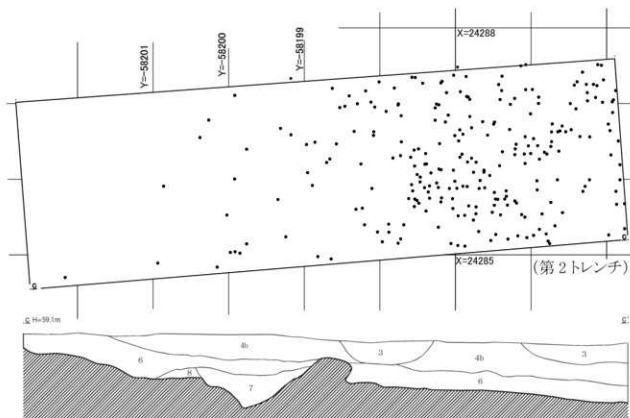
第2節 土層と遺物出土状況

C地点の発掘調査では、過去の調査で明らかになっている遺物包含層に達するまでの表土部分を重機により掘削した。具体的には第275図の土層断面図に示した4a層、4b層が遺物包含層であることが分かっているため、1～3層に相当する部分が重機掘削の対象である。ただし、4a層、4b層上面においても、かなりの範囲にわたり3層土の堆積が見られ、明確に遺物包含層を切り込んでいる。この切り込みは第275図で「攪乱」と表示した範囲であり、明治時代以降の土層と思われる。

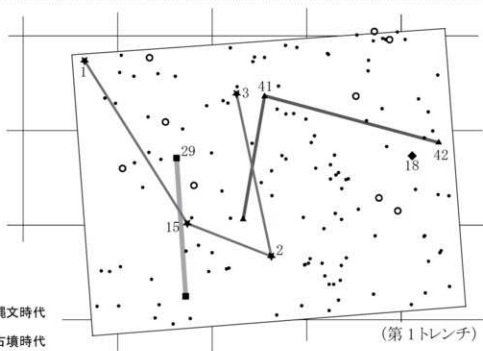
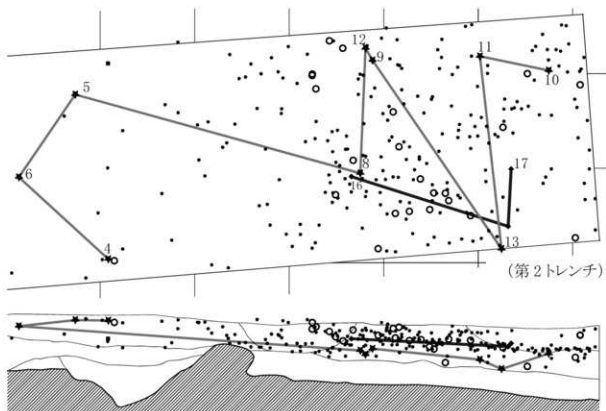
遺物堆積状況と土層との関係を検討するため、第275図に示した様になるべく攪乱範囲を避けて第1トレンチ(Tr-1)と第2トレンチ(Tr-2)の調査用トレンチを2箇所設定し、そのトレンチ内の包含層を全て人力で掘削調査することにより、遺物と土層との対応関係の把握に努めた。また、それ以外にもう1本の第0トレンチ(Tr-0)を南辺付近に設定し、表土から関東ローム層(本報告では地山と呼称する)までの土層観察のための調査を行った。この土層を第275図に、調査区南壁の断面図とともに示した。基本的な堆積の様子は、現表土1層の下に、明治時代以降の2・3層、自然堆積層で遺物包含層である4a・4b層、縄文時代以前の6層、地山の関東ローム層という堆積で、概ね前回報告分と同様である。4a層は4b層の上面に部分的に薄く堆積したもので、連続したものと考えてよいだろう。4b層が前回報告分の4層に対応する。5層については、前回報告分との整合性のため今回報告分では欠番とした。なお、第0トレンチの中央付近に大きな層捻転があり、倒木によるものと思われる。本節において以下では、第1、第2トレンチの出土遺物の分布について順に検討し、その後、調査区全体を覆っている第3層について若干の検討を加える。

第1トレンチでは、微細片も含め約140点の遺物を検出した。第276図下段に遺物出土位置の平面分布図と土層断面図を示した。出土遺物のうち7割以上が古墳時代～古代の土師器・須臾器であり、小片が多いため定かではないが大半が平安時代のものであろう。他に時期・器種が特定できたものは、中世以降の瓦が11点程度、近世の土器類が4点程度、中世の土器類が2点程度、焼成土塊が10点程度、縄文土器が4点程度である。焼成土塊とは大きさ1～3cm程度の手捏ね状の土塊(粘土塊)が熱を受けて硬化したものである。なお、第275図に示したように溝状の攪乱範囲がトレンチを横断するように南北方向に入っている。瓦はすべてこの攪乱層内から出土したものであり、それ以外にも明確にこの攪乱層から出土したものは以下の検討からは除外している。

第277図下段に第1トレンチの遺物出土地点の平面分布図と、垂直分布図を示した。垂直分布図では、平面上の各点を南北方向に垂直な面に射影している。土層と対照させる上ではセクションラインに平行な面に垂直射影した分布を示すべきであろうが、第275図に示した等高線によれば、セクションラインは必ずしも傾斜方向に一致しておらず、結果的に丘陵自体の凹凸も遺物の出土標高に若干の影響を与えてしまう。しかしトレンチ幅が比較的狭いため、全体としては各種誤差の範囲内と考えた。同図によれば、数は多くはないが近世の遺物と中世の遺物が出土遺物群の上面に近い所に分布しているのが分かる。また縄文土器は遺物群の下面に近い所に分布している。そしてその中間に大部分を占める平安時代の遺物が含まれている。厚さ約30cmという包含層の中で、土層の詳細な峻別は困難であるため、土層と遺物の時期の対応は判明しないが、遺物は低い方から高い方に向かってより新しい時代の遺物が出土するという傾向は窺われよう。動植物の影響や自沈・浮上の作用も考慮が必要であるし、実際に調査区内でも倒木による捻転が何箇所かで確認されているが、この垂直分布図を見る限り、



第276図 トレンチ内遺物分布及び土層断面図 (S = 1/50)



- ★ 縄文時代
- ◆ 古墳時代
- 中世
- ▲ 近世
- 焼成土塊

※ 結線は接合関係ではない

第277図 平面・断面ドット図 (S=1/40)

このトレンチに関しては大きな影響を与えたものとは思われない。なお、堆積速度に関しては、縄文時代はとりあえず措くとしても、古墳時代から近世にいたる千数百年間で約30～40cm厚の土層がこの斜面に堆積したものであろう。そしてこの期間においては比較的静穏に土層と遺物が順次堆積していたことも推定できる。

さて、上述したように表面が磨滅した焼成土塊が出土している。明らかに土器の破片ではない。土器作成時の滓や、何らかの手捏ね製品状のもの可能性もあるが、胎土中にスサを含んでいた焼成痕も見られるため、ここでは建物の土壁等が崩れたものとも考えられよう。第277図の垂直分布図を参考に他の遺物の堆積状況と比較すると、焼成土塊は古代の土器片が多く出土している位置から多く検出されている。一方、瓦が多く出土したのは明治時代以降の攪乱層である3層であり、遺物包含層の4b層からはほとんど出土していないため、今回の調査範囲に関しては瓦と焼成土塊は同時期であるとは言えない。瓦葺き建物が周辺に造られる以前の遺物であろうか。出土した瓦の検討も含め、今回の発掘調査範囲より上段の部分に何らかの遺構が存在することを推定する必要がある。

第2トレンチでは、小片も含め約250点の遺物を検出した。第1トレンチと同様に8割を超える遺物が古墳時代～古代の土器器・須器であり、その大半が平安時代のものであろう。時期・器種が特定できた遺物は、瓦が6点程度、中世の土器類が2点程度、古墳時代の土器が3点程度、鉄滓が1点、焼成土塊が24点程度、縄文土器が10点程度である。

第276図上段に遺物出土位置の平面分布図と土層断面図を示した。断面図中央付近に大きな土層の乱れが見られる。典型的な倒木痕ではないが、自然作用によるものと考えられる。いずれにせよ、第277図断面に見られるように人為的な遺物が堆積する以前の出来事であるのは明白である。また、トレンチ内西側には遺物が非常に少ない。これは、4b層が本来の厚さより削られており、表土掘削で3層を除去したためである。堆積時には他の部分と同程度の分布密度があったものと想定される。

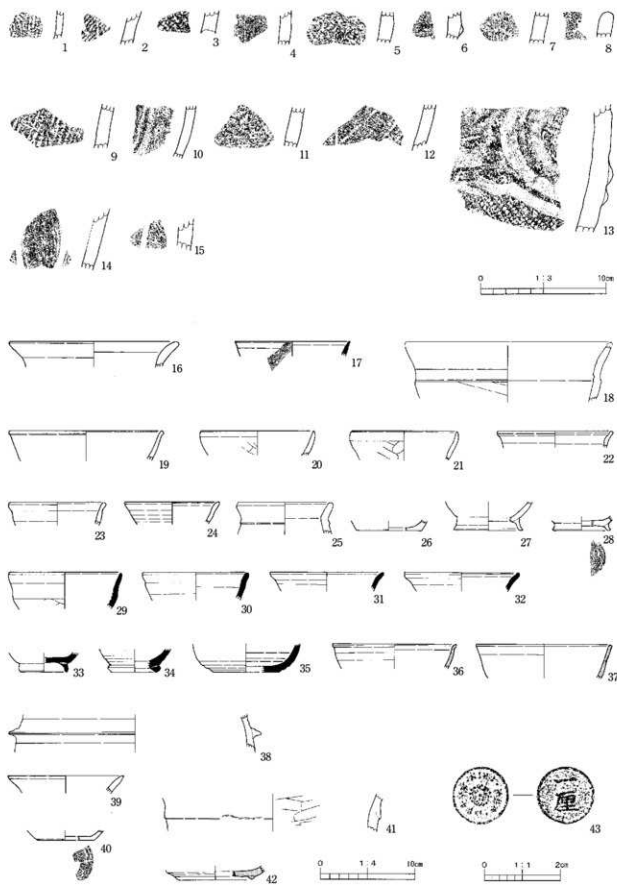
第277図上段に遺物出土地点の平面分布図と垂直分布図を示した。第2トレンチでは第1トレンチほどの明瞭な上下関係は確認されなかった。縄文土器は遺物群の中で底面に近い部分で数点出土する傾向は見られたが、攪乱範囲以外の部分から中世以降の遺物はほとんど出土しておらず、第1トレンチの様な検討は出来ない。また、トレンチ内西側では、上で述べたように第4b層が薄く、結果的に土層の乱れが大きいようである。

最後に、今回の調査区全体を覆っている3層について言及する。調査区内で第0トレンチ部分は金鑽神社鳥居の正面でありほぼ神社の参道に当たるが、トレンチのすぐ近傍の3層中から一厘銅貨が出土している。神社の鳥居には「明治二十二年當所 十二月吉日氏子中」の銘があり、銅貨は明治16年鑄造のものであった。明治22年に鳥居を新たに建立したとするならば、同時に鳥居前の参道の造成工事を行い、その際に銅貨が混入した可能性が考えられよう。仮にそうであれば、3層は明治時代に堆積したものと考えられる。なお、この銅貨自体に地鎮的な意味合いがあるかどうかは不明である。

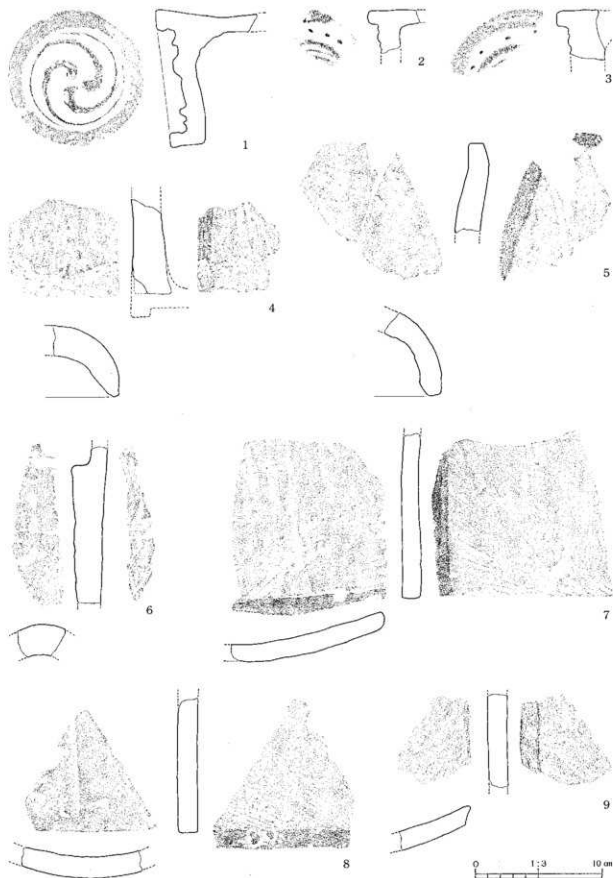
第3節 出土遺物

出土遺物は、主に土器類と瓦である。土器類の大半が小片であるが、実測可能なものうち、包含層の性格を把握するのに必要なものを示した。

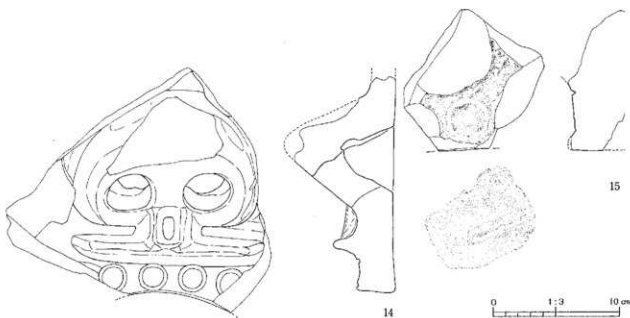
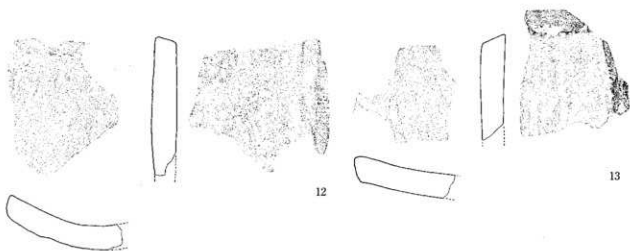
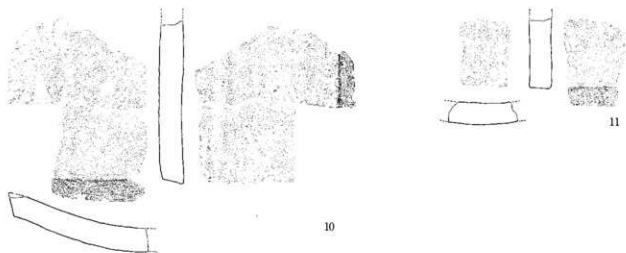
1は縄文時代早期夏島式土器であろうか。2～14は縄文時代中期加曾利E式土器である。15は縄文



第278图 C地点出土遺物



第279图 C地点調査区内出土瓦(1)



第280图 C地点調査区内出土瓦(2)

C地点調査区内出土瓦観察表

1	軒丸瓦	A. 瓦当面直径112, 残存長81。B. 瓦当貼り付け。C. 瓦当面ナデ。瓦当裏面指ナデ。凸面ナデ、凹面は布目庄痕を残す。D. 赤色粒、白色粒。E. 凸-暗灰色、凹-淡灰色。F. 瓦当のみ。G. 瓦当文様は三巴文で、A・B地点出土の軒丸瓦(松本・的野 2010)と同范。H. 表土。
2	軒丸瓦	A. 残存長41。B. 瓦当貼り付け。C. 瓦当面ナデ。瓦当裏面指ナデ。凸面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 凸-黒灰色、凹-暗灰色。F. 瓦当面破片。G. 瓦当文様は外区に連続文、内区に巴文。H. 包含層。
3	軒丸瓦	A. 瓦当面直径(122), 残存長38。B. 瓦当貼り付け。C. 瓦当面ナデ。凸面ナデ。D. 白色粒。E. 凸-黒灰色、凹-暗灰色。F. 瓦当面破片。G. 瓦当文様は外区に連続文、内区に巴文。H. 表土。
4	軒丸瓦	A. 残存長76, 残存幅53, 厚さ24。B. 瓦当貼り付け。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面は布目庄痕を残す。D. 赤色粒、白色粒。E. 凹凸-黒灰色、内-淡橙褐色。F. 破片。G. 瓦当面剥離。H. 包含層。
5	丸瓦	A. 残存長120, 残存幅80, 厚さ20。B. 叩き。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面は布目庄痕を残す。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 凸-黒灰色、凹-淡褐色。F. 破片。H. 包含層。
6	丸瓦	A. 残存長126, 残存幅38, 厚さ23。B. 叩き。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 凸-黒灰色、凹-暗灰色。F. 破片。H. 調査区内。
7	平瓦	A. 残存長131, 残存幅125, 厚さ15。B. 一枚作り。C. 凸面糸切り後叩き、凹面糸切り後雑なナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 凹凸-暗灰色。F. 破片。H. 包含層。
8	平瓦	A. 残存長107, 残存幅110, 厚さ16。B. 一枚作り。C. 凸面糸切り後叩きの後ナデ、凹面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 凸-淡褐色。F. 破片。G. 凹面に木骨痕あり。離れ砂付着。H. 覆乱溝。
9	平瓦	A. 残存長75, 残存幅57, 厚さ16。B. 一枚作り。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面ナデ。D. 白色粒。E. 凹凸-暗灰色。F. 破片。H. 包含層。
10	平瓦	A. 残存長130, 残存幅111, 厚さ19。B. 一枚作り。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面糸切り。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 凹凸-淡橙褐色。F. 破片。G. 凹凸面とも離れ砂付着。H. 表土。
11	平瓦	A. 残存長57, 残存幅55, 厚さ18。B. 一枚作り。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 凹凸-黒灰色、内-淡橙褐色。F. 破片。H. 覆乱溝。
12	平瓦	A. 残存長110, 残存幅93, 厚さ20。B. 一枚作り。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面糸切り後雑なナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 凹凸-暗褐色。F. 破片。H. 調査区内。
13	平瓦	A. 残存長85, 残存幅81, 厚さ20。B. 一枚作り。C. 凸面叩きの後ナデ、凹面糸切り後ナデ。D. 小石、赤色粒、白色粒。E. 凹凸-淡灰褐色、内-淡橙褐色。F. 破片。H. 表土。
14	鬼瓦	A. 残存長196, 残存幅212, 厚さ82。B. 粘土貼り付け。C. 外面鼻貼り付け後ナデ、内面掘ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 破片。G. 下端に連続する円形の押印文を施文。H. 包含層。
15	鬼瓦	A. 残存長112, 残存幅112, 厚さ48。B. 粘土貼り付け。C. 内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 破片。G. 下端に連続する円形の押印文を施文。A・B地点出土の鬼瓦(松本・的野 2010)と同一製作。H. 包含層。

時代後期堀之内I式土器であろうか。縦位の磨り消しが施されている。

16~18は古墳時代の土器である。16は古墳時代中期頃の土師器甕であろうか。17は古墳時代の須恵器の破片である。波状文が施されている。18は古墳時代後期の鬼高式の大形鉢である。

19~38は奈良・平安時代の土器である。10世紀頃を中心とするものと思われる。19~28は土師器である。ほとんどが小型の鉢・杯・碗類と思われるが小片のため明瞭には区別できない。29~35は須恵器、36と37は灰釉陶器、38は羽釜である。

39~40は中世のかわらけと思われる。41は近世の内耳焙烙、42は近世の陶器皿である。

実測図作成は行わなかったが、上述した焼成土塊は、小塊を含め50点程度、大きいもので10~15g、3cm程度である。また、長軸長20cm、重量4gの鉄滓と思われる遺物が1点出土している。

また、第279~280図は中世瓦である。包含層から出土したが事実上全てが攪乱されていた部分からの出土である。近世以後の瓦も若干出土しているが除外した。調整等は観察表に示した。

第4節 宍勝寺北裏遺跡C地点の調査のまとめ

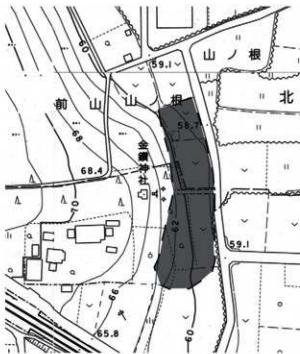
今回報告したC地点、および前回報告したA地点・B地点、更に周辺の試掘調査の結果を踏まえて遺物包含層について簡単にまとめる。

まず、遺物包含層の形成要因であるが、周辺の地形を考えれば、神社の西側の丘陵平坦部付近で使用された遺物が斜面に沿って流れ落ちてきたと考えるのが自然であろう。遺物包含層が形成されると推定される主な範囲は、第281図に示した範囲と考えられる。推定範囲の西側については、平成

25年度に神社島居直下にて行われた試掘調査で今回の4層は検出されなかったため、丘陵上位へは連続していないものと考えられる。範囲の北側については、A地点の調査区北端付近ではほとんど遺物は検出されておらず、更にそこから北側についても数箇所の試掘調査の結果から遺物包含層が存在しないことが判明している。範囲の南側については、B地点の調査区南端で比較的多くの土器片が出土しており、丘陵裾に沿って南西側へ包含層が若干広がっている可能性が高い。なお、B地点の南西80mの位置には東谷遺跡が所在し、新幹線が丘陵を削る部分に関して昭和48～49年度に発掘調査が実施され古墳時代中期～後期の集落が検出されている(小久保1978)。包含層の遺物の一部は、同集落からの遺物も含まれる可能性もあろう。

出土物については、全ての地点で古代の土師器が最も多く出土しており、器種・時期が特定できない遺物の大半がこの時期であろう。それ以外の遺物については以下に述べるように地点ごとに傾向の差があり、丘陵上位の遺構分布によっているものと思われる。

北側のA地点では、古墳時代後期以降の遺物が多い。中でも軒丸瓦・鬼瓦も含めた中世瓦が比較的多く出土した。南側のB地点からは縄文時代～古墳時代中期の遺物が出土し、特に調査区南西端からは状態の良い古墳時代中期の土器がまとめて出土している。今回報告のC地点では、ほぼ両者の中間的な様相であり、縄文時代～中・近世の遺物が出土している。C地点の発掘調査では、第277図に示すように新旧の遺物が概ね時間順に堆積している様子が判明した。また攪乱された層からではあるが、中世瓦も多く出土し、新たな知見が得られた。今後、丘陵上位部分の状況が明らかになれば、ここでの遺物包含層の成り立ちも更に理解が深まるであろう。(的野善行)



第281図 包含層の推定範囲



第七章 まとめ

今回報告した七色塚遺跡・北堀久下塚北遺跡・久下東遺跡・宍勝寺北裏遺跡は、旧児玉郡域の中心的な生産基盤をなす女堀川流域の下流域に位置している。この中で、宍勝寺北裏遺跡は大久保山残丘上に立地しており、当地域の丘陵部に占地する遺跡の特徴と同じく、その生活の痕跡は旧石器時代から認められるが(橋本・佐々木他1980、松本・大熊他2009)、他の3遺跡は低地内にある同一の微高地上に立地し、七色塚遺跡(恋河内・松本2008)では一時的に縄文時代中期後葉の小規模な集落が形成されるものの、概ね古墳時代前期から本格的な集落形成が行われている。この3遺跡の古代集落は、いずれも古墳時代から平安時代まで類似した変遷過程が見られ、その現時点での概要については、以前簡単に述べたことがある(恋河内・的野2010)。そのため、ここでは久下東遺跡B2地点を中心とした、それ以降の中近世の特徴的な遺構と遺物について、若干触れてまとめたい。

第1節 久下東遺跡B2地点第9(SD1)号溝跡の性格について

久下東遺跡B2地点の第9(SD1)号溝跡は、溝の上幅が5m前後、確認面からの深さが1.7m程度の断面「V」字形のいわゆる薬研堀の形態を呈する本遺跡で最大規模の溝である。この第9号溝跡は、南側の久下前遺跡D1地点(恋河内2012)の第27号溝跡と同一の溝で、南北方向の最長が約56m、東西方向の最長が約37mの長方形を基調とした形態に土地を圍繞している(第267図)。その形態は、西側と南側の溝はほぼ直線で直角をなすが、北側の溝はやや斜めに湾曲し、東側の溝は中央付近が弓状に張り出している。入口部は、陸橋や架け橋などの明確な形跡は見られないが、東側溝中央部の張り出し部付近がその可能性が高いのではないと思われる。時期は、出土遺物の様相から、中世後期の15世紀後半～16世紀初頭頃と考えられ(松本・大熊他2009、恋河内2012)、覆土最上層に天明3年(1783年)降下の浅間山系A軽石を多く含み、江戸時代中期の第8号井戸跡が切っていることから、18世紀頃には埋没していたと推測される。

該期のこのような薬研堀の圍繞溝は、規模の大きな館跡などでは外部からの侵入を防ぐ防衛的機能と、湧水を利用した灌漑用の滞水・集水機能を併せ持つものが一般的である。本溝跡の場合は、溝が一巡りして完結し、そこから外部に導水する溝が見られないことから、灌漑的機能は考えにくい。溝北東端のB1地点第1号溝跡(本溝跡)の東側延長に、F1地点の第1号溝跡(恋河内2012)から、さらに東側の第1地点の第3号溝跡(増田1985)に連なる小規模で浅い直線的な溝がある。F1地点の報告(恋河内2012)では本溝跡と関係するものとしたが、B2地点の近世以降の溝群と形態や流路方向が類似しており、それらと同時期の江戸時代中期以降の可能性が高いと考えられる。仮に本溝跡と関係があったものとしても、その規模や流路が直角に屈曲する形態であることから、本溝跡の溜まった余剰水を排水する程度のものであろう。防衛的機能にしても、その圍繞する敷地の範囲が比較的狭く、その外側に溝や区画を多重に巡らせるような形態でもないことから、人や害獣などの侵入や、外部からの火災の延焼を防ぐ程度で、規模の大きな戦い等における防衛的役割には疑問がある。そのため、本溝跡の掘削目的としては、圍繞した区画地の周囲からの視覚的な差異化が第一義的な目的であったと思われ、その外部との差異化の内容には、「日常と非日常」、「聖と俗」といった宗教的・観念的な区別、「居住と非居住」の用途的な区別、「主と従」、「支配と被支配」といった居住者の権力的・

身分的な区別などが考えられよう。

この第9号溝跡によって圍繞された区画地の性格については、区画内の遺構や遺物の検討が必須であるが、北側の久下東遺跡B地点側では大部分が近世以降の擾乱によって破壊され、南側の久下前遺跡D地点側では水田造成によってすでに削平されているため、具体的な施設の痕跡はほとんど残存していない。しかしながら、該期に近い中世後期の井戸跡が、この区画地の内外に密集して存在し、その井戸や溝内から内耳鍋・播鉢・石臼(粉挽臼・茶臼)などの調理加工具や、板碑・五輪塔などの墓石が多く出土していることから、多人数を要する何だかの生活空間として使用された後に墓地になったか、板葺きの堂や厨と小規模な墓地からなる特定階層の寺的な施設として利用されていた時期があったことが窺えよう。ちなみに、久下東遺跡B地点側の区画地内で擾乱として扱われたSX1とSX2からは、煙管(第273図No67・68)や古銭の寛永通宝(第273図No74・75)などが複数出土していることから、複数の近世土壙墓が存在した可能性が高く、江戸時代中期～後期にも一部は墓地として利用されていたことが窺える。

第9号溝跡やそれによって圍繞された区画地は、その性格を知る上での直接的な資料が乏しい。そのため、他地点の整理の進展を待つ、今後遺跡全体の中世遺構の様相を明らかにし、本遺跡における中世村落の形態を考えていく中で、改めてとらえ直す必要があろう。

第2節 「寛延三年」紀年銘刻書培烙について

久下東遺跡B2地点の第15号土坑から、「寛延三年午八月十七日」の紀年銘が刻書された培烙が出土している(第256図No1)。文字は、土器焼成後に毛描針のような先端が細く堅い道具により、土器の底部内面中央の刻印の横に、縦一列に並んで細く浅い線で刻書されている。字体は行書体風で、「寛」は若干省略されているが、他の文字は比較的明確である。また、干支を表す「午」は、「年」と「八」の間の右横に、他の文字に比べてやや小さく書かれていることから、後から書き加えられたものと思われる。ちなみに、寛延三年の干支は「庚午」である。

培烙は、口縁部径38.8cm・器高5.1cmの平底の底部に若干内湾ぎみの体部が付く形態で、ほぼ完形に近いものである。内耳は、形態が幅広い橋状を呈し、上端は口唇部下の内面に、下端は底部内面外周のやや内側に貼り付けられ、1対2の計3箇所に配置されている。調整は、口縁部内外面はヨコナデで、体部外面下半は指押さえによる指頭圧痕を残した上からケズリが加えられている。底部外面は未調整のままで細かなひび割れのような圧着痕を全面に残し、内面は不定方向のナデの後に中央部に刻印を押している。この刻印は、下半分が不明であるが、印形が隅丸長方形で最初の文字が「大」であることから、刻印は異なるが深谷市居立遺跡(岩瀬1995)の土坑から出土した培烙に見られるような「大極上」の刻印名と関係する可能性もあろう。

この培烙が出土した第15号土坑は、平面形が直径74cmの円形を呈し、確認面からの深さが50cmの比較的小規模なもので、底面がほぼ平坦で壁がオーバーハングした、いわゆるフラスコ形の特徴的な形態を呈している(第249図)。このような形態の土坑は、本遺跡でこれまで報告した土坑の中では、B1地点の重複関係から近世の江戸時代中期以降と考えられる第17号土坑(松本・大熊他2009)だけであるが、遺物の出土もあまりないようで、本土坑との関係は不明である。

出土遺物(第256図)は、紀年銘培烙の他に、直立もしくはやや外傾する直線的な体部と口縁部が付

く平底と丸底の2形態の焙烙(No2~4)、逆台形で板状の足が付く火鉢(No5)、流紋岩製の柱状砥石(No7~9)があり、図化できなかったものでは、かわらけや瓦の小片なども出土している。ちなみに、No6は混入した中世の香炉である。これらの土器は、No1の紀年銘焙烙以外はすべて破片で、特にあまり接合しない焙烙の破片が最も多い。このような遺物の出土状態は、他所で破損した土器等の破片を廃棄するために土坑に埋めたものと考えられるが、焙烙に年月日を刻書する行為は、これらの土器が使用された行事の月日か、土坑に埋めた月日を記録するために行われたものと推測される。

さて、この紀年銘焙烙で問題なのは、紀年銘の年代と土器の編年の位置との整合性であろう。この北武蔵から上野地方に分布する平底形の焙烙は、従来から17世紀を主体とする時期に編年されている(浅野1988、両角1996)が、紀年銘の「寛延三年」は18世紀中頃の1750年である。土器を焼成した後に刻書されたものであるため、消費地ではこの時期まで単独で残っていたと考えられなくもない。しかしながら、本遺跡の18世紀頃の他の遺構から出土した遺物の様相からは、丸底形態の焙烙もいくつか見られるものの、平底形態の焙烙が18世紀中頃まで残存している感もあり、当地方でも焙烙における丸底化の遅れが、江戸を中心とした都市と地方の地域差(藤尾1991)として認められるのかもしれない。いずれにしても、この紀年銘焙烙は、土器編年上での定点を知ることができ一級資料であり、型式変化に乏しいと言われる器種ではあるが、今後当地域では報告例の少ない近世資料の増加を待って、再検討しなければならない。(恋河内昭彦)

<参考文献>

- 浅野 晴樹 (1984) 『埼玉県出土の中世陶器(3)』『埼玉県歴史資料館研究紀要』第6号
 (1988) 『関東における中世在地産土器について』『研究紀要』第4号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 岩瀬 謙 (1995) 『前・居立』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第151集
 大熊 季広 (2013) 『左口遺跡Ⅱ・本庄飯玉遺跡・北堀新田遺跡Ⅲ』本庄市埋蔵文化財調査報告書第34集
 太田 博之 (2005) 『四方田(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)次調査・久下東(Ⅱ)次調査』本庄市埋蔵文化財調査報告書第31集
 恋河内昭彦 (1995) 『南共和・新宮遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第6・7集
 (2008) 『児玉地方の土製支脚について』『塚島遺跡Ⅱ』本庄市遺跡調査会報告書第22集
 (2012) 『久下前遺跡Ⅳ・久下東遺跡Ⅴ』本庄市埋蔵文化財調査報告書第28集
 恋河内昭彦・松本 完 (2008) 『七色塚遺跡Ⅱ・北堀新田前遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集
 恋河内昭彦・的野 善行 (2010) 『北堀久下塚北遺跡Ⅱ・久下東遺跡Ⅳ・久下前遺跡Ⅱ』本庄市埋蔵文化財調査報告書第19集
 小久保 徹 (1978) 『東谷・前山2号墳・古川端』埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集
 佐々木藤雄 (2010) 『北堀新田遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第22集
 鈴木 公雄 (2002) 『錢の考古学』歴史文化ライブラリー140 吉川弘文館
 橋本 博文・佐々木幹雄他 (1980) 『有勝寺北裏遺跡』有勝寺北裏遺跡調査会
 藤尾慎一郎 (1991) 『佐倉と江戸』『国立歴史民俗博物館研究報告』36
 堀内 秀樹 (1997) 『東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察』『東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要』1
 増田 一裕 (1985) 『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ—久下東遺跡・遺構編—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集
 (1987) 『東富田遺跡群発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告書第10集
 松本 完 (2013) 『久下前遺跡Ⅴ(F1地点)・久下東遺跡Ⅵ(G1地点)』本庄市埋蔵文化財調査報告書第32集
 松本 完・大熊季広他 (2009) 『浅見山I遺跡(Ⅲ次)・久下東遺跡(Ⅲ次)A1・B1地点・北堀久下塚北遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第13集
 松本 完・町田奈緒子 (2002) 『久下前遺跡第3地点発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告書第25集
 松本 完・的野 善行 (2010) 『久下前遺跡Ⅲ(C1地点)・北堀新田遺跡Ⅱ(A1地点)・有勝寺北裏遺跡Ⅲ(A1・B1地点)』本庄市埋蔵文化財調査報告書第23集
 両角 まり (1996) 『内耳鍋から焙烙へ』『考古学研究』通巻168号 考古学研究会

写 真 図 版



本庄市マスコット

はにほん



七色塚遺跡B地点全景



七色塚遺跡B 2 地点全景 (東より)



七色塚遺跡B 2地点東側（西より）



七色塚遺跡B 2地点西側（西より）



第61号住居跡



第61号住居跡炉



第61号住居跡貯藏穴



第61号住居跡遺物出土状態



第62号住居跡



第62号住居跡カマド



第62号住居跡貯藏穴



第62号住居跡床下土坑



第67号住居跡（南より）



第67号住居跡（東より）



第74・75号住居跡



第74号住居跡カマド（西から）



第74号住居跡カマド（北から）



第74号住居跡貯蔵穴



第74号住居跡遺物出土状態



第76号住居跡



第77号住居跡



第77号住居跡カマダ



第78号住居跡



第78号住居跡遺物出土状態



第79号住居跡



第79号住居跡カマダ



第79号住居跡貯藏穴



第79号住居跡遺物出土状態



第80 a・80 b号住居跡



第80 a号住居跡カマド



第80 a号住居跡貯蔵穴



第80 b号住居跡カマド



第81・82号住居跡



第83・84号住居跡



第83号住居跡



第7号土坑



北堀久下塚北遺跡C 1 地点全景



北堀久下塚北遺跡C 2 地点全景



北堀久下塚北遺跡D1地点全景



北堀久下塚北遺跡D2地点全景



第3号住居跡



第3号住居跡カマド



第4号住居跡



第4号住居跡カマド



第5号住居跡



第5号住居跡遺物出土状態



第6a・6b号住居跡



第6a・6b号住居跡掘り方



第6 a号住居跡カマド



第6 b号住居跡カマド



第6 a号住居跡貯蔵穴



第6 a号住居跡遺物出土状態 (1)



第6 a号住居跡遺物出土状態 (2)



第6 a号住居跡遺物出土状態 (3)



第6 a号住居跡床下土坑 (1)



第6 a号住居跡床下土坑 (2)



第7号住居跡



第7号住居跡遺物出土状態



第8号住居跡



第8号住居跡カマド



第9号住居跡



第9号住居跡遺物出土状態



第10号住居跡



第10号住居跡カマド



第11号住居跡



第12号住居跡



第13号住居跡



第13号住居跡カマド



第21号住居跡



第21号住居跡カマド



第21号住居跡遺物出土状態 (1)



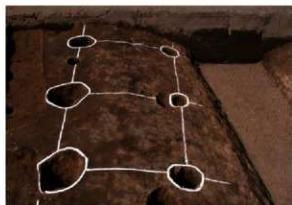
第21号住居跡遺物出土状態 (2)



第22号住居跡



第23号住居跡



第1号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡



第1号井戸跡



第1・2号土坑



第3号土坑



第4号土坑



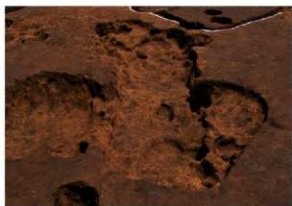
第5号土坑



第6号土坑



第7号土坑



第8号土坑



第9号土坑



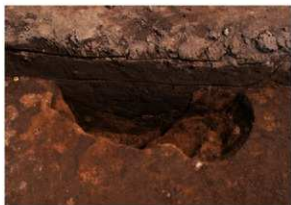
第10号土坑



第11号土坑



第12~15号土坑



第12号土坑



第13号土坑



第14号土坑



第15号土坑



第16号土坑



第17・18号土坑



第19号土坑



第20号土坑



第21号土坑



第22号土坑



第23号土坑



第24号土坑



第25・26号土坑



第27号土坑



第28号土坑



第29号土坑



第30号土坑



第31号土坑



第53~55号土坑



第56号土坑



第57号土坑



第57号土坑遺物出土狀態



第58号土坑



第59号土坑



第60号土坑



第61号土坑



第62号土坑



第63号土坑



第64号土坑



第65号土坑



第66号土坑



第1号沟跡



第1号溝跡かわらけ出土状態



第2号溝跡



第5号溝跡



第6・7号溝跡



第8号溝跡



第9号溝跡



第17号溝跡（西側）



第17号溝跡（東側）



第18号溝跡



第18号溝跡西端部土層断面



SX-1 (東より)



SX-1 (西より)



SX-1 遺物出土状態 (1)



SX-1 遺物出土状態 (2)



北堀久下塚北遺跡C1 地点調査風景



北堀久下塚北遺跡D2 地点調査風景



久下東A地点全景（西より）



久下東A地点全景（北より）



第20号住居跡



第20号住居跡遺物出土状態



第20号住居跡カマド



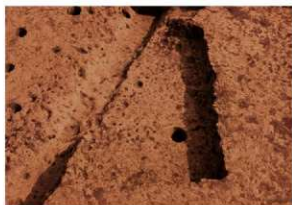
第20号住居跡カマド遺物出土状態



第21号住居跡



第21号住居跡遺物出土状態



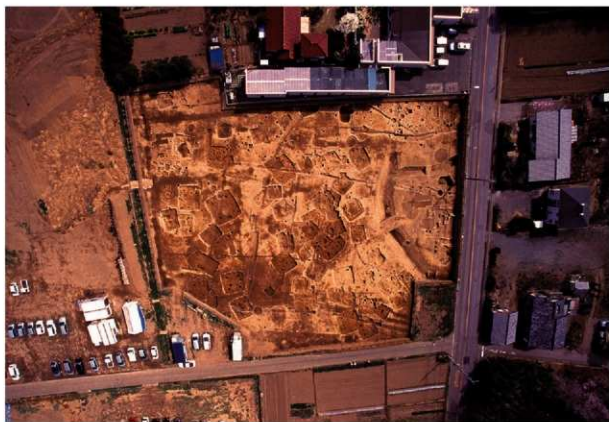
第22号住居跡遺物出土状態



第22号住居跡カマド



久下東遺跡B地点遠景（南より）



久下東遺跡B地点全景



第23号住居跡



第23号住居跡カマド



第24号住居跡



第24号住居跡カマド



第25 a b号住居跡



第25 a b号住居跡遺物出土状態



第25 a号住居跡遺物出土状態



第25 b号住居跡遺物出土状態



第26号住居跡



第26号住居跡カマド



第27号住居跡



第27号住居跡遺物出土状態



第27号住居跡カマド



第27号住居跡カマド遺物出土状態



第28号住居跡



第28号住居跡カマド



第28号住居跡遺物出土状態（1）



第28号住居跡遺物出土状態（2）



第29号住居跡



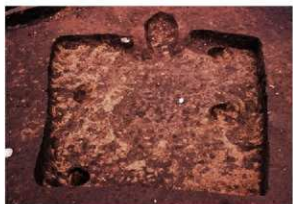
第29号住居跡遺物出土状態



第30号住居跡



第30号住居跡カマド



第32号住居跡



第32号住居跡掘り方



第33号住居跡



第33号住居跡カマド



第33号住居跡貯蔵穴



第33号住居跡床下土坑



第34号住居跡



第34号住居跡下面住居跡



第34号住居跡炉



第34号住居跡炉断面



第35号住居跡



第35号住居跡カマド



第35号住居跡遺物出土状態



第35号住居跡掘り方



第36号住居跡



第36号住居跡炉



第37号住居跡



第37号住居跡カマド



第38号住居跡



第38号住居跡掘り方



第39号住居跡



第39号住居跡遺物出土状態



第39号住居跡カマド



第39号住居跡カマド遺物出土状態



第40号住居跡



第40号住居跡カマド



第40号住居跡遺物出土状態



第40号住居跡貯蔵穴遺物出土状態



第41号住居跡



第41号住居跡掘り方



第42号住居跡



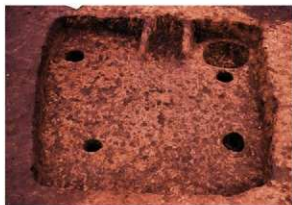
第42号住居跡カマド



第42号住居跡遺物出土状態 (1)



第42号住居跡遺物出土状態 (2)



第44号住居跡



第44号住居跡カマド



第46号住居跡



第46号住居跡カマド



第46号住居跡遺物出土状態



第46号住居跡掘り方



第47号住居跡



第47号住居跡カマド



第48号住居跡



第48号住居跡カマド



第49号住居跡



第49号住居跡カマド



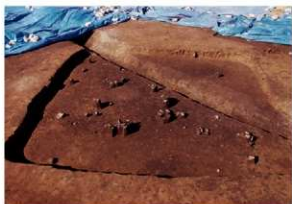
第49号住居跡遺物出土状態



第49号住居跡床下土坑



第50号住居跡



第50号住居跡遺物出土状態 (1)



第50号住居跡遺物出土状態（2）



第50号住居跡下面住居跡



第51号住居跡



第51号住居跡カマド



第52号住居跡



第52号住居跡カマド



第53号住居跡



第53号住居跡カマド



第54号住居跡掘り方



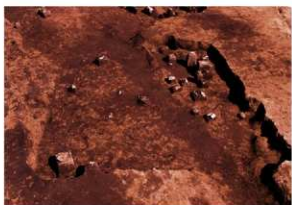
第54号住居跡カマド



第55号住居跡



第55号住居跡カマド



第56号住居跡



第56号住居跡カマド



第56号住居跡遺物出土状態



第56号住居跡掘り方



第57号住居跡



第57号住居跡カマド



第57号住居跡



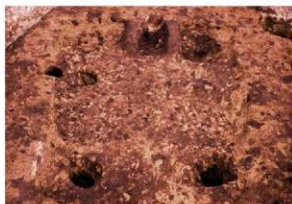
第57号住居跡掘り方



第58号住居跡



第58号住居跡カマド



第59号住居跡



第59号住居跡カマド



第60号住居跡



第63号住居跡



第64号住居跡



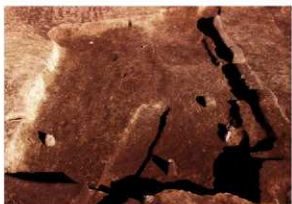
第69号住居跡



第69号住居跡カマド



第69号住居跡カマド遺物出土状態



第70号住居跡



第70号住居跡掘り方



第75号住居跡掘り方



第77号住居跡



第77号住居跡カマド



第77号住居跡掘り方



第79号住居跡



第79号住居跡カマド



第79号住居跡遺物出土状態



第79号住居跡掘り方



第80号住居跡



第80号住居跡カマド



第81号住居跡



第81号住居跡カマド



第81号住居跡遺物出土状態



第81号住居跡掘り方



第82号住居跡 (B2側)



第82号住居跡カマド



第83号住居跡



第83号住居跡炉



第84号住居跡



第85号住居跡



第85号住居跡カマド



第85・86・87号住居跡掘り方



第87号住居跡



第87号住居跡掘り方



第88号住居跡



第89号住居跡



第89号住居跡遺物出土状態



第89号住居跡掘り方



第90号住居跡



第90号住居跡カマド



第91号住居跡 (B3)



第91号住居跡カマド (B3)



第91号住居跡遺物出土状態 (B3)



第92号住居跡 (B3)



第94号住居跡



第94号住居跡カマド



第95号住居跡



第96号住居跡



第96号住居跡カマド



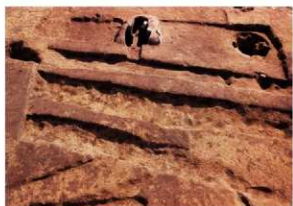
第96号住居跡遺物出土状態



第97号住居跡



第98号住居跡



第99号住居跡



第99号住居跡カマド



第100号住居跡



第100号住居跡カマド



第100号住居跡遺物出土状態



第100号住居跡掘り方



第101号住居跡



第101号住居跡カマド



第102号住居跡



第102号住居跡カマド



第103号住居跡



第104号住居跡



第104号住居跡カマド



第104号住居跡遺物出土状態



第105号住居跡



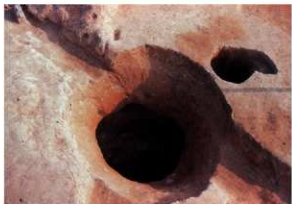
第105号住居跡遺物出土状態



第1号井戸跡



第2号井戸跡



第7号井戸跡



第8号井戸跡



第9号井戸跡



第12号井戸跡 (B3)



第7号土坑



第8号土坑



第9号土坑



第11号土坑



第12号土坑



第13号土坑



第14号土坑



第15号土坑



第16号土坑



第31号土坑



第34号土坑



第63号土坑 (B3)



第64号土坑 (B3)



第65号土坑 (B3)



第66号土坑 (B3)



第67号土坑 (B3)



第68号土坑 (B3)



第69号土坑 (B3)



第70号土坑 (B3)



近世土坑墓



第1号溝跡 (真上より)



第1号溝跡 (東より)



B3地点遺構確認状況



B2地点調査風景



久下東遺跡 F 2 地点全景



第14号井戸跡



第373号土坑



第374号土坑



第78号溝跡



宍勝寺北裏遺跡C地点調査区全景（北から）



C地点調査前



C地点第1トレンチ遺物出土状況



C地点第2トレンチ遺物出土状況



C地点調査区全景（南東から）



61住-1



61住-2



61住-3



61住-4



61住-5



61住-6



61住-7



61住-8



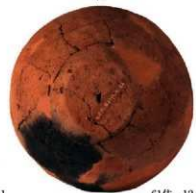
61住-9



61住-10



61住-11



61住-12



61住-13



61住-14



61住-15



61住-16



61住-17



61住-18



61住-19



61住-20



61住-21



61住-22



61住-23



61住-24



61住-25



61住-27



61住-26



61住-28



61住-29



61住-30



61住-31



61住-32



61住-33



61住-34



61住-35



61住-36



61住-37



61住-38



61住-39



61住-40



61住-41



62住-1



62住-2



62住-3



62住-4



62住-5



62住-6



62住-7



62住-8



62住-9



67住-1



67住-2



67住-3



74住-1



74住-2



74住-3



74住-4



74住-7



74住-5



74住-6



74住-8



74住-9



74住-11



74住-12



74住-10



74住-13



74住-14



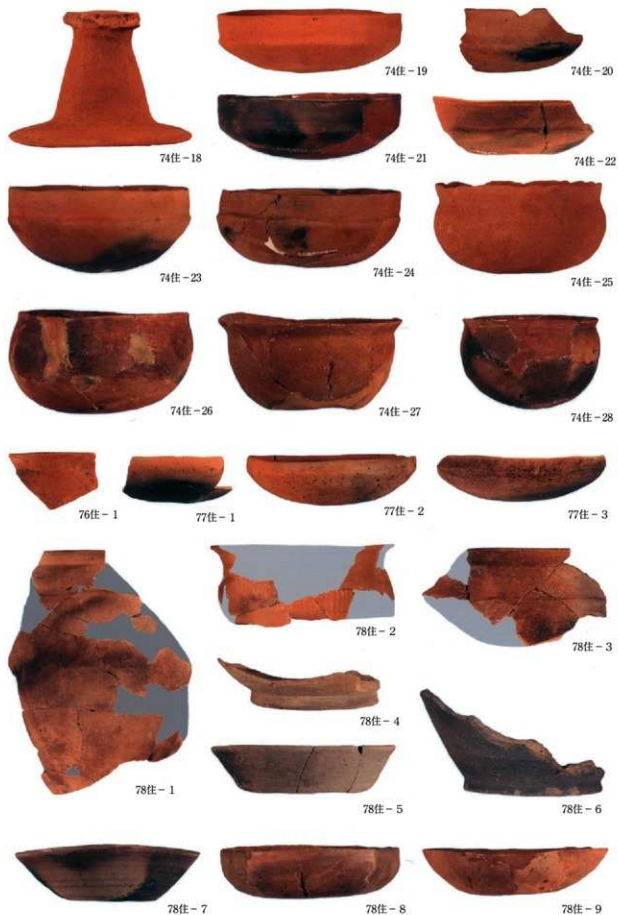
74住-15



74住-16



74住-17





79住-1



79住-2



79住-3



79住-4



79住-5



80住-1

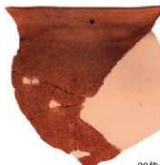
80住-2



80住-3



80住-4



80住-5



80住-6



80住-7



80住-8



80住-9



80住-11



80住-12



81住-1



81住-2



82住-1



83住-1



83住-2



83住-3



83住-4



83住-5

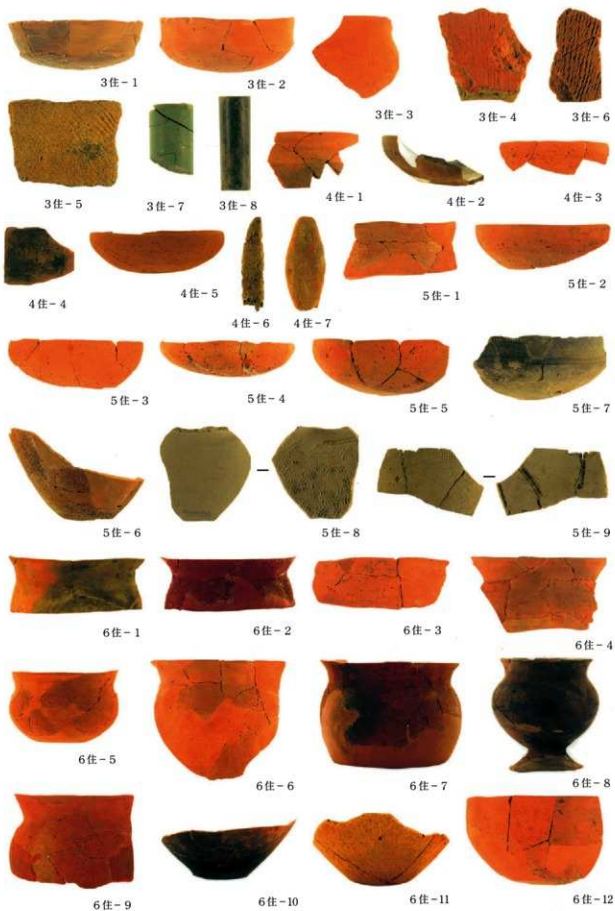


83住-6



83住-7



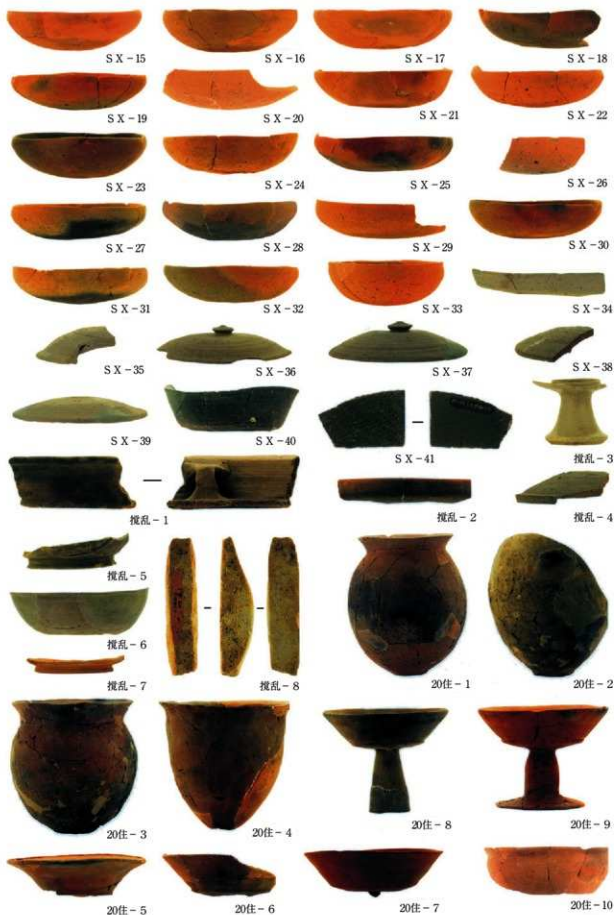




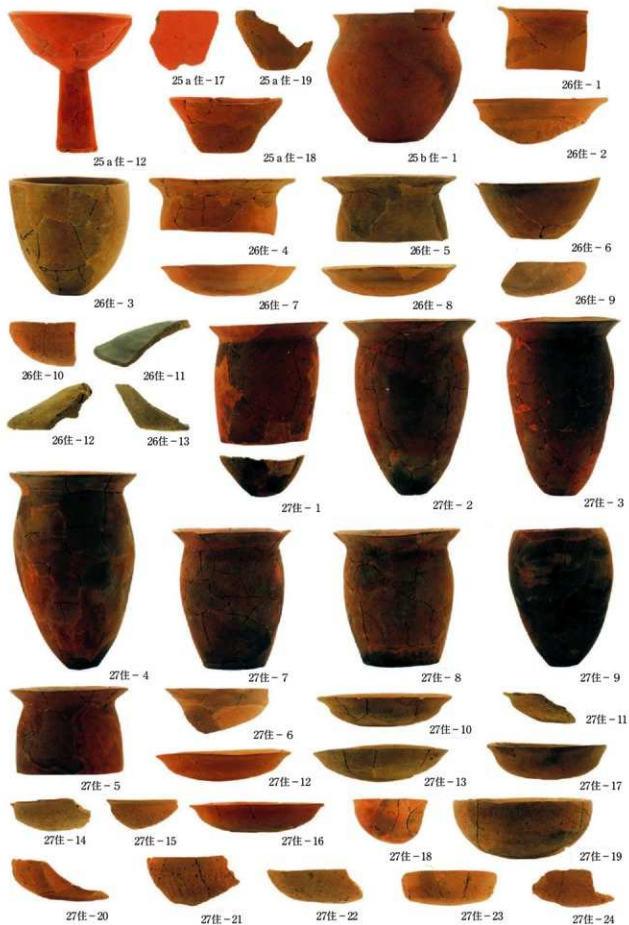


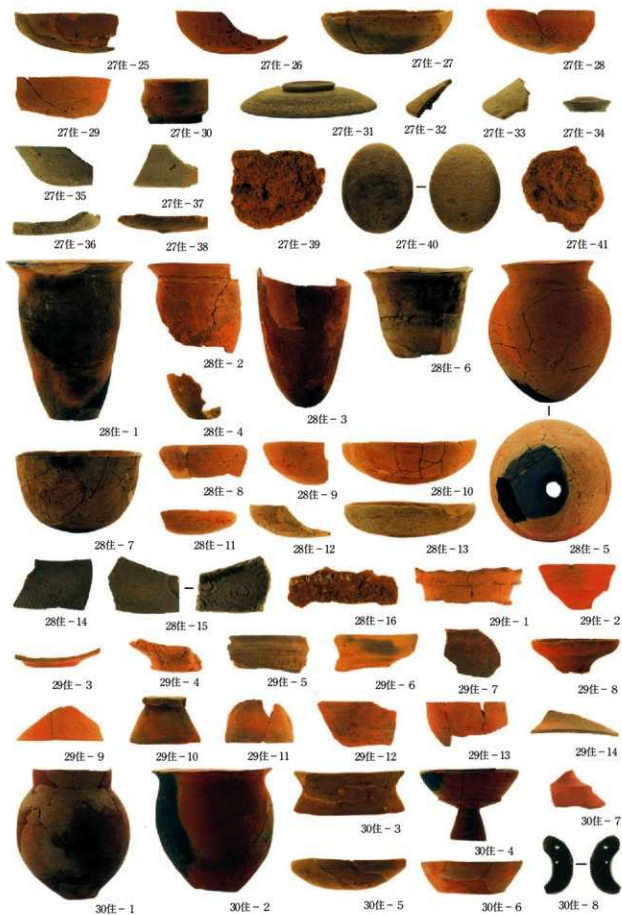




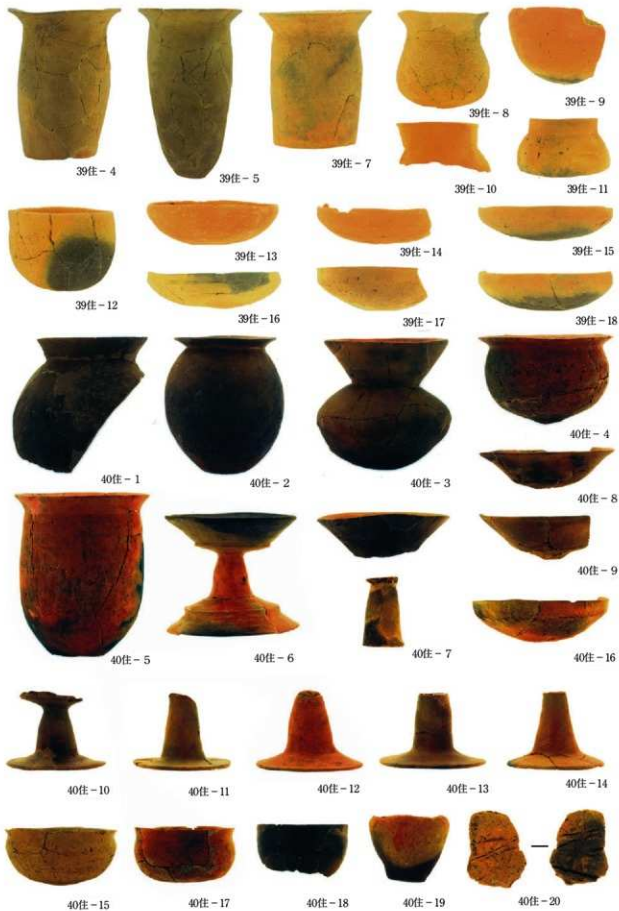






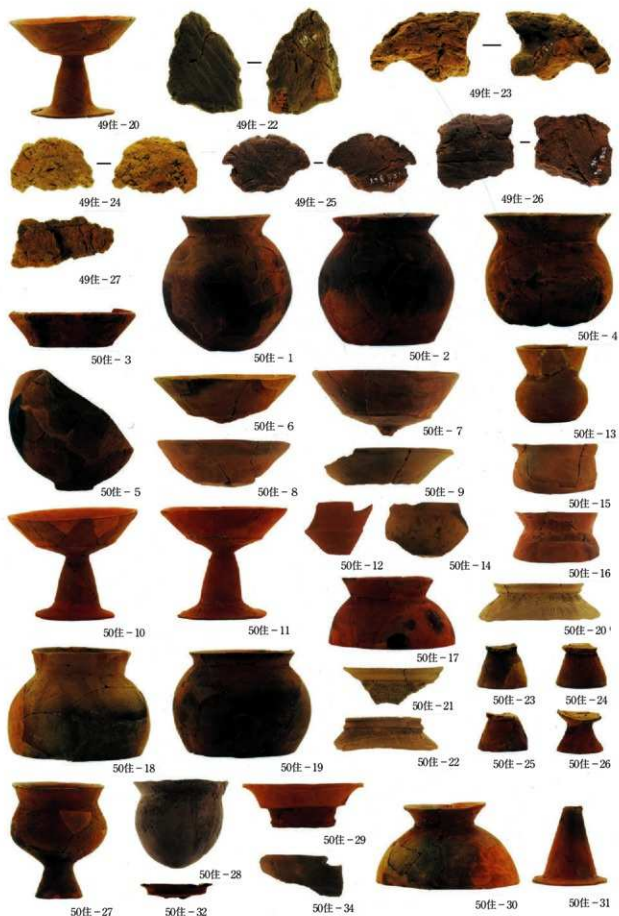






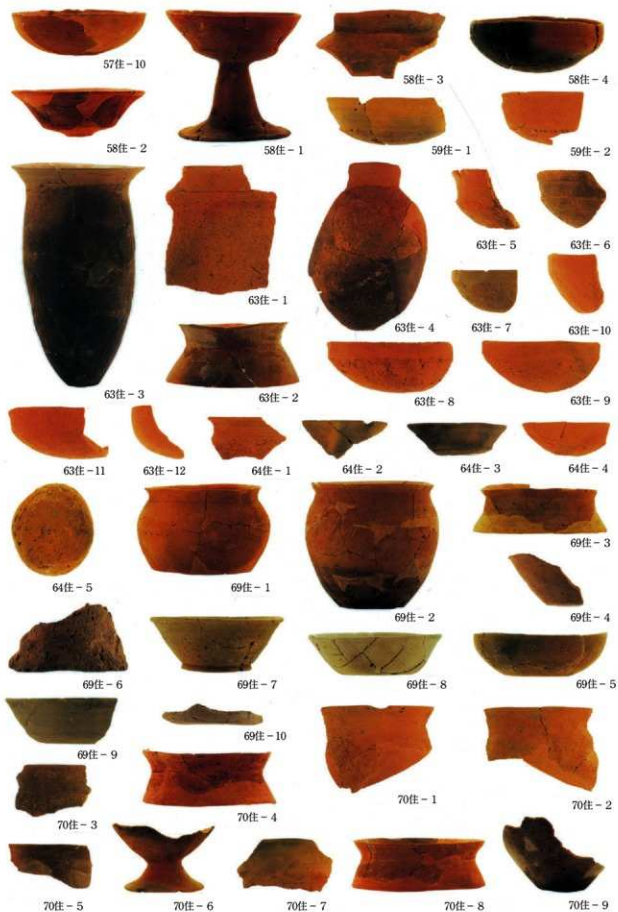


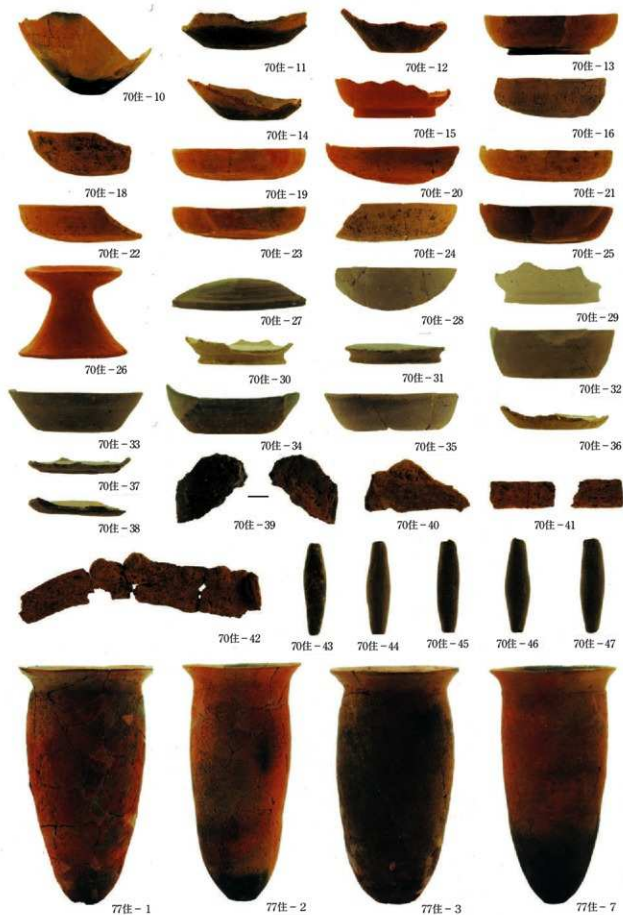




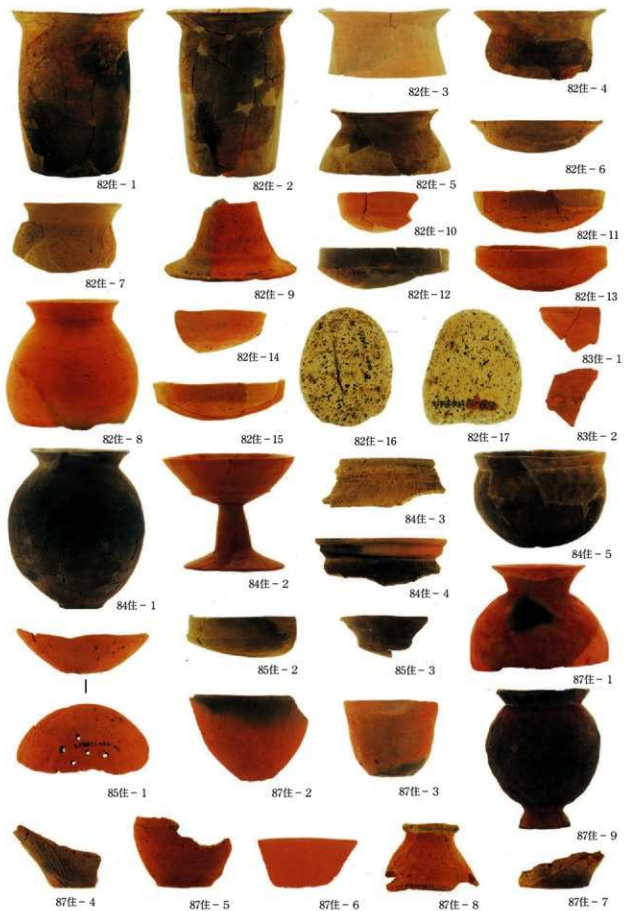


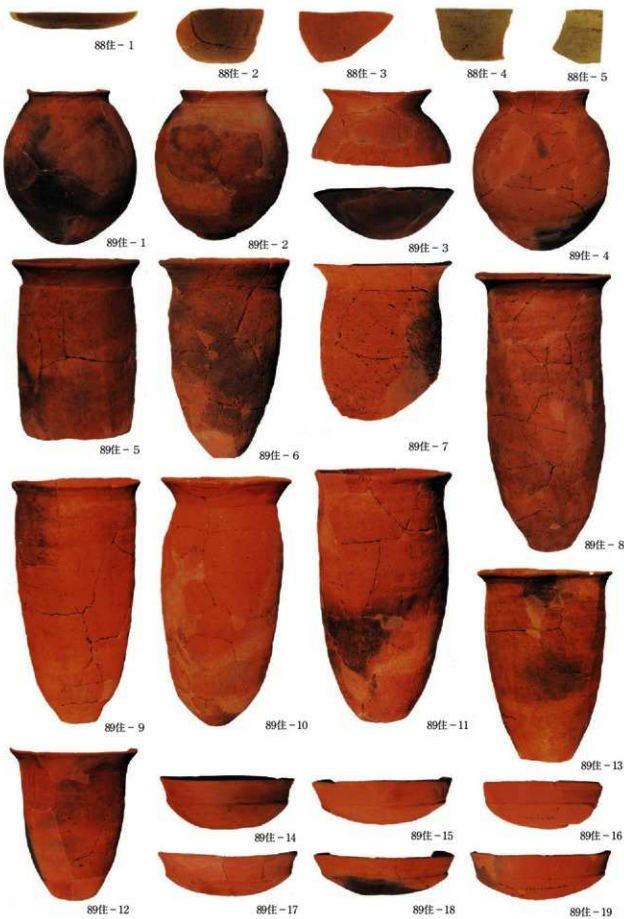


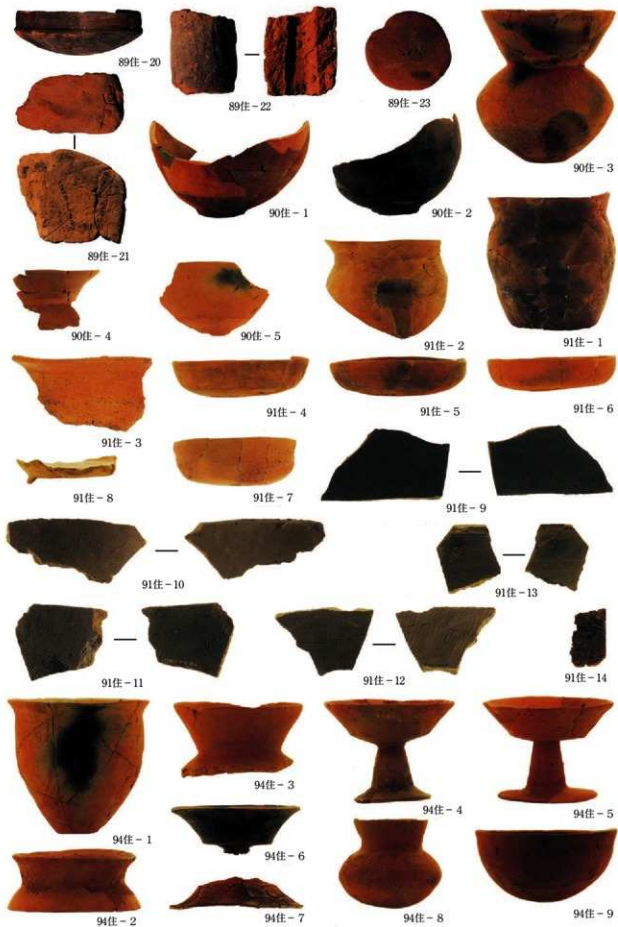


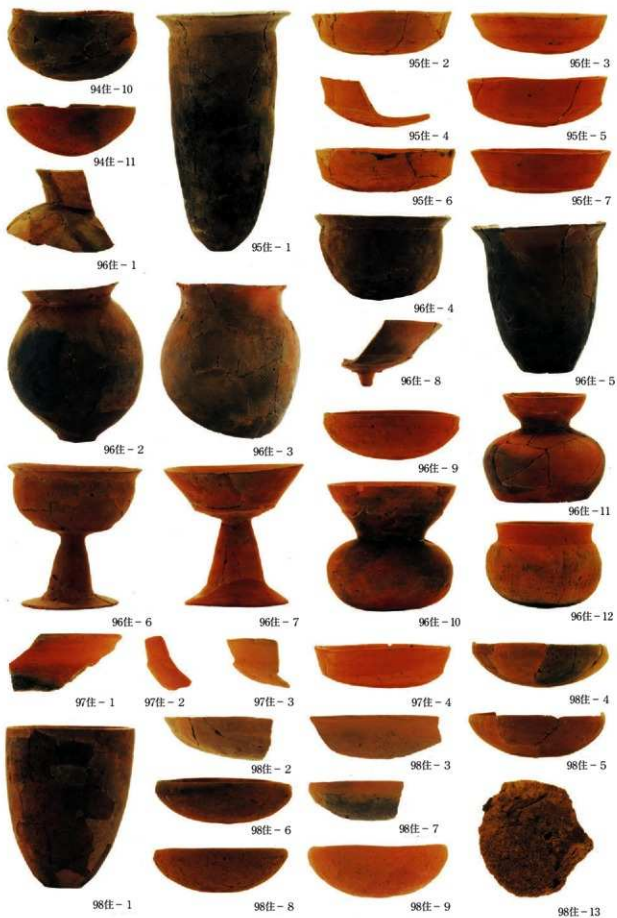


















8井戸-9



8井戸-10



8井戸-11



8井戸-12



8井戸-13



8井戸-14



8井戸-15



8井戸-16



8井戸-17



8井戸-18



8井戸-19



8井戸-20



8井戸-22



8井戸-23



8井戸-21



9井戸-1



9井戸-3



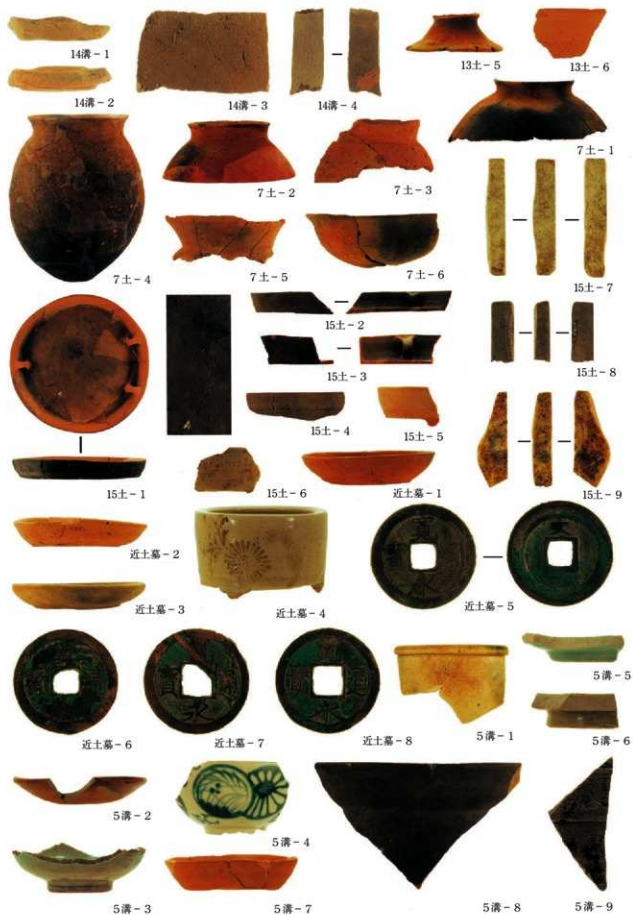
9井戸-2



9井戸-5



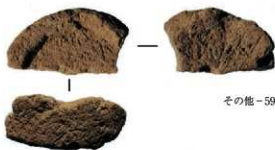
9井戸-4











その他-59



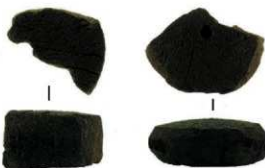
その他-62



その他-60



その他-61



その他-63



その他-64



その他-65



その他-66



その他-69



その他-67



その他-68



その他-70



その他-71



その他-72



その他-73



その他-75



その他-74



その他-76

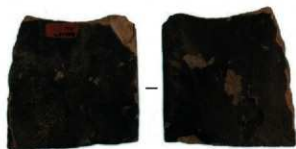


その他-77



その他-78





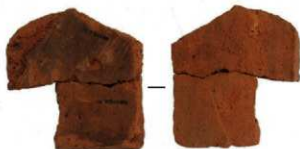
有北C-50



有北C-51



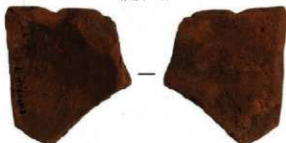
有北C-52



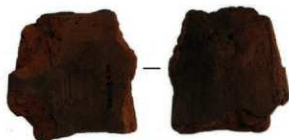
有北C-53



有北C-54



有北C-55



有北C-56



有北C-58



有北C-57



報告書抄録

フリガナ	ナナイロヅカイセキⅢ (B2チテン)、キタボリクダヅカキタイセキⅢ (C・Dチテン)、クゲヒガシイセキⅦ (A2・B2・B3・F2チテン)、ユウショウジキタウライセキⅣ (Cチテン)							
書名	七色塚遺跡Ⅲ (B2地点)、北堀久下塚北遺跡Ⅲ (C・D地点)、久下東遺跡Ⅶ (A2・B2・B3・F2地点)、有勝寺北裏遺跡Ⅳ (C地点)							
副書名	本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第37集					
編著者	恋河内昭彦、的野善行							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2014年(平成26年)3月31日							
フリガナ 所取遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡					
七色塚 (B2地点)	本庄市東富田 196-2他	112119	53-071	36°13'15"	139°10'37"	20061218 ～ 20070330	246 ㎡	排水 路建 設
北堀久下塚北 (C・D地点)	本庄市北堀1629 他	112119	53-066	36°13'23"	139°10'51"	20080407 ～ 20091130	1028 ㎡	市道 建設
久下東 (B2・B3・F2地点)	本庄市北堀1294 他	112119	53-064	36°13'21"	139°10'54"	20070904 ～ 20110331	3326 ㎡	造成 工事
有勝寺北裏 (C地点)	本庄市北堀1943 他	112119	53-109	36°13'02"	139°11'10"	20121105 ～ 20121207	317 ㎡	道路 建設
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
七色塚 (B2地点)	集落	縄文(中期)		土器片(加曾利EⅢ～EⅣ式)				
	集落	古墳 (前～後期)	竪穴住居6、土坑1	土師器				
	集落	白鳳～平安	竪穴住居8	土師器、須恵器、砥石				
北堀久下塚北 (C・D地点)	集落	縄文(中期)		土器片(加曾利E式)				
	集落	古墳 (前～後期)	竪穴住居5	土師器、埴輪(円筒、朝顔)、管玉				
	集落	白鳳～平安	竪穴住居9、掘立柱建 物1、土坑8、溝1	土師器、須恵器、平瓦、土錘、鉄製品(鎌、 紡錘車、釘)				
	屋敷	鎌倉～戦国	掘立柱建物1、井戸1、 土坑1、溝3	青磁(龍泉窯)、陶器(常滑窯、瀬美窯、 山茶碗窯)、在地産土器(かわらけ、内 耳鍋、片口鉢)、石製品(砥石、粉挽臼)、 古銭(宋銭)				
	屋敷	江戸以降	土坑32、溝3	陶磁器(肥前、瀬戸美濃)、焙烙、石 製品(砥石)				

久下東 (A2-B2-E3-F2地点)	集落	縄文(中期)		土器片(加曾利EⅡ~EⅣ式)、石器(石鏃、打製石斧、凹石)	
	集落	古墳 (前~後期)	竪穴住居 45、土坑	土師器、須恵器	
	集落	白鳳~平安	竪穴住居 22、土坑	土師器、須恵器、石製品(砥石、紡錘車)、土製品(紡錘車)、鉄製品(鎌、刀子)	
	屋敷	鎌倉~戦国	井戸4、土坑、溝1	青磁(龍泉窯)、陶器(常滑窯、瀬戸窯)、在地産土器(かわらけ、内耳鍋、片口鉢、搗鉢)、石製品(五輪塔、砥石、茶臼、粉挽臼、窪み石)、古銭(開元通寶、皇宋通寶、熙寧元寶)	
	屋敷	江戸以降	井戸3、土坑、溝5	陶磁器(肥前、瀬戸美濃、信楽)、土器(焙烙、搗鉢、火鉢、香炉、かわらけ)、瓦(平瓦、丸瓦、棧瓦)、木製品(漆塗塊、曲物、板)、石製品(砥石、粉挽臼)、古銭(寛永通寶)、金属製品(煙管、包丁)	
有勝寺北裏 (C地点)		縄文		早期(夏島式)、中期(加曾利E式)、後期(堀之内I式)	
		古墳~平安	包含層	土師器、須恵器	
	寺院	鎌倉~室町		かわらけ、瓦(鬼瓦、軒丸瓦、丸瓦、平瓦)	
		江戸以降		焙烙、陶器皿、瓦、銅貨(一厘)	

本庄市埋蔵文化財調査報告書第37集

七色塚遺跡Ⅲ（B2地点）
北堀久下塚北遺跡Ⅲ（C・D地点）
久下東遺跡Ⅶ（A2・B2・B3・F2地点）
宥勝寺北裏遺跡Ⅳ（C地点）

一本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7一

平成26年 3月 24日 印刷

平成26年 3月 31日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／山進社印刷株式会社

埼玉県本庄市本庄3丁目3番36号